一夜限りの夢舞台から見えてきた、格闘大連立時代！
enterbrain MOOK
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
11/17 UFC78 ニュージャージー 徹底詳報
12/31 格闘技大戦 大展望
2008 WINTER
780yen
大晦日はお祭り男に任せろ！
青木真也
皇帝ありがとう!!
驚天動地の大晦日参戦！
エメリヤーエンコ・ヒョードル
待ち続けた男たちを直撃!!
川尻達也
石田光洋
煽りVアーティストが
沈黙を破る独占激白!!
佐藤大輔
なるか起死回生の大博打!!
PRIDEvsK-1
やれんのか!?
何が起きても毒舌三昧!!
ダナ・ホワイト
UFC代表
UWF師弟対談だクワ〜!!
船木誠勝×
ミヤマ☆仮面
南極大会もやりますよ!?
アントニオ猪木
大晦日やりますよ!!
旧PRIDE派が『やれんのか！大晦日！2007』開催!!
待ちこがれた"夢の続き"はここにある!!
kamipro Special 2008 WINTER
大晦日やりますよ!!
©2007 ENTERBRAIN,INC. ©2007 DOUBLECROSS

CONTENTS

これぞ"60億分の1"煽りVの作り方!?
撮影快調!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
表紙写真/タイコウクニヨシ

2008 WINTER

のか！
2007
GLOBAL
MARTIAL ARTS
いたまスーパーアリーナ
PRIDEが
一夜限りの復活!!
ここで一つの時代が幕を下ろし、ここから新しい何かが生まれる——。

やれんの

大晦日！2

Supported by M-1 GL
MIXED MARTIA

2007年12月31日／さいた

PRIDEがついに帰ってくる！ 10月の日本事務所閉鎖以来、本誌が追い続けてきた旧PRIDE派のスタッフによるイベント開催の噂が、ついに現実のものとなって我々の目の前に現われた。11月21日、つまり大晦日まであと40日というギリギリのタイミングで発表されたのは、『やれんのか！ 大晦日！ 2007』（以下『やれんのか！』）という大会が、12月31日にさいたまスーパーアリーナで開催されるというものだった。昼は『ハッスル』、夜は『やれんのか！』という史上最大の昼夜興行が国内最大級のアリーナで実現されることになったのだ。

『やれんのか！』はPRIDEが10年という長い歳月をかけて繰り広げてきた闘いの歴史に、ピリオドを打つための「ケジメの大会」となる。主催者、スタッフ、選手、ファンの思いが一つに重なったからこそ実現した夢の終着駅だ。会見の詳しい模様は全文再録した本誌の携帯サイト『kamipro Hand』を参照していただきたいが、選手とスタッフが熱い思いを持ち寄って、夢の空間をもう一度だけ自分たちの手で作り出そうとしている。

もちろん、単なる同窓会でもなければ、顔見せでもない。PRIDEが生み出していた熱を凌駕するような熱を彼らはもう一度、『やれんのか！』のリングで生み出そうとしている。それには、試合をする選手が必要不可欠だが、それに素晴らしいラインナップが実現しそうだ。青木真也、川尻達也、石田光洋、桜井〝マッハ〟速人、三崎和雄、長谷川秀彦らの日本人勢プラス、ルイス・アゼレード、ギルバート・メレンデス、ヒカルド・アローナ、ヨアキム・ハンセン、そしてエメリヤーエンコ・ヒョードルの参戦が会見では発表された。PRIDEのリングで強さを誇示してきた猛者ばかり。本誌発売日にはカードも発表されていると思われるが、さらなるビッグ・サプライズも生まれるだろう。

今年3月にPRIDEの運営を移管されたロレンゾ・フェティータは、PRIDEの再開を模索したものの地上波放送が実現しないまま、10月にPRIDE FC WORLDWIDEの日本事務所を閉鎖してしまう。PRIDEという主戦場を失なったファイターたちは続々とUFCに参戦。アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ダン・ヘンダーソン、マウリシオ・ショーグン、ヴァンダレイ・シウバ、中村和裕、長南亮、郷野聡寛といったファイターたちが続々とオクタゴンに闘いの場を求めていった。その一方で、旧PRIDE派のスタッフは深刻な状況に追い込まれていく。イベントがなくなり、職場まで閉鎖されてしまい、行き場のない思いを抱えたまま水面下で動き回った。ようやくイベントとしてかたちにできるという〝勝算〟を得て再び大晦日にビッグイベントが開催される運びとなった。

その〝勝算〟とは何か？ 〝世界最強の男〟ヒョードルの参戦、武士道で活躍してきた中軽量級のファイターたちの参戦はもちろん大きいが、さらなるとんでもない仕掛けが水面下で進行している。すでにあちこちで噂されているFEGとの格闘大連立構想なのか？ 『やれんのか！』スタッフの笹原圭一氏は「各団体に協力を要請したい」という考えを示している。となると国内最大のプロモーションであるFEGにもなんらかのアクションが行なわれているはずであり、そのほかにも国内外のあらゆるプロモーションに協力を要請していると思われる。

水面下で発生している大きなうねりが大晦日に具体的なかたちで姿を現わすことになるだろう。『やれんのか！』は大晦日一夜限りのイベントだが、大晦日に向けての動きがそのまま来年も継続する可能性は充分にある。たとえ大晦日にPRIDEの10年間にピリオドを打ったとしても、08年はピリオドの向こう側へ続いていくのだ。

お祭り男が『やれんのか！』に満を持して出陣だ!!
スゲエ嬉しい!!

奇天烈バカサバイバー、プライドを懸けた大一番、迫る!!

青木真也

SHINYA AOKI

ついに正式発表された旧PRIDE派の大晦日イベント！
注目されるのは、再開を待ち続けたPRIDEのバカ大将……じゃなくて若大将、青木真也の声である。
驚ガクのビッグマッチが噂されている青木だが、文字どおりフンドシを締め直して出陣表明！
今月もバカサバイバートークが炸裂なのだ!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／タイコウクニヨシ　ふんどしスタイリスト／小松隊員

―青木さん。噂によるとですね、あと4時間後にここさいたまスーパーアリーナで、旧PRIDE派の記者会見が行なわれるらしいんですよ。

青木　ククク。そうなんですよねぇ。あるらしいんですねぇ。楽しみ!!

―あ、噂じゃなくて本当にやりますか。それはよかった（笑）。

青木　でも！　さっき佐藤大輔さんから「まだ油断はできない」って言われましたけど。

―ダハハハハ！　まだ何が起こるかわからないですか！

インタビューの収録は会見前のこと。数時間後、無事に記者会見が開催された。ホッと安心！　そして喜びがあふれんばかりの表情のワオ木さんだ。この調子で大晦日の大一番を突破するか!?　ワオオ!!

青木　さすがに大丈夫でしょうけど……、これでなかったらどうしよう!?（笑）。

―そういえば、前回のインタビューも似たような出だしでしたね。

青木　毎回ですよ、もう！　ククククク。

―でも、とうとうここまでこぎ着けましたね。「いよいよPRIDE難民一揆だ！」という実感はありますか？

青木　ないですね！

―ありゃ？　ないですか。

青木　ありませんけど、4月の『PRIDE・34』以来なんですよ、この会場に来たのは。

―そんなに懐かしい場所なのに、よみがえってくる思い出はとくになく？

青木　それが何もないんですよね〜。今日の会見自体がちょっと遅れ気味だったんで、胸の高鳴りよりは、そのズンドコぶりに「大丈夫かな？」って思っていましたし。

―それに……、まだ会見はやってないわけですし（笑）。

青木　まだ油断はできません（笑）。それと、対戦相手がどうなるかわからないですからね。今日で「あるある詐欺」と「やるやる詐欺」が終わったら、これから対戦相手は「だれだれ詐欺」が始まりますよ。ククク。

―『kamipro Hand』愉快犯ブログ第二章が早くもスタート（笑）。やっぱり大晦日は強い相手とやりたいですか？

青木　そうですね。ダレた相手とやるつもりはないです！

―いろいろ対戦候補は挙げられるんですが、なんと！『GONKAKU』が書くには、今回の大晦日は『HERO'S』対PRIDEの対抗戦が行なわれるみたいなんですよ。

青木　へぇ〜！　それはセンスありますね！

―で、『GONKAKU』が予想するには、青木さんはビトー・"シャオリン"・ヒベイロと闘うそうで。

青木　……それはセンスないですねぇ。

―確かに大晦日にちょっと渋すぎますよね（笑）。まあまあ、旧PRIDE圏内で考えられる対戦相手は川尻（達也）選手や（ギルバート・）メレンデスくらいですよね。

青木真也

青木　川尻選手とは闘ってみたいですけど、このタイミングではないですね。これからいつでもできる機会はあると思います。メレンデスはいいんじゃないですか。やれば絶対にかみ合うし、おもしろくなりますよ。

——で、『HERO'S』というフィールドに目を向けるともっともっと過激でおもしろいカードができるんじゃないかなと思うんです。

青木　そうですね。誰とやっても大丈夫ですよ。ボクに任せてくださいよ。任せてくださいよ！　任せてくださいよ!!

——なぜ3回吠えるんですか（笑）。しかし、あいかわらず気持ちいいくらい自信満々ですねえ。

青木　だいたいシャオリンなんて、もう全然余裕！　1分半ぐらいでチェストですね!!

——シャオリンなんて1分半！

青木　でも、さっきの話じゃないですけど、シャオリン戦はあまり大晦日のカードっていう気がしないですねぇ。組みと組みだから、陰と陰じゃないですか。だからおもしろくないですよ。陰と陽があるからセンスを感じるわけで。

——『HERO'S』ミドル級王者のJZカルバンなんかはどうでしょう？

青木　カルバンも余裕です！

——でも、前に「カルバンは強い」って言ってませんでしたっけ？

青木　うーん、やっぱり余裕じゃないですねぇ、ありゃ……。

——どっちなんですか!?（笑）。

青木　まあ、もし実現したらいろいろなものを巻き込む試合になりますよね。これぞ日本の大晦日ですよ！

——たしかに、『HERO'S』の誰とやっても大きな話題を呼びますよね。

青木　べつに秋山（成勲）選手でもいいですよ。

——我らが黒魔王と!?（笑）。それはちょっと観たいですねえ。カルバンとどっちが余裕ですか？

青木　まあ、五分五分じゃないですか。

——青木さんと秋山選手とでは体重差がありますけど。

青木　関係ないですよ。もし秋山選手とやれたら最高！　青木真也の柔道サイコーッ!!　ククク。

——ハッハッハッ！　マジメな質問しちゃいますけど、秋山選手って打撃の評価が高いじゃないですか。寝技はどうなんですかね、青木さんから見ると。

青木　秋山選手の寝技？　どうなんですかね。たぶん大丈夫じゃないですかね（ニヤリ）。

——心強いなあ、青木さんは（笑）。

青木　秋山選手じゃなくても、ユン・ドンシクなんかもいいですよ！

大事な大事な会見なのでさすがにスーツでキメてきた青木だが……、なぜかクツは金色のスニーカー!!　何が目的なんだ!?　さすがマット界イチの"愉快犯"。いつ何時でも油断はできない！

——それは想像もつかない対戦ですね。

青木　金泰泳選手でもいいですねぇ！

——もはや誰でもいいんじゃ……。

青木　ただ（メルヴィン・）マヌーフは怖いですねえ。

——ダハハハハ。日本人で誰か肌を合わせたい選手はいないですか？

青木　所英男選手もおもしろそうですよね。でも、いまはたまに一緒に練習しているから難しいですかね？

——でも、もし秋山選手やカルバンとか所選手との試合が決まったら、一躍、大晦日の主役候補ですよ。前回のインタビューでは、"主役候補"のヒョードルに「来てほしいけど、来るな～」って、へんな願をかけてましたけど（笑）。

青木　絶対に期待は裏切らないですよ！　大晦日はボクに託してくださいよっ！

——そこまで言いますか！　対抗戦のプレッシャーって感じませんか？

青木　プレッシャーっていうか、もしその試合が実現したらファンは喜びますよね？　おもしろいですよね!?　興奮しますよね！

——そりゃあ確実に燃えますよ（笑）。

青木　そうです！　それが一番ですよね。それが一番嬉しいです。ファンの方々が熱くなってくれる状況で、試合ができるっていうのがたまらないんですよね。なんか……、待ったかいがありましたよ。凄く嬉しいです。マジで！

——今日は凄くゴキゲンですね。

青木　今日はゴキゲンです。朝から練習して足が痛いですけど、全然問題ないです。何しろあとちょっとで待ちに待った会見ですからねぇ……。

——地球が滅亡しないかぎり（笑）。マジメな話、PRIDEが休止してから精神的に落ちたこともあったと思うんですよ。

青木　そうですねえ……（遠い目で）。

——でも、いまは幸せですね、青木さん。世界で一番幸せかもしれない。

青木　間違いないっ！　大喜びですよ。ホントになんか、今日はスゲェ嬉しいですよ。今日こんなに嬉しかったら、大晦日の試合のときなんかどうなっちゃうんだろう!?

——待ち続けたファンも凄く嬉しいと思うんですよ。

青木　ファンには「よかったね、待ち続けて！」って声をかけたいですね。

——でも、大晦日はやるだけじゃなくて、こうなったら青木さんには凄い相手と試合をして、そして絶対に勝ってもらわないと。

青木　もちろん、もちろん！　それはもちろん!!

——また3回（笑）。

青木　そこは、「有言実行、北島康介」でなく、「有言実行、青木真也」的な感じで。いやあ、楽しみになってきましたね。やめられない感じですね。「早くほかのリングに上がったほうがいいんじゃないのか」とかさんざん言われてたんですけど……、「ほれ、見たことか!?」っていう感じですね。

——「ざまあみろ！　大晦日！　2007」と（笑）。ところで、この7ヵ月間で一番落ちた時期っていつですか？

青木　やっぱりここ最近の9月、10月ぐ

昨年の大晦日は"北欧の処刑人"ヨアキム・ハンセンを電光石火のフットチョークで秒殺!!　MMAは4月の『PRIDE.34』以来だが、変幻自在の関節魔術はいっそう磨きがかかっているという。今年の大晦日も極めれんか!?

「早くほかのリングに上がったほうがいい」とか言われましたけど、ほら見たことか!! って

らいですかね。けど、周りからしたら全然落ちてなかったように見えたと思うんですよね。

―見た目はそうでもなかったけど。

青木　はい。凄く楽しそうに見えていたみたいですね（苦笑）。

―でも、精神的に落ちてたんですよね？

青木　一番キツかったのは、長谷川（秀彦）選手がDEEPでキム・ドンヒョンにやられたときに「なんで、俺が試合してないねん!!」とか思って。ドンヒョンと試合する気、満々でしたけどね。

―つまり、リングに上がれない悔しさがあったわけですよね。

青木　そうですね。あとはよけいなことを言ってくる人がいっぱいいたんで。「もうあきらめろよ！」とかね。ファンの人は心配して言ってくれるんでしょうけど、それ以外で横ヤリを入れてくる人はいっぱいいるわけで。

―まあ、そういう関係者はこの業界にいっぱいいますね（笑）。

青木　けど、「おまえらを信用できん！」って感じですね。信じて待ってホントよかったですよ……。

―いや、まだ油断は禁物です（笑）。

青木　大丈夫ですか、本当に？　記者会見、ホントにやりますよね!?

―やってもらわないと、表紙を青木さんにしちゃいましたし。

青木　そうですよね。フンドシになったのにやらないなんて（笑）。

―大晦日といえば、フンドシ。昨日のフンドシの撮影はどうでしたか？

青木　あれ、超ヤバイですよ。チョー嬉しかったです。

―それはフンドシを締めることが超ヤバイと？

青木　はい！　いいですねえ、フンドシ。

―でも、なかなか抵抗がある人が多いみたいなんですよ。ああやってお尻を出すって行為には。

青木　いや、全然なんともないですね。だって「全裸になってください」って言われて、堂々と全裸になりましたからね！

―なってましたね。周りの目をまったく気にせず。

青木　で、フンドシを穿いているときに、玉袋さんがはみ出たんですよ！

―はみ出てましたね。周りの目をまったく気にせず（笑）。

青木　その玉袋さんをボクが元に戻していいものか、ふんどしを締めてくれている人（＝ふんどしスタイリスト）が直すのかよくわからなくて。クククク。

―それは確かに判断が難しいですねえ（笑）。

青木　どっちなんだろ？　と思いながら、さすがにそこまでは触ってくれない感じがしたんで、自分の手で直しましたっ！

―ダハハハハ！

青木　それで写真を撮っていたら、また玉袋さんが顔をのぞかせましてね、カメラマンに「ちょっとやり直してもらえますか？」って言われました!!

―ちなみに表紙は一番いい写真を選んだんですが、残念ながら玉袋さんがはみ出てたんですよ。

青木　ハッハッハッ！

―なので、文字をかぶせて見えないようにごまかしております（笑）。

青木　まあ、玉袋さんの一つや二つね、大丈夫ですよ！

―ま、そんな話はともかくですね（笑）、青木さんがPRIDEに参戦してから、いろいろなことがあったわけじゃないです

か。かなり激動の2年間でしたよね。

青木　激動ですね……。まず去年の春に警察学校入校して。で、警察学校退校！　よくありがちなダメな社会人ですよね。社会の荒波に耐えられないタイプ。わかります？

――わかります、わかります、わかります。

青木　日本の新入社員の中で初めの半年間で転職を考える人が60パーセントもいるらしいんですよ。

――そのうちの一人だった、と。

青木　転職を考えたどころか、本当にさっさと転職してますからね。それで警察を辞めて、順風満帆な格闘技人生が始まったかと思いきや……。

――PRIDEに上がったときは、こうなるとは思ってましたか？　まさかPRIDEがなくなるなんて。

青木　いや、夢にも思わなかったですね。だって、初めて『武士道』に出たとき控室に食べものや飲みものとかがたくさん置いてあるから、すげえ金持ちだなと思ってましたし！

――だから潰れるわけがないと？

青木　はい！（笑）。

――そうですかあ（笑）。青木さんからすれば「いいんですか？　こんなに食べて、飲んで」みたいな感じだったんですかね？

青木　ホントそうですよ。サービスいいなあ、PRIDEはと思って。こんなイベントに出たら、病みつきになるなあって思いましたよ。

――青木さん。簡単ですね（笑）。

青木　いやいや、本当に凄いですよ！　だってどこへ行ってもミネラルウォーターが用意されてるし、しかもタダで飲めるんですよ‼

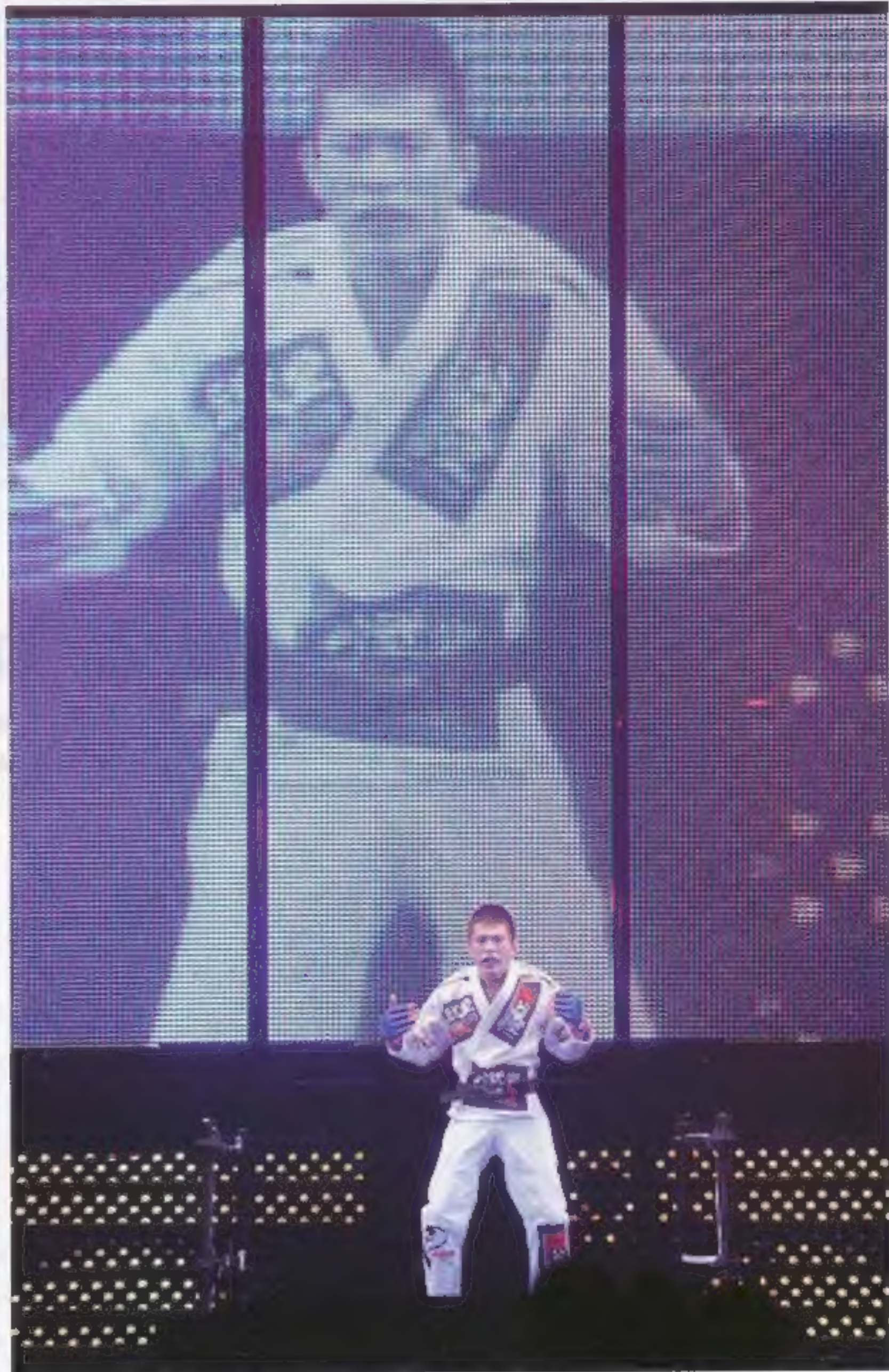
――夢のような世界だ、と（笑）。

青木　いままでは自分で用意して、飲む量を計算して考えてましたからね！

――ダハハハハハハ！

青木　いやあ、もう一度、お水がたくさん飲める団体に行きたいですねえ。

――どんな野望なんですか!?（笑）。

青木　青木真也、衣食住に困らない団体で頑張りたいなあと思います！

PRIDEの世界観を築き上げるスタッフに全幅の信頼を寄せている青木。"最後のPRIDE"となる大晦日でいったいどんな"PRIDE"を見せるのか!?

――庶民じみた話になったなあ。マジメな話、青木さんはもの凄く期待されると思うんですよ。ファン、関係者から。

青木　期待してもらってかまわないです！　期待してくれると燃えますね！　凄く嬉しいですよ。みんながボクが思っている以上に、ボクのことを大事に思ってくれるから、凄い嬉しいですね。だから、その期待に応えます。大晦日のイベントも、ボクの試合も、絶対に損はさせません！（キッパリ）。

――期待してます！　では、会見開催までミネラルウォーターでもお飲みになってお待ちください（笑）。

【07年11月21日／埼玉・さいたまスーパーアリーナにて収録】

青木真也

というわけで！　インタビュー終了から数時間後――、旧PRIDE派の大晦日イベント『やれんのか！　大晦日！2007』開催記者会見が行なわれた。もちろん青木真也も出席！

PRIDE再開を待ち続けているあいだに「もうあきらめろ！」「ほかのイベントに出ろ！」という、ある意味で現実的ともいえる言葉を突きつけられてきた青木真也にとっては、なんとも万感胸に迫る思いだったに違いない。

そしてそんな思いにひたる間もなく、事態は大きく、そして目にも止まらぬ早さで動き出そうとしている！　青木真也にとんでもない大勝負が用意されるという、もっぱらの噂なのだ。

♪生き残れ、これ、バカサバイバー！

はたして"最後のPRIDE"という舞台において、青木真也はいったいどんな"PRIDE"を見せてくれるのか？　もんの凄く高いハードルがセットされるというから、ファイターとしての運命の強さを感じられずにはいられない。それもこれも、この"沈黙の7ヵ月間"が呼び寄せたわけものなのだが。

「PRIDEはもうない」

"沈黙の7ヵ月間"、こういった言葉をあちこちでよく耳にした。確かに一つの現実であるが、何事にも終わり方というものがある。死に方がある。

あのPRIDEがこんなかたちで死んでしまっていいのか、殺してしまっていいのか？　ダメに決まってるよ！

たとえ死んでいたとしても、墓場から死体をムリヤリにでも引きずり出して、もう一度葬り直すくらいの狂気が必要だ。

そして「PRIDEはもうない」という冷静な視点を吹き飛ばす情熱も必要だが、純粋な情熱だけでは足下をすくわれる。まがまがしい狂気だけではつまはじきにされるだけだ。

何か壁を強引に突き破るときは、狂気と情熱という二つの炎が求められるのである。青木真也にはそういった狂気と情熱を感じるのだ。

大晦日――、青木真也からあふれ出すその狂気と情熱、そして玉袋さんを見逃すな!?

大晦日のイベントも、ボクの試合も、
絶対に損はさせません!!

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。昨年8月の『PRIDE武士道』が初参戦。4連続一本勝ちで、ライト級のトップ戦線に浮上。新生PRIDEの沈黙のあいだは再開をひたすら待ち続けた。現・修斗世界ミドル級王者。入場テーマはウルフルズの「バカサバイバー」。180cm、73kg。

GLOBAL
MARTIAL ARTS
“60億分の1 世界最強の男”
エメリヤーエンコ・ヒョードル

――ヒョードル選手、おかえりなさい！　PRIDEの多くの選手がUFCに転向する中、よくぞまた日本に帰ってきてくれましたね！
ヒョードル　私も再び日本に来られて嬉しいです（微笑）。
――いま、日本のファンは「ありがとう、ヒョードル！」という気持ちでいっぱいだと思うので、僭越ながら、ファンに代わってお礼を言わせていただきます。「ヒョードル、おまえ男の中の男だよ！」（のけ反りながら）。
ヒョードル　こちらこそ、いつも応援していただいてありがとうございます（微笑）。
――今回、『やれんのか！　大晦日！　2007』に参加しようとしたのは、ヒョードルさんご自身の希望だとおうかがいしたのですが、どうしてこのイベントに出ようと思ったのですか？
ヒョードル　私がこのイベントに参加するというのは、べつに特別なことじゃないですよ。私にとって、毎年、大晦日は日本で試合をすることになっているんです。例年と同じことをするだけです。
――すでに恒例行事になっているということですね（笑）。
ヒョードル　はい。私にとっては、これで5回目になりますから。この4年間、私は日本のファンと一緒に素晴らしい新年を迎えています。この心地よい習慣、伝統を絶やしたくなかったんですよ。日本のファンやスタッフに私の勝利を祝ってもらうことは、本当に気持ちのいいことなんです。
――"大晦日のイベント"ということと同時に、PRIDEというイベントにも、やはりこだわりはありましたか？

ありがとうヒョードル！"皇帝"が帰ってきた!!
12.31『やれんのか!』出場決定!

ファンの皆さん、素晴らしい大晦日をともにすごしましょう（微笑）

「大晦日に日本で試合がしたい」!!　ロシアM-1公式サイトに、その衝撃のメッセージを綴ってから2週間、この男が本当に日本に帰ってきた！　"帝国"UFCの牙城を脅かす新組織、『M-1グローバル』の12.31『やれんのか!』全面サポートとともに、ヒョードルの出陣が確定。これにより、世界MMAウォーズは新局面を迎えることに。本誌は、その"世界再編"の扉を開いた最強皇帝を独占キャッチ！　大晦日参戦を実現させた、その喜びの声をお届けしよう！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄

EMELIANENKO FEDOR

私に勝てると思っているなら、ヒクソンにはぜひリングに上がってもらえればと思います

ヒョードル　もちろん、そうですね。PRIDEは残念ながらなくなりましたが、素晴らしいイベントでした。いまは『M−1グローバル』が、PRIDEの後継イベントのようなものになればいいと思っています。

—その『M−1グローバル』の旗揚げは来年の春あたりを予定しているということですが、その前にヒョードル選手が日本で試合をするということには、アメリカの首脳陣は難色を示したんじゃないですか?

ヒョードル　いいえ、そんなことはありませんでした。非常に賛成してくれましたよ。彼らも日本には熱心なMMAファン、そして私を応援してくれる素晴らしいファンがたくさんいることを知っていますからね。

—そうでしたか。『M−1グローバル』自体も来年、日本でイベントをやりたいという希望があるようですね。

ヒョードル　そうです。夏ぐらいにはイベントをやると聞いています。

—もちろん、ヒョードルさんもその大会には出場されるわけですよね。

ヒョードル　はい（ニッコリ）。

—では、今年の大晦日と来年の夏、少なくとも2回は日本でヒョードル選手の試合が観られるわけですね。

ヒョードル　ええ、その予定です。いまから楽しみにしています。

—先ほど、「『M−1グローバル』がPRIDEの後継イベントのようになればいい」とおっしゃってましたが、ヒョードル選手は、PRIDEのどのような部分が気にいっていたんですか?

ヒョードル　強い選手がたくさん集まっていたことは言うまでもありませんが、PRIDEはそれだけでなく、演出面でもベストなイベントでした。ファンを興奮させると同時に、ファイターが全力をもって臨めるエンターテインメント空間を作り上げていました。そして運営側の選手に対する姿勢も素晴らしかったですし、またファンのイベントに対する熱というものが凄かったですね。

—かつてのPRIDEは、いま世界で一番大きな団体であるUFCより上だと思いますか?

ヒョードル　まったく比べ物にならないと思います。イベントの質から、選手のレベル、そして試合内容。あらゆる部分において、UFCがPRIDEに勝っている部分はありませんね。

—でもヒョードル選手は一時期、UFCとも交渉していたわけですけど、それはUFCに行きたいと思っていたわけではないんですか?

ヒョードル　どこで闘うのかということは私が決めることではありません。実際の交渉は、ワジム（・フィンケルシュタイン会長）さんに任せていました。これまで闘ってきたPRIDEがなくなってしまったので、UFCという選択肢を考えたのでしょうが、『M−1グローバル』やこの大晦日のような大会が生まれたので、その必要はなくなりました。

—ただ、『M−1グローバル』や大晦日の『やれんのか!』には、ノゲイラやミルコといった、かつてヒョードル選手と"最強"を競ったライバルたちがいませんが、その点において寂しさのようなものは感じませんか?

ヒョードル　寂しさはないですね。むしろ『M−1グローバル』では、これまで私が闘ったことのない強い選手と闘えそうなので、そういう意味では、むしろこれからのほうが楽しみですね。

—彼らとは決着がついているので、ほかの強い選手と闘いたいという気持ちがあるわけですか?

ヒョードル　そういうことです（微笑）。

—UFCのダナ・ホワイト代表は、「ヒョードルは世界一過大評価されている。本当は世界のトップ5にも入らないファイターだ」と話しているのですが、そういった発言についてどう思いますか?

ヒョードル　（タメ息をついて）どうして彼が私にそういった否定的な姿勢を取るのかは理解できませんね。私は彼と会ったことも、話したこともありませんけど。

—まぁ、ヒョードル選手を獲得できなかった腹いせなんでしょうけどね。「あいつはトップ5にも入らない」と言いながら、ヒョードル選手に2度敗れているノゲイラが、UFCデビュー2戦目でヘビー級タイトルに挑戦できるみたいですから（笑）。

ヒョードル　（無言で両手を広げ、首を傾げる）。

—理解できませんよね（笑）。ただ、ショーグンやミルコらPRIDEのトップファイターがUFCで結果を出せていないことで、「PRIDEファイターは本当は最強じゃなかったんじゃないか?」というような声が出ているのですが、それについてはどう思いますか?

ヒョードル　確かに結果が残せていないわけですから、そう言われるのはしょうがないですね。彼らは最強じゃなかった、ということでしょう。でも、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンはUFCのチャンピオンになりましたし、ノゲイラもチャンピオンになるでしょうから、一概に「PRIDEファイターは最強じゃない」とは言えないと思いますけどね。

—彼ら元PRIDEファイターたちに対して、いまでも少しは仲間意識というようなものはありますか?

EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ出身。初代リングス世界ヘビー級王者、リングス世界無差別級王者、『PRIDEヘビー級GP』王者、現・PRIDEヘビー級王者の肩書きを持つ、"人類最強の男"。レッドデビル所属。182cm、101kg。

ヒョードル　そうですね。ただ一つの栄光を目指してともに競い合った選手という意味では、かつての同志というか、戦友のような気持ちはありますね。いつかリングを降りる日が来たら、彼らと一緒にお酒を飲めたらいいですね（微笑）。

――では、いま現在、ヒョードルさんがライバルと認める強いファイターというと、誰が挙げられますか？

ヒョードル　世界に強いファイターはたくさんいますよ。ノゲイラやミルコ、ジョシュ・バーネットのことはいまでもライバルだと思っていますし、ランディ・クートゥアーも最強の選手の一人でしょう。

――UFCを離脱したランディとヒョードル選手の試合が実現したら、とくにアメリカのファンにとって、ドリームマッチになりますよね。

ヒョードル　私はランディを尊敬しています。もし、彼と闘うことができれば、光栄ですね。

――それから、ヒクソン・グレイシーという人が「ヒョードルに勝てる」と発言しているのですが、それについてはどう思いますか？

ヒョードル　そう思っているなら、ぜひ私がいるリングに上がってもらえればと思いますよ。『M―1グローバル』はオープンな団体ですからね（ニッコリ）。

――大晦日の相手は決まってませんが、ヒクソンが相手でもかまいませんか？

ヒョードル　もちろん。ファンと主催者が望むなら、喜んで闘います。

――PRIDEはもともとヒクソンvs髙田延彦戦で始まったイベントですから、その歴史の"ラスト"を飾る『やれんのか！』のメインにふたたびヒクソンが出てくるのもいいかもしれませんね（笑）。

ヒョードル　私は問題ありません（微笑）。

――ヒクソンはともかく、大晦日はどういった選手と闘いたいですか？

ヒョードル　先ほども言ったとおり、ファンと主催者が望む相手なら誰でもかまいません。私が『M―1グローバル』と契約を結ぶとき、彼らは私と闘うにふさわしい最強の相手を用意する、と約束してくれましたので、それが実現することを信じています。

――では、大晦日まであと1ヵ月ちょっとですが、これからどんなトレーニングをする予定ですか？

ヒョードル　スパーリングを中心に、すべての技術を確認する予定です。とくにボクシングの練習に力を入れたいと思います。

――短い準備期間ですけど、不安はありませんか？

ヒョードル　不安はありません。私は11月10日にコンバット・サンボの大会に出場したばかりで、その大会に向けてしっかりと体調を整えてきたので、コンディションは万全です。

――では最後に、ヒョードルさんのひさしぶりの試合を楽しみにしている日本のファンに向けてメッセージをお願いいたします。

ヒョードル　日本のファンの皆さんといい新年を迎えるために、素晴らしい試合をすることをお約束します。ぜひ会場に来て応援してもらえたらと思います。

――わかりました。では、素晴らしい大晦日になることを期待しています！

【07年11月21日／さいたまスーパーアリーナにて収録】

「1年間は、"待ってみよう"と思ってました」

大晦日に"再生"するクラッシャーを直撃!!

川尻達也

TATSUYA KAWAJIRI

いい選手はいっぱいいるんですけど、UFCはあんまり魅力を感じなかった

「やるに決まってるじゃないですか！」。11月21日、『やれんのか！　大晦日！　2007』の記者会見で、ひときわ熱っぽくコメントしていたのが"クラッシャー"こと川尻達也。昨年の『PRIDE男祭り』のギルバート・メレンデス戦からジャスト1年間、闘いの場を待ち続けた男がいよいよ再生！　会見の前々日にその心境を直撃した。

聞き手／橋本宗洋　撮影／菊池茂夫

――いよいよ、旧PRIDE派の大晦日興行が決定したみたいですね。

川尻　はい。11月の頭くらいに話を聞いて。あさって、会見があるみたいですね（インタビューは会見前に収録）。

――川尻選手って、デビュー直後にも1年間のブランクがありましたよね。でも、あの頃といまとではだいぶブランクの意味が違うんじゃないですか？

川尻　いや、あんま変わんないですよ。

あ、変わんないですか（笑）。デビュー戦で負けたあとっていうのは、自分を鍛え直す意味で試合をしてなかったわけですよね。でもいまは選手としてアブラが乗ってる時期じゃないですか。

川尻　ん〜、でも今回も同じですよ。自分を鍛え直そう！　っていう。

――試合への飢餓感とかはなかったんですか？

川尻　試合をやりたいっていう気持ちは常にあったんですけど、「ま、なんとかなるかな」って。ずっと試合ができないままじゃないし、試合がない期間、自分がレベルアップできればいいかなって。だからそんなに焦らなかったですよ。

――前回、『kam·ipro』でインタビューさせてもらったときはPRIDEの事務所閉鎖直後でしたよね。で、そこで初めてPRIDE以外の道を考え始めたという感じで。

川尻　そうですね。それまではPRIDEが復活できるにしろできないにしろ、白黒はっきりしてほしいっていうか、答えを出してほしいっていう気持ちで。

――PRIDEの件がはっきりするまでは、他団体のことはまったく考えなかったんですか。

川尻　そうですねぇ……。やっぱり個人的な気持ちだけで簡単に動いてもいいような立場でもないですし。あとはホント、練習をやり込みたいっていう。あと深く考えてなかったのと（笑）。

――UFCとか『HERO'S』っていうのは、選択肢として意識していなかったんですか。

川尻　UFCは正直、あんまり魅力を感じなかったですね。いい選手はいっぱいいるんですけど、70キロっていう枠の中では一番の舞台だとは感じなかったんで。（UFC王者の）ショーン・シャークもステロイド問題が出てきたりとか。そういうこともあってUFCには気持ちを定めにくかったですね。だから70キロに関しては選手が散らばって、一番を決めるリングがなくなっちゃってた状態だと思うんですよ。

1年前の『PRIDE男祭り』ではギルバート・メレンデスと15分ノンストップで究極のド突き合いを披露した川尻。判定で惜敗もその評価を上昇させた。はたして"再生"の舞台の相手は？

――『HERO'S』はどう見てました？

川尻　テレビで観れるぶん、出てる選手に魅力は感じましたけど……。まあ焦らずっていうか、具体的に動こうっていう気持ちにまではならなかったですね。まあ今年いっぱい、1年間は（PRIDE復活を）待ってみようっていう感じでしたね。1年待って、それで何もなければ、ほかの道、アメリカもあるだろうし、ほかの団体もあるだろうしっていう。

　そのへんの焦らない感じは、川尻選手が茨城に住んでるっていうのも大きいんですかね。茨城の選手って、みんな格闘技界の情報とか噂とか入ってきてない感じですもんね。

川尻　ああ、入ってこないっすね。全然ないですよ。僕からも聞かないようにしてたし。

――茨城の選手って独特ですよね。東京のジムに入る人も少ないですし。ずっと地元で、東京と距離を置きながらやってるっていう。

川尻　東京は人も多いし、セカセカしてるんで自分のペースに合わないんですよね。東京にいるとへんに焦っちゃうっていうか。茨城の人間は他人に合わせるのが苦手なんですよ。自分好きで自分勝手なんじゃないですかね（笑）。

――でも、そのおかげで情報や噂に惑わされず、練習に打ち込めたというか。

川尻　そうですね。ほかの人がどう動くかはどうでもいいって言ったらアレですけど、マイペースでいいかなって。

――じゃあ、この1年間かなりいい練習ができたんじゃないですか？

川尻　それは凄い感じますね。やっぱり、試合前は試合用の練習しかしなくなっちゃうんで。そうすると幅が狭くなっちゃうんですよね。だから幅を広げ直したり、もう一回、全体的なレベルアップを図れたんで。そういう意味では有意義な1年でしたね。もう全部、鍛え直しましたから。打撃、レスリング、寝技。とくに意識したのは寝技の極めですね。あとパンチ。自分のスタイル的には必要不可欠なんで。

――UFCや『HERO'S』に出るようになった選手の試合は観てました？

川尻　観れる試合は観てました。日本人選手の場合は、素直に応援してましたね。頑張ってほしいなって。でも、それがうらやましいとは思わなかったですし。自分がどうこうっていうのはなかったですね。

――PRIDE復活を待ちながら練習に打ち込んでいたわけですけど、10月のPRIDE日本事務所閉鎖以降はどんな気持ちで過ごしてました？

川尻　PRIDEがないんだったら、じゃあどうしようかな、と。視野を広げて、

どんな舞台があるのか考えてましたね。アメリカならUFC以外にもWECとかストライク・フォースとかあるな、とか。日本もいろいろ団体はあるし、あと打撃の試合もしてみたいな、とか。いろんな可能性を妄想してニヤニヤしてました(笑)。

—打撃の試合も考えてたんですか。

川尻 K−1とか、キックの団体とか出てみたらどうだろうなって。ただ自分の場合は打撃で一番を目指すわけじゃないんで、気持ちよく殴り合えればいいかなって。脚とか蹴られると痛いんで(笑)。

—そういう中で大晦日の大会が決まりましたよね。話を聞いて、まずどんな気持ちになりました?

川尻 「ホントかな」って(笑)。

—クククク! まあ、最初はそうですよね(笑)。

川尻 いや、いまでもちょっと思ってますけど(笑)。

—あ、いまでも半信半疑で(笑)。

川尻 これまで「やる、やらない」でいろいろとあったんで……ちょっとまだテンションが上がりきってないですね。会見には出るんで、そこでテンションが上がるか……。当日まで半信半疑かもしれないです(笑)。

—リングに上がってみるまでわからない、と(笑)。

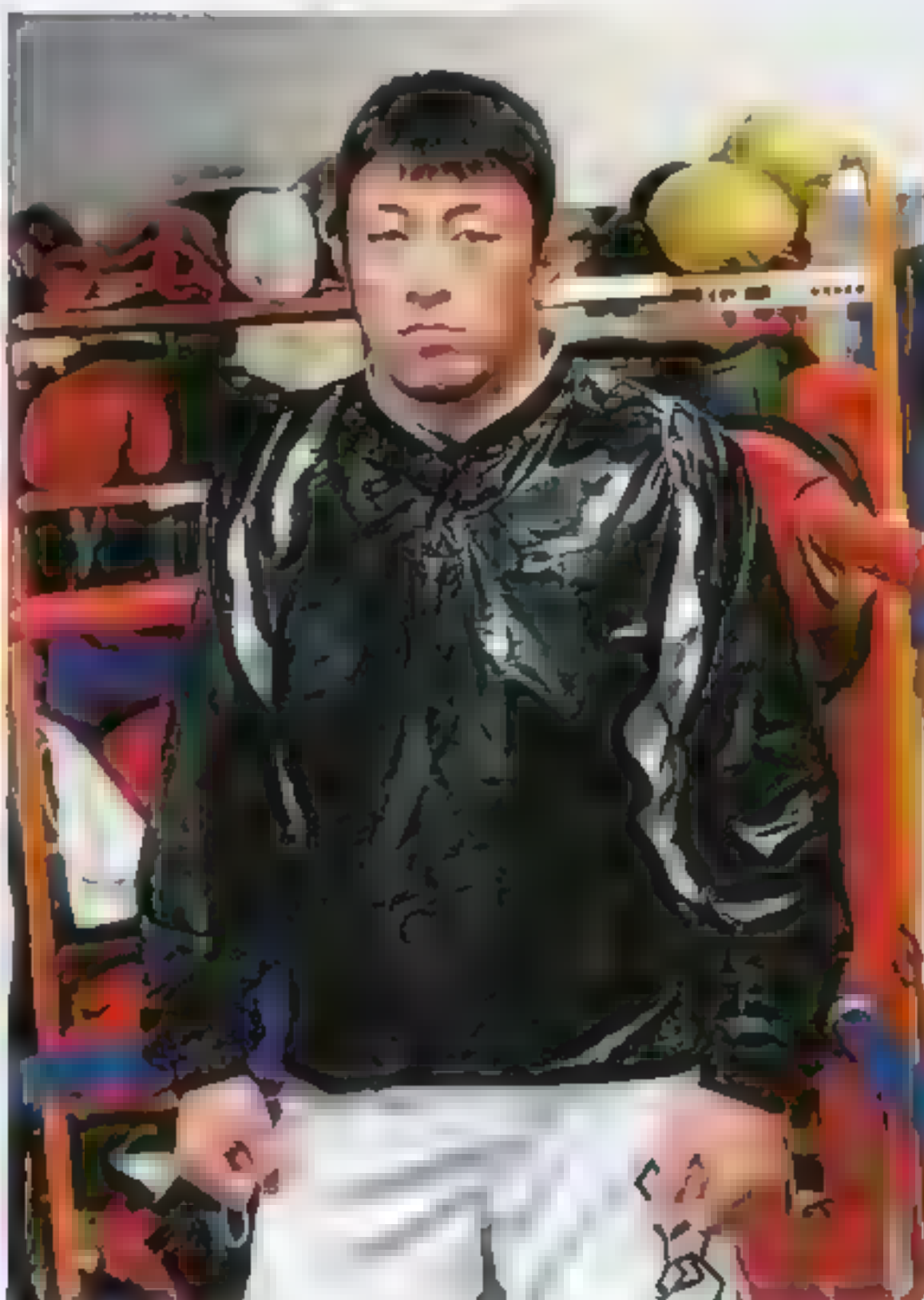
川尻 正直、厳しいですけどね。バチッとスイッチが入んないと。でも、それって気持ちの波もあるんですよね。9月、10月は凄く気合いが入ってたんですけど。そこで頑張りすぎちゃって、いまひと段落ついてる感じなんですよ。だから、ここからまた追い込んで、大晦日に向けて気持ち的にも上がっていくんじゃないですか。

—いまがどうこうじゃなくて、照準は大晦日に合わせてる、と。

川尻 そうですね。大晦日に試合するのがベストタイミングだと思います。まだ相手は決まってないんですけど、魂のぶつかり合いがしたいですね。くすぶってた気持ちに着火してくれるような相手なら、バチッといい試合ができると思います。

—五味(隆典)戦でも「気持ちよくなっちゃった」と言ってましたけど、川尻選手にとっては何よりも闘っているときの充実感が大事というか。

川尻 そういう気持ちは大きいんですけど、でも、やっぱり勝たなきゃダメだなっていう思いも去年、味わってるんで。あんまり楽しみすぎないようにしないといけないですね。勝ちにこだわりつつ、熱い試合をしなきゃなって……。周りにもキツく言われてるんで(苦笑)。

「オレは大丈夫だよ」というのを見せたい クサッって終わる選手じゃないんだよって

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。元・修斗世界ウェルター級チャンピオン。PRIDEには05年5月「PRIDE 武士道 -其の七-」から参戦。同年9月25日の「PRIDE 武士道 -其の九-」のライト級GPの1回戦では五味隆典と格闘技史上に残る名勝負を繰り広げた。171cm、72.9kg。

川尻達也

—川尻選手がこの機会を待っていたように、ファンの人たちも待ってたと思うんですよ。そんな人たちに何を見せたいですか?

川尻 熱を味わってもらいたいですね。PRIDEのときと同じような。大晦日だし、僕の試合を観て「新年に向けてまた頑張ろう」って思ってもらえるような試合がしたいです。こう、盛り上げたいんですよね。自分の試合だけじゃなくて、格闘技界全体を盛り上げたいっていうか。いま、日本の格闘技界ってピンチじゃないですか。だから僕の試合で「ああ、やっぱり格闘技っていいな」って思ってもらいたいです。それが一番のテーマですね。

—「これぞ格闘技!」っていう。

川尻 ほかのスポーツも素晴らしいんですけど、やっぱり格闘技でしか見せられないものがあると思うんで。魂のぶつかり合いっていうんですかね、技術だけじゃなくて気持ちまで見せられるっていう意味では、格闘技が一番だと思ってるんで。観てる人が震えるような試合をしたいですね。

—新イベントでは、PRIDEの頃といろいろ状況は変わってると思うんですよ。ほかの大会に出ている選手もいるし、そもそもPRIDEという名前も使えないですし。そういう中で、川尻選手が「新イベントでもここだけは変わらずにいてほしい」って思う部分ってどんなところですか?

川尻 やっぱり、気持ちじゃないですか。選手とスタッフと、あとファンの気持ちが一体になってたのがPRIDEだと思うんですよ。みんな、顔を見ただけで「PRIDEが好きだ」っていうのがわかるんですよね。そういう人たちの気持ちのつながりさえ大切にしていけば、表面的な変化は関係ないと思いますね。

—今年に入って、練習に集中しつつもつらい時期ってありました? 周りから「試合しないの?」って言われることもあったでしょうし。

川尻 あ〜、それは凄いありました。友だちとかファンの人に「次はいつですか?」って。それは心配してくれたり、応援してくれてるってことなんですけど答えられないふがいなさを感じて……。正直、つらかったです。こたえましたね、それは。だから大晦日は、そういう思いも含めて全部"ドン!"って試合にぶつけたいですね。それでファンの人も自分も楽しんで、「オレは大丈夫だよ」ってところを見せたいです。このままクサッて終わる選手じゃないんだよって。この1年は、自分にとってマイナス要素じゃなかったんで。

—溜め込んだ鬱憤とか蓄えた実力とか、もう全部ぶつけて。

川尻 そうですね。それで来年は突っ走ろうと思ってます。来年、30(歳)なんですけど、輝かしい30代を迎えるために、20代最後の年に鍛え直しときましたから(笑)。

【07年11月19日/都内・某喫茶店にて収録】

「大晦日、本当にあるんですよね？」

もう一人の“エスペランサ”が、大晦日の夜に再び！

石田光洋

MITSUHIRO ISHIDA

2006年『男祭り』以降、いずれのリングにも立たず、ひたすら“PRIDE”を待ち続けた石田光洋。
11月21日『やれんのか！大晦日！2007』の会見では参戦選手として堂々とその姿を見せた石田だが、
会見2日前に収録した本インタビューでは「本当にやるんですよね？」と、まったくもって半信半疑！
そんな中、1年ぶりとなる大晦日に向けての意気込みを強引に聞き出した！

聞き手／松下ミワ　撮影／菊池茂夫

──石田さん！　ついに、大晦日のイベントが決定しましたね！

石田　……う～ん。

──あれ？　どうされたんですか？　ここは喜ぶシーンですけど。

石田　逆にお聞きしたいんですけど、ホントにやるんでしょうか？

──は、はい。正式発表はされてないですが、確定したそうです。

石田　……う～ん。本当なんですかねぇ？

──半信半疑ですね。というか、信用していない（笑）。

石田　……というか、まあ、正式に会見とか、発表されたら「おお！」ってなるんでしょうけどね。

──えぇっと、なんだか凄く冷静ですね（笑）。あさって21日にその会見が行なわれるということなんですが……、正式にアナウンスされないと、やっぱり不安でしょうか？

石田　そうですねぇ……。まだ、不安な感じはあります。

──ずっと待たされたわけですからね（笑）。でも、開催が発表されれば、ずっと試合を待っていた石田さんとしてはいろんな思いが大爆発しますよね？

石田　それはもう！　ようやくというか、待っててよかったなあと思うでしょうね。

──それこそ、一番最後に試合をしたのって去年の『PRIDE男祭り』ですもんね。

石田　1年前ですよねぇ……（しみじみ）。

──この1年のあいだ、石田さんはどんなことをされてたんでしょうか？

石田　ずーっと練習してました（笑）。変わりなく練習して、普段どおりの生活を送ってたって感じです。

──でも、その気力ってかなり凄いですよね。去年は修斗も合わせて6試合も闘ってて、練習するモチベーションを保つものがあったわけですけど。

石田　う～ん。でも、モチベーションに関しては、上がったり下がったりしちゃうのはしょうがないと思うんですよ。それは試合があるにしてもないにしてもそういうことはあるし、あたりまえだと思ってたんで。でも、ジムに行くとほかの人は試合があるわけだし、身近にめちゃくちゃ練習している人もいますしね。それを見ていると励みになるというか、ボクも負けないよって気持ちにはなりますよね。

──ただ、石田さんが練習している一方で、いままでPRIDEで闘った選手たちは、日本人選手も外国人選手も含め、どんどんほかのリングに上がる状況がありますよね。それに関しては？

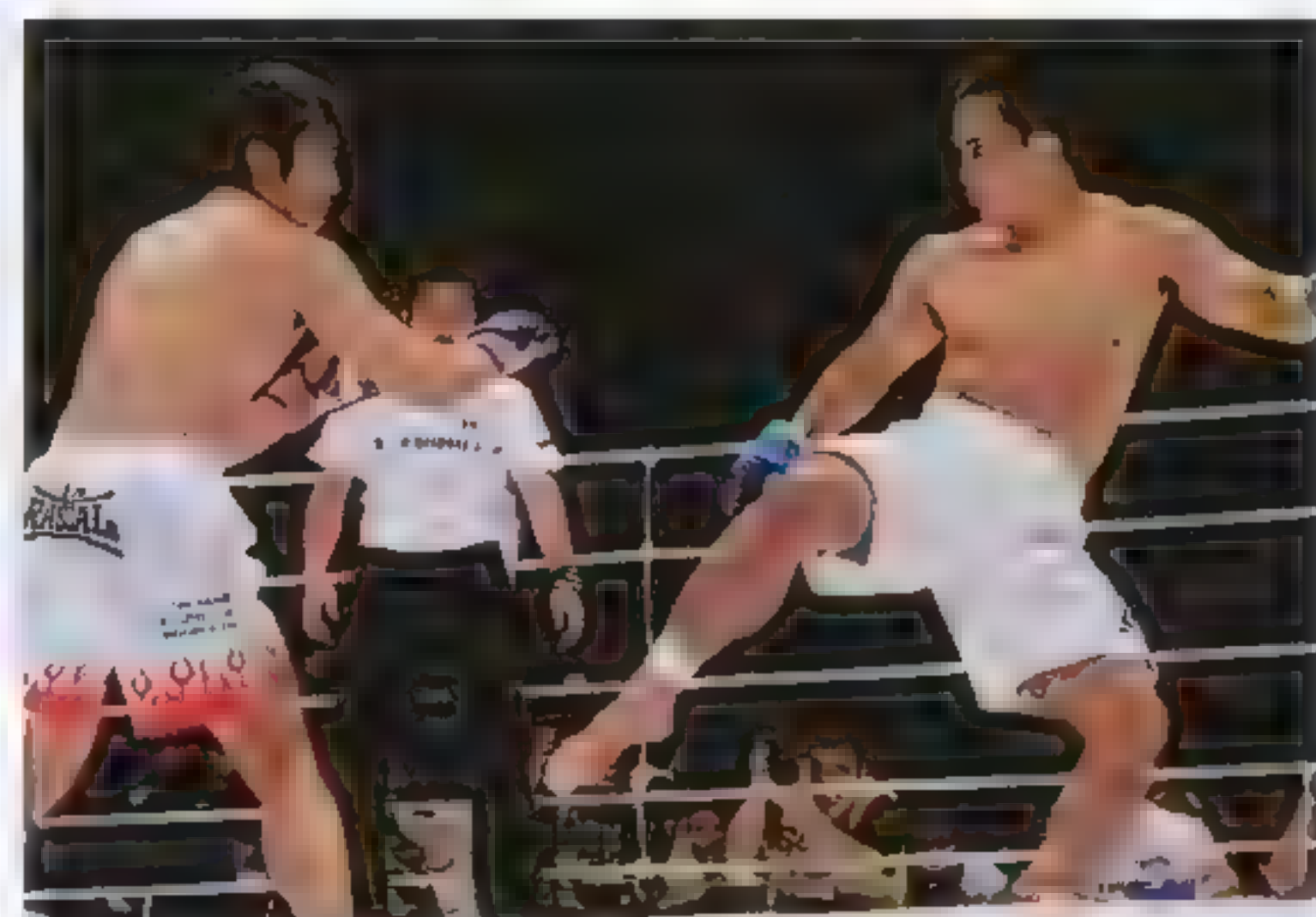
石田　ボクは、ほかのリングで試合するからには、やっぱり負けてほしくないなって思いながら観てましたよ。とくにそれ以上の感情はないというか、はい。ま、試合をしたいなという感情はもちろんありましたけど。

──そういう意味では、ごく最近でいうと『UFC78』では郷野（聡寛）さんがPRIDE系の日本人ファイターとして初の勝利を挙げましたよね。

石田　そういうのは嬉しいんですよ！　だって、いままでPRIDEファイターって、UFCとかのリングではあんまり活躍できてない状態だったじゃないですか。

──ミルコも連敗してますし、ショーグンにしてもダンヘンにしても、トップで闘っていた選手が負けてますよね。

石田　だから、負の循環といったらいいのかわからないですけど、最近ずーっとそんな感じだったんで、郷野さんが勝ったのは凄く嬉しいですね。とにかくPRIDEで闘ってた人たちには、ほかのリングでも活躍してほしい。ですけど、この前、デニス・カーンが負けちゃいましたよね。

何かいいことあるんじゃないかなって思ってました、根拠はないんですけど

打倒・五味隆典の最右翼として06年『男祭り』で拳を交えた石田。「勝てない相手じゃない」という石田の一言が、見事に"ワル五味"を登場させた白熱の一戦に。

──10・28『HERO'S』韓国大会で秋山成勲選手に劇的にKOされましたね。

石田　あれは凄く驚きましたし、やっぱりああいう場面で負けちゃうのはボクとしては凄く悲しいんですよね……。

──なるほど。『HERO'S』といえば、今年はミドル級トーナメントも開催されましたが、ほぼ同階級の選手の試合を観て、石田さんは何か思うことってあるんですか？

石田　ああ。「（JZ）カルバン、強いなあ」って。それくらいです！

──それくらい!?　何か触発されることはないんでしょうか？

石田　う～ん、何も考えませんでしたけどねえ。もし仮にですけど、『HERO'S』で試合をするのであれば、そこで闘ってる選手に関していろいろ研究したりはするんでしょうけど、ボクはそういう状況でもないんで、それ以上の感情はなかったですね。

──PRIDEだったり、それに準ずる舞台以外は興味がありませんか。

石田　いや、興味がないわけじゃないんですけど、なんて言うんだろう、修斗とかもいろいろ会場に観に行ったりはしますけど、選手を研究しに行くとか、そういう意識はないですよね。ボクは、いちファンとして観てるという感覚で観戦してたんで。

──でも、一方では、試合をしたいという気持ちがあるわけですよね。

石田　リングで闘えるのは凄くうらやましいですよ、やっぱり。

──そういう感情だったり、焦りは石田さんの中でどういうふうに消化してたんですか？

石田　う～ん、どうだろうな。とりあえず考えても自分一人の力じゃどうしようもないですから。だから、あんまり深くは考えないようにしてましたし、とりあえず試合をできる準備をして、話がくるのを待とうという気持ちだけでした。でも、試合は本当にしたいんですけどね（しみじみ）。

──ちなみに、『HERO'S』の話で言うと、地上波でも放送されてますよね。

石田　いいですよね、テレビ（笑）。

──ワハハハハ！　そっちのほうがうらやましいですか（笑）。

石田　はい（笑）。だってボクの試合って、じつは一度も地上波で放送されてないんですよね。去年、マーカス・アウレリオと試合（6・4『PRIDE武士道・其の十一』）しましたけど、あのあとに……。

──ああ、いわゆる"フジテレビ・ショ

ック〟が勃発しましたよね。

石田　『武士道』はあの大会から地上波のゴールデンで放送するって言われてたんですけどね。それに、去年は大晦日の『男祭り』でも試合させてもらったんですけど、結局、それも地上波では放送されなかったですし。だから、ボクってそういう運がないのかなあって悩むんですけど（苦笑）。

──そんな心配をしてましたか（笑）。

石田　だけど、試合に関しては、ほかのリングでどうこうという思いはまったくないです。とりあえず、ボクは待とうと決めて待ってたんで。

──石田さんがずっと待ってた理由って、どういうところに芯があるんですか？

石田　うーん。だから、ライト級GPが5月にあると言われてて、延期になりましたよね。で、7月に開催されるという噂もあったので、ボクとしてはそれが開催されると思って待ってた部分もあったんですね。それもあるし、PRIDEの（日本）事務所が消滅してからも、何かいいことあるんじゃないかなって思ってずっと信じてたんで。

──〝何かいいこと〟ですか。ズバリ、そう思う理由は!?

石田　まあ、根拠はないんですけど（笑）。

──そんな状態なのに、よくこんなに待ってましたね！

石田　やっぱり不安とか焦りもあるにはあるんですけど、でも、キツいのはボクだけじゃなくて、ほかの選手も同じだと思うし、それに旧PRIDEスタッフの方も同じ思いだと思うし。たぶん、ボクだけ待ちぼうけだったら、潰れちゃってたと思うんですけどね（苦笑）。

──でも、先ほども石田さん自身が「大晦日、本当にあるんですか？」と言われたみたいに、練習してきたものや待ち続けたものが活かされない可能性もあったわけですよね。

石田　さっきそう言ったのは、いまネットの噂が凄いことになってるじゃないですか。選手にとっても、こんな時期だからちょっとした発言が凄く大きく取り上げられることもあるだろうし、大晦日開催の噂にしても、一部では開催されると言われてるのに、別のサイトでは絶対にムリだと言われてたりしますし。だから、そういうのにとらわれたくないなって。ボクはただ信じて待ってます、と。

いしだ・みつひろ■1978年12月29日、茨城県出身。T-BLOOD所属。01年7月にプロ修斗デビューをはたし、06年2月に修斗環太平洋ウェルター級王者に君臨。PRIDEには「武士道・其の拾」から参戦し、その後、破竹の4連勝。06年「PRIDE男祭り」ではライト級チャンピオン五味隆典と対戦し、PRIDE初の敗戦を喫する。今年の大晦日は丸1年ぶりにリングに登場することとになる。168cm、72kg

──待ってるあいだというのは、何かプラスになることはありましたか？

石田　去年の話なんですけど、さっきも言ったようにボクはPRIDEと修斗の試合を合わせて6試合もやらせていただいたんですよね。そういった部分もあったんで、まだちょっと心のゆとりはあったのかなって。それに、こう言ったら言い方が悪いんですけど、去年は自分のことで精一杯で、なかなか周りを見る余裕がなかったように思うんですよ。

──そのぶん、今年は視野が広がったということですね。

石田　そうですね、今年はかなりゆとりがあったんで、周りが凄く見えるようになりました。ジムの会員さんの試合を観に行ったり、応援したりもできましたし。なんか、いいですよね！　みんな純粋で、がむしゃらにやってるんで。うん！

──そういうのがモチベーションをキープする材料になるというわけですか。

石田　あとは、まあ5月に向けてはもちろん準備はしてましたし、7月に向けてというのも万全に準備はしてましたけど、延期ということになっても、ボクは身体を休める期間、心を休める期間、あとは自分の足りない部分を補えるいい時間だなとプラスに思った部分もありますし。

──そんな、紆余曲折を経てようやく大晦日を迎えることになるわけですけど、あらためて意気込みのほうをお願いします！

石田　あのー……、本当に開催されるんであれば、待っててよかったなって（半信半疑で）。

──ワハハハハー　やっぱり正式発表があるまで信じない（笑）。では、もう開催決定ということで一方的におうかがいしますが、対戦相手はどんな選手がいいですか？

石田　1年ぶりの試合ですからねえ。ただ前回、（五味隆典戦で）74秒でKO負けという結果だったんで、ボクは選べる立場じゃないですよ。だから、主催者が提示した相手と全力で闘いたいと思ってます。提示されたということは、それだけでなんらかの意味があると思いますし。

──では、とくに対戦相手にはこだわってないということですね。

石田　そうですね、とりあえず試合がしたいですから。でもまあ、あえて言えば、日本人よりは外国人選手と闘いたいです。修斗時代もやっぱり強い日本人選手とたくさん闘わせてもらいましたけど、試合できるのであれば、本当に強い外国人選手がいいなって。ボクが言えることがあるのであれば、それぐらいですよね。

──わかりました。ところで、大晦日以降、来年のことって、何か考えていらっしゃるんですか？

石田　いやー、いまは大晦日がどうなるのかということで頭がいっぱいですね。それ以降のことは実際、何もわからないし、ちょっと答えようがないというか……。だって、ボク、大晦日で死んじゃうかもしれないですし（淡々と）。

──な、なんてこと言うんですか！　いきなり!!

石田　何があるかわからないわけですから。まあ、そうならないように必死に練習して、頑張らないといけないとは思ってますけど。というか……、これも〝大晦日にイベントあれば〟の話になると思うんですけどね。

──いや、地球が滅亡しないかぎり確実に行なわれます（笑）。

石田　……うーん。本当にあるのかなあ。

【07年11月19日／都内・某喫茶店にて収録】

〝60億分の1の煽りVアーティスト〟
沈黙破ってしゃべりすぎ!!

大輔

DAISUKE SATO

――大輔さん、おひさしぶりです！　ようやく『kami・pro』に登場していていただける機会が再びやってきましたね！
佐藤　半年ぶりに格闘技界に帰ってまいりました。いまの気持ちを一言で言うとしたら……、●●●●●！
――ダハハハ！　いきなりですか（笑）。
佐藤　今日の会見でも"これ"を言おうと思ってたんですよ（笑）。でも、とてもそんな雰囲気の会見じゃなかったんで、やめましたけどね。
――これは伏せ字になるんで、読者には何を言ってるのかさっぱりわからないと思いますけど（笑）。
佐藤　まあ、大会のオープニングVを観たときに「このことか！」とヒザを打っていただけたらと思います。
――ダハハハ！　楽しみにしてます！　ところで、先ほど『やれんのか！』開催発表記者会見が終わったばかりですけど、よくぞまあ、PRIDE時代の制作スタッフがまた勢揃いしましたよね。
佐藤　そうですね。「いざ鎌倉！」みたいなことが、いまでもあるんだなって思いますよね。
――かつてのメンバーで誰か一人欠けても、あの空気は再現できませんからね。ナレーターが立木文彦さんじゃなかったり、アナウンスがレニー・ハートさんやケイ・グランドさんじゃないだけで、もうPRIDEとは違うというか。
佐藤　ホントそうですよ。皆さん忙しい人ばかりなのに、一人残らず再結集しましたからね。
　佐藤さん自身、フリーのディレクターとしたら、年末なんて本来は書き入れ時ですよね。
佐藤　このために特番を2本断わりまし

2007.12.31
PRIDE
「"帝国"が終わり、"伝説"になります」
"散開"

かつての"PRIDEの世界観"の象徴でもあった、オープニングと試合前の煽りVTR。その制作者としてPRIDEファンに絶大な人気を誇る佐藤大輔氏が、『やれんのか！』開催決定で本誌にもひさびさに登場！　ひさびさついでに名前のフォントを巨大にしてみました。大輔氏が考える『やれんのか！』のテーマ、そして意義とは何か？

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄

たね。でも、そんなことはどうでもいいですよ。生きていくためにはどうでもよくないですけど（笑）。ここでボクが「いや、年末はほかの仕事あるから」って言ってたらね、バカじゃないの？　って話ですからね。

——なんのためにフジテレビを辞めたんだってことになりますよね。大輔さん自身は、3月に六本木で会見があって、ロレンゾ・フェティータ新オーナーの下、新しいPRIDEがスタートするっていうことで、もともとその仕事もやろうと思っていたわけですよね？

佐藤　もちろん思ってました。アメリカ側の人たちも当初は凄く熱心でしたからね。PRIDE FC WORLDWIDEのジェイミー・ポラック社長から「（アメリカの）制作スタッフは、みんなおまえと仕事をするのを楽しみにしている。一緒に頑張ろう」みたいなことを言われましたしね。

——そうだったんですか。

佐藤　だからこっちも調子に乗って、「こりゃアメリカに住んで、本気でやろうかな」なんて思った時期もあったりして。ただ、いま思えばアメリカ側は地上波がつかなかったら（PRIDE開催を）あきらめるっていう選択肢は最初からあったんですかね。でも、地上波なんてそんな簡単につくわけないですよ。だっていま、テレビ的には格闘技は数字（視聴率）獲れてねぇですもん！

——そうですよね。K-1 MAXも魔裟斗がブアカーオに勝って、準優勝しても11パーセントでしたからね。

佐藤　でも、あれは数字獲れませんよ。獲ると思ってました？

もう少しいくんじゃないかと……。

佐藤　いや取れませんよ。だって3年前

21日の『やれんのか!』開催発表記者会見では、出場選手だけでなく、10数名の主要制作スタッフも登壇。彼らすべてが揃っての"PRIDE"だったのだ。大晦日、あの空間がよみがえる!

会見に出た選手たちは真っすぐな目をした白虎隊だよ! PRIDE武士道とはよく言ったもんだね

からほぼ同じメンバーでトーナメントをやっていて、テレビが打ち出すテーマが毎回一緒なわけでしょ。魔裟斗選手のトーナメントに懸ける並々ならぬ意気込みは、会場のファン以外には充分に伝わってない気もしましたし。

——確かにそうかもしれませんね。

佐藤　だから、ここ半年間は格闘技のことは忘れてましたね。忘れるために、ほかの仕事を楽しくやっていた、というか。ここ6カ月で特番4本にテレビCMもPVも作りましたからね。

——でも、その半年のあいだに、『HERO'S』からは公式、非公式含めて再三オファーはあったんじゃないですか？

佐藤　ありましたね。谷川さんから「朝青龍より大輔くんのほうがほしいよぉ」と言われた男ですから（笑）。

——どんな比べ方ですか（笑）。でも、そこまで言われて『HERO'S』をやらなかったのはなぜなんですか？

佐藤　ほかの仕事のスケジュールが入ってたからです。

——ホントにそうなんですか？

佐藤　表向きはね（笑）。

——表向きは（笑）。やっぱり今回の『やれんのか!』のように、PRIDEにケジメをつけるまでは、やれないっていう思いもありましたか？

佐藤　それはありますよね。ボクがそれをやっちゃったら、ホントにPRIDEが終わっちゃうというか。勘違いも甚だしいんだけど（笑）。PRIDEのスタッフはみんな、自分がやらなきゃPRIDEが終わる、「俺がPRIDEだ」って思ってるんですよね。照明さんから演出家からアナウンサーからみんな。

——みんながみんな、そこまでの自負があって仕事をしている、と。

佐藤　だから、1年前のインタビューでも言いましたけど、客観的に自分がいなきゃPRIDEが成り立たないかどうかじゃなくて、自分自身がそう思えるかどうかですよね。そんなふうに思える仕事ってなかなかないから。

——でも実際、今日集まった10数人のスタッフじゃなきゃ、あのPRIDEの空気は作れませんよね。

佐藤　そう思いたいです。たとえば、美濃輪（育久）さんが出ても、セルゲイ・ハリトーノフが出ても、『HERO'S』がPRIDE化したように思わないでしょ？

——誰が出ても『HERO'S』は揺るがずに『HERO'S』ですよね（笑）。

佐藤　でも、それをじつは谷川さんもわかってるんじゃないですかね。ボクが谷川さんと電話でお話しさせていただくと、いつも最終的には「だってイベントは作り手とファンのものでしょう？　だから朝青龍より大輔くんがほしいんだよぉ!」って、そういう言い方をするわけです。

——そういう口説き方をしている（笑）。

佐藤　こうやって、いろんな人をナチュラルにだまくらかしてきたのかもしれないけど（笑）。作り手としてはボクがADの頃から本当に尊敬してますよ。ただ、ボクはそんな話は話半分で聞いてました。やっぱり仲間がいますから。今日、会見に集まった仲間が。

——やはり絆が強いわけですね。そういう意味では、PRIDEは作り手もファンもしぶといですよね。

佐藤　そうですね。そうやってずっと待っててくれたファンがいるのは凄くありがたいんですけど、今度の大晦日は、PRIDEを観たことがない友だちとか、恋

人や子どもなんかと一緒に来てほしいんですよ。そして、そこで見せたいものは、しみったれた〝葬式〟ではなく〝散開〟ですね。

——散開！　YMO（イエローマジックオーケストラ）ですか。

佐藤　そうです。YMOが1983年に武道館で散開コンサートをやったじゃないですか。あのイメージが強烈に残っていて。YMOがカルチャーになったのって、最後にあれをやったからだと思うんですよ。

——そうかもしれないですね。

佐藤　当時としてもギリギリだったかもしれない、ナチス的なステージセット。散開コンサート自体がナチス崩壊みたいなノリだったわけじゃないですか。そしてPRIDEも言わば帝国主義な側面があったわけで、YMOのように〝散開〟としてカッコよく終わるのもいいんじゃないか、そうするとカルチャーとして残るんじゃないか、みたいなイメージですよね。あとは選手がすげぇ試合をしてくれることは間違いないから。それにしても、今日集まった選手の皆さん、気持ちよかったね！

——いい男たちが揃ってますよね。真っすぐな目をした青年将校というか（笑）。

佐藤　ホントに。あれは白虎隊だよ！　俺たちが〝祖国〟を守る、みたいな。PRIDE武士道とはよく言ったもんだね。

——それにしても、二転三転しながら、よくぞ発表までこぎ着けましたよね。

佐藤　二転三転どころじゃないよ。毎日、状況が変わってたから。ボク自身、「やる」以外の選択肢はなかったけど、クリエイター、制作者としては、勝算みたいなことも当然考えるじゃないですか。なんと言っても、試合の煽り映像を作ろうにも、PRIDEの試合映像は一切使えないわけですからね。

——権利はすべてアメリカにいっちゃいましたからね。

佐藤　じゃあ、どうするのか。それこそ「俺、やれんのか？」みたいな（笑）。

ただ、そういう困難な状況だからこそ腕が鳴るという部分もあるんじゃないですか？

佐藤　はい（キッパリ）。試合映像が使えないからこそ、新しい発想でやらなきゃいけないとは思ってます。ボクはいままでのPRIDE的な手法、発想みたいなものが、今後もずっと続くとは思えないんですよ。やっぱり、映像や演出みたいなものはどんどん変わっていくものだし、これまでも変わってきたと思ってるし。格闘技のあり方自体が変わってますもんね。なにしろいまは、流行ってないわ。

——確かに、絶頂期のPRIDEは流行りでもありましたよね。

佐藤　そう、流行っちゃったんですよ。そして、いまはそのときいたヴァンダレイもいない、ミルコもいないという状況なわけだから、日本の格闘技のありようだって変わってくるんですよね。もう「煽りVTR」なんて必要ない、という結論もありえるし。では、いま格闘技はどうあるべきかっていうのは、たぶん谷川さんも見つかってないんじゃないかと思う。

——でしょうね。だから、〝PRIDE的なもの〟を目指してみたり、〝K-1甲子園〟やら〝K-1トライアウト〟みたいなかたちで、試行錯誤している。

佐藤　しかも、いまはファンの目線が、誰と誰が闘って、どうなるんだろう？　という、試合への興味とは違うところにきてたじゃないですか。

秋山成勲の煽りVを作るとしたら 秋山成勲とチュ・フンソンという人間を解析したい

——PRIDEが買収されて以降は、ずっとそうでしたよね。誰が移籍するとか、そういう話ばかりで。

佐藤　そうそう。それって危ない傾向で、どこかで業界全体が新しいコンセプトを考えなきゃいけないんですよね。でも、考えなきゃいけないと言っても、試合をやるのは選手の皆さんですから、この大晦日に何か新しいものが見えるといいですよね。

——だから、今年の大晦日は、いろんな意味で、業界全体がもう一度格闘技を盛り上げようっていう意識のもとで、つながっている感もありますよね。

佐藤　だといいですね。ただ、ボクは2～3年前のブームを再現できるとは思わないんですよ。さっきも言ったようにシウバやミルコ、ノゲイラみんないないんだし。それより、格闘技に新しいカルチャーが生まれたらいいな、と思ってるんです。

——確かに、芸能界でたとえるなら、つんく♂も、モーニング娘。の人気をもう一回復活させようとは思ってないでしょうからね。

佐藤　思ってないよね。あれとは違う、新しいアプローチでのプロデュースというものを考えてるでしょう？

——その話と直接つながるかどうかはわかりませんけど、谷川さんが「日本格闘技界の大同団結」を盛んにアピールしていて、『GONKAKU』では「秋山成勲を大晦日のさいたまに出してもいい」みたいな話をしている。その流れで、大輔さんが、これまで『HERO'S』に出ていた選手の煽りVを作ったりする可能性もあるんじゃないですか？

佐藤　まあどうなんでしょう。ただ、ボク自身は秋山選手の映像はメチャクチャ作りたいですよ。

——大輔さんが作る秋山の煽りVは観たいですねぇ。

佐藤　もし作るなら、とってつけたようなストーリーとかじゃなくて、「秋山成勲とチュ・フンソン」という人間をホントに解析したいですよね。あの人、どうしようもなく強いでしょ。練習も凄くしてると思うし、格闘技の先端技術みたいなところにも興味がある人だと思うんですよ。だから、あれだけ強くて、自分を強いと思っていて、本音を見せないのに、ほとばしる自我をまき散らしながら入場してくる。そんな格闘家が、「どんな手を使ってでも勝つ」みたいな、図太さと臆病さみたいなものを持っているところがおもしろいんですよ！

——なるほど。

佐藤　複雑な国籍を持っていることも関係しているのか、ほかの選手と考え方が決定的に違う気がするんですよね。さまよえる大王というか。秋山選手は、ただでさえ強いのに、さらにああいう事件を経てもなお闘うという道を選択したわけでしょ？　そんな覚悟がある人間の色気というものを出してあげたいんですよね。そのためには、〝格闘の神々〟に登場してもらって（笑）。

——ダハハハハ！　それはTBSの煽りVですよ！（笑）。

佐藤　おそらく、TBSにも秋山選手を扱うのは、センシティブな問題だっていうのは当然あるわけですよ。しかも、TBSは亀田選手の扱いで叩かれたばかりだから、秋山選手を復帰させるためには、誰かのせいにしなきゃならないわけですよ。それを特定の人間や主催者にするの

大晦日は一番好きな人と観に来てほしい
一見さんでも絶対に泣かせますから!

はどうか、ということで出てきたのが「格闘の神々」ですよ。たぶん(笑)。
――神様たちが決めたんだから、仕方がない、と(笑)。
佐藤 あとは、『HERO'S』の選手をやるとしたら、山本KIDみたいに、「ホントにカッコいい人間をカッコよく煽るというのは、こういうことなんだ」ってこともやってみたいし、今年の大晦日で言えば、桜庭和志vs船木誠勝なんていうのは、じつは知能指数が高いカードだから、このカードを一般化させながら、グッとこさせるものを作るというのは、おもしろい仕事でしょうね。
――桜庭vs船木のホントのおもしろさって、まだ誰も語れてないし、見つけられてもいない気がしますもんね。
佐藤 試合はおもしろくなりそうな予感はするんですけど、なんでいまこの二人が? っていうところで止まってしまうんですよね。
――本心が一番見えない闘いって気がするんですよ。とくに桜庭選手は、「桜庭和志」というPRIDEのときに着けていた〝仮面〟を着けたまま、いまも闘ってるイメージがあって、その仮面の向こうで、いまホントは何を考えているか、ということには相当興味がありますけどね。
佐藤 なるほど。そう考えると、もう一度、総合格闘家・桜庭和志を純粋に分析するのもおもしろいかもしれないですね。「生ける伝説」なんて取ってつけたようなニックネームじゃなくて、サクさんがなぜ人気が出たかっているところに、もう一回立ち返ったほうがいいんじゃないかな。グレイシーを破ったというのは二次的なものだから、その前のビクトー・ベウフォート戦やエベンゼール・フォンテス・ブラガ戦の勝ち方とか。なんで、そういう方程式に至ったのかみたいなところをおもしろがってたじゃないですか。
確かにそうですね。
佐藤 しかも、いまの桜庭さんって、肉体的コンディションが良さそうな気がしませんか?
――それは感じましたね。身体もスッキリしてるし。
佐藤 だから、「あの頃のサクよ再び」とかではもちろんないですけど、いまは純粋に格闘技に没頭してる感があるんですよ。いまの桜庭さんには、38歳の青春と38歳の技術革新がある気がしますね。ゴンザガ戦でのランディ・クートゥアーみたいに。
――これまで背負っていたものから解放されて、純粋に格闘技に取り組んでる感は、このところとくにありますね。
佐藤 そして、それは船木さんも一緒なんじゃないかな。ボクはあの人とまったく面識がないんで、ただ「色黒の人」というイメージしかないんですけど。
――色黒だけのイメージって、松崎しげるじゃないんだから(笑)。
佐藤 でも、昔は「技術革新者」のイメージは確かにありましたよね。きっと今度の試合は、あの二人にとって、何も背負わず、対戦相手も関係なく、ただ38歳の青春を格闘技にぶつけるような試合になる気がするんです。だから、桜庭vs船木戦は、二人とも「プロレスラー」とか「UWF」みたいなものを、一回外したほうがおもしろいんですよ。
――人間として桜庭和志、船木誠勝は異常におもしろい人たちでもありますしね。
佐藤 桜庭さんって、あれだけ意地悪な人はいないだろうし、あれだけ駆け引きをする人もいないだろうし。あらゆる局面で完全なる愉快犯というか。で、船木さんは「格闘技界の浦島太郎」なわけじゃないですか。
――そうですね。
佐藤 あの人こそ、もしかしたら純粋に総合格闘技を見ているかもしれないし。なんか二人とも伝説とかそういうフィルターを通さず見れたらいいんじゃないかな。でもそこはあくまで格闘技ファンに向けてのところで、そこをどう一般化するかっていうのは、もう一回、〝格闘の神々〟に会議で揉んでいただければいいんじゃないでしょうか(笑)。
――また格闘の神々ですか!(笑)。まあ、話は尽きないんですが、たぶんこの本が出る頃にはまたもの凄いことが起こってるような気もしますんで。この続きは12月20日発売予定の『kamipro』、もしくは『kamipro Hand』でお願いできたらと思います!
佐藤 まあ、ボクがとにかく言いたいのは、大晦日の『やれんのか!』には、恋人や、お子さんや、友だち、自分の好きな人と一緒に来てほしい。で、ほめられてほしいんですよ、ファンが自分の好きな人に。「こんなに素晴らしいものを教えてくれてありがとう」って。4人1組で、Tシャツ一枚で来てください!
――ほう。それぐらいの自信がある、と。
佐藤 一生懸命やって、一見さんでも絶対に泣かせますよ。大丈夫、最終的には選手が泣かせるから。大晦日、もう一回、格闘技で熱くなりましょう! そしてこのイベントをカルチャー、伝説として残して、なおかつ新しいものが見つけられたら、と思います。誰かが「新しいもの」を提示してくれるはずです!
――わかりました。では、最高のイベントを期待してます!

【07年11月21日/都内・青山にあるおでん屋にて収録】

さとう・だいすけ■1974年、東京都出身。慶応義塾大学卒業後、97年にフジテレビ入社。スポーツ局でPRIDEシリーズ、SRS、ジャンクスポーツ、F1GPなどの番組を手がける。PRIDEの選手紹介の煽りVのクオリティはファンから“神”と呼ばれるほど。昨年10月31日付でフジテレビを退社し、独立。現在は株式会社佐藤映像代表。

旧PRIDE派大晦日イベント正式発表！
さらなる"爆弾投下"はされるのか!?

やれんのか!? 大晦日 夢の大同団結！ 座談会

時は来た！ かねてから[illegible]旧PRIDE[illegible]による大晦日イベントの開催がついに正式発表!!
しかし[illegible]まだ甘い!?
常に大変動を遂げている年末のマット界には、さらなるビッグニュースがいまにも飛び出そうとしている
いったい今年の大晦日はどーなるんだ！ そして、夢の"大同団結"とは何か!?

構成／松下ミワ

ガンツ　いやぁ、凄い発表があったねぇ！

ジャン　本当にビックリ！　鳥肌立ったとはこのことですよ‼

タコ　え⁉　なになに？　なんの発表があったん⁉

ジャン　いや、この座談会を収録している11月20日現在では、なんの発表もされてませんけど、明日には何かしら大きな発表がある……いや、あったらいいなあ、と。

タコ　なんや、なんも決まってへんのかいな。……って、これ、前の座談会と同じ出だしやないかい‼　おまえら、わざとやってるやろ！

X　それはあなたが知～らないだけ！　水面下では凄い動きがいろいろあるんですよ！

タコ　……そのセリフもまったく同じですよ、Xさん。

ジャン　ああ、ご紹介が遅れました。名前を伏せずにはいられない、業界一の情報通ミスターXさんです。ちなみに今日は酔っぱらっておりません。

タコ　そんなことはどうでもええわ。編集長、前回の座談会で予告していた旧PRIDEの大晦日イベント開催がいつになっても発表されへんのはどういうこと？

ジャン　じつはですね……、本来ならば『kamipro』No.117発売日の前日、つまり11月15日に記者会見が行なわれるという話だったんですよ。ところが本誌の印刷がちょうど終わったタイミングで「会見の日時延期」が判明してしまって。

タコ　そういうことやったんや。

ジャン　でも、まさかこのカミスペの座談会でも「発表があったらいいなあ～」なんて、のんきなことを言うことになるとは思いもしませんでしたよ！

ガンツ　だから、発売日に『kamipro Hand』で「来週に発表する予定」と書いたんですけど、どうしてもウチを叩きたい方がいるらしくて、すっかり〝ガセネタ雑誌〟扱いされちゃって。

X　いまのところ旧PRIDE派イベントは、すっかり「ガセネタ」扱いになってますよね（笑）。

ガンツ　その発信源はあのタダシ☆タナカ大先生なんですけど（笑）。「大晦日興行の情報はガセネタである！」と無闇に吠えまくって、それを信用した一部のファンが路頭に迷って混乱している悲しい状況があるんですよね。本当にかわいそうに。

ジャン　しかし、あの大先生は何を根拠にあんな主張をしてたんですかね？　だいたい大晦日イベントの件なんて、関係者の誰もが知っているわけじゃないですか。

ガンツ　本当にわからないんだよねぇ……。

ジャン　大先生は昔、ウチで何回か原稿書いてもらったことがありましたけど、そもそも、なんで大先生のことを使わなくなったんでしたっけ？

ガンツ　それは大先生がホームページやブログを開設している一般ファンに、原稿の草案みたいなものをメールで送りつける悪いクセがあるじゃない。その中に、ウチの悪口がたっぷり書いてあったんだけど、一般ファンから「タダシ☆タナカからこんなメールが突然届きました」という、タレコミが編集部に相次いだんだよね。

ジャン　ああ、ありましたね、そんなこと。

ガンツ　それで「こんなタレコミがありましたけど、どういうことですか？」って問いつめたら、他人のメールを転送するなんて非常識ですよ！」って、一般ファンに対して逆ギレしていたという（笑）。

タコ　どっちが非常識や（笑）。

ジャン　おもしろいけど、困った人だなあ。まあ、それもこれも、ヒョードルが乗っている飛行機が墜落しなければ、大先生の主張こそが間違いだとわかるんだけどなあ。

ガンツ　まだ着いてないかな？

11月21日、ついに旧PRIDE派による大晦日イベント「やれんのか 大晦日！2007」の開催が発表された。この会見の前に大晦日大会開催の記事を掲載した本誌には、「ガセネタを書きやがって！」と一部からさんざん非難の声が浴びせられたが……。本誌の記事を「飛ばしだ」と信じて疑わなかった方々は、じつにご愁傷さまである。

PROFILE

堀江ガンツ
本誌編集部。子どもの頃から変態的プロレスファン＆UWF信者として鳴らし、『kamipro』入社後もUWF研究家を自称。変態的PRIDE信者でもある34歳。

原タコヤキ君
元『紙のプロレス』編集者で現在は音楽プロデューサー。毎度、マット界の情報収集のために座談会に出席するが、今回は〝もつ鍋〟という誘惑を振り切り編集部に集合。

ミスターX
どこから仕入れてくるのか、格闘技業界のあらゆる情報を完全網羅している業界屈指の情報通。本誌の座談会に出席する際は、名前を明かさないのがお約束。

ジャン斉藤
本誌編集長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経て『kamipro』編集部へ。永久電機に代表される〝アントン事業〟の真摯な調査・検証をライフワークとする32歳。

kamipro Hand 緊急アンケート！

ついに開催[illegible]れた旧PRIDE派の大晦日興行[illegible]れんのか！大晦日！2007」。この[illegible]見を受けて率直な感想を聞かせてください。

[illegible]

かねてから旧PRIDE派が行なう大晦日イベントへの参戦が噂されていたヒョードル。対戦相手は、一度海外サイトで噂が流れた"歌って踊れるK-1ファイター"チェ・ホンマンになるのか!?

X うん。おそらくまだでしょうね。

タコ ちょっと待て! なんや、なんや!! 前回に続けて急に呼び出しといて、いったい何が起こるか説明せんかい! こっちはもつ鍋を食ってる途中やのに駆けつけたんやぞ。

ジャン とりあえず説明しますと、ついに明日21日、旧PRIDE派が大晦日イベントの開催記者会見を行なうんですよ。

タコ おぉ~! ついにやるんかい!!

ガンツ それに、あのヒョードルがわざわざロシアから来日して、その大会に参戦することまで発表されるみたいなんです!

タコ おぉ~~!!

X しかも会見場所は、さいたまスーパーアリーナ! PRIDEの聖地ですよ。

タコ おぉぉ~~~!! 凄いやないかい!

ちなみに出席者は?

X 選手でいえば、青木、マッハ、川尻、石田、そしてヒョードルの5人だけですね。

タコ しかし、ヒョードルの担ぎ出しに関しては、前回は五分五分やて言ってなかった? なんとか来れるようになったんやな。

ガンツ 説明すると、ヒョードルを獲得した『M-1グローバル』は、先月に旗揚げ発表はしたものの、まだとくに実体も何もできてないんですよね。なので、いろんな団体と協力したいことは確かだった。その一番のお相手が今回協力することになる旧PRIDE派だということなんですよ。『M-1グローバル』にとって、PRIDEの世界観はお手本でもありますし。

X アメリカでケージ全盛の時代に、あえてリングを使うということからもそれはわかるよね。

ガンツ そもそもヒョードルが所属するレッドデビルのボスであるワジムさんは、「PRIDEに代わるイベントを作ろう!」ということで、スポンサー含め同志を募るためにアメリカに渡ったんですよ。そうして投資家や業界関係者たちと『M-1グローバル』を立ち上げた。それで、ワジムさんの気持ちとしては旧PRIDE派の人たちにイベント制作をやってもらいたいという意向があるんですよ。

ジャン そこが大きなポイントですよね。

ヒョードルを借りる代わりに、旧PRIDE派が『M-1グローバル』の運営に協力する可能性は高い

旧PRIDE派と『M-1グローバル』の関係はこの先どうなるかはまだわからないですけど、『M-1グローバル』からヒョードルを借りる代わりに、旧PRIDE派が『M-1グローバル』の運営に協力することは充分にありえますね。

タコ ただ、今度の大晦日に関しては、主催や運営も旧PRIDE派ってことなんやな。ヒョードルは選手として派遣されるだけで。ところで大会名は何に決まったの?

ガンツ 『やれんのか! 大晦日! 2007』です。

タコ な、なんや? それ!?

ジャン なんだか権利の問題でいろいろ制約があるみたいなんですよ。『PRIDE』や『男祭り』を連想させる言葉は難しいみたいで。「誇り」はダメ! 「祭り」もダメ! 「男」は微妙らしいです(笑)。

タコ 類似イベントとして疑われる可能性があるってことか。もしかしてカードも一緒に発表されたりするの?

X いや、カードまでは発表しないです。

ジャン この号が発売される11月30日前後には何かしらカードが発表されてるみたいですけど……、ズバリ言えば、"本命"はそっちの会見なんですよ。

タコ なになに? "本命"って

ジャン ……それは言えないですねえ。

タコ なんでやねん!! 発売される頃には発表されてるんやろ?

ジャン うーん、まだどうなるかわからないですし。

X まあ、それくらい大きな動きがあるということですよ。海外メディアでは噂が流れてたりしますけどね。……ヒョードルの"対戦候補"だけは。

タコ え? 誰なん? ヒョードルの相手。

X あくまで"対戦候補"ですけど、『M

[illegible]

ほか多数

—1グローバル』のモンテ・コックスCEOが海外メディアに口を滑らせちゃったんですよ。「チェ・ホンマン」って。
タコ　…………へ？（目を丸くして）、
ガンツ　いやあ、いまのはいいリアクションですね。
タコ　え～～え、マジでえ～～～～～え!!
ガンツ　くれぐれも言っておきますけど、あくまで噂レベルですよ。
タコ　でも、待ってよ。チェ・ホンマンは『Dynamite!!』に出るのちゃうの？　谷川さんかて、チェ・ホンマンが出なかったら困るやろ。
X　だから、この噂が本当だとすれば、FEGと旧PRIDE派がガッチリ手を組むという図式が自然と想像できますよね。で、モンテ・コックスもなんの根拠もなくホンマンの名前を出すとは考えられない。
ガンツ　それに、いくら旧PRIDE派が大晦日にイベントを開催するといっても、自分たちだけでそうそう素晴らしいカードが組めるわけがないのが現実ですからね。そこは旧PRIDE派もFEGの協力を得たいと思っているでしょう。
ジャン　そこは今回の大晦日の大きなポイントなんですよ。ヒョードルの件にしても『M－1グローバル』に協力を要請したわけですよね。『やれんのか！』はFEGに限らず、ほかのプロモーションに協力を仰ぐ方向のようなんです。つまり、政界ではなしえなかった〝大連立構想〟がマット界で実現するかもしれないわけですよ。
タコ　はあ～！　でも、パンクラスとかが選手を出すのはまだわかるよ。ところが、谷川さんが選手をホントに貸すかな？　だって同日に興行があるし、手を貸すほどいまは余裕はないでしょ。
X　いや、それが谷川さんは選手の貸し出しにかなり前向きみたいです。
タコ　んあ～!!　ホンマかいな!?
ジャン　だから、青木真也がJZカルバンやアンドレ・ジダ、ブラックマンバと闘うことだって夢じゃなくなるわけです。
X　実際、業界内では青木真也が『HERO'S』系ファイターと闘うことは既成事実のように語られてますね。
タコ　（呆然として）…………………まだ信じられへんなあ。
ガンツ　あら？　タコ兄さん、まったくピンときてないみたいですけど。もしかして、カルバンが誰なのか教えないとダメなんですか？
タコ　あのなあ！　なんぼなんでもカルバンくらい知ってるわ!!
X　種明かししますけど、前回の座談会で谷川さんが考えてる大きい計画とは、ズバリこのことですよ。
ジャン　谷川さんは場合によっては「えっ！　そんな選手まで貸すの？」って驚くような選手まで、『やれんのか！』に派遣する腹づもりだとか。
X　たとえば秋山（成勲）とか出しても全然おかしくない。
タコ　そんな大物まで貸すんかいな！　しかしさ、FEGの選手がさいたまで試合するっちゅうことになったら、その逆も考えられるんちゃうの？　そうしないとバーターが成立せえへんやん。
X　……そこはノーコメントですね。
ガンツ　確かにデリケートな話ですからねえ……。
タコ　なんや、なんや。編集長、ちょっとまたスクープかっ飛ばして業界をアッと言わせたらええやんか。
ジャン　いやあ、これぱっかりは、いろいろ面倒くさいですからねえ。
タコ　……あ！　わかった!!　明日の会見に出席しない吉田秀彦とか五味隆典とか藤田和之とか。その人たちが『Dynamite!!』に出るとか？
X　いや、吉田道場勢は『やれんのか！』とは別グループですからね。
ジャン　だからといって、ケンカしてるわけでもなく、お互いに距離があるわけじゃないみたいです。吉田道場勢が『やれんのか！』に協力する可能性もあるし、そこはタイミングや条件次第みたいですね。

FEGイベントを代表する秋山やチェ・ホンマンがさいたまスーパーアリーナに姿を現わしたとしたら、会場はどれほどの興奮に包まれるだろうか。試合もさることながら、入場シーンも見逃せない名場面になることは間違いないだろう。

場合によっては、「そんな選手まで!?」と驚くような大物がFEGから派遣されるかも……

ガンツ　五味隆典に関していえば、かねてから噂されてた『Dynamite!!』出場の線もありますけど、『やれんのか！』ができたことで、こっちに出るかもしれないし。UFCと契約を結ぶ可能性もまだ残っている。すべての可能性があることで、逆にどこにも出ずに終わってしまう危険性も否定できないようですね。
タコ　ということは、谷川さんが選手を貸すメリットってなんなの？　あの谷川さんがなんの計算もなしにチェ・ホンマンだ、秋山成勲だってポンポン貸すわけないでしょ。
ガンツ　ま、その話はひとまず置いておいて！
タコ　置くんかいっ!!
ガンツ　べつにやましいことがあるわけじゃないですよ（笑）。しかし、実現したら画期的なことですよ。PRIDEが消滅して、アメリカのマーケットが巨大化して、日本格闘技界がホントの危機だからこそ、ようやくいろんな恩讐を越えて手を携えることができるということですから。ぜひとも実現してほしい!!
タコ　でも、もったいないよね。大晦日の興行としては、『やれんのか！』は単発なんやろ？
ガンツ　『やれんのか！』自体はそうですけど、旧PRIDE派の行方はまだどうなるかわからないです。ただ、今後は白紙であるけども、もし大晦日の大同団結があるならば、来年への大きな布石になることは間違いないですよ。
タコ　でも、そうやったとしたら、これは谷川さんの一人勝ちやと思ってええのかな？　PRIDEの選手を使えるばかりか、いずれ佐藤大輔さんに念願の煽りVを作ってもらえるんやろ？

X　いや、誰が勝つかとか、すぐには結果は出てこないけど、大晦日の時点で一番ほくそえむのは……。

タコ　ほくそえむのは？

X　言えませんね。ちょっと。

タコ　イライラするなあ～!!　チェ・ホンマンも秋山も貸す可能性があんのやったら、TBSはちっともおいしくないやん！

ガンツ　まあ、大晦日の対戦カードが、今後のマット界の行方を握ってるといっても過言ではないでしょう。

ジャン　これで『Dynamite!!』の目玉がクロマティだったら、大笑いなんですけどね（笑）。

ガンツ　しかし、まだどうなるかわからないとはいえ、よくこんなに時間がない中でここまで話が動きましたよね。

ジャン　しかも、事が動き始めたのは10月にPRIDEの社員が全員解雇されたあと。急展開すぎる（笑）

X　でも、これはひさしぶりにプラスのうねりじゃないですか。いままではマイナスのうねりばかりだったけど。

タコ　この秋ぐらいからプロレスも格闘技もどんどんジリ貧になっていく中で、まさかこの大晦日に『ハッスル』はゴールデンでやるわ、大きい総合イベントは一つも行なわれるなんて考えられへんかったよね。

ガンツ　それに大同団結が実現すれば、格闘技界の対抗戦って、これが初めてになりますからね。

タコ　それこそプロレスでいうところの新日本プロレスのドーム大会に、全日本プロレス勢が乗り込んできたときと同じやん。

ガンツ　そう！　もうこれは新日vs全日の対抗戦が実現した、1989年の2・10東京ドーム以来の大興奮ですよぉぉぉ!!

ジャン　あのときの『週刊プロレス』の増刊号のタイトルは「奇跡爆発」だったなあ……って、そんなたとえでいいのか（笑）。

X　ただ、時間がないとはいえ、旧PRIDEスタッフの方々は何ヵ月かぶりに「忙しい！」って言って嬉々として働いてますよ。

ジャン　でも、大輔さんも大変ですよ。煽りVを作るにしても、PRIDEの映像は一切使えないわけですから。

タコ　それはちょっと寂しいよなあ。

X　会見から大会当日にかけても、PRIDEという言葉は一切使わないかもしれないみたいです。どう考えてもNGワードだから。とにかく隙を作りたくないみたいで。

タコ　ロレンゾからすれば『やれんのか！』は中国のインチキディズニーランドみたいに見えるってことなんか？（苦笑）。ホンマはこっちが作ったのにね

ジャン　ひょっとしたら、向こうは高田統括本部長みたいなキャラクターを登場させるかもしれないですよね。昔のWWEでレーザー・ラモンが辞めちゃったから、別人にそのキャラクターを演じさせたときがあったじゃないですか（笑）。

「PRIDE.34」では、桜庭和志をPRIDEのリングに登場させるという器のデカさを発揮したサダハルンバ。この大晦日には、“無限大”と自称する自身の器量を、さらに多くの人に知らしめることになる!?

プロレス界が2.10東京ドームから黄金時代を迎えたように 格闘技界にもここから黄金時代が来る可能性も

タコ　全然親しみのない外国人がカタコトの日本語で「デテコイヤァ!!」って言われても困るわ！（笑）。

X　たぶんキャラクターの命名権までは取ってないはずだけど、そこまで権利を主張したら凄いなあ。

ジャン　いやあ、アメリカ人ならやりかねないですよ。『やれんのか！』にプレッシャーをかける意味で、12月29日のUFCでなぜか暴れ太鼓パフォーマンスをやり始めたりして。

タコ　大変やなあ（笑）。ということは、いかにPRIDEの要素を使わずに、PRIDEを連想させるかっちゅうことやろ？

ジャン　そうですね。一番の問題は「♪ダン！　ダン！　ダダン!!」のオープニングテーマが使えるかどうか……。

ガンツ　まあ、それこそPRIDEを連想する最大のものなんだけどね（笑）。

ジャン　まあ、スローテンポでアレンジするとか。「ダ～ン！　ダ～ン！　ダダ～～ン!!」。……しっくりこないな（笑）。

X　いずれにしても、ファンもスタッフも選手も、大晦日は前日まで何が起こるかわからないし、壮大なダイナミズムが生まれることは間違いない！

ジャン　いやあ、これからどうなることかと思われた日本格闘技界ですが、まだまだ動きが止まりそうにありませんね。

ガンツ　でも、実際の記者会見は明日なんで、じつはまったく実感がないまま話してるんですけどね（笑）。

X　もっと先のことを考えると、大晦日を経ての来年も楽しみですよ。みんなこの動きをプラスに持っていきたいだろうからね。FEGはFEGで、「僕たちが一つにしました」っていうのを見せたいだけでしょう、きっと。

ガンツ　でも、ここまでくればお金が儲かる、儲からないじゃないですよ、きっと。プロレス界があの2・10東京ドームから黄金時代を迎えたように、格闘技界にもここから黄金時代が来る可能性だってあるんですから！　目指せ、奇跡爆発！

タコ　そんな感じで明日の会見を楽しみにするわ。

ガンツ　読者の皆さん、もしこの座談会で話したことが実現しなくても、11月20日現在では、こんな夢のような話があったということをご理解ください！

ジャン　発売日の頃に、トンチンカンな内容になって「ざまあみろ」と言われないことを祈りましょう！

タコ　……前回と同じシメやんか。悪質やなあ、『kamipro』は。

［07年11月20日／ダブルクロスにて収録］

〝皇帝〟ヒョードルを擁する新団体のCEOがついに日本進出を明言!

「近い将来、必ず日本でイベントを行ない ファンをエキサイトさせることをお約束します」

M-1 GLOBAL CEO

MONTE COX

M-1 グローバル CEO

モンテ・コックス

"皇帝"ヒョードルを擁する噂の新団体「M-1グローバル」の首脳が、11月13日に緊急来日!　日本でのイベント開催、さらにはテレビ放送獲得交渉のために、2泊3日のタイトなスケジュールの中、複数の業界およびテレビ関係者と会談を持った。旧PRIDE派の大晦日イベントへのヒョードル派遣も決まり、ますます日本との関係が深くなった「M-1グローバル」のモンテ・コックスCEOを帰国前に直撃。気になる今後のプランをうかがってみた。※なお、このインタビューは大晦日興行へのヒョードル出場が決定する前に収録したものです。

構成／堀江ガンツ

——モンテさん、『M-1グローバル』のCEO就任おめでとうございます！
モンテ　ありがとう。[illegible]重要な任務に就けて、いまは凄く興奮しているよ。13年間、MMA業界で働いてきた自分の経験のすべてを注いで、この『M-1グローバル』を成功させたいね。
——そもそもモンテさんは、どういった経緯で『M-1グローバル』のCEOに就くことになったんですか？
モンテ　当初は『M-1グローバル』のオーナー企業である、シブリング・エンターテインメント社から『新しいオーガニゼーションに協力してほしい』というふうに頼まれたんだ。いったいどんなオーガニゼーションなんだろう、と思っていたんだけど、『M-1グローバル』について知れば知るほど、もっと深く関わっていきたくなった。そして、彼ら（シブリング・エンターテインメント社）も私のことを気に入ってくれたと思うよ。実際、トップのポジションをくれたしね。
——でも、これだけのビッグプロジェクトの責任者ですから、相当なプレッシャーもあるんじゃないですか？
モンテ　そりゃあ、あるさ。でも、だからこそやりがいがある。おかげで、私にプライベートの時間はほとんどなくなってしまったけどね（苦笑）。とにかく、いろんな人から連絡が来るから、私の留守番電話は常に満杯だよ。
——『M-1グローバル』の旗揚げ戦はいつ頃を予定していますか？
モンテ　現在のところ、私たちはアメリカでのテレビ契約について、交渉を進めているんだ。これが最初のステップとなる。その契約がまとまれば、一気に旗揚げ戦に向かって動くことになるよ。おそらく2月か3月になるだろうね。
——今回、来日したのも、日本でのテレビ局との交渉のためとうかがいましたが？
モンテ　そのとおり。私たちはアメリカだけでなく、日本でもイベントを開きたいと思っているからね。そして、大きなイベントを開くためには、ぜひとも地上波のテレビ放送契約がほしい。だから、こうして日本まで来ているんだ。ただ、もし地上波が不可能でも、ほかの手段を探して、必ず日本でイベントは開きたいと思っているよ。
——日本でイベントを開くとしたら、来年の夏ぐらいですか？
モンテ　いや、もう少し早くなるんじゃないかな。もしかしたら、今年の大晦日にどこかのイベントに協力するかもしれませんよ。
——えっ！　一時、噂に上りましたけど、本当にその可能性はあるんですか？
モンテ　ええ。このビジネスは何が起こるかわかりませんからね。まあ、時期をハッキリとは言えませんが、必ず日本でイベントをやることは、お約束しますよ。
——いやぁ、楽しみですねぇ！　ただ、『M-1グローバル』が日本でイベントを開催しようとする際、大きな問題が一つあるんですよ。
モンテ　どんな問題があるんだい？
——『M-1』という名前は、日本の有名なコメディショーと同じ名前なんですよ（笑）。
モンテ　ハハハハ、それは困ったな（笑）。
——ということで、日本に進出する際は、別の名前になることもありえますか？
モンテ　そうだとしたら、『M-1グローバル』主催の『ヒョードルが来た！』というような大会名にするだろうね（笑）。
——大会名が『ヒョードルが来た！』（笑）。

日本では『M-1』はコメディショーの名前なのかい？ じゃあ、大会名は『ヒョードルが来た！』にしようかな（笑）

モンテ　というのは、冗談だけど（笑）。しょうがないから、『コメディショー』ではありませんよ、という宣伝をしっかりして、『M-1グローバル』を開催することになるでしょうね。
——わかりました（笑）。では、旗揚げ戦の話に戻りますが、ヒョードルの対戦相手候補には、どういった選手を考えていますか？
モンテ　たくさん候補はいるよ。ジョシュ・バーネット、ケン・シャムロック、ダニエル・グレイシー、ベン・ロスウェル、ジェフ・モンソン、ヒカルド・アローナ……選択肢はたくさんある。いずれにせよ、世界最強の男、ヒョードルの相手にふさわしいファイターを選ぶつもりだよ。
——ヒョードルの相手ではなくても、元PRIDEのトップファイターで、現在はフリーエージェントであるジョシュ・バーネット、マーク・ハント、藤田和之、五味隆典らに声をかける予定はありますか？
モンテ　『M-1グローバル』は生まれたばかりの団体で、私たちが準備しているビッグショーは、まだ年間3〜4回ぐらいしか開催できない。とくに、最初の年はね。だから、いきなり多くのファイターと複数回の契約をすることはできないでしょう。私たちが契約を結ぶときは、ノンエクスクルーシブ（独占ではない）の1試合契約のほうがいいね。
——ランディ・クートゥアーがUFC退団を表明しましたが、『M-1グローバル』に参加させたい意向はありますか？
モンテ　ランディはアメリカのMMAシーンで最も価値があるファイターの一人。あらゆるプロモーションが彼と契約したがっているでしょう。ただ、一番彼を必要としているのは、我々『M-1グローバル』です。ランディと闘うに最もふさわしいファイター、ヒョードルを抱えていますからね。でも、ランディと実際に契約の話を進めるかどうかは、まず彼とUFCのあいだで何が起きているのかを見極めてからですね。
——モンテさんは、ティム・シルビアをはじめとして、複数のUFCファイターのマネージメントを行なっていますけど、モンテさんがUFCに出場させている選手を契約終了後、『M-1グローバル』に参戦させたい意向はありますか？

11月13〜15日のタイトなスケジュールで来日した『M-1グローバル』首脳陣一行。モンテの向かって左が、『M-1グローバル』の会長であり、オーナー、シブリング・エンターテインメント・グループのミッチェル・マックウェル会長だ。グループ企業の会長自ら来日したところに、本気度がうかがえる。

モンテ　（ニヤリとしながら）どうだろうね。私のファイターたちのうちの何人かは、非常に興味を持っているみたいだけどね。ただ、さっきも言ったように、私たちは多くの試合数をこなすような契約をオファーすることはないでしょう。だから、なんであれ、多くのファイターがUFCを離れることを期待してはいませんよ。
——今後も『M-1グローバル』のCEOと並行して、マネージャーとしてUFCとのビジネスも続けるつもりですか？
モンテ　イエス。私のファイターたちのマ

ネーションメント業をやめるプランはまったくないよ。ただ、私がプロモートしてきた『エクストリーム・チャレンジ』をはじめとした、MMAイベントはほかの人間に任せるつもりだよ。

――『UFC77』の会場でダナ・ホワイトと会ったそうですが、どんなお話をされしたか？

モンテ 挨拶程度で、長い時間話をしたわけではないけど、彼は「おめでとう」と言ってくれたよ。

――でも、ウチのインタビューでダナにモンテさんのことを聞いたら、「あいつと関わるとロクなことがない」と言っていたのですが……。

モンテ 本当かい？ まあ、ダナもメディアへのコメントだと、私のことを悪く言うしかないんだろうな。それにダナが他人の悪口を言うのは、いつものことだしね（笑）。私はこのビジネスの一番の成功者であるダナを尊敬しているよ（ニッコリ）。

――「M-1グローバル」を、そのUFC以上の団体にする自信はありますか？

モンテ UFCを抜きたいとか、そういったことはまだ考えてないよ。私たちは組織を立ち上げてから、まだ8週間なんだ。一方、UFCは14年間もやっている。だから、彼らと張り合おうというよりも、私たちはエキサイティングなショーを開催したいという気持ちだけだよ。それが結果的にMMAシーンにとって、有益なものであればいいね。

――では最後に、日本のMMAファンに、「M-1グローバル」のCEOとして、メッセージをお願いします。

モンテ 私たちは、PRIDEが日本のマーケットからなくなった損失というものを理解しています。いま日本のMMAファンは本当に寂しい気分を味わっているで[illegible]ル」が再び、日[illegible]ンをエキサイトさせることができ[illegible]そんなところかな。

[illegible]えば、かつてモンテさんと交流があった前田[illegible]さんがリングスを復興さ[illegible]志があるようですが、前田さんと再びビジネスする可能性はありますか？

モンテ 残念ながらここ数年、ミスターマエダとの交流はないんだ。そのリングスを復活させるというプランについても、[illegible]しれね。ただ、私は彼をフレンドだと思っているし、またいつか、チャンスがあれば一緒に働きたいものだよ。昔、私たちが協力して開催した「キング・オブ・キングス（KOK）」というトーナメントは、[illegible]素晴らしい大会だったからね。

――いま考えると、もの凄いメンバーですよ[illegible]

モンテ そうさ。ヒョードル、ノゲイラ、ラン[illegible]アーツが同じ大会に出場してるんだからね。いま、あのメンバーを集めようとしたら、彼らのファイトマネーだけで、少なくとも400万ドルはかかるんじゃないかな（笑）。

――400万ドル！ 5億円近くですか！

モンテ さすがに「M-1グローバル」も、そこまでは用意できないよ（笑）。でも、いつかは彼らが勢揃いするような大会が開けるように頑張るつもりだよ（ニッコリ）。だから、今後の我々に期待してほしいね。

――わかりました。期待してます！

［07年11月15日／都内・ホテルにて収録］

ランディに最もふさわしい舞台はヒョードルがいるこのリングです

MONTE COX

全米ナンバー2MMAイベントCEOが語る
『M－1グローバル』
そして日本マット界との関係

STRIKE FORCE CEO

SCOTT COKER

ストライク・フォースCEO スコット・コーカー

「"旧PRIDE派"やWVRとも いい関係を築きたいね」

聞き手＆撮影／石井史彦　構成／堀江ガンツ

北カリフォルニアのサンノゼに地盤を築き、UFCに次ぐ全米ナンバー2MMAイベントとなったストライク・フォースが、11月16日、本拠地HPパビリオンでビッグマッチを開催。GRABAKAの佐々木有生らを招聘し、カリフォルニア州初となる1DAYトーナメントを行なった。

世界規模のMMA再編が叫ばれる中、ボードッグやエリートXCとジョイントイベントを開催し、PRIDEにも選手を派遣していたストライク・フォースは、どんな舵取りをするのか？

大会終了後、スコット・コーカーCEOを直撃した！

――5カ月ぶりに、ストライク・フォースの〝本拠地〟、HPパビリオンでの開催ですけど、大盛況でしたね！

コーカー　ありがとう。今回はチケットが9000枚近く売れたんだ。これだけの有料入場者数がいるMMAイベントは、アメリカではUFCとストライク・フォースだけだ、と胸を張れる数字になったよ。

――今回、アメリカでは初期UFC以来なじみのない、トーナメント形式の大会を開こうと思ったのは、なぜなんですか？

コーカー　もともとトーナメント形式の大会はずっと開きたいと思っていたんだ。K-1、PRIDEや、初期のUFCを見てもわかるように、トーナメントフォーマットの試合は、何が起こるかわからないから、とてもエキサイティングだからね。でも、ここカリフォルニアでのMMAの歴史は2006年に始まったばかりで、まだ1年半程度。コミッショナーから認可が下りるには少し時間が必要だったんだ。ファイターの健康や安全管理の面ばかりでなくプロモーターとしての運営面でもね。

――なるほど。これまではアスレチック・コミッションから、トーナメント開催の許可が出ていなかったわけですか。

コーカー　だから今回のトーナメントに関しては、コミッショナーの代表であるガルシア氏と約6ヵ月前から協議し、やっと開催にこぎつけることができたんだ。コミッショナーの立場としてはファイターに対して常に安全な環境で試合を認可しなくちゃいけないからね。ストライク・フォースがカリフォルニアで最初にトーナメントを開催できることはとってもラッキーだし、光栄なことだよ。

――では、今回は185ポンド以下のミドル級トーナメントですけど、これからほかの階級もトーナメントを開催したい意向ですか？

コーカー　もちろんだよ。今後、すべての階級でのトーナメントを開催していくから楽しみにしていてほしい。

――ところで、今回のトーナメントでは、試合の組み合わせを計量後の公開抽選にして行なっていましたけど、これはどういった考えからですか？

今回トーナメントを開催したのは K-1 WGPの影響が大きいんだ

コーカー　いくつかの理由があるけど、これはK-1のミスター・イシイ（石井和義元館長）からの影響が非常に大きいんだ。私はK-1 USAの仕事を手伝っていたとき、日本でK-1 WGPトーナメントが開催される際は、何度もフジテレビに行って公開抽選を見てきたんだけど、これはファイターに対する公平性ばかりだけでなく、プロモーターとして試合を盛り上げるためにも、とても素晴らしいことだと学んだんだよ。

――K-1 WGPの影響があったんですね。

コーカー　それともう一つ。もっと重要なことは事前に対戦相手をプロモーターが決めることは、コミッショナーが認めないんだ。ランダムに選ぶことがトーナメント開催の条件にもなっているんだよ。ストライク・フォースはそんなことはまったくないけど、トーナメントによっては、事前に対戦相手が決まっており、「プロモーターが仕組んだんじゃないか？」ってささやかれることもあるからね。とにかく、コミッショナーは、フェアであるためにも、ランダムに対戦相手を決めることを前提としているんだよ。

ミドル級（84キロ以下）の1DAYトーナメントは、ご覧のように大会2日前、計量終了後に公開抽選で行なわれた。GRABAKAの佐々木有生は、この翌日、欠場が決定してしまった。

――でも、対戦相手が試合二日前の抽選で決まるのは、ファイターにとっては大変でしょうね。今回、何人かの選手にランダム抽選に関して質問してみましたけど、みんな「フェアだけど、ゲームプランを立てるのが難しい」と言ってましたよ。

コーカー　そのとおりなんだ。たとえば、今回のような4人のトーナメントだと、参戦するほかの3人すべてを想定してトレーニングをこなさなきゃいけないし、オールラウンドに対応できないと勝ち上がるのが困難だからね。シングルファイトで強い選手が必ず優勝するとは限らないからこそ、おもしろくなるんだよ。今夜のトーナメントも期待どおり、とてもエキサイティングじゃなかったかい？

――ええ、非常におもしろかったですよ。ただ、佐々木有生選手が欠場になってしまったのが、残念でしたけどね。

コーカー　私も残念だよ。今回の試合はメディカルチェックをパスできなくて参戦できなかったけど、参戦していたらきっとおもしろい展開になっていただろうからね。

――佐々木選手は事前のチェックではドクターから「出場OK」と言われていたのに、直前に許可が下りないというのは、ちょっと厳しいんじゃないですかね？

コーカー　確かにカリフォルニアのメディカルは、厳しいといえば厳しいけど、ファイターの健康と安全を考慮してのことだからね。本人やチームにはかわいそうだけど理解してもらえたようだし、その分も含めて、ササキには次の機会にはいい試合を期待しているんだ。日本のファンも日本人ファイターが参戦し、活躍する姿を観たいでしょう？

――もちろんですよ！　今回、佐々木選手をトーナメントに参加させようと思ったのは、そもそもどういった理由からですか？

コーカー　ストライク・フォースをスタートさせた当初から、日本人ファイターを呼びたかったんだ。日本には優秀な選手がたくさんいるからね。そして、今回のトーナメント開催にあたり、出場させる4人の戦歴が同レベルじゃないとコミッショナーから承認をもらえないこと、またできるだ

大会前日になってMRI検査で異常が認められ、コミッションから出場許可が下りなかった佐々木は、三崎和雄らと試合観戦。次回参戦を誓っていた。

11.16ストライク・フォースは広いHPパビリオンがご覧のように大盛況。カリフォルニア州のコミッションが発表した有料入場者数は8,233人だった。

旧PRIDE派が大晦日にやるなら 私も日本まで試合を観に行くよ！

(写真・上) メインには"地元の英雄"カン・リーが登場。サム・モーガンをKOし、負け知らずの5連勝（5KO）。次回、3月にはいよいよフランク・シャムロックと頂上対決が実現濃厚だ。(写真・左下) ミドル級1DAYトーナメントは7月に近藤を破ってボードッグ世界ミドル級王者となったトレバー・プラングリを破った、ジョルジ・サンチアゴが優勝。J.Z.カルバンやデニス・カーン擁するアメリカン・トップチームの選手だ。(写真・右下) 日本でもおなじみアリスター・オーフレイムが、AKAのポール・ブエンテロを破りストライク・フォース世界ヘビー級王者になった。

け異なった国のファイターを参戦させたいということでマッチメイキングを行なったんだけど、偶然にも知人から「ササキはどうか?」という打診があって、UFC（UFN）参戦経験もあるという戦歴が申し分なかったので、オファーしたんだ。

——では、佐々木選手以外にも、今後も日本人ファイターを出場させたい意向ですか?

コーカー もちろん！ 日本には世界に通用するファイターがたくさんいるからね。昔から、何人かは興味をもって観ているよ。名前を挙げれば、UFCに参戦してるオカミ（岡見勇信）、元PRIDEのゴミ（五味隆典）、サクライ"マッハ"速人）、カワジリ（川尻達也）……、彼らは世界中どこのリングやケージに上がっても充分にトップで通用するよ。彼らのようなビッグネームだけでなく、同時に次世代のファイターをストライク・フォースで育てていきたい考えもあるんだ。だから、若くて伸び盛りのファイターとも契約していく予定だよ。よいファイターがいたら、紹介してほしいのでよろしく頼むよ（笑）。

——日本では、元PRIDEスタッフが中心となって、大晦日にビッグイベントに開催するという話がありますが、ご存知ですか?

コーカー もちろん噂は聞いているよ。元PRIDEのスタッフたちは、ハイレベルな素晴らしいショーを運営し、MMAの確固たる地位を築いた人たちなので、とても尊敬している。ただ現実問題として、大晦日まで5～6週間しか準備の期間がないので、実現性に関しては少し疑問があるけどね。もし開催できたら、ファンにとっては素晴らしいことだと思うよ。エメリヤーエンコ・ヒョードルの参戦も噂されているし、本当に開催されるのなら、私も日本まで試合を観に行くよ！

——コーカーさんも観にいらっしゃいますか（笑）。もしオファーが来たら、元PRIDEスタッフのイベントに選手派遣等で協力する用意はありますか?

コーカー もちろん喜んで派遣するよ。ストライク・フォースは、いろんなプロモーターや団体とオープンな関係を築きたいと思っているんだ。お互いにいい信頼関係が築けるのであれば、ファイターを派遣し合ったりして、できる範囲で協力したいね。

——PRIDEでも活躍したストライク・フォースのトップファイター、ギルバート・メレンデスは拳をケガしていましたけど、復帰戦はいつ頃になりそうですか?

コーカー PLAYBOYマンションで開催された前回のストライク・フォース（9月29日）のカトー（加藤鉄史）戦で拳をケガしたのは事実だけど、もうトレーニングは始めているようだよ。ストライク・フォースでの復帰戦は来年3月29日のジョシュ・トンプソンとのライト級タイトル戦になる予定だけど、もしオファーがあれば大晦日も出られるかもしれないね。

——新団体『M－1グローバル』が、エメリヤーエンコ・ヒョードルの獲得を発表しました。この新団体旗揚げについて、どのような感想をお持ちですか?

コーカー 大資本をバックにヒョードルを獲得できたのは、素晴らしいことだと思うよ。ただ、その投資を無駄にするか、MMA業界のレベルを上げるのかは、彼らの手腕次第だろうけどね。

——ここ数年、大資本がMMAに参入しても、いま一つ成功した例がないように感じているのですが……。

コーカー 確かにこのビジネスは資金力があるから成功するというものではないね。私自身、『M－1グローバル』のビジネスプランを知らないので具体的なことは言えないけど、アメリカにはUFCを筆頭にいろいろなプロモーターが存在するので、最初はかなり苦戦を強いられるのではないかな? だからロシアや日本の市場に対してどのように展開していくかがカギを握るんじゃないかと思う。

——ストライク・フォースが、『M－1グローバル』と協力関係を結ぶ可能性はありますか? もしくはライバルになると思いますか?

コーカー ほかの団体に対してもそうだけど、私は「ライバル」という見方はしないんだ。お互いにとって利益になるなら、ジョイントベンチャーを設立したり、ショーを共同開催することになんの躊躇もない。現実にストライク・フォースは、エリートXCと共同でイベントを開催したしね。その一方で、もちろんストライク・フォースとして独自のイベントを開催していくことは変わらないけどね。

——『M－1グローバル』のCEOに就任したモンテ・コックスには、どういった印象がありますか?

コーカー コックスはとてもいい人だよ。問題は彼がワールドワイドな規模でイベントをプロモートできるかどうかだろうね。それができたら、この業界のみんなにとって『M－1グロー

(写真・上) 地元のスター、フランク・シャムロックも来場。(写真・下) アメリカ版・五味vs川尻といってもいい、ライト級頂上対決、メレンデスvsトムソンが3月いよいよ実現。■らと五味、青木らとの試合が観たい！

バル』はプラスになると信じている。彼の実力からしたら、それは可能だと思うから、ぜひ成功してもらって、業界のレベルを引き上げてほしいよ。コックスはMMA業界やビジネスのことだけでなく、ファイターのこともよく知っているから、それが強みになるだろうね。

――コックスをUFCのダナと比べたらどう思いますか？

コーカー　ダナがMMA界に貢献し、実現してきたことは驚くべき内容だよ。そのダナと比較するというのは、コックスだけでなく、誰にとってもかわいそうだ。ダナは自分の会社を設立したあと、約6年前に3億円程度でUFCを買収したんだけど、いま現在の市場価値は1000億円を超えるとも言われてるんだよ。

――1000億円ですか！

コーカー　そんなモンスターと、どう比較しようというんだい？　ストライク・フォースは背伸びをしないで、少しずつ利益を上げてきているけど、ほとんどの団体は投資を回収できないでいる。たとえばIFLやエリートXCは、噂では20億円とも30億円とも言われる投資をしているのに利益が出ていない。これはビジネスなんだから、利益を上げなければ業界の成長も望めないし、会社の存在自体が疑問になるよ。

――『M-1グローバル』は、日本進出を計画しているようですが、ストライク・フォースは日本での大会開催は考えていませんか？

コーカー　日本に進出できたら素晴らしいことだけど、いまアメリカ国内だけのイベントでも手に負えないほどになってきているし、これから長いあいだ、MMAをプロモーションしていくのは全然問題ない状況なんだ。ただ、いままでもK-1やPRIDEといい関係を築いてきたんだ。ぜひ、旧PRIDEスタッフが行なうイベントや、ワールドビクトリーロードのような新しい組織とも、いい関係を築けることを願っているよ。ストライク・フォースは"格闘技界のスイス"のような、中立国家的な立場を築いていきたいんだ（笑）。

――では最後に、ストライク・フォースでは、今後どんなビッグマッチを考えていますか？

コーカー　次回、3月のストライク・フォースでは、ギルバート・メレンデスと、PRIDE武士道やUFCでも活躍したジョシュ・トムソンのカードを組む予定だ。この一戦は、地元だけでなく、全米のファンが注目するビッグマッチになることは間違いないよ。あとはレジェンドのフランク・シャムロック、地元の英雄カン・リー、そこにフィル・バローニが絡んでいく試合を組んでいく予定だよ。2008年は2月からシアトルでの開催を皮切りに毎月一度程度の頻度でストライク・フォースを開催していきたいと思ってるし、年間を通して8～10大会ぐらいになると思う。テレビ放映に関しても、今回は『Yahoo Sports!』がライブで試合を無料放映したけど、来年中にはPPVで全米に放映できるようにする予定だよ。今後のストライク・フォースを楽しみにしててください！

【07年11月16日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

PRIDEの"夕焼け番長"を 11.16ストライク・フォースで直撃！

PHIL BARONI フィル・バローニ

「PRIDEに代わる組織でまた活躍したいね」

旧PRIDEのリングで、マーク・コールマン、ケビン・ランデルマンとともに"筋肉三兄弟"として人気を博した、フィル・バローニを11・16ストライク・フォースの会場でキャッチ！

6月にストライク・フォースで行なわれたフランク・シャムロック戦後、カリフォルニア州アスレチック・コミッションによる薬物検査の結果、禁止薬物であるステロイドの陽性反応があり、1年間の出場停止処分と2500ドルの罰金が科せられたバローニ。再検査では陰性となり減刑されたものの、試合から離れ、すっかり太ってしまった"夕焼け番長"に、いまの心境とともに"激太り"の真相を聞いてみた。（聞き手／石井史彦）

――おひさしぶりです。体調はどうですか？

バローニ　今日は素晴らしい大会で、友だちやファンにもたくさん会えて最高に気分がいいけど、体調は最悪だよ（笑）。見てのとおり、かなりのデブになってるからね。

――確かに、一瞬誰だかわからないくらい太ってますけど、いま何キロなんですか？

バローニ　いまは100キロ近くあるよ。俺は本来、ミドル級（84キロ以下）のファイターなのに、体重だけなら、いまはヘビー級だ（笑）。

――どうして、ちょっと見ないあいだに、そんなに体重が増えてしまったんですか？

バローニ　練習もしないで、大好きなイタリア料理をたらふく食ったり、ダイエットを考慮してない料理もたくさん食べたりしている。さらにデザートのアイスクリームやケーキも欠かさず楽しんでいるんだから、これぐらいにはなるよな（苦笑）。まあ、試合ができないストレスで、どうしても食いすぎてしまうんだよ。

6月のフランク・シャムロック戦後のドラッグテストで陽性反応が出てしまい、出場停止処分になっているんですよね？

バローニ　そうなんだ。ドラッグテストの件は覚えのないことで、誰かにハメられたんじゃないかっていう感じだよ。コミッショナーに再検査を要求して、数ヵ所の独立した検査機関で何度も調べさせたんだけど、結局そこでは陰性だったんだ。

――そうなんですか？

バローニ　ああ。それなのにサスペンション（出場停止）が、前回のフランク・シャムロック戦に下された「1年間」の半分の「6カ月間」になっただけだった。とてもフェアとは思えないよ。こんな理不尽な裁定に従わなきゃならないなんて、怒りを覚えるね。おかげでやけ食いしてこんな身体になっちまったんだから（苦笑）。

――不本意とはいえ、年が明ければサスペンションが解けますけど、次の試合はいつ頃、どこのリングを考えていますか？

バローニ　来年3月頃には試合ができればと思っている。アメリカでやるなら、やっぱりストライク・フォースかな。カン・リーをはじめ、闘ってみたいタフなファイターがたくさんいるからね。それに前回のフランク・シャムロック戦は、いろんな意味で不本意だったから、なんとか名誉挽回したいしね。

――あなたが欠場しているあいだ、PRIDEが事実上消滅してしまいましたが、どう思いますか？

バローニ　とても悲しいよ。最高のオーガニゼーションだったし、最強のファイターが集まっていた。運営するスタッフも素晴らしかった。もし、まだPRIDEが存続していたら、俺もこんなふうに出場停止にならずに、日本のリングで試合をしていたのに……って思うよ。

――また日本で試合がしたいですか？

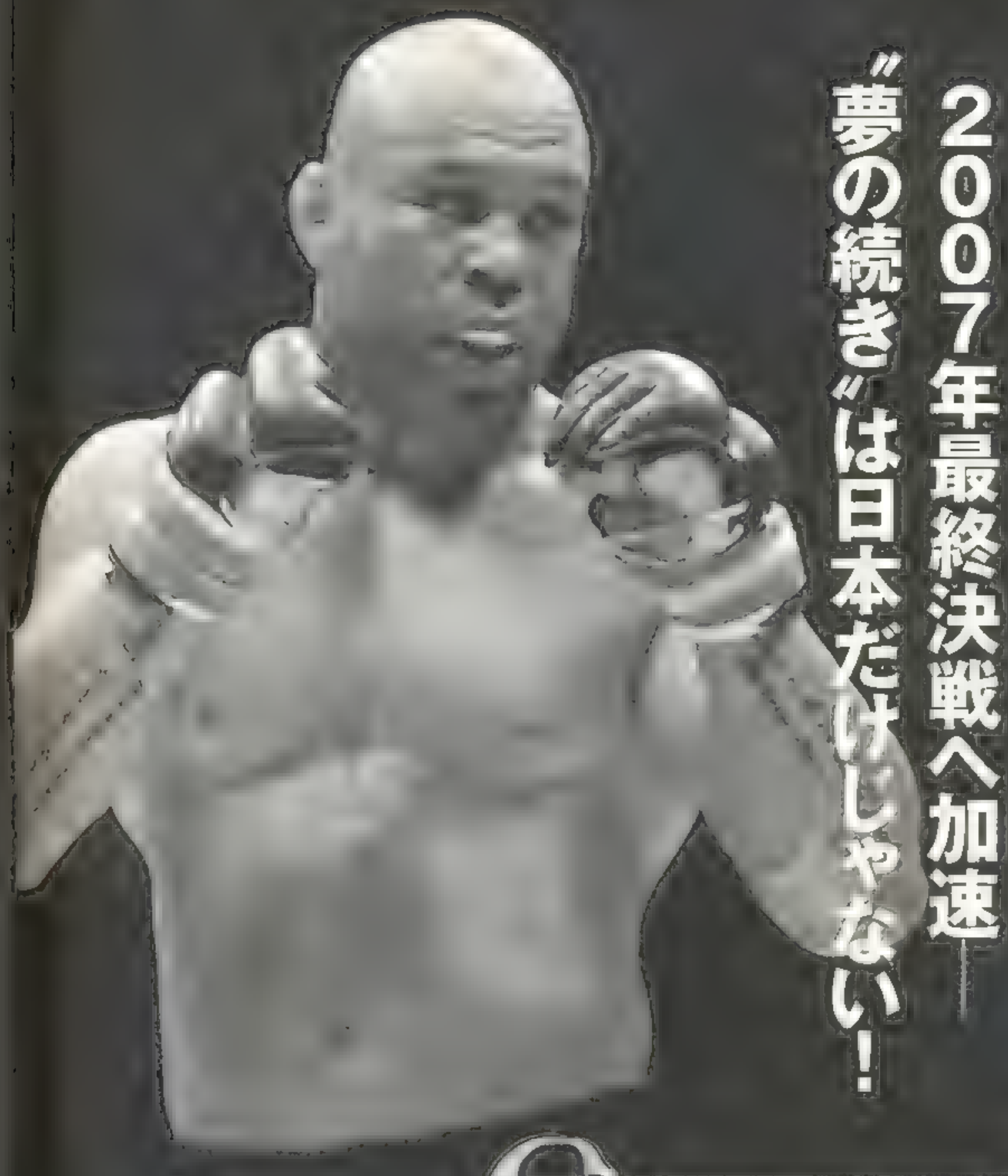
バローニ　もちろんさ！　日本からオファーやチャンスがあったら、ぜひまた試合がしたい。PRIDEがなくなったといっても、それに代わるような新しい組織ができたとも聞いているし、また日本のファンの前で、いい試合を見せたいのでよろしく頼むよ。

日本で闘いたい相手はいますか？

バローニ　俺は最強の相手と試合がしたい。ただそれだけだよ。

――では最後に、日本のファンへメッセージをお願いします。

バローニ　これまでPRIDEとともに、俺をサポートしてくれてありがとう！　近いうちに必ず日本に戻って、よいパフォーマンスを見せたいから、もう少し待っていてくれ！

【07年11月16日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

2007年最終決戦へ加速
“夢の続き”は日本だけじゃない！

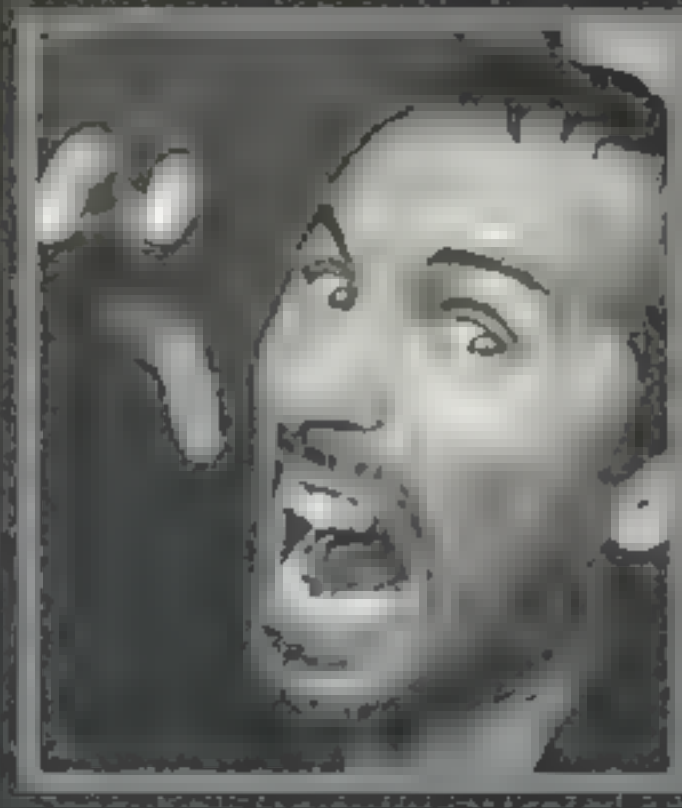
アメリカMMA最新情報を徹底追及！

UFC版大晦日の向こう側

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールでアメリカンなニュースをお届け！

USA COOL 宅急便

毎年恒例の「Dynamite!!」や旧PRIDE派の再結集、さらには「M-1グローバル」の日本上陸という情報まで飛び交い、大晦日に向けて過熱する一方の日本マット界。一方、UFCもヴァンダレイvsリデルの“夢の対決”が実現する年末興行に向けて盛り上がりを見せている。そんなアメリカの最新情報をチェック!!

聞き手／デューク東郷：撮影／乾 晋也、Josh Hedges（UFC）

――今回は、『MMA WEEKLY』の業務拡張によりスコットが多忙なため、携帯サイト「kamipro Hand」で当コーナーを担当しているケビン・マスクが約半年ぶりに登場します。

ケビン　よろしく！

――さっそくだけど、日本は大晦日決戦に向けて盛り上がりつつあるけど、アメリカはどうなのよ!?

ケビン　大晦日？　べつに……（興味なさそうに）。

――なんで沢尻エリカ様になるんだよ！　しかもいま頃そのネタ（笑）。

ケビン　だって、12月29日に『UFC79』ラスベガス大会が開かれるけど、メインイベントになると予想されているのは、マット・ヒューズvsマット・セラのUFCウェルター級タイトルマッチ。どうせ日本のファンは関心がないでしょ。

――確かにそうだけどさ。でもアメリカでは大注目されているんでしょ？

ケビン　もちろん！　二人はリアリティショー『TUF6』のコーチとして、番組内でも激しくやり合っていたからね。実力者ヒューズの人気はもともと高いし、セラは中堅選手たちが再びUFCを目指す“リバイバル・プログラム”的なコンセプトの『TUF4』を勝ち抜き、ジョルジュ・サンピエールを破ってドラマを作ったファイター。その二人が、無料で放送されているスパイクTVで毎週、舌戦を繰り広げていたのだから、注目されないほうがおかしいよ。

――ついに実現するヴァンダレイ・シウバvsチャック・リデルはどう？　こっちのカードのほうが日本のファンの興味を惹いているけど。

ケビン　アメリカのファンもこの試合の実現を凄く喜んでいるよ！　リデルが前回の試合で、伏兵キース・ジャーディンにまさかの敗戦を喫したことで、このス

UFCは250人の契約選手と社員を集めて契約やマスコミ対応、ステロイドに関する講習会を開いた

ーバーカードが飛んだと思われたからね。それから、この大会には、PRIDEでブレイクした"アフリカン・アサシン"ソクジュの出場も決定したんだ。

——ワッホ!? ソクジュはエリートXCや「HERO'S」との契約が濃厚と見られていたけど……。

ケビン 結局、ファイトマネーが折り合わずに決裂したようだね。それに、ソクジュ側にはUFCに参戦することによってアメリカ国内で名前を売りたいという意向もあったらしい。対戦相手は総合無敗のLYOTOになった。

——どちらも日本となじみが深い二人だから、このカードは楽しみだなあ。

ケビン でも、いまのUFCは年末に向かって100パーセント集中できる環境ではない。電撃離脱したヘビー級王者、ランディ・クートゥアーとダナ・ホワイト代表が、ギャランティやボーナスの支払いを巡って、お互いを批判しているからね。ファンやマスコミの関心はまだまだ、そっちに集まったままだよ。

現役のヘビー級王者が離脱するのは確かに大事件だけど、両者のドロ沼の争いは、まだまだ治まってないわけだ。

ケビン 治まってないどころか、関係者にまで、その対立が飛び火しているね。

——え? どういうこと?

ケビン その火の粉を浴びたのは、いまランディのジム「エクストリーム・クートゥアー」でトレーニング中のヴァンダレイ。ヴァンダレイはさっき話した12月29日のラスベガス大会に向けて猛トレーニング中なんだけど、その試合のプロモーションのため、スパイクTVのUFC関連番組の撮影に協力。トレーニングシーンを収録することになったんだ。

——でも、まさかその対立関係の中、UFC関連番組を、そのジムで収録するわけにはいかないよね(笑)。

ケビン そう。だから、ヴァンダレイをUFCのオフィシャルジム「ザイエンスジム」で練習させて、撮影することになったんだ。

——ふ~ん、試合前なのに、気の毒だねえ。ってたいした話じゃないじゃないかよ! 大げさだなぁ、ケビンは! で、どうなるの、この両者の対立は?

ケビン ランディには"IT富豪"マーク・キューバン率いる新興団体「HDNetファイト」と契約間近というウワサもある。NBAのダラス・マーベリックスのオーナーでもあるキューバンは、MMAファイターをプロバスケットボールの選手のように扱うと話しており、UFCに待遇改善を求めていたランディにとってはいい選択肢になるかもね。

——「HDNetファイト」を立ち上げたばかりのキューバンにとっても、現役UFC王者の獲得はいいセールスポイントになるしね。

ケビン ただ、ランディと「HDNetファイト」の契約が選手としてのものなのか、それとも解説者などのものなのかはわからない。それに、ランディは来年の夏までUFCと契約が残っている。しかも、ダナは以前「ランディはUFCと契約が2試合残っている。その試合を消化しなければ、いつまで経ってもほかの団体と契約することはできないし、引退するしかない」とまで話していた。

——何がなんでも移籍は許さないってことか。

ケビン でも、ダナは前から話していたとおり、ランディに2月の大会でのアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラとの王座防衛戦を正式にオファーしたらしく、ランディ側も近いうちに話し合いの席に着くことを望んでいるらしい。

——これでようやく白黒つくわけだね。

ケビン まだどうなるかわからないけどね。とにかく、ダナは今回のランディの件でかなり懲りたみたいよ。だから今月になって、NBAやNFLなどほかのメジャースポーツのように、ズッファ社で初めて250人の契約選手を集めて、ビジネスの進め方や契約、税金、ステロイド、マスコミへの対応などについての講習会を実施したんだって。100人の従業員も含めてね。

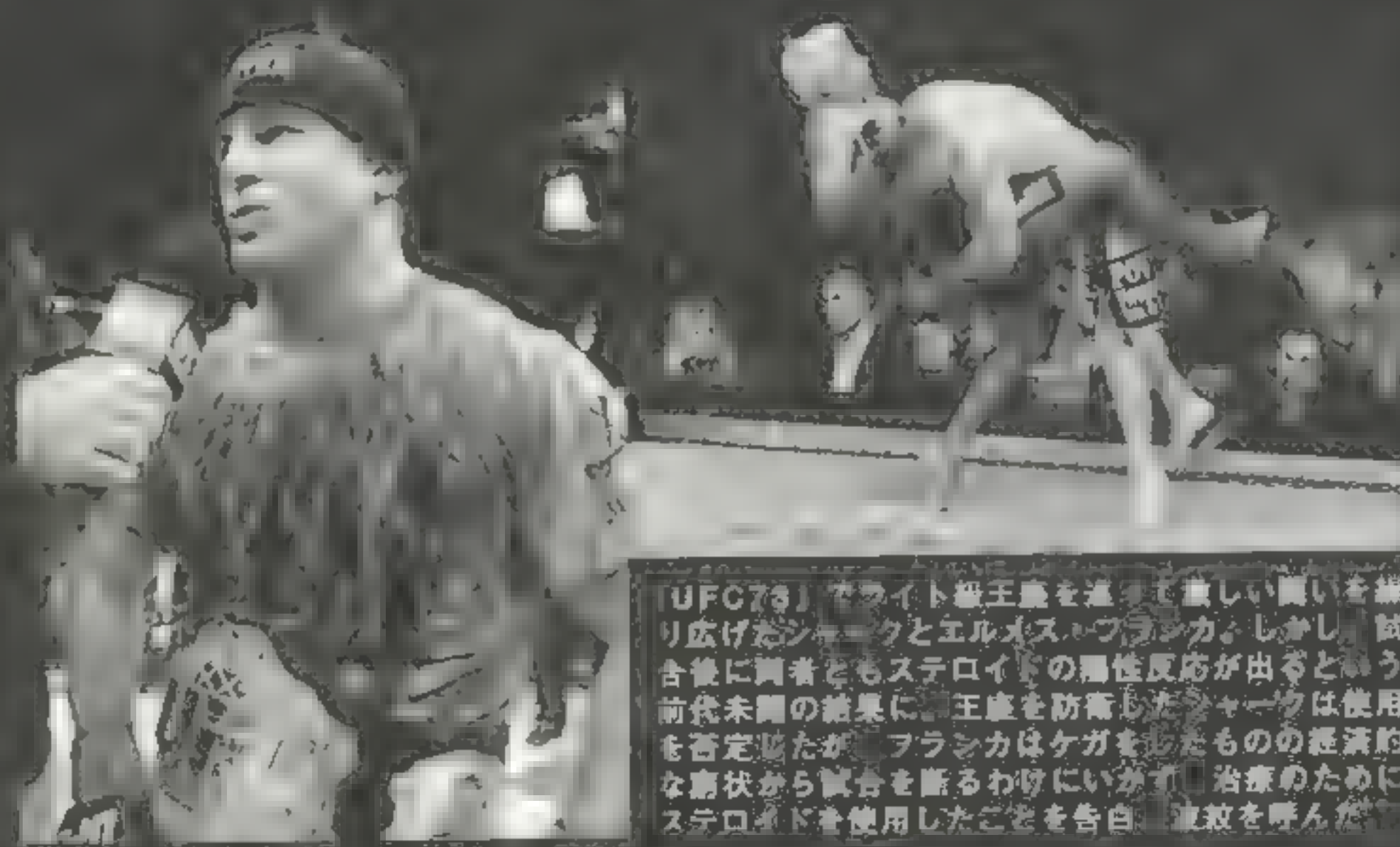
——へ~。ズッファ社ってそんなに社員いるんだ! 全盛期のDSEでも50人ぐらいだったのに。UFCの勢いがわかるね。

ケビン で、その講習会の中でダナは「ランディの件は私のコミュニケーション不足だった。企業として、"成長の痛み"を感じている」と話している。

——これでホントに改善されるのかどうかは疑問だけど。選手の管理について言えば、ステロイドについても、ここ最近、ずいぶん揉めているよね。

ケビン そう。ダナを悩ましているのは、ヘビー級王座だけじゃない。ライト級王座もチャンピオンのショーン・シャークが7月の「UFC73」サクラメント大会でステロイド陽性反応が出て、その扱いが宙に浮いてしまっている。

——この問題も、ずいぶん引っぱっているよね。

ケビン その後、カリフォルニア州アスレチック・コミッションはシャークの公聴会を開いたんだけど、コミッション側の書類の不備など、不手際があったため公聴会そのものが延期になったりしているんだ。そこで、コミッションのズサンな運営を批判したダナは今月のアタマ今後のコミッションの判断がどうであれシャークからベルトを剥奪しないと発言したんだ。

「UFC73」でライト級王座を巡って激しい闘いを繰り広げたシャークとエルメス・フランカ。しかし、試合後に両者ともステロイドの陽性反応が出るという前代未聞の結果に。王座を防衛したシャークは使用を否定したが、フランカはケガをしたものの経済的な窮状から試合を断るわけにいかず、治療のためにステロイドを使用したことを告白。波紋を呼んだ。

——へ~。ずいぶん大胆なことを。

ケビン だけど、やっぱり各方面からの反発を招いたのか、その後、発言を翻して、「シャークの無実を信じているが、コミッションの決定は支持しないといけない」と、失言をとり繕うかのようにUFC公式サイトで語っている。

——あいかわらず口がすべるねえ。ダナは(笑)。でも、このお騒がせぶりは絶対に是だよ!

ケビン そうなの?

——だって、もしダナがいなかったら退屈じゃん。な~んもおもしろくない。それに究極的には他人事だし、おもいっきり楽しまなきゃ!

ケビン まあ、確かにね(笑)。で、話を戻すと、いま全米の各都市に進出しようとしているUFCにとって、コミッションと争うことは、マイナスでしかない。だから、ダナはシャークにも「すぐにでも、再び挑戦者になることができるだろう」とコミッションへの異議申し立てを取り下げて、ペナルティを受けることを示唆するような発言までしているんだ。

——当初はシャークに弁護士までつけて、徹底抗戦する構えを見せていたのに。でも、このままいつまでも、ベルトを宙ブラリンな状態にしていると、興行スケジュールも立てられないわけだ。

ケビン 困っているのは、団体側だけじゃないけどね。シャークはステロイド疑惑が出て以来、試合ができなかったり、スポンサーが降りたりして、これまでのあいだに50万ドル(=約5750万円)の損失があると話している。

——そんなに!

ケビン 次の公聴会は12月4日に開かれる予定だけど、これでもし、最終的にシャークが"白"だとしたら、かわいそうすぎる。

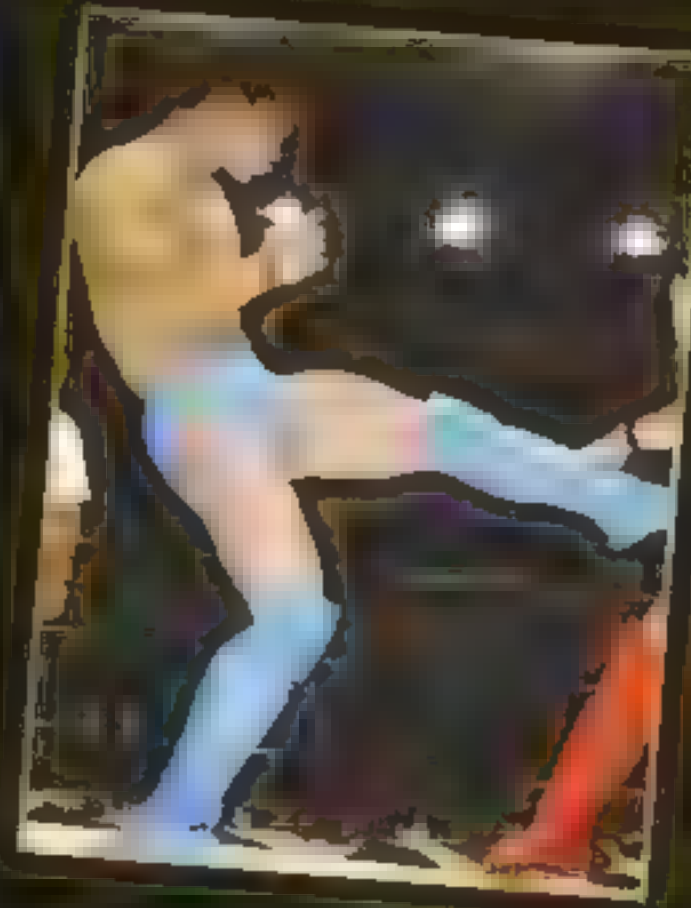
——でも、そうなったら、ダナがいったい何を言いだすことか。結果が楽しみだよ~(笑)。

[07年11月16日/kamipro編集部にて収録]

船木誠勝 UWF師弟対談 ミヤマ☆仮面（垣原賢人）

あゝ青春の宮川荘伝説

かつて第二次UWFで師弟関係にあった、船木誠勝と垣原賢人（現・ミヤマ仮面）がひさびさの再会！ 現在の総合格闘技の原点である、UWF時代の思い出をおおいに語り合った。また、カッキーといえば、大晦日に船木と対戦するサクのUインター時代の先輩。間近で見た桜庭和志の素顔とは？ ついでに宮戸優光や中野龍雄の素顔もお届けするクワ～！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山剛史

――船木さん、前回のライガーさんに続き、2回連続マスクマンとの対談になりますけど、ミヤマ☆仮面さんのことはご存知でしたか？

船木 知ってますよ！ 知人から垣原がいまミヤマ☆仮面というのをやってるってことを聞いていて、あとは『kami pro』のインタビューで見ましたね。

ミヤマ ありがとうございます！

――お二人がお会いするのは、いつ以来ですか？

船木 "ミヤマ☆仮面"に会うのは初めてですよ（笑）。

ミヤマ はじめまして。森とクワガタを愛するクワレスラー、ミヤマ☆仮面と申します（笑）。

船木 でも、素顔の垣原とは1カ月ぐらい前に坂口道場で偶然会って、その前になると、俺が引退したときに田村（潔司）と垣原の連名でマッサージ機をもらったんですよ。

――なぜ、マッサージ機なんですか？

ミヤマ これは田村さんのアイデアなんですけど、「船木さん、お疲れさまでした」ということで、贈らせていただきました。

船木 それが最後の交流ですね。

――じゃあ、ちゃんとお話しをするのは丸7年ぶりということですか。

船木 そうです。しばらく見ないうちに、ずいぶん見た目が変わりましたけど（笑）。

――7年前はプロレスラーだったのが、いまはクワレスラーですからね（笑）。

ミヤマ いやぁ、じつは今日、大先輩とお会いするのに、こんな格好でいいのかどうか悩んだんですけど……。

船木 でも、ミヤマ☆仮面の"正装"はそれでしょ？

ミヤマ はい。

たぶん、それはシャレかこじつけで言ったんでしょうね（アッサリ）

船木さんに「練習生は『練習』に『生きる』んだ」って言われたんです

かつてUWF道場があった世田谷区用賀からほど近い、二子玉川の中華料理店で行なわれた今回の対談。円卓を前にフルコスチュームでたたずむミヤマ☆仮面の絵面が凄い。

船木 だったらいいじゃない。頑張ってると思いますよ（ニッコリ）。

ミヤマ ありがとうございます！

――垣原さんは、いろんなところで「新生UWF時代は船木さんに一番お世話になった」ってお話をされてますよね？

ミヤマ はい。もう練習から私生活からすべてお世話になってました。

船木 自分のスパーリングパートナーだったんで、練習はいつも一緒だったし、飯もよく一緒に食いに行きましたしね。

ミヤマ あとは出稽古で角海老ジムにも連れていっていただいたり。

船木 ああ、行ったね、ボクシングジム。

――じゃあ、いまの船木さんと柴田勝頼選手の関係みたいな感じですか？

船木 それに近いですね。

ミヤマ 試合後なんかも、合宿所で夜遅くまで、いろんなアドバイスをいただいてました。

――そんなお二人の最初の接点というと、垣原さんが新生UWFに入門されたときですか？

船木 そうなんですけど、垣原は入門テストの前に一度、UWFの道場に来てるんですよ。

ミヤマ はい。テストがあるのを知らずに、直接、道場に「入門させてください」ってお願いに行ったんですけど……。

船木 そのとき藤原（喜明）さんが半分冗談で、「この熱さに耐えたら入れてやる」って言って、垣原の背中に煮立ったチャンコの大根を乗せたんですよ（笑）。

――ダハハハ！ どんな入門テストですか（笑）。

船木 あのときの火傷の跡、まだあるでしょ？

ミヤマ はい（苦笑）。

――いやぁ、ダチョウ倶楽部の熱湯コマーシャルや、熱々おでんはじつは熱くないと言われてますけど、UWFはガチンコで熱々だった、と（笑）。

船木 ホントにグツグツ煮立った大きな大根ですからね。垣原はそれに耐えて、一応そのとき合格になってるんですけど、「じゃあ、今度入門テストがあるから受けに来い」って言われて、熱さを耐えた意味がなかったんですよ（笑）。

――ひどい（笑）。それで垣原選手はあらためて、入門テストを受けたわけですか？

ミヤマ はい。ほかのテスト生とまったく変わりなく、テストを受けさせてもらいました（笑）。でも、船木さんと安生（洋二）さんがボクのことを気づいてくださって。

船木 「あ、このあいだ来た大根のヤツだ」って、思い出したんですよ。

ミヤマ それで、入門テストで腕立てとかスクワットをやってるとき、ずっと船木さんが横で「もうちょっとだ、頑張れよ」って、応援してくださったんですよ。そのおかげで合格できたと思ってます。

船木 自分は入門者には優しいですから（ニッコリ）。

――入門する前は優しいわけですか？（笑）。

船木 入門してからも楽しいですよ。厳しいけれども楽しい……はずなんですけど。どうだった？

ミヤマ いや、はい。え～と、楽しかったです！

――ホントですか？（笑）。

ミヤマ いや、ホントにもの凄くキツいことはキツいんですけど、毎日が楽しくて。いま振り返ると、この時代がボクの現役17年間で一番、濃いというか。

船木 毎日、がむしゃらにやってたから、

充実してたんでしょうね。（新生UWFでの2年間は）あっという間の2年間だったんじゃない？

ミヤマ そうですね。気が休まることはなかったんですけど、船木さんが「練習生は『練習に生きる』と書くから、練習に生きろ。練習しろ」っておっしゃってたんで、「確かにそうだな」って思って、必死になってやってましたね。

――「練習生は練習に生きる」ですか。いい言葉ですねぇ。

船木 たぶんシャレで言ったんでしょうね（アッサリ）。

――シャレだったんですか！（笑）。

船木 シャレっていうか、こじつけでたぶん言ったんだと思います。

ミヤマ そ、そうだったんですか……。

――船木さんといえば、前回のライガーさんとの対談でもありましたけど、いろんな"かわいがり"もあったりは……？

船木 なんかやったっけ？

ミヤマ いや…………そんなには……。

船木 鳥のマネとかはさせましたけどね。

――なぜ鳥のマネ（笑）。

ミヤマ あと「肉に気合い」とか。

――肉に気合い⁉ なんですか、それは。

ミヤマ 冷蔵庫を開けて、チャンコ用の肉に向かって大声を出して気合いを入れるっていうのがあったんですよ。

――それは、何のために……。

船木 わかんないですね（アッサリ）。

――わかりませんか（笑）。

船木 そうやって、楽しませるようなことが多かった気がしますね、UWFのときは。

ミヤマ ホントにへんなイジメとか、そういうのは全然なかったです。

船木 鈴木（みのる）はどうだった？

ミヤマ 鈴木さんは…………。

船木 なんかあるんだ（笑）。

ミヤマ え、いやぁ………。

船木 カミングアウトしてよ。何？

ミヤマ え〜〜〜と……。

船木 オフレコで。

ミヤマ ボクの口から申し上げることはできませんっ！

――言えませんか（笑）。

船木 けっこう鈴木は多いみたいですね。一時期、鈴木がUWFの合宿所に住んでて、その頃から幅を利かせてたんですよ。

ミヤマ ボクの隣の部屋が鈴木さんだったんですよね。しかも、単なる隣じゃなくて、襖を開けたらすぐ鈴木さんがいるという……。

――それは気が休まりませんね（笑）。

船木 鈴木が合宿所を出たときはホッとした感じ？

ミヤマ まあ……そうですね（笑）。

――鈴木さんとは別に寮長もいたんですよね？

ミヤマ 寮長は宮戸さんでしたね。

――これまた気が休まりそうもない寮長ですね（笑）。

船木 しかも、寮の建物自体がボロボロで、いまはもうないんですよ。

ミヤマ ボクらが出たあと、すぐに取り壊されて駐車場になりましたね。

船木 あの寮は、なんていう名前だっけ？

ミヤマ 宮川荘です。築何十年の建物で、オバケが出そうなところで。

船木 激安だったんですよ、家賃が。

――そんなところに、当時、大ブームだったUWFの選手たちが住んでたんですね（笑）。

ミヤマ 実際、安生さんはあの寮でオバケを見たって言ってました。風呂場が外なんですけど、その風呂の中に子どもの霊がしゃがんでたって。そういう恐い話をさんざんしたあと、安生さんは自宅に帰っちゃうんですよ（笑）。

――ガハハハハ！ 怖がらせるだけ怖がらせて。

ミヤマ 練習生は入ったと思ったら辞めていくような状態だったんで、ボクが一人で住んでいたこともあって、夜は怖かったですね。

――寮の風呂といえば、宮戸さんの"邪気くだし風呂"っていうのが、あったらしいですね？

ミヤマ ありましたねぇ（苦笑）。

船木 え⁉ なんですか、それ？

――なんでも宮戸さんが気功の先生に、「周りの人間から悪い気を受けやすい体質だ」って言われたらしくて、ほかの選手の邪気を払うために、合宿所の風呂に特別な薬草入れてたらしいです（笑）。

ミヤマ しかも、大事な薬草を入れた風呂だからって、宮戸さんがずっとお湯を換えないんですよ。

船木 みんな、それに入らないといけないんだ（笑）。

ミヤマ ボクはなんとか逃げて、銭湯に行ってたんですけどね。

――宮戸さんって、気功とか、そういった方面に傾倒してたらしいですね。

船木 そういや、宮戸さんは小便も飲んでましたからね。

――飲尿療法をやってましたか！（笑）。

ミヤマ 朝起きて一番のヤツを飲んでたんですよ。

船木 みんなに「いいぞ」「やれ」って言ってましたね（笑）。垣原はやった？

ミヤマ いや、やらなかったです。

船木 やらないよね。

ミヤマ それだけはちょと……。

――「先輩の言うことは絶対」の合宿所生活でも、それだけはできなかった、と（笑）。

船木 でも、中野（龍雄）さんに真夜中に呼び出されたりはしてたよね（笑）。

ミヤマ 中野さんは合同練習には参加されずに、夜中にボクら若手を呼び出して、独自の練習をされてたんですよ。だいたい夜の11時とか12時、ひどいときは1時、2時からというときもありましたからね。

船木 付き合わされるほうは、たまったもんじゃないよね（笑）。

ミヤマ 寝ようかな、と思ったときに電話がかかってくるんですよ。でも、練習じゃなくて、「『テレビガイド』を買ってこい」ってだけのときもあるんですよ。

――ガハハハハ！ ひどい（笑）。

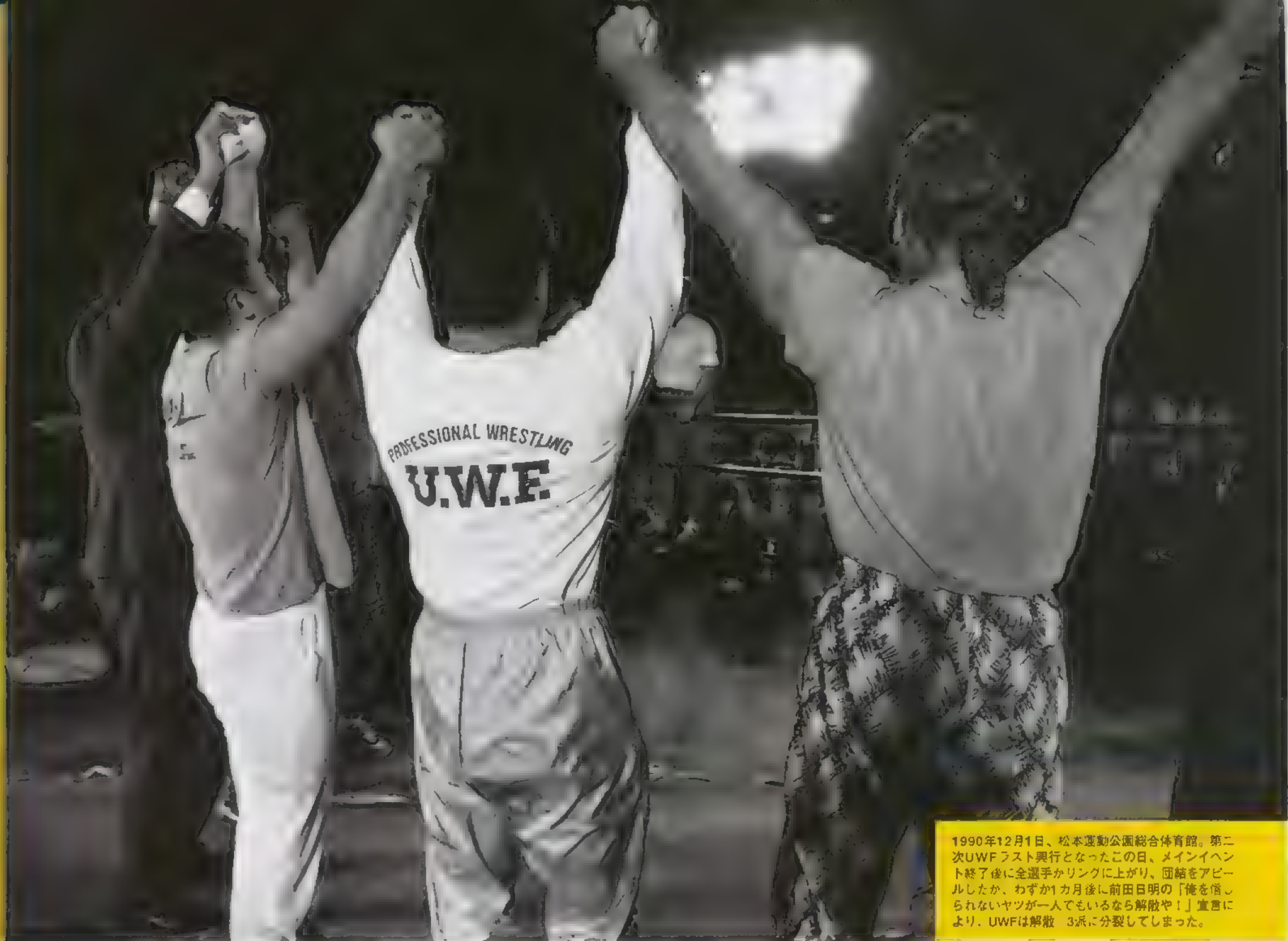
船木 あとは、中野さんにスナックに呼び出されたこともあったんでしょ？

ミヤマ ありましたねぇ。ボクと冨宅飛駈さんが呼び出されたんですよ。

船木 それで「楽しめ！」って言われたらしいです（笑）。

――ガハハハハ！

ミヤマ 中野さんを前にして、どう楽し

団結していたUWF若手の中で一匹狼を貫いていた中野龍雄（現在のリングネームは中野巽耀）。当時、スマートなイメージのUWFにおいて、ヘアスタイルはリーゼント、入場テーマ曲は『あしたのジョー2』と、その価値観、スタイルも異彩を放ちまくっていた。

1990年12月1日、松本運動公園総合体育館。第二次UWFラスト興行となったこの日、メインイベント終了後に全選手がリングに上がり、団結をアピールしたが、わずか1カ月後に前田日明の「俺を信じられないヤツが一人でもいるなら解散や！」宣言により、UWFは解散 3派に分裂してしまった。

んだらいいんだって、凄く困って（笑）。

——中野さん的には、若いヤツらを飲みに連れていってやったって感じなんでしょうけどね。

船木　自分は中野さんと普段会うことはなかったんで、垣原とかから、そういう"中野伝説"を聞いて、おかしくてしょうがなかったですね。

——中野さんは、ホントに新生UWFやUWFインターの若手選手のあいだでは、伝説になってるみたいですからね（笑）。

船木　あと、中野さんがバットマンのラバーマスクの本物を購入して、それが部屋に飾ってあるって話をみんなでしてて、「どうしてるんだろう？」「もしかしたら夜中に被って車運転してんじゃない？」とか、そういう話をしてましたね。

ミヤマ　「バットマンのマスク被って、夜な夜なパトロールしてるんじゃないか」とか言ってましたよね。

船木　車が黒のフェアレディZで、モロ、バットマンっぽい車に乗ってるんですよ。だから、絶対に一回はラバーマスクを被って運転してるんじゃないかって。自分は中野さんが、ラバーマスク被って鏡の前に立ってる姿を想像するだけでおもしろかったですから。

ミヤマ　みんな「もしかしたら、ショートタイツだけ穿いて、裸でバットマンマスク被って、鏡見てるんじゃないか」とか言ってましたよね（笑）。

——そのまま試合するような格好で（笑）。

船木　そんな話ばっかりしてて。だから私生活の部分では、垣原たちが入ってきて、凄く楽しかったですね。部活の合宿みたいな感じで、道場に行くのが毎日楽しくてしょうがなかったです。

——そういう雰囲気だと、団結力も出てきますよね。

船木　そうですね。いわゆる上3人、前田さん、高田さん、山崎さんがいないときの道場は凄く団結心がありました。

——その上3人を除いた若手が団結してたのが、もしかしたらUWF分裂につながったのかもしれませんね。

船木　そうですね。

——その頃の道場っていうのは船木さんを中心にまとまっていたんですか？

船木　いや、自分が中心っていうわけじゃなくて、自分と鈴木と宮戸さんの3人が先頭に立って若手が固まってましたね。そこへ前田さんや山崎さんがたまに来たり、高田さんは1カ月に一回ぐらい。たぶん3人で日替わりで道場の様子を点検に来てるような感じでした。

——なるほど。若手が固まっていたことで、上3人は道場に来にくくなってもいたんでしょうね。

船木　嫌でしょうね。だんだん会話も減ってましたしね。

——では、UWFは最終的に3派に分かれましたけど、3派にならずに、船木さん、鈴木さん、宮戸さんが中心になって、若手だけで団体を作る可能性もあったわけですか？

船木　ありました。前田さんが自宅でUWFの解散を宣言したあと、（若手だけの団体旗揚げに向けて）音頭をとったのが宮戸さんでしたね。それで新団体に向けて固まりかけてたときに、自分のところへ藤原さんから連絡がきたんです。「会って話がしたい」って。で、鈴木と二人で行って、藤原組の話を聞いたんですよ。バックにメガネスーパーがついて、若手選手を全員引き受けるっていう話だったんで、「じゃあ、そっちのほうが安定してて

新日本との対抗戦でボクが長州さんと闘う前 船木さんから手紙をもらったんですよ（ミヤマ）

いいんじゃないか」と思って、宮戸さんに「藤原さんのところにみんなで行きませんか?」って言ったんですけど、「藤原さん一人でもいると、自分たちの新しいことができにくくなるから、自分は行きません」って言うんで、「じゃあ、俺と鈴木は行きます」ということで分かれたんですよ。

―団結していた若手が、宮戸派と船木&鈴木派に分かれたわけですね。

船木 で、残った冨宅、垣原、田村の3人に「一晩やるから、誰とも話をしないで自分で決めろ」と。宮戸さんのほうに行くか、俺と鈴木のほうにつくか決めさせたんですよ。そうだよね?

ミヤマ そうです。もの凄く悩んで、なかなか結論は出なかったんですけど、ボクは宮戸さんのほうに行こうって決めて。

―でも、垣原さんは船木さんと師弟関係にあったから、みんな船木&鈴木派に行くと思われてたんじゃないですか?

船木 まあ、でもそれは個人の自由なんで。垣原と田村は「UWFという名前に凄く思い入れがある」ということで、宮戸さんのUWFインターナショナルに行くって言ったんですよ。それで、みんなで宮川荘でお別れ会になって。

―涙、涙の別れだったらしいですね?

船木 そうですね。二度と会えなくなっちゃうんじゃないかっていう感覚になりましたね。俺と鈴木、田村、垣原、冨宅の5人はボロ泣きしてました。でもほかの人は全然泣いてなくて（笑）。

―ガハハハハ！ それだけ関係性が濃かったというか。

船木 ホントにみんな兄弟みたいな感じだったんで、生き別れになるような感じでしたね。

ミヤマ ボクもホントに別れがつらくて、いまだにときどき夢に見るんですよ。それぐらい大きな出来事でした。

船木 でも、団体が分かれてからも、俺はUインターの合宿所とかに、しょっちゅう顔出してたんですけどね。田村が寮長で垣原がいて、金原（弘光）選手が入ったばかりで。だから、別れて1年ぐらいは一緒に練習したりもしてましたから。

―個人的な交流は続いていたんですね。

ミヤマ ボクらも、よく藤原組の会場には行かせてもらいましたし、ずっと船木さんたちのことは気になってました。

船木 逆に俺たちはUインターを意識してましたしね。

―Uインターの後期に、垣原さんは東京ベイNKホールで田村さんとパンクラスのような試合をしましたよね?

ミヤマ はい。

―あれは船木さんたちを意識してのものだったんですか?

ミヤマ そうです。ああいう試合をUインターの若い選手もみんなやりたかったんです。何度も「ああいう試合をしよう」って話をしてて。でも、実現させるのに何年もかかってしまいましたけどね。なかなか……、上からの圧力があったり（笑）。

―なかなか許されなかった、と（笑）。

船木 やっぱり団体に属していると、上からの圧力でなかなか思うような試合はできないっていうのはありますよね。だから自分や鈴木は、パンクラスという自分たちの団体を作ったんです。

―逆に垣原さんたちは、それがうらやましかった、と。

ミヤマ そうですね。

船木 新しいことをやってると、ほかの団体が凄く輝いて見えると思うんですよ。自分も藤原組のときにインターが輝いて見えてましたから。インターが異種格闘技戦で盛り上がってたんで、藤原組も最後の1年は異種格闘技戦をやりましたけど、やっぱりインターに先にやられてたから、後発はインパクトがなかったというのはありましたね。

―そのへんは宮戸さんの戦略のうまさですかね。

船木 そうですね。

―分裂しなかったら、ホントは宮戸さんは船木さんを新団体のエースにしたかったらしいですね。

船木 そうです。自分が藤原さんのほうに行っちゃったから、高田さんを担ぎだして（笑）。

―有名な話で、宮戸さんが船木さんに「猪木さんと同じ髪型にしてください」って言ったっていうのがありますよね（笑）。

船木 そうです、そうです（笑）。「タイツも猪木さんの若い頃みたいな、オレンジにしたほうがいい」とか、ことごとく自分を猪木さんにしようとしてましたね。だから高田さんがインターやってるときに、「あ、宮戸さんの言うとおりにやってる!」って思いましたね。

―ホントに根っからのプロデューサーだったんですね。

船木 ああいう才能はあるんですね。

―すべて仕切ってたらしいですね。

ミヤマ だって会場に掲げてある国旗の位置が違うだけで、会場スタッフに凄く怒ってましたから。「猪木さんの格闘技戦のときの配置と違う!」って（笑）。

―そんな細部にまでこだわってたんですね（笑）。Uインターも後期になって、船木さんがパンクラスを始められてからは、交流もだんだん少なくなっていきましたか?

ミヤマ そうですね。以前のように頻繁にお会いすることはなくなってたんですけど、Uインターと新日本の対抗戦が始まって、96年の1月4日にボクが長州さんと一騎撃ちをやるときに、船木さんから一通の手紙をいただいたんですよ。

船木 ああ、それ覚えてる。

―それはどういった手紙だったんですか?

船木 団体対抗戦っていう、潰すか、潰されるかの試合だったし、相手が長州さんという大きな存在だったんで、垣原が気後れしないように、「どういう状態であれ、目だけは死ぬなよ」という手紙を書いた記憶がありますね。

―そこまで気にしてくれたんですね。

ミヤマ そうです。「勝ち負けは抜きにして、レスラー垣原を印象づける試合をしろ。気迫だけは負けるな、目だけは死ぬな」という内容の手紙をいただいて、ホントに感激しましたね。それで、もの凄く気合いを入れて挑んだんですけど、逆に気合いが空回ってしまって（苦笑）。でも、その手紙をいただいてから、しばらく

それを支えに頑張れましたね。
船木 それぐらいの時期から、あんまり声をかけなくなったような気がしますね。ホントに独り立ちしたなって、そんな感じだったと思います。
——あれから10年以上経ち、大晦日に船木さんの大一番が決まりましたけど。
ミヤマ いや、自分なんかが言えることは恐れ多くて何もないんですけど……。
船木 桜庭とは一緒の時期があったの？
ミヤマ Uインターの頃はずっと一緒でした。
船木 じゃあ後輩なんだ。
ミヤマ 後輩です。
船木 どういう後輩だった？
ミヤマ 普段はホントに先輩には礼儀正しく、おとなしくてまじめなんですけど、お酒が入ると途端に豹変するんですよ。
船木 じゃあ、本性を隠してるんだ。
ミヤマ そう……かもしれないですね。
船木 どう豹変するの？
ミヤマ 酔うと別人になるといいますか、普段はおとなしくしてるんですけど、六本木で飲んで帰ろうとしたら、デカい黒人に喧嘩を売ってたり。
——ガハハハハ！
ミヤマ あとは合宿所のバンのガラスを叩き割ったりとかですね、合宿所の中で寝ている新弟子の上にオシッコしたりとかですかね。
船木 それも異質ですねえ。たまに酒で変わる選手もいますけど、なかなかそこまでやるのはいないと思いますね。
——桜庭選手とはキングダムで何度か試合してるんですか？
ミヤマ Uインターの頃はやってましたけど、キングダムではやってないですね。
船木 やってみてどうだった？

パンクラスでの引退前、桜庭戦を強引に発表しちゃおうとしたことがあるんです（船木）

ミヤマ キングダムのときは試合はやってないですけど、練習を一緒にやった感想で言えば、凄く強くなってましたね。ルールが変わって、急に新しいことができてしまう、というか。ある種、天才肌なんですよ。
——どんな特徴がありました？
ミヤマ たとえば新弟子の頃、全然打撃とか習ってなくて知らないはずなのに、ボクシングのスパーリングとかやっても、パンチをヒョイヒョイ避けたりするんですよね。だから距離感っていうんですかね、そういうのを感じ取る才能があるのかなと思って。ほかの新弟子だったらボッコボッコ当たるのが、桜庭だけには当たらないんですよ。凄くセンスがあるんだな、とは思ってました。

——打撃ってセンスが大事だっていいますもんね。
船木 そうですね。新弟子の頃からそういう力が自然についてるというのは、天性の特別な才能があるんでしょうね。
ミヤマ あと握力が強いっていうか。筋力トレーニングのベンチプレスとかやっても、重いものは全然上げられないんですけど、スパーリングのときに手首や足首をつかむときの力が凄く強いんですよ。
船木 ダニー・ホッジみたいですね。
ミヤマ きっとそんな感じだと思います。
——船木さんは桜庭選手のことを意識しだしたというか、視界に入ったのはいつ頃からですか？
船木 最初にUFC−Jのトーナメントで優勝したときですね。キングダムの若手が優勝したって聞いて、いい選手が育ってるんだな、と思って。そのあとはPRIDEですね。で、自分が引退する前の年ぐらいに、名前のある若い選手とか、いま活躍してる選手とどんどん試合をしたかったんですよ。そしたら、ちょうど桜庭選手がリング上で「船木さんと試合がしたい」って言ってたっていうのを聞いたんで、じゃあ本人も望んでるんであればやってしまおうってことで、一時、対戦実現に動いたんですよ。
——そうなんですか!?
船木 パンクラスの試合に高田道場の若手が出るっていうときに、セコンドで来るって聞いたんで、そのときに強引に記者発表しちゃおうみたいな感じで、無理やり記者集めて握手して。
——既成事実を作っちゃおう、と。
船木 そうです。そしたらそのあと「『船木さんとやりたい』じゃなくて、『フランクさん』って言ったんです」っていうことで、聞き間違いだったみたいなんですよね（笑）。
——フランク・シャムロックへの対戦アピールだった、と（笑）。
船木 でも、ビデオとか観ると「船木さん」って言ってるように聞こえるんですよね。だから、ホントに「フランクさん」と言ったかどうかわからないんですけど、結局、その話はなくなっちゃったんですよ。
——それが、いまになって実現するというのは、どんな感じですか？
船木 不思議な感じはしますけど、なんとなく縁があったような気はしますね。
——垣原さんもUWFの先輩である船木さんが、Uインターの後輩である桜庭さんと試合をするっていうのは、不思議な感覚じゃないですか？
ミヤマ そうですね……、なんと言ったらいいか……。
——なかなか、この試合については言いづらいものがあると思いますけど（笑）。
ミヤマ 先輩と後輩ですからね。だけどいい試合になるのは間違いないと思うんで。一ファンとして楽しみにしてます。
——船木さんは試合前まで、（この時点で）あと2カ月ですけど、調整は順調ですか？
船木 いまのところ順調ですね。これから1カ月半が一番ハードだと思います。最後の2週間は少しずつ疲れを取らないといけないんで。まあ、6週間みっちりとやって、試合に備えたいと思います。
——では、垣原さん。最後に大一番を控えた船木さんに何かメッセージがあれば、お願いします。
ミヤマ そうですね……。大事な試合だと思うんで、おケガのないように頑張ってください！ あと、お子さんが昆虫に興味をお持ちでしたら、いつでもボクにご連絡いただけたら、と思います（笑）。

【07年11月5日／二子玉川の中華料理店にて収録】

みやま・かめん■1972年4月29日、愛媛県新居浜市出身。本名・垣原賢人。90年8月に新生UWFでデビュー。その後、UWFインター、キングダム、全日本プロレスを渡り歩き、02年に新日本プロレス入団。03年には「ベスト・オブ・スーパージュニアX」で優勝を飾るが、頸椎の怪我で06年5月に引退　ミヤマ☆仮面に変身し、「クワレス」の普及に務めると同時に、環境保護を訴えている。

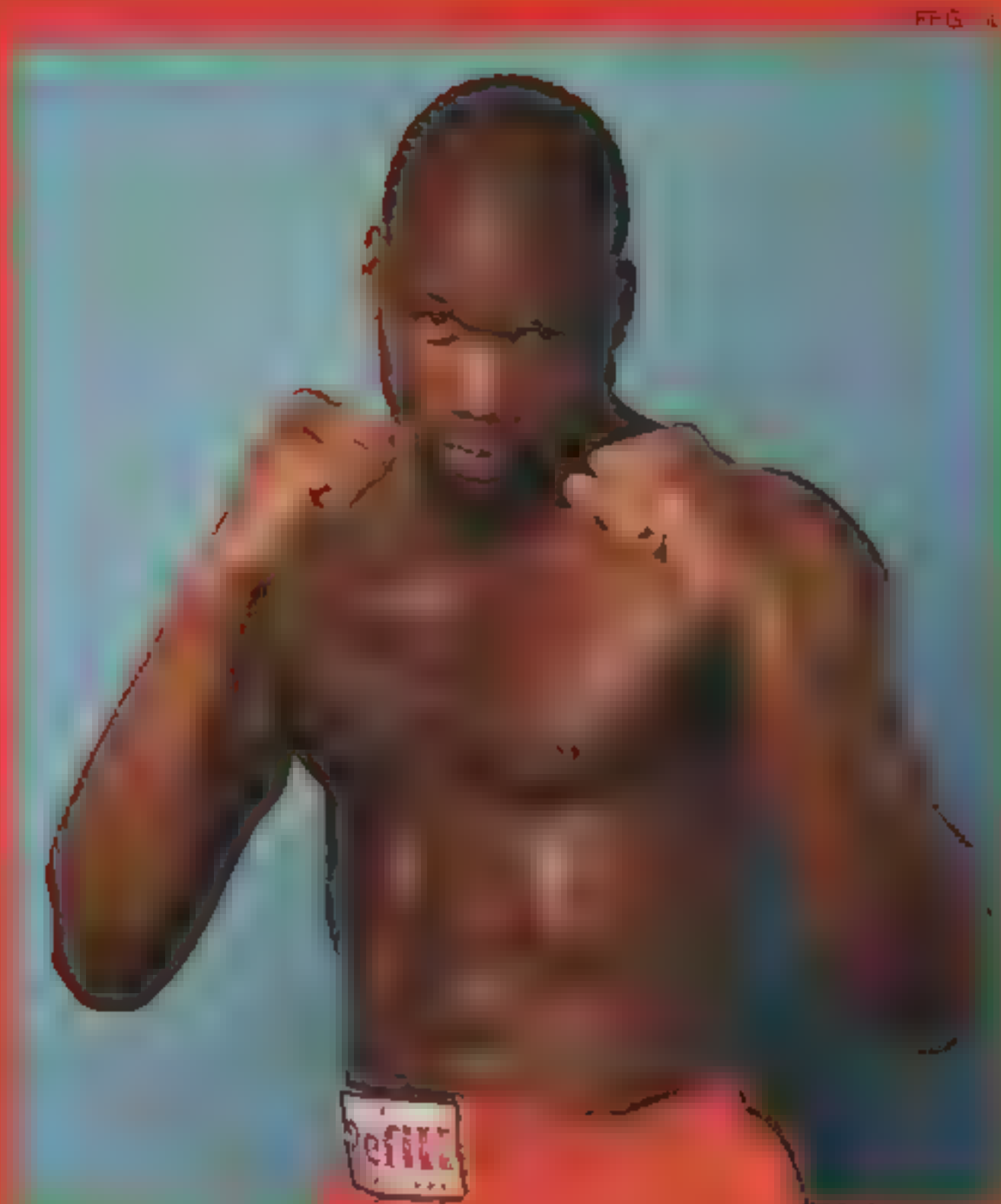
K-1 WORLD GP 2007
優勝の道へは
完全に断たれた!!
武蔵が危ない!!
これぞ谷川黒魔術の恐ろしさ!?
12.8武蔵復帰戦に潜む罠とは?
構成／坂井ノブ
©FEG,Inc.

まずは非常に残念なお知らせとお詫びから、この原稿を書き始めなければならない。

『kamipro』本誌でさんざん展開してきた、「武蔵が今年こそK-1 WORLD GPで優勝する！」という予想が、決勝大会前だというのにおもいっきりハズレてしまったのだ。今年のベスト16に澤屋敷純一と藤本祐介がノミネートされて、武蔵がソウル大会観戦ツアーのホスト役に決定した時点で、おそらく大半の人は武蔵が優勝しないことを容易に予想できたはずだ。しかし、過剰な武蔵幻想を持つ本誌だけは、「谷川黒魔術が炸裂するはずだ」と訴え続けてきた。

もちろん単なる妄想ではない。武蔵がベスト16の選考からから漏れて本戦にノミネートされなくても、リザーバーとして決勝大会からエントリーするはずだという"読み"があったのだ。

しかし、リザーブマッチにはマイティ・モーvsハリッド・"ディ・ファウスト"、レイ・セフォーvsポール・スロウィンスキーが決定してしまった。これでは武蔵が優勝できないじゃないか！ リザーバーが決定してからも、武蔵が優勝しそうな可能性を探ってみたものの、どう考えても武蔵が優勝する、というか本戦にエントリーされる可能性はゼロ！ すなわち今年の優勝はない、ということだ。「今年こそ武蔵のGP優勝を！」という見はてぬ夢を本誌とともに見てくれた読者の皆様には心の底からお詫び申し上げる次第だ。同志たちよ、また来年に期待しよう！

さて、決勝大会に向けてのテンションが急激に下がってしまった本誌読者も多いと思う。無理もない話だ。しかし、12・8『K-1 WORLD GP 2007 FINAL』はチケット初動完売！ その後、追加席を販売したため各プレイガイドでも購入可能という状況らしいが、日本の格闘技界ではひさびさに景気のいい話だ。そんな大舞台にふさわしい注目の大一番も決定した。

SOULEIMAN KONATE■1884年4月2日、フランス出身。ヨーロッパでK-1系の大会に出場した実績はあるものの、詳しい素性は謎に包まれている　14戦10勝4敗7KO　189cm、100kg

武蔵の復帰戦である8月のK-1香港大会、度重なる金的攻撃を受けた武蔵は顔を歪めて悶絶していた。そんな状況下で、谷川貞治イベントプロデューサーは「武蔵選手の金的は5倍にふくれあがってました」と凄まじいコメントを残している。5倍とはいったいどれほどなのか？ 想像もつかない。寒い冬の朝のようなキュッと引き締まった状態で5倍なのか、それとも風呂上りのダラッとした状態で5倍なのか？ 想像してもしょうがないのだが、とにかく5倍である。話半分としても2．5倍！ とにかくただごとではない。

復帰戦の対戦相手は単なる無名選手ではない。武蔵の下半身は再び危険にさらされるのか!?

それにしても武蔵復帰戦だというのに、さほど盛り上がっている機運を感じない。もっと盛り上がっていいはずだ。それが武蔵の置かれている現状だといわれてしまえば、「はい、そうですか」と言うしかないのだが、ひょっとしたら相手が無名の選手だから、イージーな試合を組みやがってなどと思われているのだろうか？ だとしたら、いまのうちから「その見方は大間違いだ」と釘を刺しておきたい。

対戦相手のソーレイマン・コナテは11戦10勝4敗5KOのフランス人キックボクサーだ。あまり評価は高くないようだが、武蔵にとってこんなに危険な相手はいない。

現在、インターネット上にはコナテの試合映像がいくつか転がっている。観てみたが、さほど技術がある選手ではないようで、試合はお世辞にもおもしろいとは言えない。ズバリ言ってしまえば退屈なものだった。

しかし、その映像の中にはコナテがソバットを放つシーンがあった。あまりうまくないから相手の金的にヒット（当然アクシデント）。これは危険だ。武蔵の金的に命中する可能性は無視できない。

しかも、コナテはローキックから攻撃を組み立てていく選手のようだ。これも危険だ。ローキックとは相手の下半身を攻撃する蹴り。武蔵の金的に当たる可能性がある。8月の香港大会で武蔵の金的を蹴ったのも、技術的にはかなり水準の低い選手だったことを思えば、コナテも武蔵にとっては充分すぎるほどに危険な相手となるだろう。

これが"谷川黒魔術"である。こんな地味に危険な相手を復帰戦にぶつけてくるとは、さすが谷川P！ 秋山成勲の復帰戦がデニス・カーンという強敵だったことを思えば、このマッチメイクにも合点がいく……、かもしれない。はたして、武蔵は来年1月に開催される「武蔵・TOMO・安廣一哉と楽しむホルネオ島ツアー」に無事参加できるのか!? という点にも注目したいところだ。

K-1 WORLD GP 2007 FINAL

神奈川・横浜アリーナ
12月[illegible]日（土）試合開始17:00（開場16:00）

［全対戦カード］

［オープニングファイト／3分3R］
野田貢vsノエル・カデット
ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤvsキム・ドンウック
立川隆史vsキム・キミン

［第1試合 リザーブファイト(1)／3分3R、延長1R］
マイティ・モーvsハリッド・"ディ・ファウスト"

［第2試合 トーナメント準々決勝(1)／3分3R、延長1R］
ジェロム・レ・バンナvsチェ・ホンマン

［第3試合 トーナメント準々決勝(2)／3分3R、延長1R］
セーム・シュルトvsグラウベ・フェイトーザ

［第4試合 トーナメント準々決勝(3)／3分3R、延長1R］
バダ・ハリvsレミー・ボンヤスキー

［第5試合 トーナメント準々決勝(4)／3分3R、延長1R］
ピーター・アーツvs澤屋敷純一

［第6試合 リザーブファイト(2)／3分3R、延長1R］
レイ・セフォーvsポール・スロウィンスキー

［第7試合 トーナメント準決勝(1)／3分3R、延長1R］
準々決勝(1)の勝者vs準々決勝(2)の勝者

［第8試合 トーナメント準決勝(2)／3分3R、延長1R］
準々決勝(3)の勝者vs準々決勝(4)の勝者

［第9試合 スーパーファイト／3分3R、延長1R］
武蔵vsソーレイマン・コナテ

［第10試合 トーナメント決勝／3分3R、延長2R］
準決勝(1)の勝者vs準決勝(2)の勝者

［チケット料金］
SRS席 35,000円（特典つき）／RS席 22,000円（特典つき）
S席　13,000円／A席　6,000円

［お問い合わせ］
SFEG宣伝部／TEL.03-3219-8870

ようこそ
〝悪魔王子〟の部屋へ

12.8 K-1 WGP決勝大会を前にイライラMAX!?

KILLER バダ・ハリ降臨

「レミー? 30秒だな……。30秒でKOしてやるよ」

いよいよ、今年もK-1 WORLD GP決勝戦が近づいてまいりました。なんといっても優勝候補の筆頭は"絶対王者"セーム・シュルトとなるのでしょうが、いま一番勢いがあるファイターといえばK-1ヘビー級王者のバダ・ハリで間違いなし。今回からは"悪魔王子"というピッタリなニックネームもつき、いつにも増して大暴れすること確実なバダ・ハリに、おそるおそるインタビューをしてきました。マジで怖っ!

聞き手／小松隊長(THE PEHLWANS)　構成／阿修羅チョロ　撮影／吉場正和

ある日、会社に電話がかかってきた。

「ちょっち、バダ・ハリのインタビューをしてほしいんですけど」

電話の主は、一部で〝インディーの神〟として崇められている『kamipro』阿修羅チョロ氏である。普段は「レッスル夢ファクトリーの茂木です」など、インディー魂炸裂な電話をかけてくるチョロ氏から、メジャー団体であるK-1ファイターの名前が出ること自体、珍しいことだ。一瞬、耳を疑った。しかし、理由もすぐにわかった。

なんでも、ハリは10月18日から、12・8K-1 WGP決勝大会のプロモーション活動のために来日しているというのだ。滞在期間はおよそ1週間。その中の1日が、各メディアの取材を受ける日になっており、『kamipro』にも取材の要請が来たというわけだ。まあ、チョロ氏がなぜメジャーのK-1物件を担当するかは不明なのだが……。

ところで、ハリは取材日の前日、10月21日に千葉・船橋の『ららぽーとTOKYO BAY』で行なわれた公開記者会見&公開練習に参加。同じく決勝トーナメントに出場する澤屋敷純一、そしてワンマッチに出場する武蔵とともに大会のプロモーション活動を行なっている。しかも、澤屋敷の公開練習に勝手に乱入し、嫌がる澤屋敷を相手にスパーリングを敢行。観客はもちろん大歓声、サービス精神旺盛なところを見せている。これが前日のハリの動きだ。

そもそも、ハリのイメージといえば、〝凶暴〟というのが相場だ。実際にある記者会見では乱闘騒ぎも起こしているし、若い頃は相当悪さをしていたという話も聞く。

とまあ、こんな付け焼き刃な知識と、前日に起こった公開練習の出来事などを詰め込み、取材先の都内ホテルに赴いたわけである。はたして、どうなるか?

ホテルに到着すると、すでに担当のチョロ氏が待ちかまえていた。そこで今日の取材について聞いてみると、「お任せします」と無責任な一言。さらに、「ハリは相当悪かったみたいなんで、若い頃の話を聞けば絶対にいいネタを持ってるはずです。まあ、まだ22歳といいまでも充分若いんですけどね」とニヤニヤしながら笑っている。不安げなボクの顔を覗き込んで、「大丈夫ですよ。ハリは……おもしろいです!」と適当なことを

指定されたホテルの一室に足を踏み入れると、そこにはソファに腰掛け、何やら退屈そうに耳をほじるバダ・ハリの姿が。これまで何人かのヒールレスラーの取材はしてきたが、ハリの恐怖オーラは本物!

BADR HARI■1984年12月8日、モロッコ出身。05年の東京ドームでステファン・レコをKOし衝撃のK-1デビュー。07年には藤本祐介と[illegible]戦に勝利して初代K-1ヘビー級（100kg以下）王者に輝いた。試合前から相手を挑発し、記者会見での乱闘も辞さない喧嘩っ早い性格。怖いもの知らずの言動からついたニックネームは"悪[illegible]97cm、94kg。

KILLER バダ・ハリ 降臨

言っているではないか！　う～ん、やっぱり不安だなぁ……。

そう思っているうちに、先に取材していた媒体がようやく取材を終えて部屋から出てきた。そこで部屋を覗いたチョロ氏が、「ちょ、ちょっち、怖い……」とポツリ。「え？」と思って覗いてみると、部屋の中には明らかにイライラした顔つきのハリ！　しかも、イスに座りながら貧乏揺すりをしているではないか！　明らかにご機嫌斜めだ。

しかし、ハリがイライラするのももっともな話。この日は昼の12時半からずっとホテルに缶詰状態にされて、各媒体の取材を受けていたのだ。しかも、我々が取材するのは大トリ。じつに『kamipro』が11社目の取材で、時間はすでに夜の20時半を回っていた。これでイライラするなというほうがおかしいだろう。

ちなみに取材している媒体の中には、『anan』などの女性ファッション誌まで含まれていた。確かに端整な顔立ちのイケメン外国人だから女性には受けるかもしれないが……とにかく凄いプロモーション活動だ！

ということで意を決して、部屋に入り、おそるおそる近づいてみる。すると、ギロリとこちらを睨むハリ。この緊張感はたまったもんじゃない。でも、これが最後の取材だから我慢してやってもらおう。

まず、聞いてみたのは、本人が気に入ったという"悪魔王子"というニックネームのことである。これは前日の公開記者会見で、**「これからは"アクマオウジ"と呼んでくれ！」**と、ご機嫌に日本語で語っていたという事実に基づいた質問だ。

「なんの問題もない。もらえるものはもらっておく。それだけだ。もちろん日本語の意味も知っている。まあ、自分でもそのイメージに慣れていくようにしなきゃいけないな」

う～ん、前日にご機嫌に語っていたのとはだいぶ違う。じつにぶっきらぼうだ。やはり、相当、疲れているんだろうか？　しゃべるのも面倒くさいっていう感じだ。しかも、端正な顔立ちだから、それが逆に怖さを増す。"悪魔王子"というイメージにピッタリではないか。これには本人も、**「まあ、ピッタリなんだろうな」**と同意してくれた。

ところで、"悪魔王子"という言葉から連想できるのは、やはりクレイジーなイメージだろう。そういえば、ハリは『HERO'S』に参戦しているメルヴィン・マヌーフとチームメイト。こちらも、入場するときにセコンドの人間にビンタを食らってテンションを上げるなど、かなりクレイジーなイメージがある。そこでどちらがよりクレイジーと思うか聞いてみた。

07.9.29韓国で行なわれたK-1 WGP開幕戦では、ラスベガス大会での最終予選をリザーバーから勝ち上がってきたダグ・ヴィニーと対戦したバダ・ハリ。K-1の新参者に対し、ハリは2ラウンド、強烈な右ストレート一発で圧勝。"悪魔王子"が、この勢いのまま決勝トーナメントを勝ち抜いていくのか？　行け、ハリ!!

「マヌーフ？　確かにヤツもクレイジーだ。オレとナンバーワンの座を争っていると言っていいだろう」

この負けず嫌い！　当然、若い頃もかなりバイオレンスな青春を送ってきたんだろう。一応、それを尋ねてみる。すると、ハリから返ってきたのは一言だった。

「とてもな（ニヤリ）」

う～ん、この一言が逆に不気味さを際立たせる。しかし、ビビっている場合ではない。具体的には、どんな悪さをしていたのだろう？　とっておきのエピソードを聞かせてください！

「どんなことをしていたかは想像に任せるよ。以上だ」

以上と言うなら仕方あるまい。では、次なる質問は女性についてだ。これだけのイケメンで強いんだから、モテないはずがない。ということで、単刀直入にモテるかモテないか聞いてみた。

「それはちょっとわからないな」

意外にも謙虚なのか？　一応、好みの女性のタイプも聞いてみたのだが、**「とくに、どのタイプが好きっていうことはない」**と、またもはぐらかされてしまう始末。しょうがないので、ついでに日本人女性についても聞いてみた。

「たくさん、キレイでかわいい女性がいるな」

ハリには日本人女性は好評のようである。ならばと、続けてくだらない質問をいくつかしてみた。まずは、素敵な休日の過ごし方だ。

「仲間と一緒にジャグジーに行くのがリラックスする方法だ。もちろん、そこには女もいる（ニヤリ）」

お、乗ってきたか？　では、続いては日本でのお気に入りスポットだ。ハリは日本には12～13回来ていると いう。それなりにお気に入りのスポットもあるはずだ。

「クラブに行ったことはある。しかし、そんなに行く機会はないな。リングから景色を見渡すことはあるが観光はしない」

そりゃそうだ。試合で来ていたら、そんなに観光もできるはずがない。

ところで、ハリはK－1に上がる前に、総合格闘技も経験しているのだ。2002年5月12日、オランダで開催された『Shooto Holland The Lords of Ring』で、イゴール・キリシスなる選手と対戦して、フロントチョークで敗れている。まだハリが17歳のときだ。K－1ではヘビー級王座を獲って、成功を収めつつあるハリだが、今後、総合格闘技に挑戦するつもりはあるのだろうか？　それを聞いたら、こんな答えが返ってきた。

「もしかしたらあるかもしれないがわからないな。基本的に立って闘うほうが好きだ」

う～ん、いつかはハリの総合も観てみたいものである。

ということで、当然、次の試合のことも聞かなきゃならない。ご存知のように、ハリは決勝トーナメントの1回戦でレミー・ボンヤスキーと対戦する。

「ボンヤスキーの印象だって？　何もないな。いまのオレには勝つために必要なものはすべて揃っている」

まったくもって、余裕なコメントだ。さらにハリからはこんな言葉まで飛び出した。

「鏡を見ているときが一番怖いな、フフフ」

つまり、自分自身が一番怖い。格闘家は恐るべき自信家であるが、格闘家はこうでなきゃいけない。ちなみにこれに話を絡めて、いままで一番怖かった体験を聞いてみた。すると、ハリの答えはこうだ。

「ない。怖い目に遭わせたことは山ほどあるがな」

よっ、さすがは悪魔王子！　そして、ボンヤスキーにもこんなメッセージを送ってくれた。

「30秒だな……。30秒でKOしてやるよ」

あいかわらず、不機嫌な顔つきながら、自信タップリのKO予告だ。ということで、最後にお疲れ気味のハリに、「たくさんのメディアの取材を受けて、お疲れでしょう？」と聞いてみた。すると、ここで表情が一変！　高級そうな時計を指差しながら……

「見ればわかるだろ！」

アワワワ、そんなに怒らせるようなことを聞いたつもりはなかったのだが……。それでもかまわず写真を撮り続けるカメラマン1。ダメだって、それはハリの怒りを煽るだけ！

「もう取材は終わりだ」

追いすがるカメラマンを振りほどきホテルの部屋から出て行ってしまったハリ。「うわ～、怒らせてしまったぁ」と頭を抱えながらも、恐怖心で足をワナワナさせる「kamipro」取材班。チョロ氏とカメラマンさんと一緒にボクは肩を落としながら、すごすごと部屋を立ち去るしかなかった。

……数分後、ホテルの玄関で、またまたすれ違ったハリは、こちらに向かって手を振っているではないか！　しかも笑ってるよ。ん？　ん？……ってことは、さっきの怒りは、もしかしてポーズ？

「そんなちっぽけなことでキレたりするわけないだろ」

おどけた笑顔を見せるハリ。……そ、そういうことでしたか……。そうとは知らず、こっちは心臓が止まる思いでした、マジで。まったくもって、恐るべし、"悪魔王子"バダ・ハリである。

ところで、この12・8K－1 WGP決勝大会はチケットの売れ行きも絶好調だ。チケットは、K－1オフィシャルファンクラブを中心に行われたデジタル先行発売と、10月27日からの全国一斉発売で、なんと初動で完売してしまった。K－1は急遽、演出などのスペースを調整し、席を増設。増席分のチケットを追加発売している。東京ドームから横浜アリーナへと会場の器は小さくなったとはいえ、これだけ爆発的にWGP決勝大会のチケットが売れるのはひさびさのことだろう。

会場も変更で心機一転。WGPは新たなスタートを切る。その新たなWGPの主役になることを期待されているハリ。今回のハードなプロモーション活動も、期待をかけられているからこそのハードさなんだろう。だからこそ、この日のイライラは当日のリングの上で爆発させてもらいたいものである。

はたして、バダ・ハリは「**アイツはずっとオレから逃げてきた臆病者**」呼ばわりしていたボンヤスキーを、宣言どおり"30秒KO"してしまうのか？　それとも……!?　一瞬たりとも目が離せないって!!

見てみぃ、この迫力！ この怖さ！！ あまりの恐怖にカメラマンを残してバダ・ハリの視線に入らないところまで逃げたヘタレな『kamipro』取材班。"悪魔王子"のニックネームに偽りなしと、妙なところで感心しつつホテルを出ようとすると、バダ・ハリとばったり。反射的に逃げようとしたボクらにハリはご機嫌に手を振ってくれたのでした。じつはナイスガイ!?

15歳のさわやかK-1ファイターの素顔に迫る

『Dynamite!!』の
『K-1甲子園U-18日本一

KILLER HIROYA 降臨!?

大晦日の『Dynamite!!』で K-1甲子園 U-18日本一決定トーナメント の出場が決ま HIROYAくん
一回戦で"魔裟斗2世"と言わ 門暉姿(ふじ・つかさ)との"ポスト魔 の座を懸けた の一戦が組まれた
HIROY 子園制 (?)を目指し、すでにヤル に突入
そんなHIROYAくん te!!』カード発表会見の約4週間前 中のと をキャッチ
未来のK 15歳の素顔に、35歳のおっさん 迫ってみま

チョロ(35歳) 撮影/吉場正和 晋也

"悪魔王子"バダ・ハリに続き『kamipro』プロ初登場となるのが、"K-1のハニカミ王子"こと15歳のHIROYAくん。現在、タイのインターナショナルスクールに通いながらムエタイの修行中です。

今回"学校が連休だったこともあり一時帰国したHIROYAくんはバダ・ハリと同じくK-1のプロモーションのため取材ラッシュでした。『kamipro』の前には格闘技雑誌だけではなく、『週刊少年チャンピオン』など一般誌の取材も4件ほどこなす多忙ぶり。各媒体にあてられた取材時間はわずか30分です。

「タイの生活はどんな感じ?」とか「次の試合へ向けての意気込みを聞かせて」といった質問をするのが普通なんでしょうが、それだとほかの媒体と差別化できません。そこで35歳なりに頭を悩ませました。はて、15歳の少年になんの話をすれば盛り上がるのか? 気分的には10代の女の子との合コン前夜です(ほとんど経験ないですが)。

取材場所のホテルのロビーで待っていると、関係者から「『kamipro』さん、お願いします」と声をかけられ、意を決してHIROYAくんの待つ部屋へ。部屋には、テレビ等で見かけるジミー鈴木氏似のHIROYAくんのパパもいました。

間近で見るHIROYAくんは15歳にして、かなりのオーラを放っていました。さすが、"ポスト魔裟斗"と言われているだけはあります。比べるのも失礼な話ですが、自分はHIROYAくんと同じく1月生まれ。HIROYA思い起こせば20年前、

くんと同じ15歳の頃、ボクは高校受験に失敗し、中学浪人ということで予備校に通っていました（都会の人にはピンとこないかもしれませんが、田舎ではけっこういるんです）。インターナショナルスクールに通っているHIROYAくんとは雲泥の差です。

そんな引け目を感じながら、取材の開始です。まだピチピチのHIROYAくんですが、すでに4件の取材を受けたあとということで、見るからにお疲れモード。これが沢尻エリカなら何を聞いても「べつに」とか言われるのがオチでしょう。

「同じようなことばっかり聞かれるんじゃない？」と、物わかりのいいおっさんぶって聞いてみると、**「そう……ですね（微笑）」**と、小さくうなずくHIROYAくん。やっぱりそうだろうなぁ、なんて思いながら、最初にぶつけた質問は「聞かれて一番答えにくい質問ってどんな質問？」。

冷静に考えたら、それこそ非常に答えづらい質問でしょう。HIROYAくんは**「う〜〜ん……」**と、しばらく固まってしまいました。そりゃそうだ。ここで助け船を出してくれたのがHIROYAパパです。

「魔裟斗と試合したいですか、じゃないの？」

「あ、それです（微笑）」

間髪入れず答えたHIROYAくん。魔裟斗に憧れ、所属するジムに押しかけ「練習を見てください」と直談判してからトントン拍子でK-1デビューをはたしたHIROYAくんだけに、憧れの魔裟斗と闘うイメージは全然湧かないとのことです。続けてボクがした質問は「いま何かと話題の亀田3兄弟、どうしても誰か一人と闘わなきゃいけないとしたら誰と闘う？」というもの。

「いや〜、とくに……」

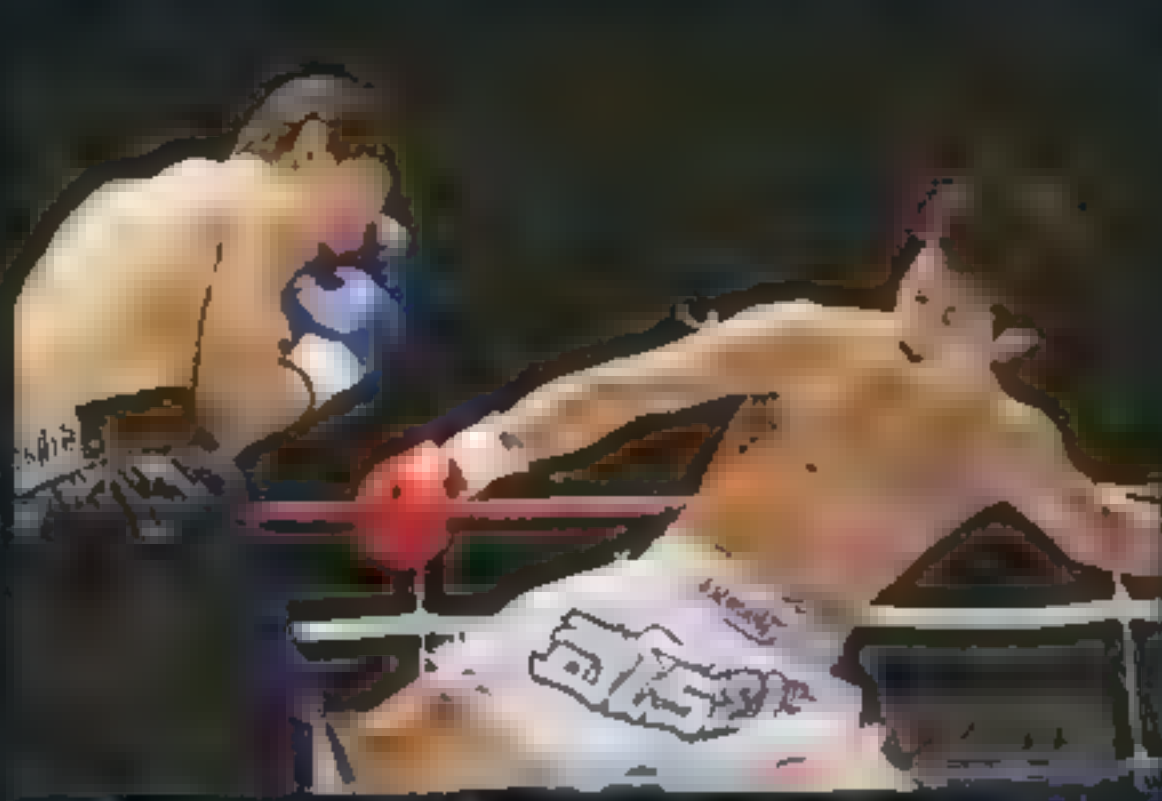
HIROYAくんの口からはエリカ様の決めゼリフ（？）が飛び出しました。キラーHIROYAの降臨か!?　出だしからつまずき気味のボクは、困ったときの定番の質問をぶつけてみました。「もし明日地球が滅亡するとしたら何をしますか？」

「う〜ん……なんだろう？」

腕を組んで、しばらく考え込むHIROYAくん。

「やっぱ、家族と一緒にいます」

うむ。家族愛か。さすがはK-1ファイター。そういえば、HIROYAくんといえば、タイへの修行前、彼女の存在をポロッと会見で明かしたことがあります。ボクが15歳の頃は彼女なんていやしなかったが、いまどきの15歳なら彼女がいてもおかしくはない。しかも、HIROYAくんはイケメンで、おまけに強い。モテないほうがおかしいだろう。

「彼女ですか？　いまはいないです」

07年[illegible]月のK-1デビュー戦で高橋明宏にTKO勝利すると、4月、6月も勝利し、K-1で3連勝。9月のタイでの試合も勝利、10月は韓国のクォン・オルチャンに判定勝ちし、デビュー以来、無傷の5連勝のHIROYA。この勢いで大晦日まで突っ走れ！

11月10日に都内ホテルで行なわれた会見で発表されたのが、K-1初の試みとなる18歳以下の日本人最強決定戦、「K-1甲子園 U-18日本一決定トーナメント」の開催だ。HIROYAは一回戦で"魔裟斗2世"の異名を持つ15歳の藤鬥嘩裟と対戦。もう一枠は18歳の久保賢司と、アマチュア時代にHIROYAを倒したことがあるという16歳の雄大が激突。初代王座は誰の手に!?

あ、そうですか。でも、"いまは"ってことは、ちょっと前はいたってことか。初めて女の子と付き合ったのって何歳のとき？　ズケズケと突っ込んでみました。

「小6です。でも、何をするわけでもなく、気がついたら終わってました（微笑）」

う〜ん、早熟。さすが、ポスト魔裟斗（？）。

「好きなタイプですか？　う〜〜〜ん……、好きになった人がタイプかな。タレントでですか？　え〜〜、わかんないです（微笑）」

ここでHIROYAパパが「おまえ、あゆ（浜崎あゆみ）が好きって言ってなかった？」とアシスト。

「言ってないです（キッパリ）」

あらら、ここは否定。やっぱり、15歳的には年上はダメなんだろうか？

「いや〜〜、上はお姉ちゃんがいるから、あんまり想像できないっていうか……（ハニカミ）」

HIROYAくんには17歳のお姉ちゃんがいるらしい。しかし、お姉ちゃんの年もボクのダブルスコア以下かぁ。ちょっと悲しくなる。失礼とは思いながら「女性の胸とお尻はどっちが好きですか？」なんてくだらない質問をぶつけてみると……。

「えっ……（一瞬固まる）。ちょっとわかんないです（微笑）」

ごめんなさい。でも、自分が15歳の頃は、そんなことばっかり考えてたけどなぁ。またしても方向転換。怖いモノは何かあるか聞いてみました。

「（小声で）ジェットコースターです」

おっ、最強高校生と言われるHIROYAくんの苦手なモノを発見！

「中学生の頃、お父さんに強制的に乗せられて……。その前から、ずっとダメだったんですけど（微笑）。遊園地は、なるべく行きたくないです」

そんなことを言ったら、テレビの企画なんかで乗せられちゃうんだろうな。ご愁傷さまです。そんなこんなで、気がつけば取材時間は、あと5分少々。ちょっとはまじめな質問も。「10年後の自分を想像してください」。我ながら、なかなかいい質問だ。

「え〜〜、10年後っていうと25歳ですけど、もうキックをやめるかやめないかですかね？　全然想像つかないですけど（微笑）。ちょっと難しいです」

またしても、固まってしまうHIROYAくん。

「おまえ、世界チャンピオン3連覇ぐらいしてるって言っておけよ！（笑）」

HIROYAパパから、再びナイスなアドバイスが。

「じゃあ、それで（微笑）」

なすがままのHIROYAくん。これも家族愛なんだろう。最後に、この取材時には相手は決まっていなかったが、一応「Dynamite!!」への意気込みを聞いてみました。

「まだ相手も決まってないですけど、誰とやったとしても、大晦日は凄い選手がいっぱい出ると思うので、そういう選手たちにも負けないように、お客さんに楽しんでもらえるような試合をしたいです」

う〜ん、素晴らしい！

その後、「Dynamite!!」の対戦カード発表会見では、ほかの3選手が口々に「優勝します！」と意気込みを語っていたのに対し、HIROYAくんは**「優勝したいっていうのはもちろんですけど、みんなで大会を盛り上げたいと思います！」**と、自分のことだけではなく、興行全体を意識した発言をしたのです。これには谷川貞治代表も「魔裟斗選手から、よくアドバイスを受けてるだけあって、K-1を背負うっていうプロ意識がすでにあるんでしょう。さすがですねぇ」とベタほめ。

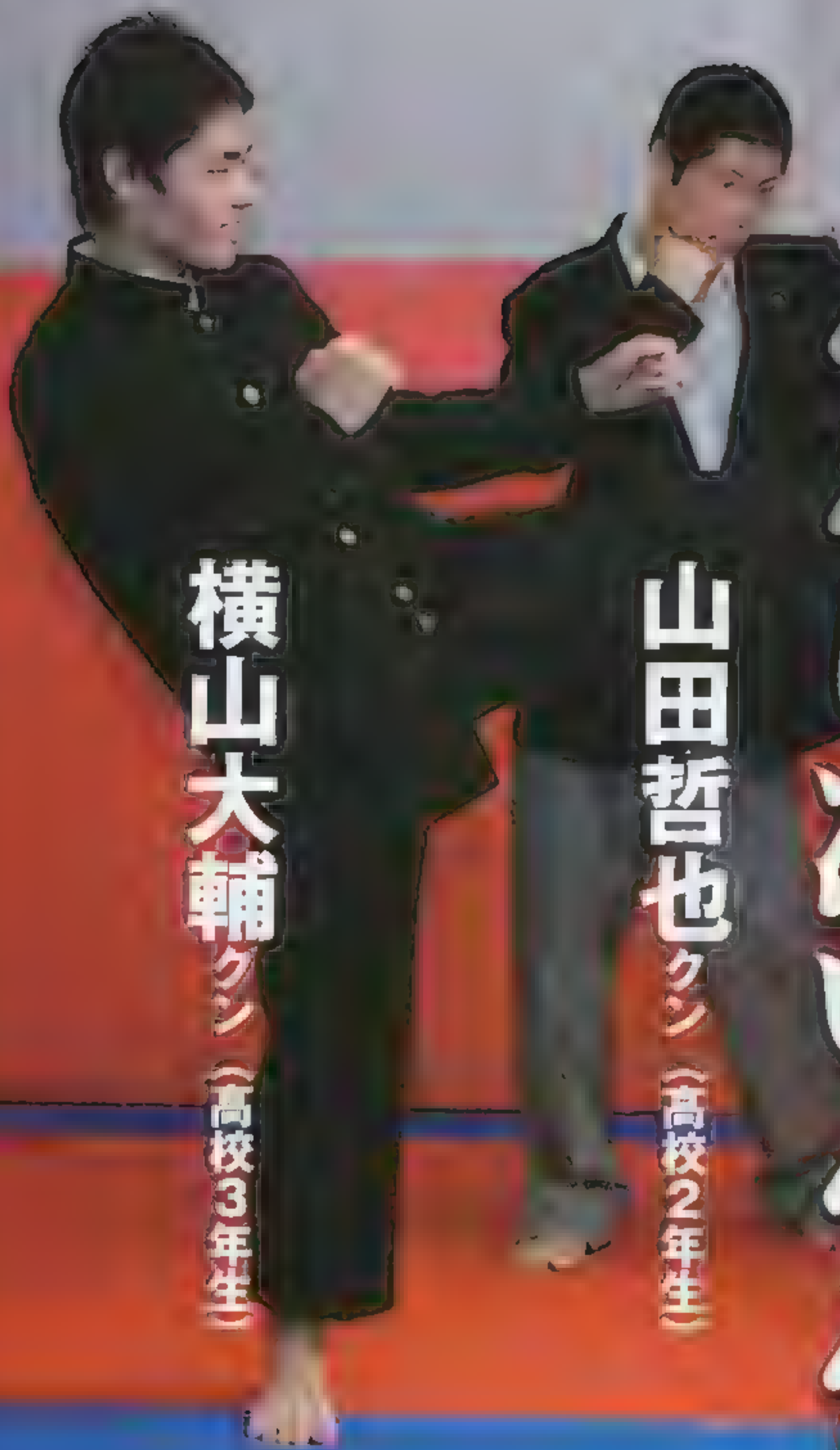
10年経っても25歳！　K-1の未来の星、HIROYAくんの今後の活躍を期待してます！

【07年10月22日／都内ホテルにて収録】

ひろや■本名・河部弘也。1992年1月6日、神奈川県出身。3歳で空手をはじめ、小学4年生でキックボクシングの練習をスタート。06年、魔裟斗のジムに押しかけで練習を見てもらったことがきっかけで、谷川プロデューサーの目にも留まり15歳でK-1デビューという快挙を成し遂げた。07年3月に中学を卒業後、タイのインターナショナルスクールへ留学し、ムエタイ修行に励む、最強の15歳。164センチ、60キロ。

話題の"最強高校生"ってどんだけ凄いんだ!?

山田哲也クン（高校2年生）

横山大輔クン（高校3年生）

GK隊長

集長。現「Gリング」統括プロデューサー。テレビ朝日「ワールドプロレスリング」の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なう一方、探検隊を結成し体当たりで取材に挑んでいる

リングスの流れを汲む最もプロレスっぽい格闘技団体ZSTに"前田日明に怒られた男"ことGK隊長が潜入調査を敢行!

いま高校生が熱い!! 2007年、格闘技界に台頭するニュージェネレーションといえば真っ先に思い浮かぶのはHIROYAクンということになるのだろうが、いま新たなスターが誕生しようとしている。花くまゆうさく先生も大注目のZSTで活躍する平成生まれ高校生コンビ、横山大輔クン＆山田哲也クンをなぜかプロレス探検隊が徹底調査します！

構成／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

小松隊員

こまつ・しんたろう
以前からGKと親
で座談会も担当し
り非常にグッドルッ
け"の美学は今回も

GKスペシャル プロレス探検隊

GK格技ファイル 出張版

大晦日の『Dynamite!!』に出場か!? "最強高校生コンビ"にGK隊長が挑む!!

プロレス界の残された数少ない謎を体当たりで解明する男・GK隊長率いるプロレス探検隊が『kamipro Special』に初進出！『kamipro』本誌ではプロレス界の謎ばかりを追いかけていた探検隊も、今回は格闘技の謎へと迫ることに!! 今回の探検の舞台となったのはリングスの流れを汲む総合格闘技団体ZSTである。

ZSTといえば、"世界の所さん"こと所英男や"リアル・タイガーマスク"勝村周一郎といったファンが思わず背中を押したくなる選手を数多く輩出している格闘技団体である。試合は純粋な格闘技でありながら、試合前のVTRやキャッチフレーズなどで選手をイジリたおしてお客さんに徹底的に楽しんでもらう趣向をこらした演出が売りの一つ。プロレスを意識した、というかプロレスの血が流れている総合格闘技団体といえるだろう。

そのZSTでいま最も注目を集めているのが、今回登場する横山大輔クンと山田哲也クンの最強高校生コンビだ。彼らが注目を集めるきっかけとなったのは、10・7『ZST14』（ディファ有明）のセミ・ファイナルで行なわれた矢野卓見&代官山剣Z vs 横山大輔&山田哲也の一戦（グラップリングタッグマッチ）だ。ベテランの代官山を相手に、山田クンがなんと試合開始から36秒で飛びつき腕十字から一本勝ちを奪ってしまったのだ。

しかし、何が起こるかわからないのがZSTである。出番なく試合が終わってしまったことで、横山クンは勝ち名乗りを受けながら大号泣！ よほど悔しかったのか顔をクシャクシャにして泣きじゃくっている。マイクを渡されるとリング上で『何もしていない横山です。必死に練習したのに試合に出られなくて……矢野さん、シングルでお願いします！』と同じく出番なく試合が終わってしまった矢野にやりきれない気持ちをぶつけたのだった。

一方、秒殺で勝った山田クンは泣きじゃくるパートナーに『横山クン、ごめんなさい』とマイク。う～ん、じつにさわやか！

挑戦された矢野もこれを了承して急遽、シングルでグラップリングマッチが行なわれた。積極的に前に出た横山クンは序盤から足関節を狙って攻めていく。矢野も老かいなテクニックでこれに応戦。5分3ラウンドを闘い抜いて引き分けという結果に終わったが、寝技師・矢野を相手に大健闘といえる内容だった。

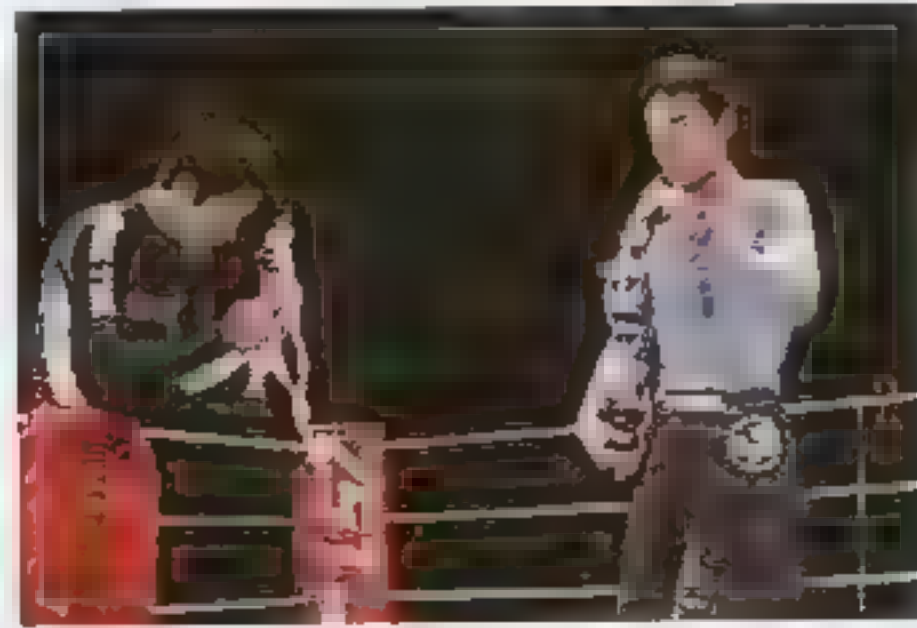
この一戦で注目を浴びることになった高校生コンビに、早くも谷川貞治K-1イベントプロデューサーが目をつけて、大晦日の『Dynamite!!』で、高校生を中心とした若い選手を集めた『格闘技甲子園』の構想を発表！ HIROYAなど、同年代のキックボクサーたちがスター候補として熱い注目を集めている。いずれ大きな舞台でZSTの最強高校生コンビが活躍するのも決して夢ではない状況なのだ。

今後ブレイク確実な彼らに取材……、というか探検をするのは、元『週刊ゴング』編集長の金沢"GK"克彦氏と小松隊員のプロレス探検隊の二人である。『ZSTの最強高校生コンビは凄い』という評判を聞きつけたGK隊長が、『凄い、凄いって話は聞くけど、どんだけ凄いのか確かめてやる!!』と名乗りを挙げたのだ。

親子ほど年齢の離れた最強高校生コンビに、GK隊長はどんな闘いを挑むのだろうか!?

ZST高校生コンビが注目されるきっかけはこの試合だ!! 10.7『ZST14』ディファ有明

横山クンと対戦した矢野は「いまでも充分強い。このままいけば世界のトップに立てる」と絶賛した。

急遽実現した矢野とのシングルマッチ（GT-Fルール）で激突した横山クン。すっかり闘う顔になっている！

せっかく練習してきたのに試合に出られなかった横山クンが泣きじゃくっている！ これには山田クンも「ごめんなさい」。

「練習でもほとんど極まらなかった」（山田クン）という飛びつき腕十字で見事に一本を奪い喜びを爆発させたが……。

中学1年生の数学で学力テスト！探険隊は最強高校生に勝てるか!?

1R 学力テスト

タイガー・ジェット・シン、GBH、シーザー武志会長、インリン様など百戦錬磨の強敵に挑み続けてきたプロレス探険隊。今回は相手が現役高校生ということで、かなりリラックスした雰囲気を漂わせていた。ということで、編集部から「まずは学力テストで勝負していただきます。学科は数学です」と告げたところ、「え〜っ！　数学!?」とGK隊長の表情がみるみるうちに曇っていく。最強高校生コンビは「数学、苦手です……」と言いつつも、若さのぶんだけ有利か!?　学生の本分は勉学にある。さあ、どうなる!?

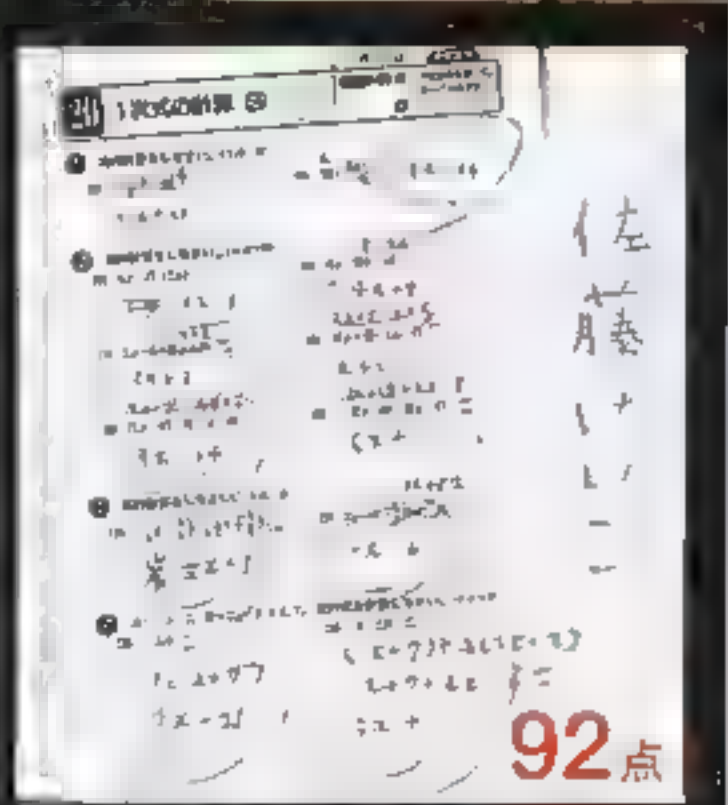
さらに本誌でもたびたび取り上げている「プロレス・格闘技界最高レベル」との呼び声も高いZSTが誇るリングガール"ZSTガール"から佐藤けいこちゃんが「私もテストやりたいです！」と飛び入りで参戦を志願してくれるという嬉しいハプニングも。現役女子大生でもある佐藤けいこちゃんが急遽参加することになり、プロレス探険隊は俄然ヒートアップ！　当初はテストをボイコットしかねない勢いで嫌がっていたGK隊長も、ようやく重い腰を上げたのだった。

今回用意したのは中学1年生向けの問題集。数学とはいっても数学の入り口みたいなものである。さっそく頭を悩ます5人。さあ結果はいかに!?

社会に出ると数学の問題と向き合うなんてことはないので「ウ〜ン」と頭をひねるプロレス探険隊。佐藤けいこちゃんも頑張って！

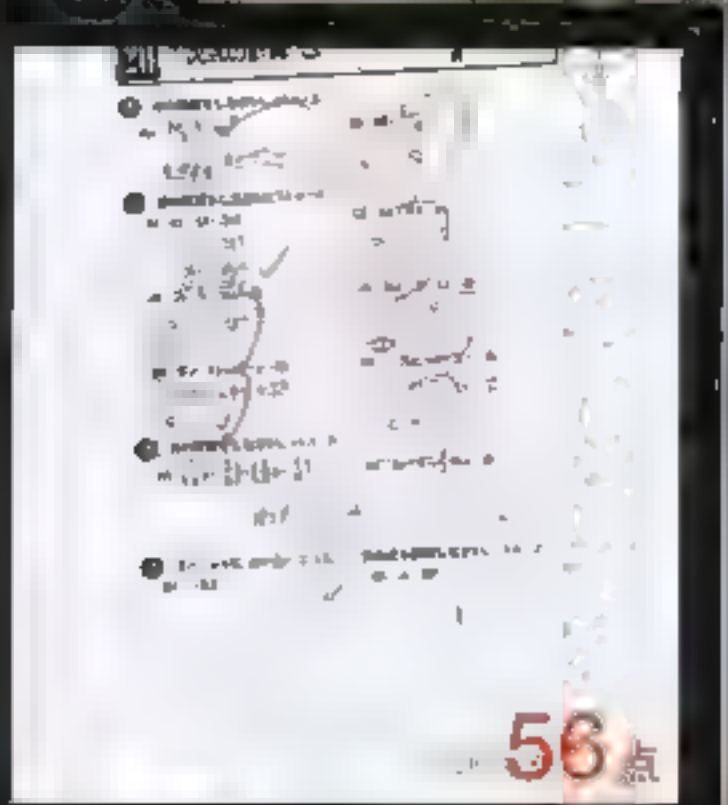
佐藤けいこちゃん

ZSTガールの佐藤けいこちゃんは現役女子大生。コスチュームのまま数学の問題を解くというシチュエーションはもちろん初体験。

92点

飛び入り参加にもかかわらず高得点を叩き出したけいこちゃん。計算ミスで一問不正解だったが、素晴らしいじゃないか！

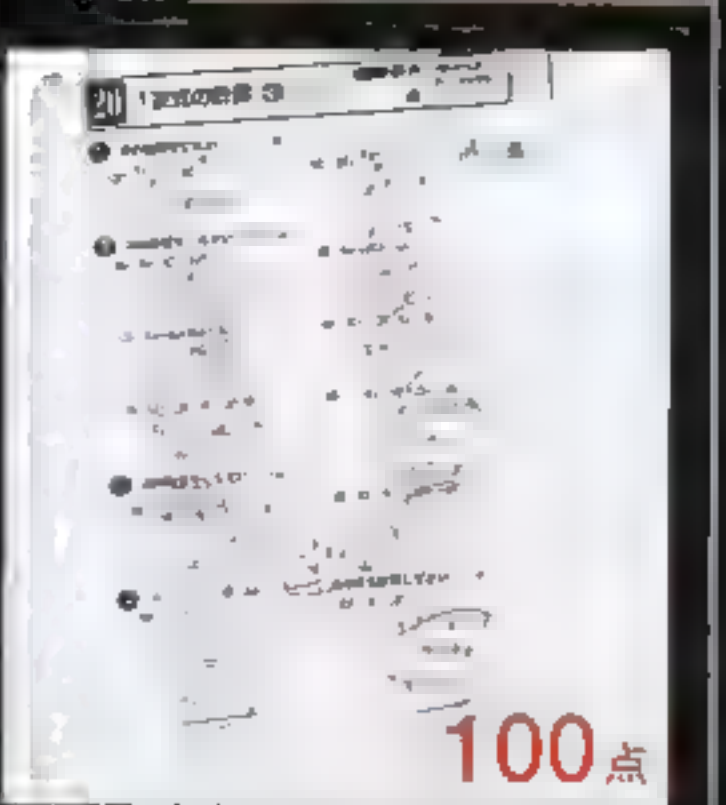
山田哲也クン

高校2年生の山田クンも数学は苦手らしい。頭を抱えながら必死に答えを導き出そうと奮闘。リングとはだいぶ勝手が違うかな？

56点

山田クン、途中までは的確な回答をしていたのだが、最後には集中力が切れたのか「わかりません」とギブアップ。

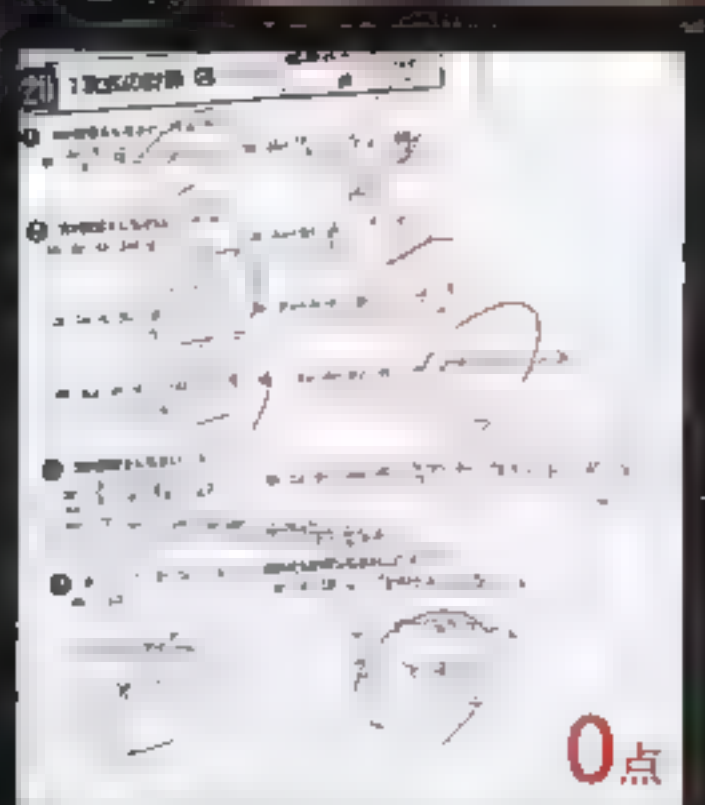
横山大輔クン

法政大学を目指しているという横山クン。数学はあまり得意ではないとのことだが、一つ一つを丁寧に書いていく姿が印象的だった。

100点

来春に受験を控える横山クン、さすがの落ち着きで全問正解！　この調子で来春の入試も満点で突破していただきたいものだ。

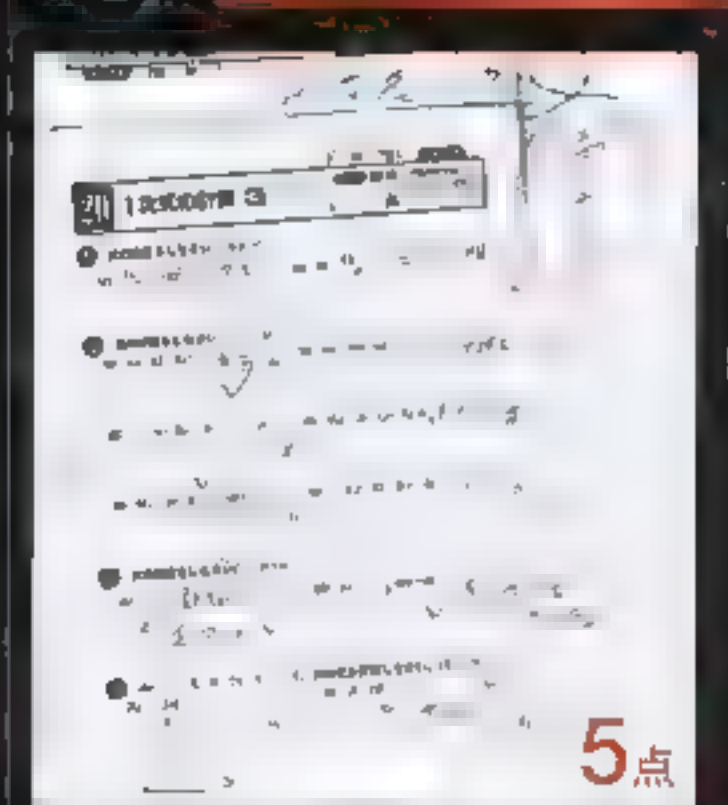
小松隊員

さらさらと回答を書き込んでいく小松隊員。こう見えても数学は得意科目!?　トップで答案を提出したが、大きな落とし穴が待っていた！

0点

凄い！　トップで答案を提出して、全問正解を叩き出した小松隊員だったが、なんと名前を書き忘れるという大失態。これは0点だ！

GK隊長

自信満々に答案を提出してきたGK隊長だったが、回答は衝撃的な内容だった！　「どうせ負けるなら反則で」というヒール魂が炸裂！

5点

これはひどい……。「あのときのXは確かグレート・マーシャルボーグだった」と主張。これで一問のみ「△」として5点！

※『中学1年数学　10分間復習ドリル』(受験研究社刊)より出題

2R 負けられない戦いへ スパーリング

グラップリング・タッグマッチで突如、GK隊長が乱入&反則暴走

秒殺男の山田クンがいきなりテイクダウン。完全に油断していた小松隊員は「どんだけ～!!」と絶叫。おもいっきり吹っ飛ばされた。

素早くポジションをチェンジしながら横四方固めに移行して、アームロックを極める山田クン。わずか10秒でタップを奪った。

ガッチリ握手を交わした両者。グラップリングのみでタッチは可能、カットプレーはなしというルールで行なわれることになった。

しかし、GK隊長は何を思ったか突然、身を乗り出してリングイン。所レフェリーも必死に止めるが「このクソたわけがっ!!」と怒り爆発！

しかし、GK隊長はタッチ寸前でソッポを向いてしまう！　そんなのあり!?　見捨てられた小松隊員は絶体絶命の大ピンチ！

あと少し…

続けて横山クンが登場。自陣コーナーに逃げ帰ろうとする小松隊員の足に絡みついて関節を絞りあげる！「タッチ！　タッチ！」と絶叫。

GK隊長ご乱心!!　仲間割れ!?

学力テストではさんざんな結果に終わったGK隊長と小松隊員だったが、スパーリングではどうなる!?　今回は2対2のタッグマッチでスパーリングを行なうことになった。特別レフェリーには"世界の所さん"こと所英男が登場だ！

「格闘技でタッグマッチ？　それはプロレスの専売特許でしょう！」と鼻息も荒いGK隊長。小松隊員は学生時代に相撲部で鍛えた腰の重さ、さらには武富士ダンサーズに鍛えられた腰の振りには定評がある。

スパーリングは秒殺男の山田クンと小松隊員からスタート！　小松隊員が腰の重さを発揮してテイクダウンを奪うかと思われたが、タックルでぶっ倒されるとあっという間にタップ！　続けて登場した横山くんには足関節を攻められて早くも青息吐息。タッチを求めてコーナーに行くが、タッチ寸前でGK隊長は突然の知らんぷり！

さらに長州力ばりにいきなりカットイン！　これは慌てて所レフェリーが制止するが、それも振りきって「このクソたわけがっ!!」と罵声を浴びせると強烈なストンピング！　さらに横山クンとの合体技まで披露する始末！

ZSTのタッグマッチでは、カットは当然ルールで禁止されているが、おかまいなしの大暴れ。身体に染みついたプロレスルールが仇となったGK隊長の反則暴走により二本目も最強高校生コンビが勝利したのだった。

小松隊員にストンピングを叩き込むとGK隊長はアキレス腱固めへ！　両足首をガッチリと固められて小松隊員は絶叫しながら両手でタップ！　スパーリングでは最強高校生コンビの前になすすべなく敗れ去ったプロレス探険隊はガックリと肩を落とした。

3R インタビュー

百戦錬磨のGK隊長&小松隊員も、ジェネレーションギャップに衝撃!?

『Dynamite!!』出場も噂される最強高校生を直撃!

プロレス探検隊が未知の領域に踏み込んだ！「プロレスの謎」を解き明かすはずだったGK隊長と小松隊員が、プロレスを知らない現役高校生と真っ向勝負！　はたして会話は噛み合うのか!?　さらに最強高校生コンビの初々しくも意欲的な姿勢は、格闘技界の未来を切り開く原動力となるのか!?　そんな部分にも注目して読んでいただきたいと思います！

本文構成／小松伸太郎（THE PEHLWANS）撮影／平工幸雄

GK　さて、学力テストとスパーリングで醜態をさらした小松隊員！

小松　隊長、お言葉ですが学力テストは私と同じでは……?

GK　シャラ〜ップ！　そんなことより最強高校生コンビをインタビューで徹底的に調査するぞ！

小松　ラ、ラジャーです！（アキレス腱をストレッチしながら）。

GK　あらためてどうもぉ、金沢隊長でありま〜す！（ケロロ軍曹調）。さて、お二人はなんで格闘技を始めたのかな?

横山　格闘技が好きだったし、カッコイイなと思ったので始めました。

山田　僕は柔道をやっていたんですけど、その柔道の先生から「やれ」と言われたので。

GK　入口はやっぱり総合格闘技?

横山　そうです。最初に見たのはPRIDEだったと思うんですけど。

山田　僕もテレビでPRIDEを観てました。

GK　ふ〜ん、観ていて引き込まれるものはあった?

山田　多少は。男なんで、闘いは好きですね（照れ）。

GK　初々しい中にも闘魂……（目を閉じて）。フフフ、この金沢の若い頃とそっくりだ。

小松　た、隊長?　かつてはそんな武闘派だったんですか?

GK　（無視して）ところで、お互いにライバル意識は持ってないの?

山田　仲間って感じですね。

GK　でも、横山クンは10月7日の試合で、山田クンが秒殺しちゃったから、自分の出番がなくなっちゃったわけでしょ?「ふざけんなよ！」とか思わなかった?

横山　というよりも、「何しに来たんだろう?」とは思いました（笑）。

GK　確かにそうだよなぁ（笑）。で、山田クンは練習していたものがとっさに出たって感じなの?

山田　練習では自分で頭を打ったりしてたんですけど、本番ではキレイに極まりましたね。

GK　本番に強いねぇ！　一方、横山クンは急遽、矢野選手とのシングルマッチがその場で実現したよね。やっぱり、嬉しかった?

横山　嬉しかったですけど、「早くメインを観せろ！」って思っているお客さんの邪魔をしちゃったかもしれないですね（笑）。

GK　客のこと?　あのね、客に媚びちゃダメ！（キッパリ）。

小松　さすが隊長！　それは長州イズムですね!?

GK　（長州のモノマネで）「いちいち、お客に媚びることじゃないですよ」っ

なんと最強高校生コンビを我々が取材（探検）している最中も、TBSがカメラを回していた。本格的にブレイク間近!?　探検隊も地上波へ!?

て言ってたからね、御大は（笑）。どう、長州さんのモノマネ似てるでしょ？

横山 長州って……、小力の大きい人ですか？

GK こ、小力の大きい人？　ま、まさか、君たちは長州力を知らないのぉ!?

横山&山田 ……（沈黙）。

GK そ、そんな……（絶句）。

小松 （小声で）隊長、ひょっとして彼らはプロレス音痴なのでは？

GK （小声で）慌てるな、小松隊員。彼らは平成生まれだ。世代的に知らないだけかもしれないぞ？（気を取り直して）ところで、君たちはプロ志望？

横山 僕は進学して、大学で格闘技を続けてみてから考えます。

山田 僕は就職しますけど、プロを目指していますね。

小松 プロといえば、同年代のHIROYAクンがすでにK―1のリングに上がってますけど、彼と試合をしたいとは思いませんか？

山田 やるとなったら、やるしかないですね！

GK う～ん、頼もしい！　ますます、この私の若い頃に似ているなぁ（遠い目）。

小松 （小声で）隊長はどんな10代を過ごしてたんですか？

GK （小声で）ま、それはいずれ君にも私の秘密がわかるときがくるだろう。いちいち気にするな、小松隊員。

小松 ひ、秘密……!?

GK （気を取り直して）ところで、HIROYAクンには大晦日の『Dynamite!!』出場の話が出ていますけど、お二人は大晦日に出てみたいですか？（その後、HIROYAクンは出場が正式決定）

横山 一回は出てみたいです！

山田 やるしかないですね！

GK ほほう。ちなみに大晦日に出るとして、誰か闘ってみたい相手はいる？

横山 HIROYAクン。

山田 僕もHIROYA選手ですね。

GK やっぱり、同年代の選手になっちゃうんだ。

小松 山本KID徳郁選手は？

山田 殺されます（笑）。

GK やっぱり実際に格闘技をやっているから、あまり大げさなことは言えないのかな？

横山 「KIDさんとやりたい」とは言えないですよ（笑）。

GK このぉ、ぶりっ子しよってぇ（ニヤリ）。まあ、小松隊員よ。二人は今後の活躍が期待できそうだな？

小松 （大きくうなずいて）はい！　世間ではお二人と同じ世代のハンカチ王子やハニカミ王子、あるいは亀田大毅や浅田真央ちゃんなどの10代アスリートが大活躍していますからね！

GK おいおい、小松隊員。中嶋勝彦を忘れちゃダメだぜ！

横山&山田 ……（キョトン）。

GK おや、勝彦を知らない？　健介ファミリーの一員なんだけど？

横山&山田 ……（沈黙）。

GK （慌てて）な、何？　本当に知らないのぉ……!?

小松 た、隊長！　彼らは本当にプロレスをまったく知らないのでは……!?

GK （立ち上がって）ダ、ダメじゃないか！　受験勉強もいいけど、プロレスの勉強もしないとぉ！　いいかい、「HERO'S」のスーパーバイザー・前田日明も、PRIDE統括本部長だった髙田延彦も、桜庭和志もプロレス出身なんだよぉ!?

横山&山田 ……（絶句）。

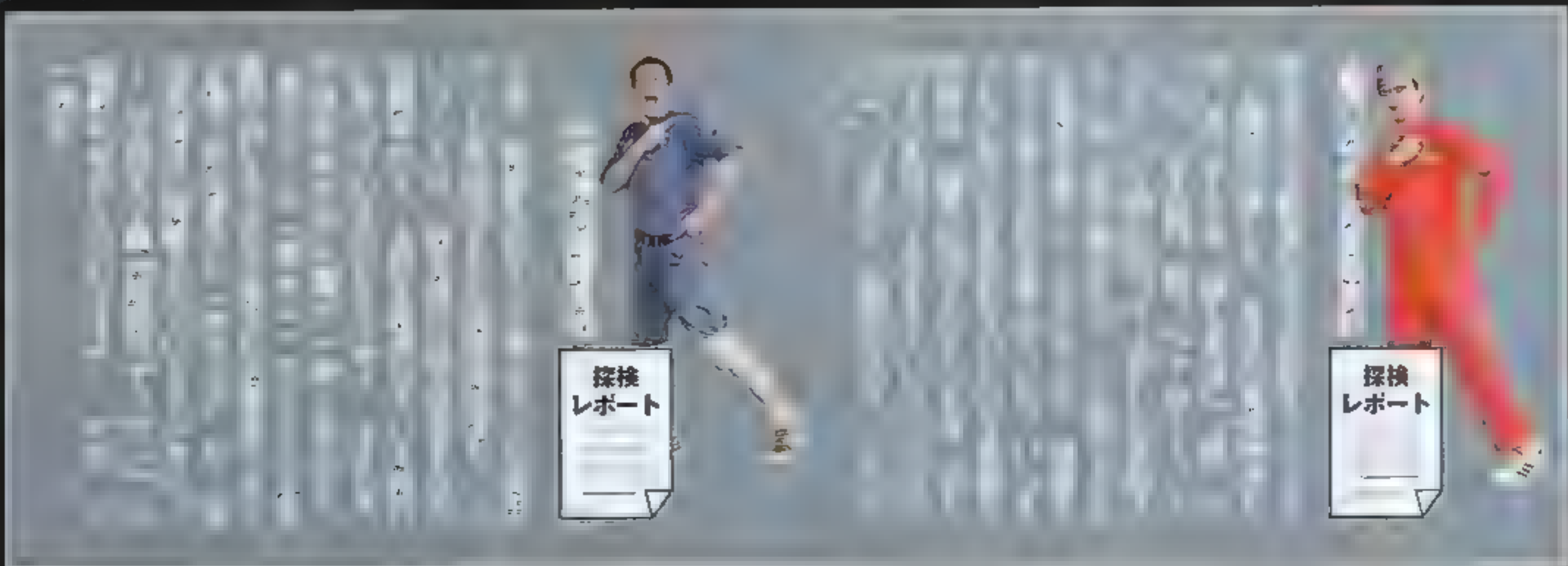
GK は、反応がない……。まさか、これほどまでにプロレスが若い世代に伝わっていなかったとは（ガックリと肩を落とす）。

小松 今回の探検はかつてない敗北感に満ちあふれていますね、隊長……。

【07年11月4日／東京・ゴールドジム・サウス東京アネックスにて収録】

「HIROYAクンと闘ってみたい」（山田クン）
「大晦日？　一回は試合してみたい」（横山クン）

よこやま・だいすけ■1989（平成元）年10月12日、神奈川県藤沢市出身の18歳。クロスワンジム湘南所属。現在高校3年生で受験勉強も佳境に突入。「ZST.14」での泣き顔に年上のお姉さまファンが急増中らしい。173cm、61kg。

やまだ・てつや■1990（平成2）年4月2日、神奈川県横須賀市出身の17歳。しんわトータルコンバット所属。11月23日には特別グローブ着用ながら打撃ありのZSTルールでの試合に出場、宮川武明と対戦している。177cm、69kg。

“移籍”というよりは、“亡命”です!!

渦中の男が語った、無我離脱の“全容”

西村修

無我ワールド・プロレスリングのエースだった西村修がこの秋、全日本プロレスへ電撃移籍！ 常識的な言動で知られる西村による非常識な行動だっただけに、その衝撃度はプロレス界を駆け巡った。無我を誰よりも愛した西村にいったい何が起こっていたのか？ その真相に迫る直撃インタビュー！

聞き手／真下義之 撮影／吉場正和

移籍をした反応はもの凄いですよ！
批判が2万件で、いい話は3件ぐらい

――西村さん！　本誌NO・116では、ゴッチさんの素晴らしい思い出話をありがとうございました。

西村　あのゴッチさんとワインを飲んでる写真、よかったでしょ？（ニッコリ）。

――ええ、最高でした！　……ただあの号が出た直後に無我ワールド・プロレスリング（以下、無我ワールド）から全日本プロレスに電撃移籍されてしまって非常に驚いたんですけど（笑）。

西村　あぁ、ホントにあの時期は〝怒濤の日々〟でしたからねぇ……（と遠くを見つめて）。

――あの〝常識的な西村修が非常識な行動を起こした〟という意味で、さまざまな反応があると思いますけど。

西村　反応？　反応はもの凄いですよ！　批判が2万件に対して、いい話は3件ぐらいですからね。

――2万対3！　そこまで誹謗中傷の嵐でしたか（笑）。

西村　ただね、プロである以上、行動は起こさないとダメですし、とくに私は98年にガンを患って「命、時間はいつかなくなる」ということを26歳にしてハッキリと思い知らされましたから。

――そこで危機感を煽られた、と。ただ西村さんも最初は「無我ワールドを大きくしたい」という気持ちが強かったと思いますけど。

西村　そうですねぇ。無我ワールドには結果的にプロレスのうまい職人肌の選手が集まったじゃないですか。

――クラシックスタイルに適応できる人ばかりですよね。

西村　飛んだり跳ねたりが主流のいまのプロレス界で時代の逆をいくムーブメントを作れる、という自信があったんです。さらにプロレスの原点である日本人vsガイジン路線もやっていこうと思ってました。

インタビューは、西村も初めて訪れた全日本プロレスの道場内で、「最強タッグ」のパートナー・渕正信との公開練習のあとに行なわれた。取材中は全日本プロレスのTシャツを着込むなど「心はすでに全日本の一員」をアピール。

――試合も闘いの構図もすべて原点回帰。

西村　ところが、だんだん無我の興行規模が縮小してきてしまった。ガイジン選手も思うように呼べない状態になってきちゃってね。

――でも、今年の4月にはチャボ・ゲレロを呼んだりもされてましたけども。

西村　いやあれもね、裏があるんですよ……。あのときホントはドリー（・ファンク・ジュニア）さんを呼ぶハズだったんです。じつはドリーさんでほぼ本決まりの状態で、私がアメリカに最後の交渉に行ったんです。

Osamu Nishimura

――かなり現実的な話だったわけですね。

西村　ところが最終的には条件がクリアにならなかった。それでフロリダでたまたまチャボさんの弟のヘクター・ゲレロに会ったときに、チャボさんの連絡先を聞いたんです。それで電話をしたら「そろそろ引退を考えてる」という話だったから、会社側に話して「引退ツアーをやろう」ということで急遽招致できたんです。

――ちなみにドリーさんのクリアできなかった問題というのは、ズバリ金銭面でしょうか？

西村　まぁ、そうですね。……ただいまの時代、名前がある人を呼んだからって集客につながらないですからそこも難しいんですよ。加えてガイジン選手は飛行機代もかかる。でもいままでビジネスクラスに乗って来ていた人に「エコノミーで」とは言えないし、そう言った瞬間に「行かない」となるわけです。

――〝レジェンド〟級のレスラーに「エコノミーで」とは言いづらいですよね。

西村　会社も「そこまでしてガイジン選手を呼ぶことはない」という方向性になった。無我ワールドは進めば進むほど、求心力は小さくなりましたね。

――規模の縮小で、徐々に気持ちが萎えてきてしまった、と。

西村　それにね、金額は言えませんけど無我ワールドでの私や田中さんのギャラを聞いたら、1億3000万の日本国民が「ウソだろーっ!?」と仰天しますよ！

――1億3000万の日本国民が驚くほどですか（笑）。

西村　そして新日本プロレスを辞めた時点で私が持っていた貯金もほとんど無我ワールドにつぎ込んでしまったんです。

――西村さんは無我ワールドの地方興行を買って、自分のお金で営業をしていたとうかがってますけど、そこまでつぎ込まれてましたか。

西村　ええ。結果的に貯金はかなりのマイナスになってしまったけど、そこまでいっちゃうと逆に悟りに近い心境にもなりましたね。「それでも私は五体満足じゃないか」とか。

――そういう意味でいうと、千葉の無我道場はじつは西村さん個人で借りていた、という話がありましたよね。

西村　ええ。私は新日本時代から千葉に別宅を持ってたんです。その近辺に偶然、谷津（嘉章）さんのSPWFの道場があって、そこに谷津さんの生徒がいたんです。それで「私が練習を教えるから道場を使わせてくれ」と谷津さんにお願いしたんですよ。

――もともとは谷津さんの道場だったんですね。

西村　その道場の存在を無我ワールドに話したら、会社側の了解も出て、借りることになったんです。ただ実際問題、合同練習とかでレスラーが集まったときに「いくらなんでも遠すぎる」という声も上がってきたんです。

――確かに千葉は遠いですからね。

西村　そこで私も引き下がって、私の個人の道場として引き続き借りていたわけですよ。ただし！　唯一腹立たしかったのは都合のいいときだけ会社がマスコミに〝無我道場〟と言っていたこと。その一点に関しては文句を言いたい！

——僕らもあれは〝無我道場〟だと思ってました。

西村　とんでもありません！　ただ私は借金が莫大になろうとも会社に一言も文句を言ったことはないですよ。会社の苦しい台所事情もわかっていましたし。それに自分は「無我ワールドをどうにかしたい」と常に試行錯誤してましたから。たとえば興行を台湾でやれないか？　という可能性を探って、台湾まで市場調査してますし。そこで台湾マフィアとも交際を持ちましたから！

——台湾マフィアと!?

西村　ええ。それで軽い軟禁状態にも遭ったりもしましたし、もちろんアメリカでも動いてましたしね。

——そうなんですか。ちなみに社長の藤波さんとの関係はどうだったんでしょうか？

西村　そこはねぇ……ずっと一緒ですよ（と小さい声で）。

——西村さんは無我ワールドのマッチメイクには関わってなかったんですか？

西村　マッチメイクは吉江（豊）とヒロ（斉藤）さんですね。私はガイジン選手のビザと航空券担当です。ただ、このビザ取得が大変なんですよ！　私は大剛（鉄之助）さんからビザの取り方から何からぜ〜んぶ教えてもらいました。いまや日本大使館にもコネクションがありますから。

06年8月3日に後楽園ホールで開催した無我ワールド・プロレスリングのプレ旗揚げ戦で「真のプロレスを追求します」と選手を代表して挨拶したのはドラゴンではなく西村。だがリング外の決定権はあくまでドラゴンが掌握していたことで"迷走"が加速していった模様だ。

——新日本プロレスの名ブッカーだった大剛さん直伝。しかし、無我ワールドの旗揚げに関わった西村さんが、なぜ経営側には加われなかったんでしょう？

西村　じつは無我ワールドを立ち上げるときに、田中（秀和リングアナ）さんと私と藤波さんで「みんなの会社を立ち上げましょう」と話をしたんです。それがフタを開けたらなぜか藤波さんの個人会社になっていたんですよ……。

Osamu Nishimura

——噂では「最初は西村さんが無我ワールドの社長になるはずだった」という話もありますけど……。

西村　本当です！（キッパリ）。

——そうなんですか!?

西村　ただし口約束でしたけどね。会社設立の話をしているときに「俺はいいから、代表はおまえがやれ！」と藤波さんがキッパリおっしゃった。

——え〜と。それがどうして藤波さんが社長になったんでしょう？

西村　さあ……（と首をかしげて）。

——途中で「やっぱり俺がやる」という連絡はなかったんですか？

西村　まったくなし！（キッパリ）。いつ会社登記したのかも知らないですからね。で、その件に関して私と田中さんの目が点になって10分間固まったことがあるんですけどね。

——10分間も!?

西村　ええ。昨年の8月2日、無我ワールド後楽園大会のプレ旗揚げ戦のときのパンフレットを開いたら、その1ページ目に「ご挨拶」と書いてあって、そこに「〝代表取締役社長〟藤波辰爾」と書いてあったわけですよ。

——え〜っ！　じゃあパンフを開けて初めて、社長が藤波さんだってことを知ったんですか!?

西村　はい……。まぁ、そこからはどうしたってトーンが落ちますよね。私と田中さんはなんのために新日本プロレスを辞めて、藤波さんが来るまで7ヵ月間も旗揚げを待っていたのか。

西村修移籍騒動

西村修、まさかの電撃移籍！プロレス界を震撼させた、この〝シュートな〟騒動をプレイバック！

10月2日(火) [illegible]が移籍騒動の震源地!? 西村修が全日本プロレス社長・武藤敬司とサムライTVの番組「武藤敬司☆SHOW」で対談収録。番組では西村が神妙な顔で「自分は〝どん底〟に落ちてまでプロレスをしている」と告白し、「おまえ、暗くなったなぁ〜」と武藤が心[illegible]

10月16日(火) ハッスル・ハウスvol.30 後楽園大会[illegible]ラム・ラマが「ムガール帝国の[illegible]」とムガール帝国への[illegible]まれている〟事態とは誰も想像していなかった[illegible]

10月17日(水) [illegible]

10月18日(木) 西村ついに動く！ 無我ワールド後楽園大会に出場した西村は高岩竜一（ZERO1-MAX）との試合後にタイツ姿のまま地下駐車場へ直行し愛車で[illegible]全日本プロレス[illegible]の行動を把握しておらず、ドラゴンも「何も聞いてない……」と困惑しきり。

10月19日(金) 全日本プロレス[illegible]10時から[illegible]例の会見を緊急開催し、西村修と征矢学の全日本プロレスへの入団を電撃発表！ 西村は移籍の理由として試合数の[illegible]していない」と無我ワールド&ドラゴン批判を展開！[illegible]

10月19日(金) 無我ワールド[illegible]見解を発表[illegible]けのリリースで「西村修の移籍に関しましては、とに申し上げることは「ございません」「旗揚げ以来、本当の[illegible]

10月27日(土) 「前向きに明るくやっていく！」 西村[illegible]無我ワールドの吉江豊とヒロ斉藤が初の記者会見[illegible]ヒロ斉藤、同副会長・吉江[illegible]たく問題ございません」と極めて大人の対応を表明[illegible]

10月29日(月) [illegible]我から文句を言ってきたヤツは誰もいない。情けないよ[illegible]戦争する気があるなら10人は用意してほしい」と一方的に10対10の全面対抗戦をブチ上げ[illegible]だが悲しいかな無我側には10人も選手は[illegible]

11月1日(木) 吉江が〝10対10全面対抗戦〟をアッサリ否定[illegible]「過去を振り返るつもりはない」と挑発をスルリとかわし、地道な再建をアピール[illegible]」と手応えのなさに失望。

11月2日(金) [illegible]中の男[illegible]米国から帰国[illegible]10対10全面対抗戦[illegible]行動力のなさ[illegible]

――それは大ショックですねぇ。

西村　経営面に関していえば、そういうところにすべてが象徴されるんですよ。マッチメイクにしろ、営業戦略にしろ、経理にしろ。藤波さんの最終的な決断力っていう部分でどうしてもね……（と暗い表情で）。

――なんとなく想像はできますね。

西村　その一方、私はアメリカに住んでるのでイエス・ノーをハッキリさせたいタイプなんですよ。仕事を気持ちよくするために、細かい部分まで報告したり、キッチリと詰めておきたい。

――「言った、言わない」とかはイヤなわけですね。

西村　ただし、私が報告しても藤波さんの返答がいつもスローすぎるわけです。しかも一日経つとイエスがノーに変わってたり。それがノーになったと思ったら、最終的にイエスになったりして。

――ダハハハ！　そういうやりとりが何度もあったんですか。

西村　何度というよりは日常茶飯事！　これも最後は一切文句を言わない"悟り"の境地までいきましたから。

――そういう中で、西村さんは他団体にも出るようになりましたね。

西村　昨年、私はたまたまアメリカでWWEのバックステージを見学したんですよ。その頃は無我で興行も買っていたので、照明や音響にいくらかかるとかが全部わかってるわけですから、バックステージの見方が違うわけです。

――つまり作り手側に立って見られた。

西村　そこで大感動しちゃった！　話を聞いたらステージだけで1000万円かかるっていうんだから。『レッスルマニア』ならわかるけど、普通の『ロウ』の収録ですよ！

――毎週やっていることだ、と（笑）。

西村　会場では2万人ものお客さんが興奮しまくってるわけですから。巨大なカルチャーショックを受けたし、無我ワールドの集客が減っていく中、ドラゴンゲートやDDTは後楽園が埋まっていると聞くと「無我ワールドには何が足りないのか？」と考えるわけです。そこでほかのリングにも上がってみようと。

――その流れで『ハッスル』登場になるわけですか？

西村　じつはね。これも一番最初は、『ハッスル』から藤波さんにオファーがあったんですよ。

――あ、そうなんですか！？

西村　ただ、そこで藤波さんはオファーを断ったんです。「まだ、時期尚早だ」というニュアンスで。そのあと、私に話が来たわけです。

――時期尚早！　そこでもキッパリとは断らなかったわけですか。じゃあ西村さんはいわば藤波さんの代役として出られた、と。

西村　加えて、私が『ハッスル』に出るときに「話を聞いた、聞いてない」なんて話もありますけどこれも9月1日の『蝶野王国』幕張大会に無我ワールドとして出場したときに控室で選手みんながいる前で、藤波さんにきちんと言ってます！

――あ、皆さんのいる前で。

西村　ええ。そこで藤波さんからは「楽しんでこい。みんなが行けるような道も作ってきてくれ」とまで言われましたから……。それはともかく、私は『ハッスル』にもの凄いカルチャーショックを受けたんですよ。あの観衆とあの盛り上がりに驚かされたし、完璧に観客との対話、駆け引きをする空間ということで自分自身、非常に納得できたんです。

――まさにWWEを観たあとの延長上みたいな感じですね。

じつは最初に『ハッスル』からオファーがあったのは藤波さんだったんです

10月18日に無我ワールドの会場を脱走し、全日本プロレスに"亡命"をはたした西村。リング上では騒動の"仕掛人"武藤社長が握手で歓迎。武藤社長は翌日の西村移籍会見でも決して悪びれることなく「これだからプロレスはおもしれぇよな！」と不敵に言い放っていたのだから最高だ。

西村　それと『ハッスル』に出たことで、よけいに無我ワールドの問題点も見えちゃったし、それだけじゃなく『ハッスル』に出たことで無我ワールドのスポンサー関連から批判が来たわけです。

――ただ、おかしいのは後藤（達俊）さんや、長井（満也）さんもミッヤーマンで『ハッスル』に出てますよね。田中リングアナにいたっては常連ですし。

西村　後藤さんと長井さんは、DDTで（ポイズン澤田の）呪文で動けなくなったりもしてますし（笑）。もちろん旗揚げの経緯を考えたら「無我ファンに申し訳ない」いう気持ちは少しはありましたけども……。

――ただ『ハッスル』出場に至るまでには、さまざまな紆余曲折があったわけですからね。

西村　ええ。そこでクレームがあっても、自分の考えが変わるわけじゃない。逆に「私が出ることでクレームがつくなら、私が抜ければまた元どおりになるんじゃないか？」とまで考えちゃったんです。

――完全に煮詰まってきた、と。ただ西村さんは辞める前に選手を集めて決起集会をやってるんですよね。

西村　ええ。それにその前にも「どこかに戦争を仕掛けないと、生き延びる道はない！」と選手にハッパをかけたこともあるんです。そこで私は「ヒートアップできるのは『LOCK　UP』じゃないか？」と提案もしたんですよ。

――西村さんが"絶対に許せない"長州力の『LOCK　UP』と対抗戦!!　それは確かにおもしろそうですね。

西村　ところが無我ワールドの選手は新日本へのアレルギーがもの凄い。みんな悩み込んじゃうだけで、ノーリアクションなんです。

――なるほど。でも西村さんはホントにあの手この手を尽くしていたんですね。

西村　あと私が無我のミーティングに一度も出たことがない、なんて話もありますけど。そのミーティングだって2時間あったら1時間50分は藤波さんの「いかに会社が厳しいか」という話ですから。

――ツラそうですねぇ。

西村　私も場の雰囲気を変えなくちゃいけないから、わざと遅れて行ったり、わざと酔っぱらって行ったりもしましたね。

――そこまでしてましたか（笑）。それで、いよいよ移籍する10日前、クーデターを提案するために選手を集めて決起集会を行なったんですね。

西村　いままで話したような"自分の考え"を簡潔に話しましたし、あとは征矢（学）の移籍についてもみんなに提案したんです。

――そのときに、征矢さんの全日本プロレス入りの件を話したんですか。

西村　そうです。「彼のキャリアを考えたら、無我ワールドにいるよりも全日本に入ったほうがいい」と。そのときもノーコメントでしたね。

――誰も何も言わなかった、と。

西村　悲しいけど、どうしようもないから何も言えないわけです。さらにそのとき私は「フリーでやろう」と思ってましたから「みんなでフリー宣言しましょう！」と提案したんです。ヒロさんにも「あなたは素晴らしい選手だから、ほしい団体はどこだってある。この団体だけでどこまで行けるんですか？」とズバリと言いましたよ。

――それに対してヒロさんは？

西村　ノーコメントですね。あとは「3

年間は頑張ろう」という意見なんかもありましたけど、私はそのスローさにはもう耐えられない！ 病気をしていなかったら付き合ったかもしれないですけど。

——最初は、「フリーになる」という可能性もあったわけですか？

西村 ええ、それに『ハッスル』に行くという選択肢もあったんです。

——え〜っ！ 『ハッスル』入団ですか？

西村 私は『ハッスル』を拠点に全日本プロレスにも参戦している川田（利明）さんみたいな立場になりたかったんですよ。ただ、これも運命的なタイミングで……。じつは『ハッスル』の山口（日昇）社長に「10月16日の『ハッスル』後楽園大会のあとにミーティングしましょう」と話をしてたんです。ところが山口さんは10月16日の〝試合後〟じゃなくて〝16日以降〟だと思われていた。そのあとはもうまくタイミングも合わなくて話せなかったんですよね。

——それで最終的に全日本プロレスに気持ちが動いた決め手はなんだったんですか？

西村 じつは17日の夜には武藤（敬司）さんと会って話をしたんですけど、その場で「おまえがフリーで来るんなら、全日本は受けない」とキッパリ言われたんです。「団体に所属するんだったらいい」と。さらに「18日に（移籍の）行動を起こせるか？」ともおっしゃった。

——18日というのは無我ワールドが後楽園大会、全日本プロレスが代々木第2体育館で同じ時間帯に興行をしてましたけど……。そこで全日本プロレスにそのまま来い！ と。

西村 ええ。ホントに激動の日々でしたねぇ。その17日の武藤さんとの話し合いが終わって、夜中の3時まで私と征矢の二人きりで「どうするか？」と話し合いましたから。

——はぁ〜。それで結果的には翌日の18日に行動を起こした、と。

西村 ただ「行動を起こす」といっても、これも運命的で無我ワールドと全日本は30分の試合開始時間の差しかなかったんです。しかも、当日は高岩（竜一）とのシングルマッチだったんですけど、そんなときに限ってロングマッチになっちゃった（笑）。だから終了のゴングが鳴った瞬間、私は後楽園の時計をパッと見てるんです。

——ダハハハ！ そこまで急いでたんですね。

西村 ホントに急いでたんですよ！ それで脱兎のごとく会場を飛び出して、車を飛ばして代々木第2体育館に行ったんだけど、車に乗ったらまずは渋滞情報をバーッと調べて（笑）。

——まずは渋滞情報を（笑）。

西村 だって高速に乗ったのはいいけど、トラックの横転事故かなんかで渋滞していたら、私の人生終わりですよ！

——ダハハハ！ しかし武藤さんもムチャを言いますねぇ。

西村 う〜ん。ただ「素晴らしい感性だな」とも思いますよ。だってその一連の行動は全部、完璧にシュートですからね。それにホントは征矢が第一試合だったら、征矢も一緒に全日本に連れていくハズだったんです。

——あのとき征矢選手はメインの試合に出ていたから、連れていけなかった？

西村 ええ。だから真相を知っていた征矢は恐ろしい心境で最後の（無我勢との）記念写真に写っていたと思いますよ（笑）。

——しかし西村さんは「こんな話はムチャだ！」とは思わなかったんですか？

西村 最初はムチャクチャだと思いましたけど、だんだん「おもしろいな」という気持ちも出てきた。……要するにね、もうプロレスファンは気持ちがシュートじゃないと何も信じませんよ！ （キッパリ）。

——シュートじゃないと信じない！ 確かにそういう部分はありますね。

西村 逆に筋を通して無我ワールドを円満退社しました、ラストマッチもやりました、と。そんなのはスキャンダル性も事件性もゼロじゃないですか。

——ええ、まったく興奮しませんよね。

西村 それに私にとって今回の行動というのは、移籍というよりは〝亡命〟だったわけですよ。亡命者に説得も納得もないわけでしょう。

「とにかく脱出するんだ！」と。それで、その亡命先となる全日本プロレスではどんなプロレスを見せていこうと思いますか？

西村 肩に力を入れることなく、ヒロ・マツダさん、トニー・セントクレアー、ドリーさんや（カール・）ゴッチさん、ジャック・ブリスコたちに教えてもらったプロレスを披露するだけです。そういうコーチには意外にも全日本プロレス経験者が多いから来るべきところに流れ流れてきたのかな、とも思うし。『最強タッグ』では渕（正信）さんがパートナーというのも凄く心強いです。……ただ、最後に一言だけ言わせてください！

——おっ！ もしかしてあの名ゼリフですか？

西村 今回の〝亡命〟は一般社会では絶対に通用しません！

——ダハハハ！ そりゃそうですね（笑）。

西村 とはいえ命というのはやっぱり限られたものなんですから、基本的には皆さんもおもしろく生きたほうがいいと思いますよ。

——わかりました。今回もありがとうございました！

【07年11月7日／全日本プロレス道場にて収録】

プロレスファンは気持ちが〝シュート〟じゃないと何も信じませんよ!!

Osamu Nishimura

にしむら・おさむ■1971年9月23日、東京都文京区出身。90年に新日本プロレスに入団。91年、飯塚孝之（現・高史）戦でデビュー。海外修行からの凱旋帰国後、後腹膜腫瘍の宣告を受けて長期欠場。手術後、食事療法や精神修行で病気を克服。06年に新日本プロレスを退団。同年に藤波らと無我ワールド・プロレスリングを旗揚げする。だが今年10月には無我ワールドから全日本プロレスに電撃移籍を発表した。186cm、105kg。

“型破り” マッスルの地上波列伝!?

マッスル坂井

地方局の深夜2時からの放送ワクにも関わらす、ジワジワと話題になっているのがマッスルの地上波放送『マッスル牧場classic』。“テレビ”というメディアを手に入れたことて水を得た魚のようにムチャなアイデアを続々と実現するマッスル坂井を直撃だ!

聞き手／真下義之

プロレスか？ 演劇か？ 試合中にスローモーションを取り入れたり、ドッキリや大喜利などの要素を入れたりと“プロレスの向こう側”を標榜している『マッスル』がこの10月から待望の地上波放送『マッスル牧場classic』(テレビ埼玉、以下テレ玉)をスタート!

地方局の深夜帯（毎週水曜日深夜2時〜）という条件下でありながらも、そのハチャメチャな放送内容が早くも話題を呼んでいる。

尺が足りない“時間稼ぎ”のためにエンドロールを何度も流したり、一般家庭のお茶の間で突然プロレスしたり、初の公開収録ではイベントの途中でお客さんを連れて“会場移動”する、という離れ業も展開ー『マッスル』が送る型破りなテレビ戦略と、制作にまつわる意外な裏側を“仕掛人”のマッスル坂井に聞いた!

――さて、坂井さん、地上波放送（『マッスル牧場classic』以下、『マッスル牧場』）がこの時点（10月24日）で4回ぶん放送されてますけど、率直な感想はいかがですか？

坂井 いや、地方局の深夜ワクということで、正直「反応はほとんどないだろう」とあまり期待してなかったんですよ（笑）。

――ま、普通はそう思いますよね

坂井 それに凄く期待された状況よりも、最初の『マッスル』の興行みたいに誰にも相手にされないくらいの状況から、ゆっくりスタートしたいと思ってましたし。

――この『マッスル牧場』はいわゆる試合中継じゃなく、基本的には『マッスル』の世界観をプチドキュメント的に伝えていく、毎回がオリジナルの番組ですよね。

坂井 ええ。ただボクらは予算をたいしてかけなくても「デジタルカメラ1台からスタートしよう!」と「それくらいで充分だ!」っていう気持ちもありましたからね

――予算がなくても関係ねぇ! と（笑）。さらに地方から人気に火がついた『水曜どうでしょう』のように、「埼玉発のムーブメントを仕掛けよう!」という目論みがあったと思いますが、実際の反応はいかがですか？

坂井 反応ですか？ フフフ。じつは4回目にして初めて番組でプレゼント募集をしたんです。メールでの募集だったんですけど……なんとー

地上波のワクは買ってるんですよ 極端に値段を下げてもらって(笑)

——なんと!?

坂井 放送後、12時間のあいだに7通ものメールが来ました！（と鼻をふくらませて）。

7通！ ……少なっ！（笑）。

坂井 いやいや、その中でボクが知ってる名前は1人だけ。メールを読むとあと6人は完全にガチ！ つまり『マッスル』ファンじゃなく、「いきなりチャンネルを合わせました」的な人がほとんどだったんです。某大学の芸術学部の学生さんは「こういう番組を待ってました！」と書いてましたしねぇ（と自信満々に）。

地上波効果で、未知なる視聴者をゲット！ 『マッスル牧場』では『マッスル』ファンよりも、「"対世間"を意識する」と言ってましたから、すべり出しとしては上々って感じですね。

坂井 ええ。それにボクらの番組に対する情報って、プロレスマスコミさんにはアピールしてもらってますけど、一般誌にはほとんど何も出ていないですから。こういうストレートな反応をもらうと、純粋に「やってよかったなぁ」と思いますね。

ちなみにこの番組って視聴率は出てるんですか？

坂井 いや、地方局は出ないみたいなんですよ。ホントは出てほしいんですけどね。「0・0何パーセント」とか（笑）。

——ダハハハ！ そういった状況にも関わらず、観た人の評判は非常に高いですね。ただテレ玉受信地域以外の人は「観たいのに観られない！」とイライラしてそうですけど。

坂井 それが、どういう方法か知らないけど、皆さん観ているみたいで……。

あ、動画サイトの『ニコニコ動画』にもアップされてますね。

坂井 上がってますねぇ……。でもボクらはやってませんよ！（キッパリ）。じつは制作費はDVDで回収しようと思ってるんで、ヒヤヒヤな部分もあるんです

はぁ～。そこらへんは寛容なのかと思ってました。

坂井 出したいは出したいんですけど……。基本的に深夜ワクのアニメと一緒の"製作方式"で、『マッスル』レギュラー陣の出演料や制作費はDVDにしたときのロイヤリティから捻出する予定ですから。だから、これでDVDが出なかったら最悪ですよ（笑）。

最初からそういう算盤勘定ありき、なわけですね（笑）。

坂井 僕らはなんとかTSUTAYAさんとかタワーレコードさんとかに並ぶようなDVDを作ろうという思いでやってますから。だからこそフリーの音源なんかを中心に使ってるわけなんですけど。

——考えてますねぇ～。

坂井 いやいや、この方法がうまく行かなかったらホントにマズイんですよ。とりあえずいまは3ヵ月13回の契約なんですけどね。

いわゆるワンクール契約なんですね。「ずっと帯番組としてやりたい！」ということじゃなくて。

坂井 基本的には自分たちで、自分たちがやりたいように作ってますから、体力的にもそこが限界ですし、それ以上はできないですよ。だから希望としては一年に3ヵ月くらいのスパンで放送しつつ、コツコツDVD化してやっていけたらいいですね。

ゴールが見えてるからこそできるわけですね。ちなみにテレ玉さんからの反応は？

坂井 う～ん、そこはわからないんですよねぇ～（と小声で）。もちろん担当プロデューサーの人には楽しんでもらってますけど。……というかそもそもこの番組はボクらが"ワクを買ってる"わけですから。

——あれ、そうなんですか!?

坂井 買ってるんですよ！ 極端にワクの値段を下げてもらって（笑）。

——じゃあ制作費は完全に『マッスル』持ち？

坂井 ええ ただ後楽園大会を連発したり、サムライTVさんで中継をやってもらったりしたことで『マッスル』の"社内貯蓄"があるんです。それを「番組の予算として使いたい」と去年から高木（三四郎・DDT社長）さんに相談してたんです。よく「『マッスル』やって儲かるの？」って言われるけど、『マッスル』がやりたいことはできるようにはなるワケです。ま、個人的には儲からないけど（笑）

はぁ～ そういうからくりだったんですか

坂井 まあ、テレ玉さんと一緒に番組を作る、という選択肢もあるけどDVD化するときにパーセンテージがかかってきますから

考えてますねぇ～。この策士！

坂井 いやいや（笑）。規模は小さいけどある種のコンテンツビジネスというか（笑）。というのも『マッスル』の登場人物であるMr・マジックの中の人は、某テレビ局のコンテンツ事業部に勤めてるんですよ

ほう、コンテンツ事業部というとテレビ局のドラマやバラエティ番組をDVDにするお仕事ですね

坂井 ええ、彼は●ニーキャニオンとかビ●ターとか、いろんなDVDの販売会社をよ～く知っているわけです。そこで一番ボクらに興味を持ってくれそうなところを紹介してもらおうと思って、フフフフ。

——つくづく策士だなぁ～。ちなみ

放送コードギリギリ？ 『マッスル牧場classic』第1回放送では、本編の残り15分という時点でいったん番組が終了!? そのまま止め絵となって「ちょっと短かったかな～」「映像の納品が早すぎる」と鶴見亜門とマッスル坂井がボヤキ続けるという前代未聞の展開に賛否両論が爆発 だがこういった反応も含めた"実験的"な表現こそ『マッスル』の真髄でもある

第1回放送 マッスル地上派初進出！

第1回にしてもっとも破天荒な構成の回。オープニングこそ「『マッスル』とは何か？」を簡潔に説明する映像が流れたもの、そのあとはレスラー、鶴見亜門らへの簡単なインタビューなど約10分で本編終了 残りの時間はエントロール（写真左上）を繰り返したり、止め絵のまま深夜ラジオよりのフリートークをたらたら流したりと、あまりにも適当ながら、凄まじく実験的な内容で視聴者を驚かせた

第2回放送

アントー_オ本多と男色ディーノがプチ旅行する回の前編 向かったのは なんと緊張の中泊めてもらえるハズもなく、さいたま市に移動して若い夫婦の自宅におじゃまする 古着商や料理、DJなど多趣味な旦那さんはボブ・マ ノーの直筆（？）お皿を大事にするナイスガイ。食事をごちそうになった 人はお礼にお茶の間でプロレスを披露 赤ちゃんの眼前でチョップ交換など異常な光景が展開

に構成、台本、演出、編集をすべて坂井さんがやっているんですか？

坂井　いや、ボクは構成と台本をやって撮影と編集は別のスタッフですね。『マッスル』の映像から『新日本プロレス』のDVD、吉本興業のライブ映像まで幅広く手がけている佐古（俊介）くんという人なんです。

でも構成作家とかは入れずに、一人だけでやってる？

坂井　ねぇ……？　いてもいいと思うんですけど（笑）。

興行や試合と重なってくると、締め切り的に危険な予感もしますけど。

坂井　危険ですよ！　ただ放送にもアタリハズレがあってもいいくらいの気持ちでやってますから（笑）。

そういう意味では第1回ではいきなり敷居を下げた感がありますね（笑）。エンドロールを何回も繰り返したり、画面を止め絵にしたまま深夜ラジオみたいなフリートークを延々したり、という非常識かつデタラメな内容で驚かされました。

坂井　いや〜、アレはけっこういろいろなとこで怒られたんですよ、個人的には怒られる理由はよくわかんないですけど。DDT周辺でも「もっとちゃんとやれ！」って声があったけど、そういう気負いがダメになる原因だと思うし。

個人的には最高でしたけど、「ここまでやって大丈夫なのかな？」とは思いました（笑）。

坂井　ボクはできれば、ああいう奇抜なもののほうがやりたいというか。〝脱構築的〟なことを（笑）。テレビというワク組を、破壊して、そこからテレビというものはどういうものなのか、再発見する的な感じで。まぁ、あれが第1回だったからテレビ局の放送の審査のほうからは、一切何も言われなくなりました（笑）

——ダハハハ！　その第1回目もオープニングだけは「『マッスル』とは何か？」を簡潔に説明してましたね。『ハッスル』の番組『どハッスル!!』（テレビ東京系）の第1回と比べても、「オープニングだけはわかりやすかった」という声がありますし。

坂井　あ、ボクはいま『どハッスル!!』がかなりおもしろいんです。あれこそ『ハッスル』の本質をとらえてますよ！

まっする・さかい■本名・坂井良宏。1977年11月5日、新潟県新潟市出身。DDTプロレス中堅レスラーにして「マッスル」の主宰者として絶賛活躍中。DDTの映像やグッズ制作を行なうDDTテック社長の顔も持つ。186cm、120kg。マッスルHPアドレス→http://www.ddttec jp/muscle/index.html

——『どハッスル!!』をそこまで評価されてましたか（笑）。

坂井　ええ。要所要所で気になる部分はありますけど（笑）。方向性としては完璧でしょう。ボクが大学生なら絶対にハマるでしょうし、バラエティ番組のフォーマットを使いながら、『ハッスル』が伝えたい部分は全部伝わってる。もう興行もいらないですよ！

——ダハハハ！　大会も必要なし！

坂井　4回目のタイガー・ジェット・シンと（アブドーラ・ザ・）ブッチャーが芸人にドッキリを仕掛けるっていうのは完全にプロレスの領域ですよ。しかもユリオカ超特Qさんとかバッファロー吾郎さんとか、プロレス好き芸人たちがドッキリされる側にいるんだから、バラエティ番組というかたちを借りたプロレスですよ。

「撮りビデオグランプリ」という企画の審査員に佐藤大輔さんを呼びたい

——確かに『ハッスル』の世界観そのものですね。

坂井　ボクはいまテレビでおもしろいのは、極端にプロレス的な演出をする番組か、極端にシュートな演出をする番組かだと思ってますから。でも『どハッスル!!』はあんなに吉本興業の芸人さんが出ていたらDVD化は難しいんじゃないですか？　その点、ボクらは〝著作権フリー〟の出演者がほとんどですから（笑）。

そこも著作権フリー（笑）。その〝バラエティ番組というかたちを借りたプロレス〟という意味では、『マッスル牧場』2回目の『埼玉に泊まろう』も最後は一般家庭でプロレスをおっぱじめるという凄い内容で。

坂井　テレビで「最後に何かやらなきゃいけない！」という場面でプロレスってピッタリだと思うんです。

それで、赤ちゃんもいる一般家庭のお茶の間で、突然プロレスをしたわけですか（笑）。

坂井　そこでプロレスですよ！　ボクは世の中のさまざまな問題や既存のテレビ番組では解決できない部分はすべてプロレスを使えば解決できる、と信じてますから（笑）。だから『マッスル牧場』は世の中に対してプロレスというジャンルの再プレゼンテーションのつもりもありますね。ホントは毎週あれだけでもいいくらいですから（笑）。

——この回からラストにプロレスが入るのが定番になっていきますね。

坂井　そこは最初から考えてました。どんな入り口でも最後は必ずプロレスをやるというのは。

——ワクを買っているとはいえ、いまの坂井さんは地上波放送を手にして、〝水を得た魚〟というか、より自由なことができていると思うんです。先日行なわれた新宿ロフトプラスワンの公開収録の途中で〝会場移動〟するっていうムチャなアイデアも驚かされましたし。

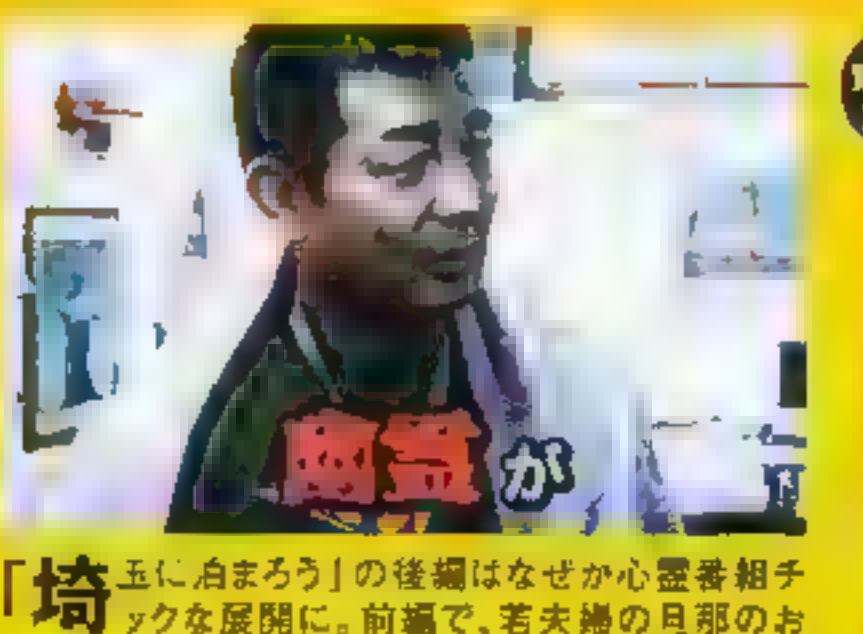
坂井　ロフトプラスワン側がなぜ〝会場移動〟がオーケーだったか？というと1500円のチケットが150枚完売してましたし、お客さんが最初のワンドリンクを頼むと「充分にペイラインに到達する」という読みもあった。それにさすがロフトプラスワンだけあって、こういうムチャは大好きなんです（笑）。

——さすがは〝サブカルの聖地〟！

坂井　『マッスル』を応援してくれる人は商売抜きで〝お祭り〟好きな人が多いですから。そこは悲しいとこ

第4回放送

[illegible]の未確認生物 アラカワールを追え！

「傑作」という評価も高い第4回は、マッスル坂井、酒井一圭、趙雲子龍が、さいたま未確認動物研究会（SMDK）の依頼で、「荒川に棲息するという未確認生物"アラカワール"を捜索する」水曜スペシャルチックな内容。だが、依頼者のSMDKは捜索もせず、なぜかソーセージだらけの弁当を食べながらノンキにソーセージ談義に夢中。この態度に酒井がブチキレ！　アラカワールは実在するのか？

第3回放送

埼玉に泊まろう 後編

「埼玉に泊まろう」の後編はなぜか心霊番組チックな展開に。前編で、若夫婦の旦那のお皿を割って逃亡したディーノとアントンは、埼玉の知り合い「マッスル」のペドロ高石家に向かう。だが新築中の高石家で「幽霊が出る」という噂を聞いた二人はお化け退治を決意。ここでマッスル坂井は急遽、番組の企画を変更！　"幽霊役"として呼んでいたユニオンの大家健への逆どっきり企画をプランする。

ろでもあるんですけど（笑）。新宿FACEの人もおもしろがってくれましたし、あと大きかったのはゲスト出演してくれた666さんですね。

――ハードコアレーベル『殺害塩化ビニール』のバカ社長・クレイジーSKBが主宰してカルト的な人気を誇る〝暗黒プロレス組織〟666が全面協力でしたもんね。666とのコラボなら、後楽園ホールでも成立したと思うんですけど。

坂井　そこをあえて150人限定の公開収録だけでやるのがおもしろいかなって。主宰のクレイジーSKBさんに「こういうことがやりたい」と相談したときも一瞬でわかってくれましたし。あの人のモチベーションも「いかにお客にショックを与えるか？」だし、「インディーズじゃなきゃ、できないことをやる」という意識が凄く強い人ですしね。僕らよりも500倍くらいわかってる人ですから。

――なるほど。それで今年はもう『マッスル』はないですけど、『マッスル牧場』に集中するような意味合いもあるんですか？

坂井　いや、それはないですね。でも1月の頭に大会があるから、12月はそれでいっぱいでしょうし。今後はとりあえず、『煽りビデオグランプリ』っていう公開収録をやろうと思ってます。

――『煽りビデオグランプリ』！

坂井　ええ。〝AVオープン2007〟というタイトルで。これはプロレスの煽りVTRに限定して、「誰が一番プロレスを煽れるのか決めよう！」と（笑）。参加するのはボクや『大日大戦』（大日本プロレスの番組）のディレクターの方、サムライTVの方とか『ワールドプロレスリング』のディレクターとか。ボクの知っているプロレスの映像関係の人にお願いして「ヨーイ、ドン！」で、一斉に煽りビデオを作ってもらって、誰が一番凄いか決めるイベントですね。でもいまのところ誰にもちゃんと声をかけてないんですけど。

10月23日、〝暗黒プロレス組織〟666をゲストに招いた『マッスル牧場』公開収録より　新宿ロフトプラスワンから新宿FACEへの〝会場移動〟では666の裏方スタッフも積極的に動くなど、まさに全面協力!!　坂井も「あのスタッフ、丸ごとほしい」とその団結力に感心しきり

――誰が一番煽れるか決めればいいんやー！と。

坂井　その審査員としてぜひとも佐藤大輔さんをお呼びしたいなぁ～と思ってるんですけど（笑）。もしくは佐藤さんにその回のエンディングを作ってもらうのが一番いいんですが……。無理ですかねぇ？

――年末はお忙しいとは思いますけどね（笑）。でも興行でできないことを実験的に試すにはテレビの30分というワクはおもしろいですね。

坂井　ええ、基本的な姿勢としてはテレビのほうは〝実験〟なんですよね。ただし第1回の反応みたいに、深夜まで起きていてオンタイムで観た反応と、会社の休み時間にコソコソと『ニコニコ動画』で観た感想は違うから、そこは難しいんですけど。

――なるほど。でも『マッスル牧場』を観てて、これが坂井さんがホントにやりたかったことなのかな？と思ったんです。

坂井　う～ん。基本的には興行とスタンスは同じですけどね。いまは『マッスル』興行のほうが評判がいいのはしょうがないですけど、数を重ねたら『マッスル』の興行くらいのものを作れる自信もある。やっぱり興行もテレビも両方やりたいんでしょうね。

――でもこのままテレビ業界に行っちゃうって手もあるじゃないですか？

坂井　いやいや！　だってテレビの人からほめられたこともテレビの人から「テレビを作ってくれ」と言われたこともないですもん！　サムライTVの人くらいですよ。「なんかやってくれ」と言ってくれるのは（笑）。

――ダハハハハ！　でも噂によるとサムライTVさんから「大晦日に24時間放送をやってくれ」と頼まれたらしいですけど。

坂井　はい。一瞬そんな企画が会議で上がったみたいです（笑）さすがに今年の大晦日は無理ですけど、僕の中の〝片岡飛鳥魂〟（片岡飛鳥氏はフジテレビ系『めちゃ×2イケてるッ！』『FNS27時間テレビ』の総合演出）がうずいたのは確かです。まぁ、基本的にはすべて頼まれもしないのに勝手にやってるだけですし。さっきの666さんもそうですけど、やっぱりボクらのようなインディーズの特権というのは「やりたいことをやり通す」ってことだと思ってますから。

――そこは『マッスル牧場』も『マッスル』も同じですね。

坂井　昔も「映像やテレビを作りたい」という気持ちはありましたけど、『マッスル』をやるまでは、「自分たちで作ればいいんだ！」というような発想は全然なかったですからね。

――『マッスル』がすべての始まりであり、『マッスル』で培った自信があってこそ、というわけですね。

坂井　昔は「どっかにお金を出してもらうしかないんだろうなぁ～」という感じでしたから。こういうことは『マッスル』をやっていなかったら絶対にできなかったですよ。

――じゃあ、地上波放送で得たものは、『マッスル』に還元していく、と。

坂井　そうですね。とりあえず『マッスル牧場』に感想を送ってくれた人は興味を持ってくれたと思うんで。そこをドンドン広げたいと思います。

――じゃあみんなもテレ玉で『マッスル牧場』を観ろ、と。

坂井　『ニコニコ動画』でもいいんですけどねぇ。やっぱりDVDは特典映像とかで勝負するしかないかなぁ～（と困った顔で）。

――そこも頑張ってもらうしかないですね。ありがとうございました！

【07年10月24日／都内・DDT事務所にて収録】

第5回放送　PART1　初の公開収録 in 新宿

〝サブカルの聖地〟新宿ロフトプラスワンで初の公開収録を行なった『マッスル牧場』。だがDJ急行とセラチェン春山という『マッスル』に関係ない　人が仕切りだし、坂井らは怒り爆発。そこにDJ急行らのバックである〝暗黒プロレス組織〟666軍が乱入！『マッスル』総合演出の鶴見亜門も666に寝返り、まずはゲーム大会がスタートするが……。

第6回放送　PART2　初の公開収録 in 新宿

公開収録のPART2。前回ゲームに参加していた大家健が突如、自殺未遂。その原因が666が仕組んだ666万円の借金苦にあることを知った坂井は新宿FACEで666が行なう〝賭けプロレス〟での借金返済を決意。そこで坂井の口から〝会場移動〟が告げられ、半信半疑の観客を『マッスル』のレスラーが先導して新宿FACEに移動

第7回放送　PART3　初の公開収録 in 新宿

公開収録の最終回。一攫千金を狙った坂井だが元金ゼロの状態に。666側に借金して怨霊戦に挑むも、試合終盤、666の総帥・クレイジーSKBが乱入！　SKBの十八番の火薬攻撃が「FACEでは禁止」なことを逆手にとってCG処理の〝炎のラリアット〟を炸裂。「放送では燃えています」とカンペが出される中、会場は大爆発！　ラストは意外なオチ!?

kamipro books

"活字プロレスの哲人"
I編集長本・第二弾!

井上義啓・一周忌追善本
『底なし沼』
12月13日発売予定!!

B6変型判　予価=1,680円(本体1,600円+税)

プロレスとは——
底が丸見えの
底なし沼である
井上義啓

★『週刊ファイト』時代の激筆原稿再録
★『猪木は死ぬか!』
『不在証明 あるいは猪木へのレクイエム——』など、
Iワールド満載の"井上小説"再録
★新間寿 ★夢枕獏 ★元『週刊プロレス』編集長・佐藤正行
★井上義啓・姪 ★『kamipro』ラスト「喫茶店トーク」
ほか"底なし沼"な内容でお送りします。

"殺し"文句がプロレス心を熱く打つ!!
井上義啓・追悼本『殺し』絶賛発売中!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★殺しのI語録★アントニオ猪木
★水道橋博士★金沢克彦★井上義啓・姪★モンスター ほか

定価=1,680円(本体1,600円+税)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

"PRIDE消滅"後の

日本総合格闘技界

どうする?? どうなる??

主要4団体の首脳が語る

これが俺たちの進む道

旗揚げから10周年を前に、日本事務所の閉鎖が発表され、事実上の消滅が明らかになったPRIDE。このことは日本の総合格闘技団体にとっても無関係とは言えないはず。今回は"PRIDE消滅"後の動向について、GCM、パンクラス、ZST、DEEPといった主要な総合格闘技団体の首脳に、今後の動向を含め、ざっくばらんに話を聞いてみました。修斗をはじめ、その他の団体に関しては、また次の機会に。決して忘れたわけではありませんので、あしからず。

GCM

「PRIDEはK-1もウチも潰そうとしたけど、結局、自分のところが潰れちゃって。かわいそうだよね」

GCM COMMUNICATION,INC

GCMコミュニケーション代表

久保豊喜

「HERO'S」やUFCで活躍する宇野薫や岡見勇信を筆頭に数多くの選手を抱えているのが、今回登場の久保社長率いる株式会社GCMコミュニケーションだ。和術慧舟會東京本部をはじめA-3、RJWと全国各地にたくさんのジムを開きつつ、CAGE FORCEやDEMOLITIONなど多くの大会も手がける久保社長に、今後の動向を直撃してみました!

聞き手&撮影/阿修羅チョロ

くぼ・とよき■拓殖大学柔道部出身にして、現在はGCMコミュニケーション社長。CAGE FORCE、DEMOLITION以外にも、組み技イベントCONTEN DERS、女子総合イベントCROSS SECTIONなど、さまざまなイベントを手がけている。GCMオフィシャルブック「ヴィクトリアス」では「力の話」というコラムを好評連載中

久保 (聞き手の顔を見るなり)どういう風の吹き回し? ウチに話を聞きに来るなんて(ニヤリ)。

——いや、今回は〝PRIDE消滅〟後のGCMさんの動向を含めて、業界の事情通でもある久保社長に、いろいろとお話を聞かせてもらおうかと思いまして。

久保 事情通って、私はネットもあまり見ないし、申し訳ないけど、格闘技の雑誌も読まないから詳しくないよ(笑)

——あ、そうなんですか。

久保 うん。で、今日は何を話せばいいの? このあいだできた、ワールドビクトリーロードのこととか?

そのへんの話もお願いいたします。

久保 あそこって加盟したらお金もらえるの?(笑)。

——あそこというのは日本総合格闘技協会ですね。いまのところ、そういった具体的な話は出てませんね。残念ながら(笑)。

久保 修斗の若林(太郎・日本修斗協会事務局長)君も「修斗は加盟しようと思うんです」って言ってたよ(笑)。

へえ~。修斗が加盟するんですか。

久保 いやいや、ネタで(笑)。だから私も「いいねえ、そのギャグ」って言ったけど。「みんなで加盟しようか」って。だけどアプローチがないからね。手紙が来ただけで。

——それはどういった内容でした?

久保 「今後は話をしていきたいから、お時間をいただきたい」みたいな内容で。具体的なことは何も書いていなかったけど、それ以降は何も来ていない。だから、何がしたいのか全然わかんないもん。

——マスコミ的にも、いまは何がしたいのかつかめていないというのが現状ですね。

久保 それは(テレコを指差し)これが置いてあるからそう言ってるけど、ホントは全貌を知ってるわけでしょ?(ニヤリ)。

——いやいや、ホントにわかんないです。ボクが知ってるのは来年の2月に大会をやるんじゃないかってぐらいで。

久保 だって、もう会場は押さえてるでしょう? 3月に変わったようだけれど。

それは知りませんでした。

久保 でも、それはあくまでドリームステージ(エンターテインメント)って会社の内紛でしかないわけでしょ、ある意味。

——エッ、ワールドビクトリーロードの設立はドリームステージの内紛なんですか?

久保 いや、ドリームステージの内紛じゃなくて、PRIDEって大会の内紛だよね。

——それは、いわゆるスポンサーなども含めての話ということですかね?

久保 だから私たちには関係のない話。

——関係ないとはいえ、同じ業界の出来事ですし、関係ないこともないですよね?

久保 彼らはやり方を間違えてしまっていると思う。これが素晴らしいと思ったんだろうね。福田(富昭=日本総合格闘技協会会長)さんという方は、なんだかんだいっても、スポーツの世界でいうところの文科省関連のスポーツビジネスをよく知ってる。だからIOC加盟でIOCを目指すということを目標に挙げて、ある程度の加盟人数と参加競技人数なんかを数値に出せるようになると、援助してくれるシステムがあるから、それが狙いだと思う。

—そんな狙いがありましたか。まあ、過去にも福田さんはアブダビコンバットにも関わっていましたし、コンバットレスリングやパンクラチオンというのも、やられたりしてた方ですよね。

久保 安田(隆夫=ドン・キホーテ会長)さんや木下(直哉=ワールドビクトリーロード社長)さんという方もよく知らないけど、実際問題、J-ROCKの國保(尊弘)さんも関わっているという噂だよね?

谷川さんは代表としてもプロモーターとしても清濁併わせ飲めるところがホントに凄いと思う

—という声も聞きますね。実際、吉田選手はワールドビクトリーロードの旗揚げ戦への参戦は確実視されていますし。ただ、そういう声もありながら、このあいだの秋山選手の復帰後には谷川さんが「大晦日は秋山選手と吉田選手をやらせたい」みたいなことも言ってますけど。

久保 凄いよね、谷川貞治さんって。その意図がよくわかってるから、相手の力もちゃんと利用して共存共栄を考えられる。「2月にやりたかったらやればいいじゃないですか」って感覚だもん。それと、これは表立っては言えないけど、かつて敵対していた某関係者と会っても、「じゃあ一緒にやろうよ」って手を差し伸べられる男だからね。ホント、たいしたもんだと思うよ。

—そんな谷川さんとは、選手の交流も含めて、付き合いはもう長いですよね？

久保 長いね。嫌なこともいいことも、いろいろあったけどさ（笑）、日本では一番優れてるんじゃないの？ 代表としてもそうだし、大会のプロモーターとしても清濁併わせ飲めるところが凄いと思うし、見習わなきゃいけないよね。

—「ボクぐらい器量の大きい人間はいないよぉ！」みたいなことを自ら言ってのけますからね（笑）。

久保 ハッハッハッハッ！ でも間違いなくそう思うよ。あの人がいなくなったら、この業界は大変だろうな。

—大変でしょうね。大変といえば、ちょっと前の話になってしまいますが、前田日明さんのPRIDEに対する「ざまあみろ」発言に関しては、どう思われました？

久保 う〜ん……、「ざまあみろ」って言いたかったのは、代表者だった人間だったり、責任者だった人間に言いたかっただけだと思うし。だけど、あのタイミングって、じつは従業員がかわいそうなことをされたという状態だったから、言うタイミングを間違えちゃっただけだよね。

—PRIDEファンを逆なでしてやろうと思っての発言ではないですからね。

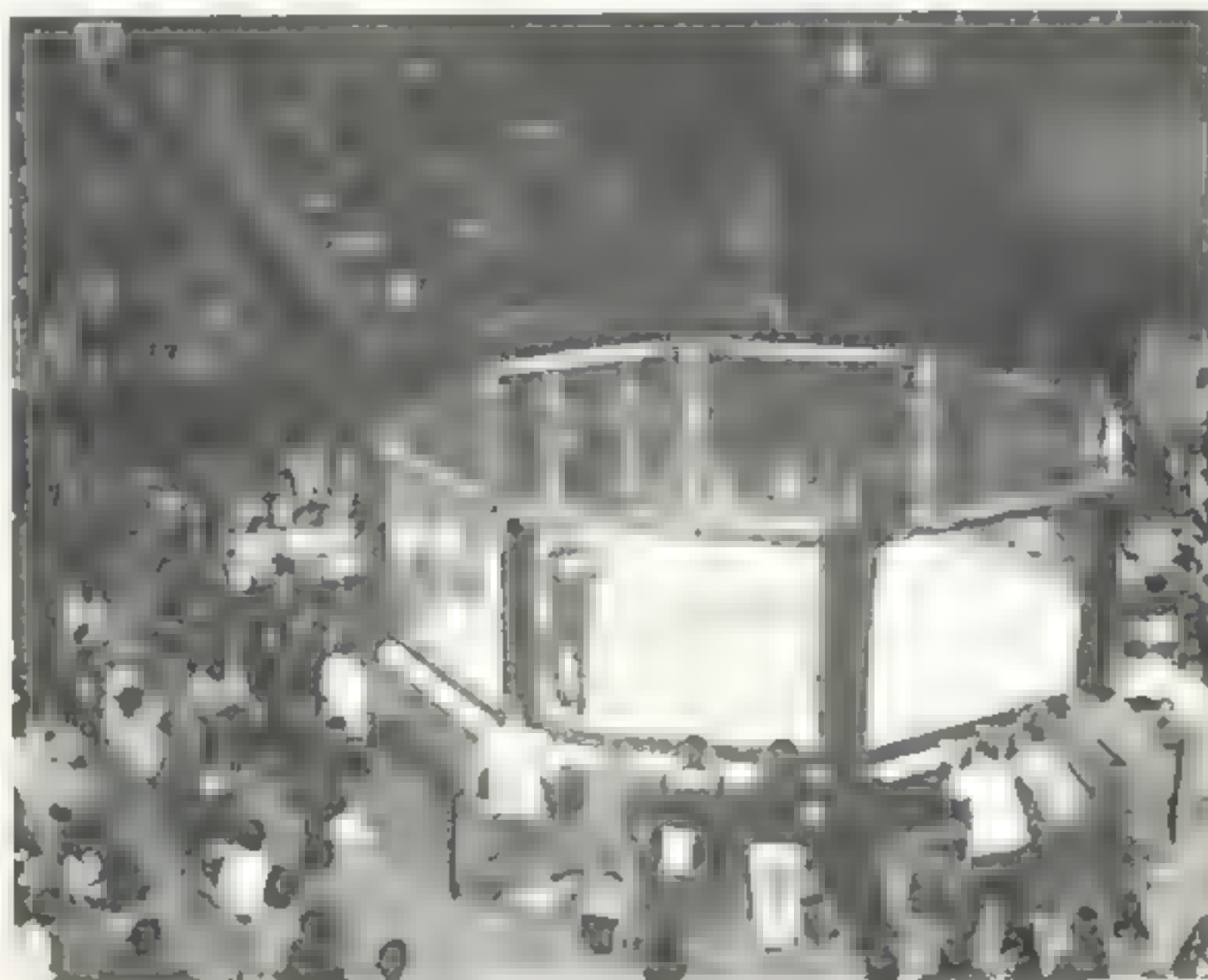
久保 そうでしょ。やっぱり、一時期のPRIDEの、とくに2年前とか3年前の時期にやってたことっていうのはいただけないことも実際あったしね。

—具体的にはどのような点ですか？

久保 やっぱりね、組織が巨大化していく過程で、飲み込もうというより、自分の好きなところと嫌いなところを作って、嫌いなところを潰そうとしてたから。経済力を使ってくるから純粋じゃないんだよね。自分のおいしいとこだけ取って、嫌いなものは潰れてほしいっていうふうに願ってたし。

—そういう情報も入ってきていた、と？

久保 誰もが聞いてたことだから。だけど、結局、K-1も潰れなかったわけだし、ウチも潰れなかったわけだし、結局、自分のところが潰れちゃって。逆に俺なんかは、かわいそうだなと思うよ。

—「ざまあみろ」というよりもかわいそう。

現在、日本で唯一の金網オクタゴンを使用した定期興行「CAGE FORCE」を開催しているGCMコミュニケーション。現在はウェルター級とライト級の王者決定トーナメントを開催中で12月2日のディファ有明大会で2階級の新王者が決定する。『CAGE FORCE』は昨年9月に発足した世界金網格闘技連盟「ワールドワイド・ケージネットワーク（WWCN）」に加盟。ちなみに大会名の命名は宇野薫。

〝PRIDE消滅〟後の日本総合格闘技界

久保 俺は『PRIDE FC WORLDWIDE』っていう会社を引き連れて、これでUFCがスムーズに日本に上がってくるということを期待してたんだけどね。

—当初は、そういう可能性もあるのかなと思ってましたけど。

久保 だから実際問題、同世代のランディ・クートゥアーなんかは素晴らしいなと思うし、彼の試合を日本で観てみたいなと思っていたから。彼らがホントに生で観れるんだったら、俺はたぶんチケット買って行ってたと思うよ。

—自腹で買いますか（笑）。

久保 ホントに買うよ。そういう試合が日本で観れるのかなと思って期待してたけど、結局はうまくコミュニケーションがとれなかった、と。ズッファにはズッファの言い分があるし、DSEにはDSEの言い分があるだろうしね。でも、PRIDEがなくなって、いま日本はFEGの一人勝ちだよ。

—どちらかというと、〝一人残り〟というか（笑）。

久保 大晦日にやるって動いているところだって、どこのスポンサーがついてどうやってやるかっていうのは、君らが知ってるぐらいは知ってるんだけど。

—いやいや、ボクはスポンサー云々は全然わかりません。

久保 そうなの？ 俺は知っているけど、大晦日に単発でやったとしても、2回目がないのだったら業界にとっては、なんの意味もないわけじゃん。

—要はPRIDEファン向けの〝さよなら興行〟とでもいうか……。

久保 そんなことやっても、しょうがないと思うんだよ。そうじゃなくて、もう少し違う方法でちゃんとやるって考えはないのかなって。そうすると、ワールドなんちゃらっていう大会のほうがちゃんとしてるように見える。言ってる言葉を信じると（笑）。

—確かに、〝公明正大〟を強調してますし、コミッションも設立しましたからね（笑）。

久保 まあ、そういうことを言うんだったら福田さんの力で、協会でドーピングテストとか義務づけてやってもらいたいよね。それで固定の道場を持ってれば、そこには助成金から、1つあたり月100万ずつ払ってやるってことになったら、みんな喜んで加盟すると思うよ（笑）。

—まあ、そういったメリットでもなければ、いきなり加盟はできないでしょうからね。ただ、FEGの独占状態は業界的には、よろしくはないですよね？

久保 だと思うよ。でも、じゃあ、「どこが張り合えるの？」って話でしょ。

—う〜ん……、たとえばGCMさんでそのポジションを狙ってみるという考えは？

久保 それはないけどさぁ（苦笑）。でも、ほかの団体とか見ると、たとえばパンクラスっていうのは、ウチと修斗が同じやり方だとすると、ZSTとDEEPと、ウチと修斗のあいだぐらいでしょ。

—そんな……感じですかね？

久保 いま、この業界の底辺はどこが支えてますかっていったら、DEEPとZSTは、それほど自前の選手は育ててないし、はずさざるをえないっていうか。やっぱり、マイナーがしっかり裾野を作っていかないと業界は発展していかないと思うし。

——確かに、修斗やGCMでは、かなりの数のプロ選手がいますからね。
久保　でもね、UFCと契約してる選手って、じつは修斗がプロフェッショナルとして登録してる選手より多いって知ってた？
——そうなんですか。修斗のプロっていうと、クラスAとクラスBのライセンスが発行された選手ってかたちになりますけど、100人以上は軽くいますよね。UFCには、それ以上の契約選手がいると？
久保　それはね、僕らが知ってるUFCっていうのとは違って、大会や番組がそれ以外にもいっぱいあるでしょ。
——中村K太郎選手とかが出てるUFNや選手育成のTUFとかもありますよね。
久保　TUFなんかはPPVじゃなくて、テレビ番組としてやってるでしょ。その中でテレビマッチとして試合を行なう。そういう選手たちも、みんな3試合契約、4試合契約ってしてるの。WECだって誰もが知ってるようにズッファがやってるからね。
——オーナーはUFCと同じくロレンゾ・フェティータですからね。
久保　あそこで契約してる選手も全部混ぜちゃったら、修斗がいま150人とか200人とかって言ってるけど、UFCが契約してる選手はそんなもんじゃないよ。日本人だって、いまは10人以上はいるでしょ。それでアメリカだ、ブラジルだ、ヨーロッパだっていうと、もの凄い数の選手と契約してるわけ。そんなところと日本で対抗する大会を開こうと思っても、結局は裾野ゼロで始めるわけだから。やるんだったら誰かが持ってる資本を引き込まざるをえない。
——結局はそうなりますね。そんな中、GCMさんとしては、今後、どういった展開を考えているんですか。それこそ、PRIDEのような大きな大会を開きたいっていう願望もあったりします？
久保　ウチなんかは、自分たちができることと、目の前でやらなきゃいけないことをしっかりこなしていくしかないよね。……おもしろみねえな、俺（笑）。
——そんなことないです（笑）。まあ、GCMさんでは選手もたくさん抱えてますし、大きな大会を期待している人も多いと思います。
久保　まあ、期待してくれるんだったら「ありがとう！」としか言えないよ（笑）。頑張るよ！　まあでも、俺自身が観たい選手はいっぱいいるからね。
——先ほども言われてましたけど、ランディ・クートゥアーとかですね。
久保　クートゥアーに限らず。ジョルジュ・サンピエールとか観てみたいよね。

〝PRIDE消滅〟後の

日本

総合格闘技界

ジョルジュ・サンピエールとかを日本に呼ぶにはUFCと組むしかない

——ちょっと前までUFCのウェルター級王者だった、通称GSPですね。
久保　彼なんかは柔道と空手をやってる選手だけど、総合で本当の意味での空手の蹴りが出せる選手だしね。ジョルジュ・サンピエールっていったって日本のファンはあまり知らないだろうけど、でも彼の試合を観たら、総合格闘技が好きな人だったらほとんどが魅了されるはずなの。アグレッシブだし、凄く回転するし。
——そういった選手をGCMの大会でドンドン呼んでみたいということですか？
久保　呼べるのならね（笑）。ああいう選手の試合はホントに見せてあげたいなって思いはあるけど、現実問題、そういう選手を呼んで日本で大会をやるとすれば、本当はUFCと組むしかないんだよね。
——UFCの日本上陸もたびたび、噂に上がってますけど、GCMさん的には組んでやりたいという意思があるわけですか？
久保　組めるといいねぇ（笑）。
——岡見選手や中村選手などもUFCに出ているわけですし、日本の団体としては、かなり結びつきも深いわけですよね。
久保　だけど彼らはやっぱりDSEが提携して、結果、いまみたいになって一筋縄ではいかないしね。やっぱり、ほかの団体は下に見てるフシもあるし。
——交渉の過程で、それこそダナ・ホワイトだったりとも話はしてるわけですよね。
久保　もちろん。でも、話を聞いてると、凄く腹が立つことも多いけどね（笑）。でも彼らの大会は、たとえば4000円で売って、PPVが120万件だ、150万件だっていうとさ、放映権で実際問題、一大会で30億とか普通に入ってるわけでしょ。
——実感が湧かないですけどね（笑）。
久保　でも、そういう大会を頻繁にやってるわけで。もうケタが違うんだよ。
——いくら日本で地上波放送をつけても、対等にはなれないかもしれないですね。
久保　全然なれない。昔、マイク・タイソンが日本に来たとき、凄いことになってたでしょう。アメリカの時間に合わせて朝12時ぐらいから放送を始めたり。
——東京ドームで昼からやってましたね。
久保　それと同じようにUFCもPPVありきなんだよ。だから、もう日本とは壮大に差がつき始めている。で、彼らと対等に向き合うためには何が必要かっていったら、日本の所属する選手がしっかり活躍して、マーケットっていうのは金銭云々じゃなくて、選手として魅力のある選手がいるんだよっていうことを見せないといけない。
——現状ではUFCに「この選手をどうしても使いたい」と思わせるような選手を育てていくのが大事だと？
久保　「この選手貸してくれよ」ってお願いできるほど大きくなってないから。ディファ（有明）でやってるようじゃダメだよ。
——ディファでのチケット収益だけでは、呼べる選手は限られてきますからね。
久保　そういうこと。ウチのいままでのやり方っていうのは小さいところから徐々に

GCMコミュニケーションを代表するファイターは、現在、「HERO'S」を中心に活躍する宇野薫と、MMAのメジャー団体UFCで活躍する岡見勇信の二人。ほかにもGCMにはプロレスでも活躍する門馬秀貴、修斗で活躍する戸井田カツヤ、漆谷康宏、「武士道」などにも参戦し、先日の修斗代々木大会でヨアキム・ハンセンを下した光岡映二、女子格ファイターの大室奈緒子など多くの選手が所属している。

大きくしていくというやり方。逆にPRIDEというのは大きいところでバーンとやって、リスクを背負ってもやり続けた。結果、成功したわけでしょ。佐伯さんは大きいところでボーンとやって、ガンガンガーンって下がってる（笑）。

——最近は後楽園が多いですからね。

久保 で、修斗さんも小さいところでやり続けながらも、年に一回は大きいところでやってる。そういう意味だと、プロモーションとしての力関係も僕らはまだ修斗さんにも勝てているわけではなく、パンクラスさんにも勝てていない。道場や選手だとかという力関係でいうと、ウチはおかげさまで上位にランクインされるかもしれないけど、プロモーションとしてはまだまだだよ。

——確かに道場数や選手数はずば抜けてますけどね。

久保 そうだけど、ビジネスとしていい選手を連れてきて、大きい箱でやりますよっていうのは、まったくそれとは別で。どっかの誰かさんみたいに、誰かのお金を使って、どっかのテレビの枠をしっかり確保してやるっていうのは、やり方次第では不可能ではないと思う。だけどそれをやるべきかどうかっていうと、また別問題なんだよ。なぜかっていうと、キミが突然『kamipro』じゃなくて『週刊〇〇』で書けますよってなったとき、やっぱり、もともとあった愛着だとかなんとかっていう感情問題が微妙に絡んでくるわけでしょ。

ウチもやれる範囲で頑張ります……ってな感じできれいごとでまとめてね（笑）

——『週刊〇〇』っていうのはどうかと思いますが（笑）、なんとなくわかります。

久保 自分のところで大きい大会ができますよ、ってなったとき、自分がいままで愛情を持って育ててきた選手たちをそこにポンと上げるわけにいかない。実績をあげていない選手を。

——そこは冷静に判断していく、と？

会見等にもめったに顔を出さない久保社長だが、05年12月に行なわれたMARS旗揚げ会見にはFEG谷川代表らとともに登場。シャオリン・ヒベイロ、ホドリゴ・グレイシーなど大物も多数参戦した有明コロシアム大会だったが、2回目大会以降、GCMは徐々にフェードアウト。その後、MARSは天野勇気プロデューサー体制で興行を続けるも、現在は天野氏の弟の元プロ野球選手の勇剛氏が二代目代表として新宿FACEを中心に活動中。

久保 そうだね。実際問題、UFCの選手も連れてきて日本で大きな大会をやりますよっていうときに、ウチでピックアップできるのは岡見（勇信）と宇野（薫）以外にいないから。いまの現状と実績を考えたら。

——二人だけですか。

久保 これ以上、この狭い国上というか、小さいパイの中で線引きをするような大会なんていらないわけで。たとえば、UFCが日本に上陸しましたってなっても、FEGとうまくいかないってなると本末転倒だと思うんだよね。アメリカ軍が占領したときに先頭に立って日本人が日本人をイジメてた、みたいなさ……そんな気がしちゃうんだよ。それは美しくないよね。

——確かに。いまの巨大化したUFCが実際に日本に本格上陸するとなったら既存の団体にはどういう影響がありますかね？

久保 それはやっぱり、あそこには日本でも人気のある（ヴァンダレイ・）シウバもいるし、ミルコ（・クロコップ）や（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラもいるわけだから。ダナ・ホワイトとかからすれば、そうなった場合、UFCとの契約の範疇として「次は日本で試合しろ」という命令を出すだけでしょ。

——まあ、そういうことですよね。

久保 日本で知られてる選手をズラッと揃えるのも彼らにとっては不可能じゃないしね。それはべつに単発じゃなくて、やり続けることもそう難しいことじゃない。それこそ彼らは興行だけじゃなく、日本の格闘技界を牛耳ってやろうという気持ちもあるだろうしね。過去に絶大な権力を持ったボクシングのWBCとか、そういったものを作りかねない力を持ってるから。そうすると、いままでやってた修斗なりパンクラスなり、なんだっけ？ カントリーロードじゃなくて。

——のんきな感じでいいですけど（笑）、ビクトリーロードです！

久保 そこじゃないけど、世界標準に合わせなきゃいけなくなる可能性は充分にあると思う。それはやっぱり恐ろしい話だよ。個性を持っちゃいけないことになるから。

——そうですよね。ルールから金網から、すべてUFCと同じモノを使用しろってことにもなりかねないですよね。

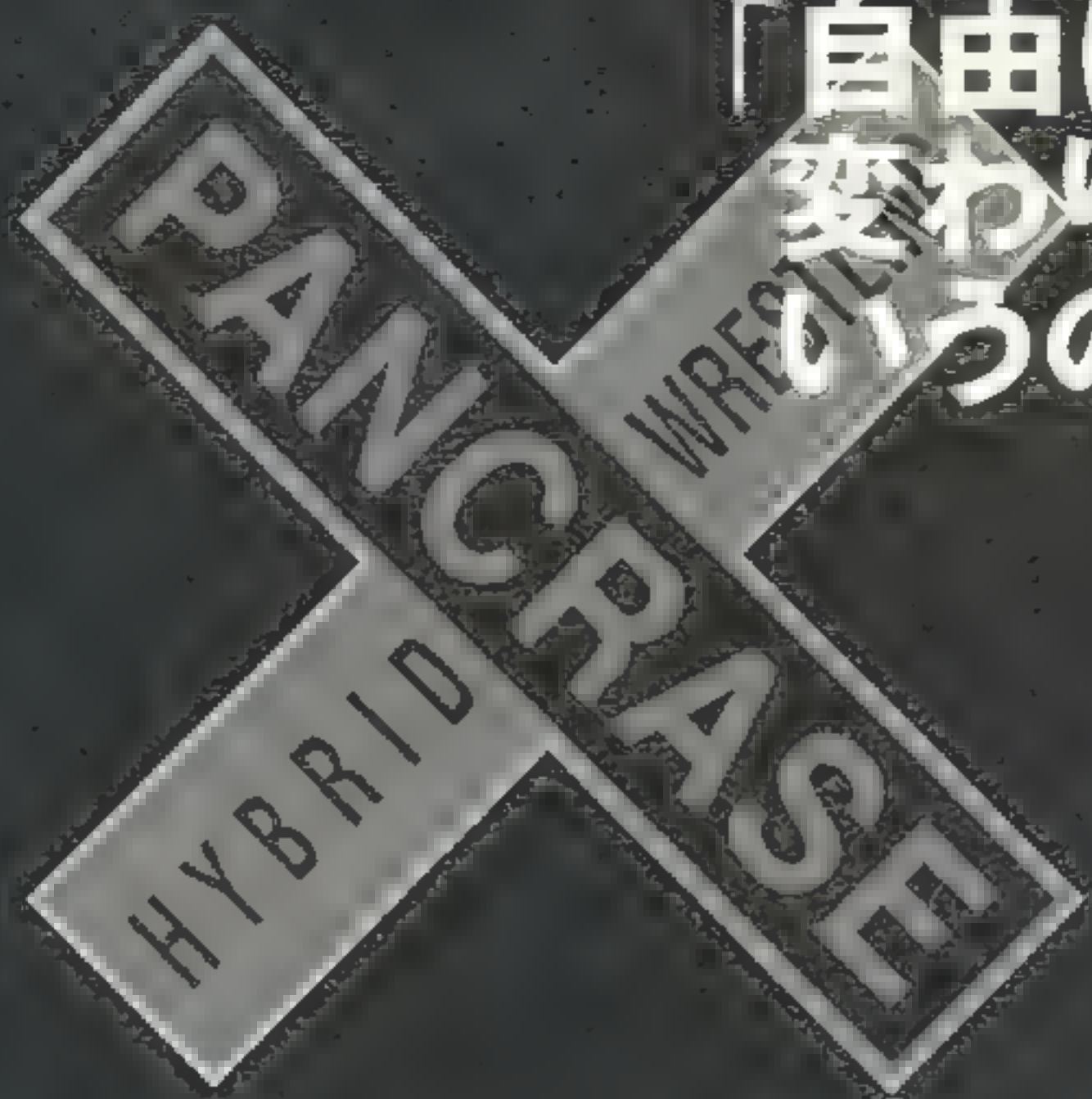
久保 審判も全部UFCからの認可を受けなきゃいけない、と。それから、何がしかの大会を開くとき、UFCサイドにお金を払わなきゃいけないとか完全に上位概念としてUFCを存在させる。彼らはそういうところまで狙ってるんだと思うんだよね。

——単に興行を行なうマーケットだけではなく、それこそ日本の総合格闘技界を丸ごと傘下に収めてしまおう、と。

久保 そうだね。まあ、そのビクトリーロードも総合格闘技協会も、そういう素晴らしい理念で立ち上げたんだったら、うまく進んでもらいたいと思いますよ。ウチもやれる範囲で頑張ります……ってな感じで、最後はきれいごとでまとめてね（笑）。

——了解しました（笑）。今日はありがとうございました！

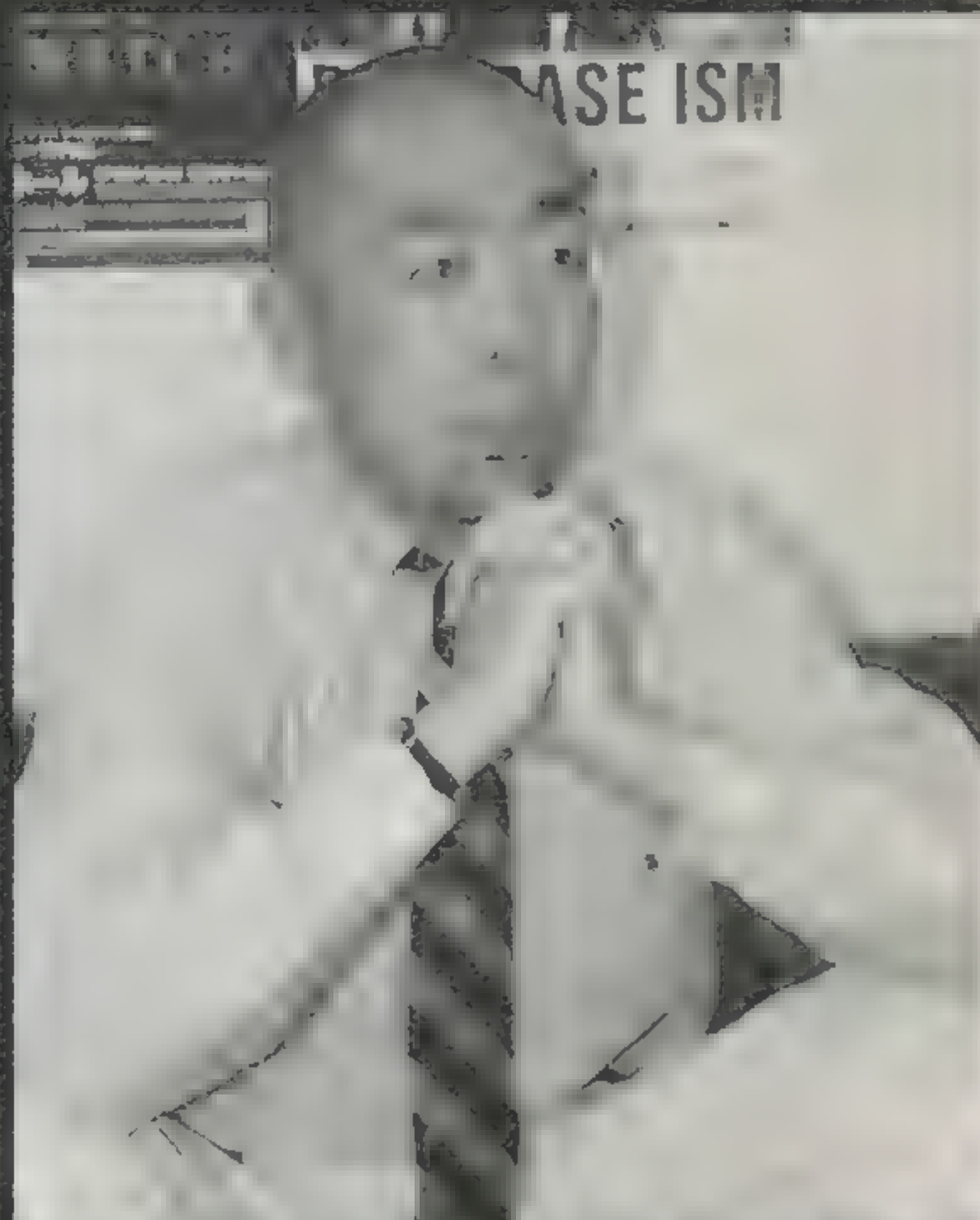
［07年10月30日／都内・銀座のGCM事務所にて収録］

PANCRASE HYBRID WRESTLING

「自由にやっていくスタンスは変わりないですね。自由っていうのが一番、厳しいんですけど」

パンクラス常務取締役

坂本 靖

選手派遣を頻繁に行なっていたPRIDEの"消滅"、提携していたボートックの衰退など、周辺環境が激変しているパンクラス。日本格闘技界で唯一"団体"という枠を守りながら、選手それぞれの自主性を重んじてはいるが、しかしそのパンクラス自体はどこへ向かっているか。『これがパッ!!』のいまだ!!（←凄く古いネタ）

聞き手／ジャン斉藤

さかもと・やすし■アパレル業からプロレス好きが高じて選手と知り合い、93年のパンクラス旗揚げから参加。捨て看板、宣伝カーなどの時代を感じさせる営業活動を経て、現在はマッチメイクを含む興行全般を担当。

いきなりへんな質問ですけど、"PRIDE消滅"はパンクラスにとって「ざまあみろ!!」な出来事だったんでしょうか？

坂本　いやあ、そんなことないですよ（笑）。

―またまたぁ（笑）。

坂本　いや、本当に。確実に言えるのは、この業界のイメージがよくないですよね。

―え～っと、それは前田日明さんの発言がですか？

坂本　いや、どっちもです（笑）。

―ダハハハハ！　そりゃそうですね（笑）。

坂本　まあ、パンクラスとしても営業活動なんかでスポンサーさんと話をするわけです。そのときにフジテレビ・ショックやPRIDEの話になると、どうしても暗くなっちゃいますね。

―相手は詳しい事情はわからなくてもネガティブなイメージは当然持ちますし。

坂本　そういうことですね。

―でも、日本のそういう状態とは逆に、海外でのMMA人気は凄まじいものがありますね。

坂本　凄いですよね！　私も毎週木曜日はちゃんと『kamipro Hand』の『Cool宅急便 モバイル』でいろいろ情報確認してますから（笑）。

―ありがとうございます（笑）。そういったアメリカMMAの好景気はパンクラスにどんな影響があるんですか？

坂本　影響ねえ……。

―たとえば、MMAバブルによるファイトマネーの高騰によって、外国人選手が呼びにくくなっているのは、どのプロモーションにも言えることだと思うんです。

坂本　そうですね。まあ、それはいまに始まったことでもないですけど。昔は競合相手がいなかったので、選手としても闘うリングがウチしかなかったんですよ。

"PRIDE前"の話をすれば、リングス、修斗、UFC、パンクラスと、それぞれが独自のカラーを打ち出しやすかったわけですよね。その時代と比較すると、いまはそれとなくルールも統一されてきているから、なかなか場の違いがハッキリしない。つまるところはイメージ戦略の問題になってしまいますね。

坂本　そうですね。パンクラスとしても独自のカラーを打ち出しているつもりなんですけど、いまは非常に小さい石しか投げられてないというか。

―それは結果的に波紋を広げることができないということになりますね。

坂本　ええ。たとえば11月28日の対戦カードを発表すると、同日に大晦日の桜庭vs船木戦が発表されたりね。そうなったらウチの話題が消されちゃいますよねぇ……。

―そんな中で、いまのパンクラスがターゲットにしているファン層はどこになるんですか？　桜庭vs船木戦が一般視聴者に受けるかどうかはともかくとして、谷川さんからすればマスに向けてボールを投げざるをえないわけじゃないですか。

坂本　そういう意味では、我々が狙っているのはマニア層ですよね。ウェブで情報をよくチェックしているような層。地上波放映がされてるわけじゃないんで、そういう層から少しずつ広めていくっていうかたちになりますよね。

―ということは、どうしてもDEEPや修斗、GCMとかぶるわけですね。

坂本　そうですね。そういう中で佐伯（繁＝DEEP代表）さんなんかは独自のカラーを打ち出せてると思うんですけど。

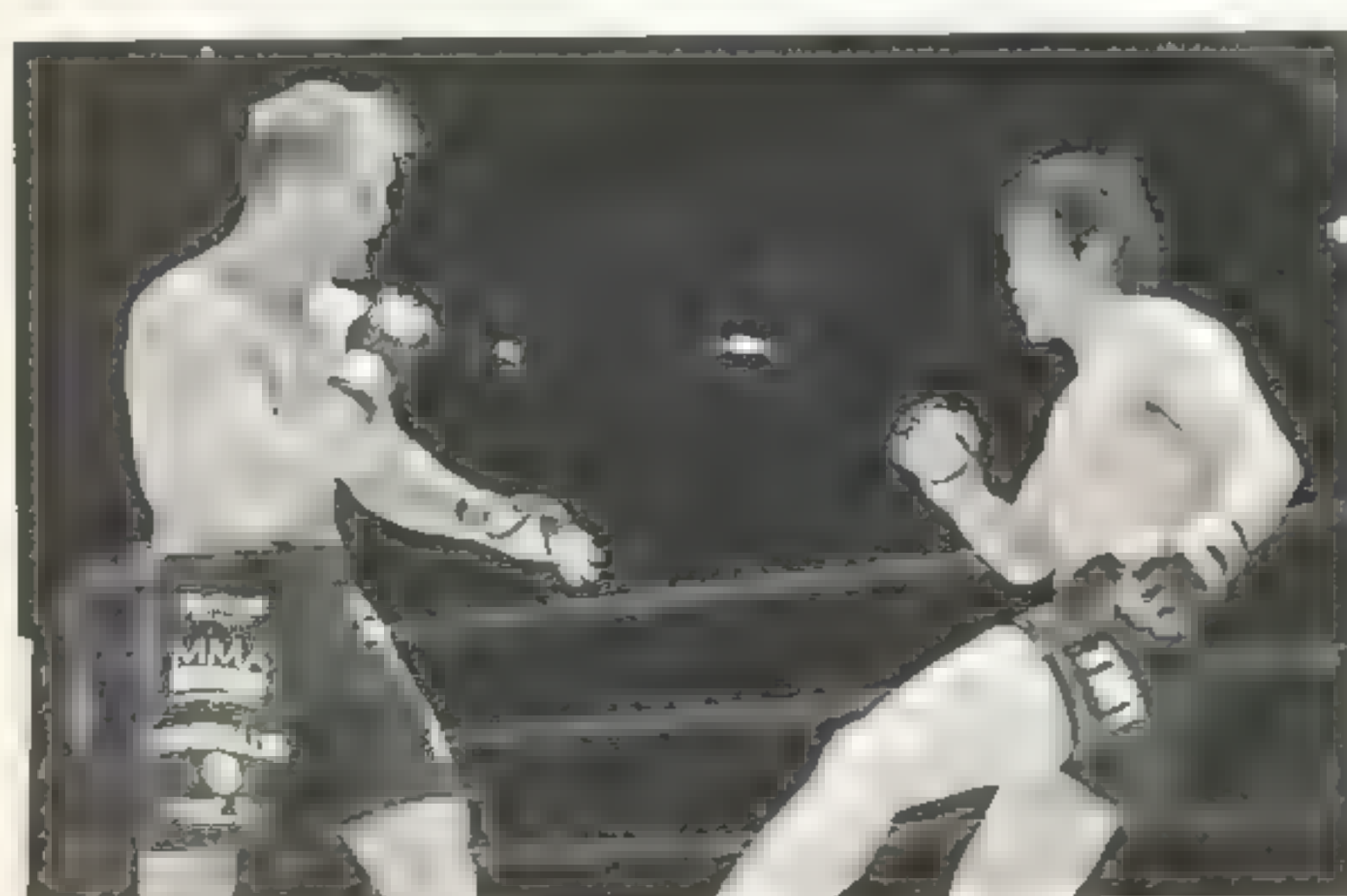
―では、パンクラスのカラーとはなんでしょう。なかなか言葉にはしづらいと思うんですけど。

坂本　そうですねえ……。やっぱりパンクラスという競技名であり、団体名であり。

パンクラス所属の選手が中心になって大会を回しているということですよね。
――パンクラスは外部との交流も柱の一つですよね。PRIDEが〝消滅〟したことで、何かパンクラスの中で大きな変化はありました?
坂本　まあ、選手を派遣できなくなったのは、大きいといえば大きいですよね。魚じゃないけど、外に放魚して、大きくなってパンクラスに戻ってくるみたいな。
――選手派遣ができなくなったデメリットってなんですか?
坂本　やっぱりPRIDEに選手を出すことによる、マスへの広がり方は違いますよね。いわゆる専門誌の1ページに広告を出すのと……、ウチも『kamipro』さんには出してますけど(笑)。
――いつもお世話になっております(笑)。
坂本　べつに紙媒体の影響がないと言ってるわけじゃないですが、地上波でコマーシャルをドーンと出すのとでは、それはもう雲泥の差があるじゃないですか。
――つまり、PRIDEに選手を出すことは広告的効果が大きかったわけですね。
坂本　そうですね。広告宣伝としては大きかったです。もちろん選手の結果が跳ね返ってくるリスクはありますけど。
――対PRIDEという面では、パンクラス勢の対戦成績はあまり芳しくなかったんですけど。そこのマイナス点はどうだったんでしょうか?
坂本　まだ近藤(有己)選手であれば、「判定が微妙だね」とかそういう部分で救われてる部分はあると思うんですね。
――近藤選手が外様の選手だから判定で不当な扱いを受けたんじゃないか? という消化の仕方ですね。
坂本　完全にKOされたとか、全然いいところがなかったりすればマズイですけど。結果的によかったと思いますね。実際、どっちかしか選択肢がなかったと思うんですよ。完全に鎖国するか、外に討って出るか。そこでファン心理からすると、強いんだったら当然、外に出て勝ってほしいじゃないですか。だったら外に出てパンクラスをどんどん広めていったほうがいいんじゃないか、ということですよね。
――その姿勢は今後も変わらないですか?
坂本　変わらないですね。パンクラスのもともとのコンセプトは、自分たちのやりたい〝プロレス〟をやるということでしたから、今後も選手のやりたいものをやることは変わらないです。もしかしたら、これから選手の希望でまったく違う競技に挑戦することがあるかもしれません。パンクラスの所属で競輪に出たいとかいうことであればその道を探しますし(笑)。
――パンクラスがボードックと提携したときも、北岡(悟)選手はボードッグじゃなくPRIDEに上がりたいと主張してましたけど、そこは選手の意向を尊重するということですね。
坂本　はい。
――そのボードックとの提携の現状はどうなんでしょうか?
坂本　ボードッグは、スポンサードの部分が凄くありがたかったです。選手も海外イベントに出るという経験ができましたし。ただ、将来のビジョンがどうしても見えなかったし、今後もこの業界でやっていくのかなという不安要素はありましたね。
――お話を聞いてるかぎりでは、パンクラスさんにとってはボードッグとの提携は過去形になるんですかね?
坂本　う〜ん。現在進行形ではないですね。なんてったって、もう今年は大会をやらないわけですから(笑)。これからはスポンサードをした大会の映像を購入して、それを放送するというかたちになるみたいですね。
――ボードッグとのつながりはまだあるんですか?
坂本　まあ、つながりはありますね。でも、以前の関係ではないですよね。まずマッチメイカーがいなくなっちゃいましたし。マッチメイカーがいないということは、大会が成り立たないですからね。
――パンクラスから見てボードックの最大の失敗はなんだと思いますか?
坂本　やっぱり長期的なビジョンがなかったんじゃないかなと思いますね。あとは資金があまりにも潤沢すぎた(笑)。だから危

ボードッグとの提携? 現在進行形ではないです。今年は大会はやらないですし

〝PRIDE消滅〟後の
日本 総合格闘技界

パンクラスは〝ビリオネア〟カルビン・エアー率いるボードッグと業務提携したものの、ボードッグは現在事実上の活動休止中。旧PRIDEを脅かし、一時はUFCの目の前に立ち塞がった巨大勢力が残したものは、いまのところ数々の成金エピソードだけ! ズンドコ大好きな本誌としては、またメチャクチャな活動を期待したいものです。

業務提携の一環として、ボードッグのコスタリカ大会やニュージャージー大会への選手派遣を行ない、またパンクラスの会場では、なんとキャップやTシャツなどのボードッググッズを販売! プレミア化はしないと思うが、こうなるとなんだかほしい

格闘技で興行と競技を両立するのは球技と違って本当に難しいと思います

機感が生まれなかったところはありますね。

――前にウチのインタビューで、坂本さんはボードックとのビッグプロジェクトを予告してましたけども。

坂本　あれは聞き手が「吹いて」って言ったから、吹いたんです（笑）。

――ああ、そうだったんですか。

坂本　すいません！（笑）。

――とくに景気のいい話があったわけではなかったんですね。

坂本　いや、景気のいい話はあの頃いっぱいありましたけどね。「ボードッグで映画を撮るから、選手を俳優としてどんどん起用するよ」とか。

――バブルだなあ（笑）。その話を聞いて坂本さんはどう思われました？

坂本　いやあ、カルビン・エアーの資産が資産なんで、本当に撮るんだろうなって思ってましたよ。自分が主人公かなんかで、きっとそういう映画を作っちゃうんだろうなって。こっちは、その皿に乗っとけみたいな感じですよね（笑）。

――日本進出の話も？

坂本　言ってましたね。言ってましたけど、実際にはどうなのかな？　っていう。まあ、大会はやろうと思えばできたと思うんですよ。お金さえあればできちゃうことなんで。

――やれたはやれたでしょうね。

坂本　ただ、それが成功するのか、失敗するのか。その大会自体が金銭的に失敗したとしても、広告宣伝と考えばいいと思うんですけど、なぜ大会をやるのかわからないんですよね。

――わからない（笑）。なんだが、お金がありすぎて現実的な考えができなかったということですかね。

坂本　そうですね。地に足がついてないというか、雲の上からでは地上が見えてないんじゃないですかね。

――で、また新しい団体が続々と出てきますけど。

坂本　『kamipro』さんはワールドビクトリーロード（以下、WVR）の通称はなんて言ってますか？

――なんですかね。とくにはないです（笑）。そのWVRや日本総合格闘技協会からは事前に何かお話はあったんですか？

坂本　ないです。尾崎（允実＝パンクラス社長）にしかわかりません！

――またまたぁ。誰にも言いませんから、ボクにだけ教えてください（小声で）。

坂本　WVRの大会名を応募するくらいですかね、ボクが協力できるのは（笑）。

――ダハハハハ。格闘技興行ってあくまでイベントですから、競技面以外に興行面もしっかりしなきゃダメじゃないですか。

坂本　そうですね。競技としてやればやるほど、プロの興行としての華の部分がなくなったりするじゃないですか。〝強い選手だけのマッチメイク〟っていうのもどうなのってなっちゃうし。

――現実的にはあのUFCですら、その両輪は転がせてないですからね。

“PRIDE消滅”後の日本総合格闘技界

坂本　興行と競技の両立は難しいですよねえ。球技だったらまだなんとかなりますけど、格闘技って本当に難しいと思いますよ。興行と競技の連動って……。

――言うほど簡単じゃない、と（笑）。いまは水面下でいろんな駆け引きが行なわれてるそうですけど、基本的にパンクラスさんの外交姿勢はこれまでどおり変わらないということでいいんですよね？

坂本　スタンスは変わらないですね。選手が外に出ていきたいというのであればどんどん出したいと思うし、ほかからも声がかかるような選手を育てたいとも思うし。

――そこは自由なんですね。

坂本　自由……。自由っていうのが一番、厳しいんですよ……。

――ダハハハハ！

坂本　自由が一番、責任を問われるんですよ（笑）。まあ、どの派閥も入ってないという意味では、どっちからもかわいがられないわけですしね。

――それはそうですよね。どっちかに寄ったほうがいいですよね。

坂本　大樹の陰は楽です！（笑）。

――大樹じゃなくても、一つのグループとして連携してやっていったほうがいいわけじゃないですか。そういう方針をとらないのは、どういう理由からですか？

坂本　なんでしょうねえ……。規模は小さいけど、後楽園クラスなら自分たちでやれるし、それなりに海外のネットワークもある。いい選手になれば、当然、外からオファーは来る。まあ、パンクラスはパンクラスとしてやっていけるからかな。

――じゃあ、いまの姿勢も自然体でいるだけなんですね。

坂本　そうですね。政治的な向き合いでわりを食うのは選手だと思うんですよね。でも、やっぱり選手には好きようにやってほしいし、闘いたい相手とは闘いたいじゃないですか。まあ、いま一番、力を持っているところと組めば、確かに楽だと思いますけどね。でも、そういういい面だけを見て、ひょいひょいやっていくのもコウモリみたいだし、長い目で見れば、「どうなの、あそこの団体は？」って言われちゃうわけでしょうし。

――そういえば、エド・フィッシュマンがパンクラスに接近したという話もあったんですけど。

坂本　うーん。彼、凄いおしゃべりさんで

忘れている読者もいると思うが、ジョシュはパンクラス無差別級王者！　二度の防衛戦を果たしたが、その場は新日本プロレスの『アルティメット・クラッシュ』、03年の『猪木祭り』といずれもパンクラスのリングではない。パンクラスに限らず、MMAにおいて防衛戦が施行されない裏には、競技と興行の問題が潜んでいる。

すよね。

——ですね（笑）。

坂本　ホントにそういう話があるのかな？　っていう話もたくさん出てるから。

——PRIDEを買うという話も、記者に言っていただけで現実的には榊原（信行）さんには持ちかけてなかったという話もありますからね。

坂本　ホントに謎ですよねえ。彼がおしゃべりだからボクもおしゃべりになると（笑）、彼は日本という市場に興味はないんですよ。マカオとかアメリカとか、カジノができるところしか興味がない。それで格闘技のコンテンツに目をつけているという感じですよね。

——それで選手をそれなりに抱えているパンクラスに声をかけた、と。

坂本　でも、結局、日本で大会をしないのに……、って思うじゃないですか。

——まあ、お台場にカジノができるのを待つしかないですよね（笑）。

坂本　そうですね。みなとみらい説もありますから、どっちかですよ（笑）。

——カジノはともかく、エドの話は現実的じゃなかったということですか？

坂本　うーん……。現実の"ゲ"の字ぐらいですかねえ（笑）。

——そうですか（笑）。やっぱりそういう怪しげな話は坂本さんのほうにたくさん来てるんですか？

メイド服コスプレの佐藤光留や、歯に衣着せぬ発言をブチかます北岡悟など、坂本常務が言うようにいたって「自由」な振る舞いが許されるパンクラス所属選手たち。"内"と"外"でのインパクトも求められるが、08年はどちらに比重が置かれるのか。

現実を見ないと経営としてイカンですよね。夢じゃメシは食えない（笑）

坂本　いろいろ話はありますね。「未知の国で大会があるから、近藤選手を出しませんか？」とか（笑）。

——未知の国？

坂本　北極で大会を考えてるみたいですけど（笑）。

——ダハハハ！　猪木さんみたいな発想だなあ。それくらい世の中が乱れているということなのか（笑）。

坂本　ホントかよ!?　って（笑）。世界にはいろんな発想を持った人がいるみたいで。

——そんな中でパンクラスは現実を見ながらって感じですよね？

坂本　やっぱり、現実を見ないと経営としてイカンですよね。夢じゃメシは食えない（笑）。大会にパンクラスの選手をどんどん起用していきたいですし、あとはランキングですよね。パンクラスのベルトを獲りに外の選手がどんどん来てくれるような魅力的な団体になりたいと思いますね。

——ほかのプロモーションにも言えることだと思うんですが、ランキング制度って、たとえば選手との契約が切れてしまったりして、機能しない場合も多いですよね。そういう問題はどうお考えですか？　たとえばタイトルの防衛戦のために無差別級王者のジョシュ・バーネットを呼ぶのはなかなか難しいじゃないですか。

坂本　ジョシュの名誉のために言うと、彼はどんなに安いギャラでも無差別級タイトルマッチをやりたいということを常に言ってきてくれてるんですよね。でも、ベルトの権威を考えると、「じゃあジョシュの相手は誰だ？」っていう。

——難しいですね、じつに。

坂本　そうなんですよ。やっぱりあの頃のPRIDEトップファイターと比べたら、ホントに納得できるマッチメイクは難しいんですよね。それはジョシュもわかってくれて、「じゃあ、いつでも待ってるから」っていうのがメールでは来てるんですけどね。

——わかりました。では、最後にパンクラスの来年の抱負をお願いします。

坂本　早ッ！　まだ2ヵ月ありますよ？

——そうでしたねえ……。まあいいや、来年の抱負で。

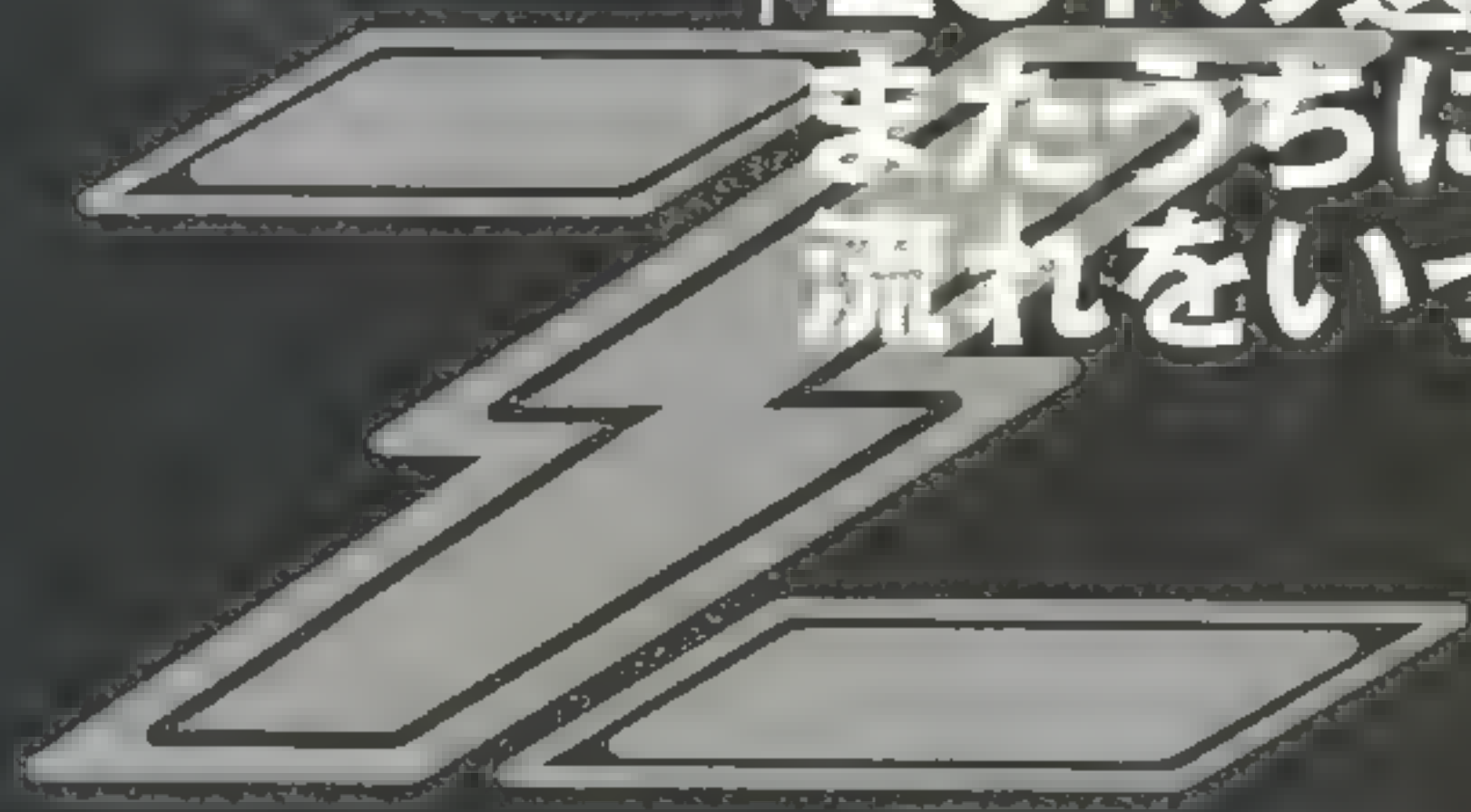
坂本　まあいいやって（笑）。

——すいません。パンクラスの「今後」ですね（笑）。いろんな噂が飛び交ってますけど、その中で坂本さんの今後の抱負をお願いします。

坂本　まあ、とにかく地に足をつけて、より選手が輝ける場を作りたいし、そういう場があればどんどん出していきたいっていうことですね。

——わかりました！　ウチの「今後」を言えば、今後も広告のほうをお願いしたいということです（笑）。

【07年10月25日／東京・パンクラス道場にて収録】

「ZSTの選手が大きな大会に出てまたうちに帰ってくる、そういう流れをいっぱい作りたいんですよ」

ZST広報

上原 譲

日本MMA団体3番目の登場は、"ZSTの司令塔"である広報の上原氏。ZSTといえば、所英男にはじまるFEGとの友好関係が明らかだが、そのほか、エース小谷直之のUFC参戦、ヒョードル獲得で話題を呼んだ「M-1グローバル」CEOモンテ・コックス氏ともリングス時代から旧知の仲である。世界MMA界が日々景色を変える中、ZSTはどんな方向を見つめているのか!? また気になる"あの発言"についてもズバリ直撃した!

聞き手／高崎計三

うえはら・じょう■99年リングス入社。02年ZST事務局広報に就任。埼玉栄高校レスリング部でインターハイ、国体出場歴があり、なんとノアで活躍する丸藤正道の先輩にもあたる。また、本インタビューでレスリング初段であることが発覚！一部では"選手転向"へ期待を寄せる声も高い……!?

上原 (唐突に)今日は『kamipro』さんに載せられるような、おもしろいことはしゃべれないですよ！

――いきなりどうしたんですか！(笑)。

上原 いやー、いったい何をしゃべらせようとしているのかわからないですけど、本当は辞退させてもらおうと思っていたぐらいなんで(真顔で)。

いやいや、格闘技界とZSTの現状についてお聞きしたいだけですよ！

上原 最初に言いますけど、『kamipro』さん的なおもしろいことは言えません！

何をしゃべらせたいのか知りませんけど。

――逆に、何をしゃべりたくないのか聞きたいぐらいです(笑)。ではまず、先日立ち上がった日本総合格闘技協会についておうかがいできますか？

上原 ボクはこの業界の情報量が少ない人間なので、まったくわからないんです(笑)。マスコミの方に聞いても、ハッキリしたことがわからない感じでした。先日、お手紙をいただきましたよ。場所が近いので、挨拶にうかがってみようかと思いました。まあ、2回目の会見が行なわれて、どんなことをやるのか知りたいですね。でも、せっかく大きな組織ができるんですからね。うちは若いいい選手がいるので、大きな会場で試合をするチャンスだと思っています。

――協会、コミッションとしては、ルールも統一したいという話もありましたよね。ZSTはとくに独自のルールを採用しているわけですが。

上原 うちは他団体と違ったルールで、大会を5年やってきましたからね。旧リングスルールで会場を満員にすることを考えていますから。ルールを変えていくつもりはないです。

――協会やコミッションというもの自体の存在はどう思いますか？

上原 そういうものができて、それがいい方向に進むならいいですけど。現に、日本レスリング協会さんは、組織として大きなところですからね。まあ、ボクも日本レスリング協会認定のレスリング初段ですし！

――そうでしたか(笑)。

上原 でもいまの各団体は、それぞれの特色を持って大会をやっていますから。そこにK-1さんみたいな大きな団体もあるわけですから大変だと思いますよ。でも、毎年年末に代々木競技場で行なわれる「レスリング全日本選手権(天皇杯)」などを、スポンサーをつけてやってらっしゃいますからね。それに、ボクも、所選手も「ドン・キホーテ」さんには、お世話になっていますし(笑)。大きな大会があるのは、うちのような小さな大会にとっては、ありがたいことです。

――その協会の会見では「公明正大」という言葉が何度も出てきました。いわゆる反社会勢力とのつながりをなくすとか、そういうことを主張されているわけですが……。

上原 これは、ボクがリングスにいるころからそうですけど、反社会勢力のこととかは、わからないですね。そもそも、前田(日明)さんが(そういうつながりに対して)ダメでしたから。ZSTを始めるときも、あくまで内輪で小さくでもやっていこうということで始めています。うちはアマチュア大会からいい選手を見出して、一緒になってZSTを大きくしていこうという感じで、大会をやっているだけですからね。

――しかし、その反社会勢力との関わりが噂されてPRIDEの運営が難しくなった局面があるわけですが、そのために格闘技熱が下がったと言われる部分もありますよね。PRIDEの一件でZSTとしてメリット、あるいはデメリットというのはあるのでしょうか？

あの発言につながったのはボクを含めた当時のスタッフがいけない。ただ……

“PRIDE消滅”後の日本総合格闘技界

上原　メリットなんてあるわけないですよ。ZSTからは小谷直之しか出せなくて、彼が結果を出せなかったわけですけど……。大会が重なったときに、ドクターやレフェリーを確保するのが大変だったんで、それがなくなったぐらいですかね（笑）。

――ホントに現実的な部分ですね（笑）。

上原　ただスポーツ紙さんなんかで4人いた格闘技担当が2人になったとか、そういうのを聞くとまずいなとは思いますよ。扱われるスペースもそれだけ小さくなるわけですから。それに、選手のことを考えても心配ですよ。うちに上がっている選手で、「仕事を辞めて格闘技一本に絞る！」っていう選手がいたんですけど、そういうことを聞いて「おいおい！」と思う場合もありますし。

――確かに、それは危険ですね。格闘技一本で食べていけるのって、一部の選手だけですからね。

上原　逆に、『SWAT！』でも、ボクとしては2敗、3敗しても出てもらいたいと思っているのに、選手がジムをやめちゃったりしているんですよ。それはやっぱり、テレビでさんざん格闘技が放映されていたのに、それがなくなったという影響もあるのかなと思いますね。これからは格闘技を始める人も減るでしょうしね。

――要は、業界自体が縮小してしまうんじゃないかという、主催者として感じる影響ですね。

上原　『kamipro』さんでいうと、前田さん、リングスから始まってZERO―ONEさん、PRIDEさん、いまは『ハッスル』さんを追ってる中で、一番部数に影響があって売れたのはやっぱりPRIDEさんじゃないかと思うんですよ。プロレスファンの皆さんは、熱狂的な方が多い。リングスのファンの方もそうでした。だけど、格闘技ファンの方は、冷静にものを見る方が多いと思うんです。

――冷静に判断して会場に来なくなってしまう、と。

上原　でもPRIDEさんは、昔のプロレスファンのような、熱狂的なファンを生んだじゃないですか。ボクがドームでプロレスを観た中で一番盛り上がったのは、最初の「新日本vsUインター」の対抗戦か、リック・フレアーの代わりに、全日本勢が上がった新日本のドーム大会だと思っているんです。あの熱気を格闘技会場で、感じることができたのは凄いなと思いました。そのファンを谷川さんは『HERO'S』に来てもらいたいと、考えていると思うんですけど、やっぱり彼らはPRIDEじゃないとダメな部分はあると思います。でも、9月のミノワマンさんの試合で、いつもの会場の雰囲気とは違うと思いましたね。カップルで会場に観に来て好きになったとか、そういうライトなファンが何千人もいたわけですよね。そのファンの方々をどうするかというのは、格闘技界の人間は考えないといけないですよね。

――ZSTとしては、そのファン層を取り込もうという考えはないんですか？

上原　いや、うちにも来てもらいたいですよ。ただ、うちはK-1さんのおかげで、所

PRIDEの日本事務所閉鎖がアナウンスされた後日、コメントを求められた前田日明「HERO'S」スーパーバイザーは「PRIDE、ざまあみろ!」とバッサリ　波紋を呼んだこの一言について、元リングススタッフである上原氏は「ボクらスタッフの力不足……」と、ポツリ。

ファンの女性に来てもらっています。

――そこを取り込む打開策は何かありそうですか？

上原　まず、いつも会場を満員にしていないといけないですよね。所選手が出る出ないにかかわらず来てくれる新しいファンもいるし、もっと作らないといけないわけですよ。でも、初めて来た人たちが、空席があるのを見ちゃうと、もうその時点で次は来ないですよね。だから凄く危機感を持って、いつも満員にできるように神経を使っていますよ。

――基本ですけど、大切な部分ですよね。

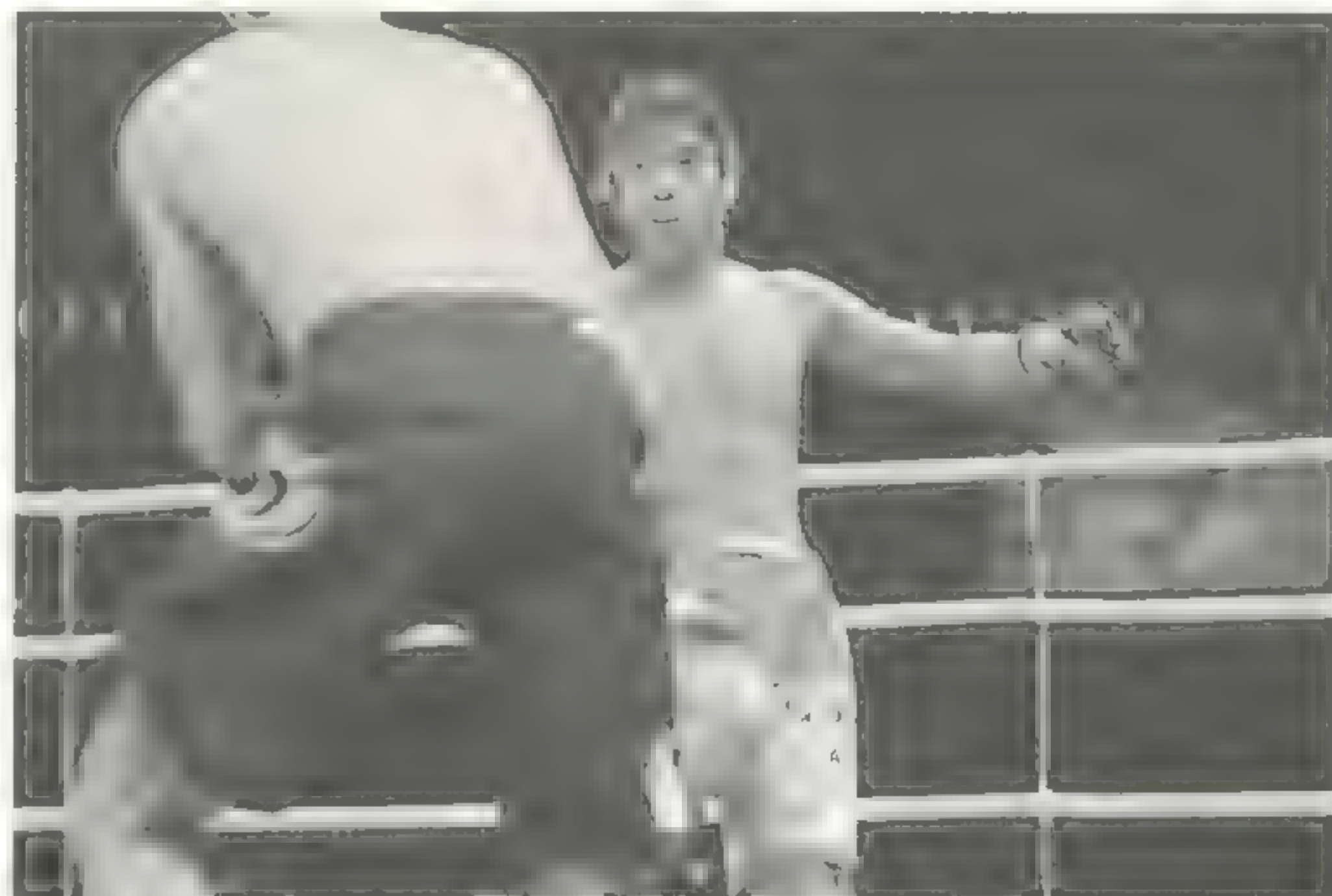
上原　PRIDEをテレビで観て会場に行くようになっていたライトなファンの方は、もしかしたら、もうほかのものに興味が移っちゃっているかもしれない。

ちなみに、PRIDEの日本事務所閉鎖に関して、前田さんの「ざまあみろ」発言が話題を呼びましたが、……リングススタッフだった上原さんの立場から見たらどうなんですか？

上原　これを聞きたかったんですか？　業界的には大きくしたくない話題ですからね。まあ、あの発言につながったのは、ボクを含めた、あの頃のリングススタッフが活動を休止せざるをえない状況にしてしまったのがいけないと思いますので、反省しましたよ……。ハッキリ言って、ボクらスタッフの力不足ですよ。でもあの頃は大変だったなぁ、選手が次から次へと離れていって……。

――じゃあ、前田さんの発言は仕方ないと思う部分もあるわけですか？

上原　ただ、ボクがいたら止めていますよ。端から見たら、「子どもが駄々こねておもちゃをパパに買ってもらおうとしている」にしか見えないでしょうけど（笑）。まあハッキリ言って、あの状況で前田さんを止める

自信はないんですけどね。
――ZST自体、前田さんとの関係もあるので『HERO.S』、K-1寄りと思われていますよね。そこで所選手がスターになった一方で、スケジュールの兼ね合いで所選手をZSTに出すのがままならなくなったという側面もあると思うんですが。
上原　いやいや、ボクらはそれを気にしてないんですよね。所選手は今回の『ZST15』で、1年8ヵ月ぶりにZSTルールで闘うんですけど、うちは所選手がいない状態でやっていかないといけない部分もあるんです。
――それもまた不思議な話ですけど、将来的なことを考えるとそうですよね。
上原　ただ、あの男は、もういまからは無理だろってタイミング、たとえば大会の2週間前ぐらいに「ボクも出ますよ」って嫌がらせのように言ってくることもあるんですけど。
――ズバリ言って、迷惑な男ですね！（笑）。
上原　でしょ？（笑）。でも、まじめな話ですが、彼は自分がZSTの選手だと思ってくれている、それでボクらは充分ですから。大きな大会で注目されているときは、そのチャンスを潰したくないですし。ZSTは下から上がってきた若い選手でやっていきますし、そうしていかないと、次の選手にチャンスがいかないですから。『ZST14』でベルトを懸けて闘った内村洋次郎選手や竹田誠志選手みたいな選手たちも出てきてくれましたからね。来年は世代交代でやっていこうと思っているので、そういうテーマ性はいいかな、と。
――じゃあ、あんまり所選手の出場にはこだわってない、と。
上原　そうしていかないとダメですね。逆に、ボクらはZST本戦がある一方で、『SWAT!』も定期的にやっていますけど、『SWAT!』はみんなKOか一本で決着が決まるんですよね。所選手なんかはそれをリングサイドで毎回観て、焦っていますからね。
――刺激になっているわけですか。
上原　それに、彼は人気が出たからといって、「自分は『HERO.S』だけで」なんて言わないですからね。あまり表に出ていないことですけど、常にZSTを心配している優しい男なんです。
――ただ、所・小谷路線から脱却している いま、業界内にも「ZSTは小粒になったのでは？」」と思っている人は多くいますよね。
上原　どこの大会もそうだと思いますが、継続して大会を行なっていかないといけないですからね。ですので、うちは所選手に

"PRIDE消滅"後の
日本
総合格闘技界

下から上がってきた若い選手でやらないと次の世代にチャンスがいかないですから

続く選手を大会で育てていきたいんですよ。それで『HERO.S』などの大きな大会に上がって、またZSTに帰ってくる。そういう流れをいっぱい作っていきたいんですね。『SWAT!』から出てきている、いい選手はいっぱいいますから。
――確かに、旗揚げ当時の所選手や小谷選手の知名度って、いまの内村選手や竹田選手と変わらないですよね。
上原　そうです、そうです。ZSTはリングスの「バトルジェネシス」だと思っていますから。リングス本戦に出ていたノゲイ

所、小谷の二大エースがなかなかZST本戦に上がらない一方で、"高校生コンビ" 横山大輔＆山田哲也（56ページ参照）をはじめ、次々と若い選手を発掘しているZST。一部では、サダハルンバも彼らの「HERO'S」デビューを虎視眈々と狙っていると噂されているが、所、小谷は、彼らの活躍をどんな思いで見つめているのだろうか……!?

ラ、ダン・ヘンダーソンに出られても困りましたから、ヒョードルは出たんですけど……。これから強くなる選手が出てくる場であればいいので。それで出てきたのが所選手やレミギウス（・モリカビュチス）選手ですから。
――彼らの活躍でFEG、こと谷川さんとのやりとりも増えたと思うんですが、上原さんから見てFEGとはどういうところですか？
上原　（疑いの目で）ボクに何を言わせたいんですか!?
――いやいや、とくに大意はありませんよ！
上原　（変わらず疑いの目で）ホントですか!?　でも、谷川さんには大変お世話になっています。FEGさんには、それぞれの部門でプロフェッショナルなスタッフがいらっしゃるので、勉強にもなりますし。
――それに、ZSTに上がっている選手にとっても、さらに上の目標ができるわけですからね。
上原　ウチは所選手とバーターでこの選手を上げてくださいとは、一度も言ったことはないですから。だから、谷川さんともいい関係でいられるんじゃないですかね。当初、周りからは完全に下部組織になるんじゃないかと言われたこともありましたけど、そういうことはないです。
――そういう意味では、小谷選手がPRIDEに参戦することになったときは、ちょっと驚かされた部分がありましたよね。
上原　だから、あえて小谷選手はPRIDEに出した部分もあったんですよ。まあ、彼がPRIDEで結果を残していたら、もっといろんな流れができたのかなとは思い

ますけど。
——ちなみに、同じ大会を主催する立場として、谷川さんという人物についてはどう思いますか？
上原　いやー、素晴らしいですよ！
——素晴らしいですか！（笑）。
上原　ボクは谷川さん的な感覚は好きですよ。選手との交渉窓口になっている立場として勉強になることは多いし、「なるほどな」と思う部分が多々あります。やっぱり厳しいことを言うときは言うし、そのほかの部分も盗み見していますからね。
〝黒魔術〟的な部分も見ている、と（笑）。
上原　それに、格闘技マスコミにいた方が興行をやっているというのも興味深いし、凄いと思いますね。ボクは営業的なところでもっと積極的に押したい部分があるので、いろいろ見習いたいと思っています。
——ZSTの大会にも谷川さんは会場に来られることがありますよね。
上原　そうそう。所選手が出ないときでもZSTを観に来ていただけることがあるんですけど、谷川さんからズバッと言われた一言は「あ、痛いところ突かれた！」って思う部分が多いですから。

所英男の「HERO'S」登場をはじめ、以前からFEGとZSTは友好関係にあるが、さまざまなやりとりを踏む中で、上原氏は「いろいろ見習いたい」と谷川代表に熱視線。やったね、サダハルンパ!

その一方で、MMAがアメリカ中心に一気にシフトしている現実があります。それもZSTはとくに意識しないんですか？
上原　いや、アメリカでやりたいという選手もいるにはいますよ。実際、小谷選手はUFCに上がっているわけですし。そういう路線では、モンテ・コックスとメールでやりとりもしていますから。
——M-1グローバルのCEOになったモンテですね。最近はヒョードルの獲得が話題になっていますけど。
上原　まあ、アメリカで可能性がない選手でも、ZSTにはリトアニアというルートがありますからね。ルールも何もないリトアニアに（笑）。
——ああ、そっちで揉まれろ、と（笑）。
上原　ZSTがこうなっているのもリトアニアのドナタス（・シマネイティス）との付き合いの影響もありますし。彼とは古い仲なので。一時期、所選手が向こうで有名になったことがありましたけど、いまは奥出（雅之）選手が向こうで大変なことになっているんですよ、人気ありすぎて。そういうのもあるからZSTは続いているんですよね。だから、海外といってもいろいろあるので、うちは独自のルートでやれればいいと思っています。
——旧知のモンテがM-1グローバルの代表になって、「そっちに乗れ！」みたいな考えはないんですか？
上原　いやいや、彼が立場上大変そうなこともわかりますからね。モンテはボクにとって〝アメリカの前田さん〟なので、ZSTとM-1のつながりというわけじゃない関係なんですよ。図々しく乗るなんてのは、ボクは嫌いですね。ボクは図々しい選手も嫌いですから。

谷川さんからズバッと言われた一言は痛いところ突かれた！　と思う部分が多い

——図々しい選手は、ZSTは受け付けない、と（笑）。ところで、このところ活動が噂されつつある第一次リングスってどうなっているんですか？
上原　いやー、どうなんでしょう？　ボクは全然関係してないんですよね。これはよく聞かれるんですが、まったくわからないんです。
——でも、動いているのは動いている、と？
上原　ボクはまったく知らないですけど、動いてるっぽいですねえ。
——なるほど。では最後の質問ですが……。
上原　ん？　もう最後ですか？　今日はもっと厳しいことを聞かれるのかと思っていましたよ。
——だから、なんでそんなに警戒されているのかがまったくわからないんですけど（笑）。えー、それで来年のZSTはどう進んでいくのでしょうか？
上原　先ほども言いましたが、世代交代がテーマですね。いま、下から上がってきている選手たちがエースとしてやっていけるような大会になって、それで、彼らが海外の選手と闘ったりとか、ほかの団体とかで実力を出せるような流れを作れればなと思っています。
——ZSTは今年、ZSTとか『SWAT！』とかも含め、全部で200試合以上カードを組んだんじゃないかってくらい大会やっていますしね。
上原　まあ、大会一つやるのは凄く大変なんですけど、『SWAT！』なんかは逆に疲れを吹っ飛ばしてもらえるんですよ。所選手や勝村選手なんかも若い選手の活躍を見て焦っていますから。逆に言うと、うちはあの大会をやってなかったら危なかったと思いますよ。
——確かに、『SWAT！』は一つの売りになっていますもんね。
上原　そこで熱い闘いをしてくれている選手たちのモチベーションの一つとなるように、ZSTのベルトを作った部分もありますし。最初の話に戻りますけど、コミッショナーといえば、うちは前田さんがコミッショナーみたいなものですからね。頼んでもいないですけど。
——前田さんがコミッショナー！
上原　上原と所をコントロールしているのはあくまで、前田さんですからね！
——陰のコミッショナー……ですか!?
上原　ええ。そこはもう、100パーセント、公明正大ですよ！
【07年11月9日／都内・デニーズにて収録】

99年に開催された第1回リングス「KOKトーナメント」にジェレミー・ホーンを派遣したのを皮切りに、リングスに多くの選手を送り込んだモンテ・コックス。友好的な関係はZSTでも続いており、リッチ・クレメンティらの選手を派遣している。

最後に登場する総合格闘技団体の首脳は、『kamipro』でもおなじみDEEP佐伯繁代表だ。元広報として『武士道』をはじめPRIDEとも深く関わってきた佐伯さんに、今後のDEEPの動向から大晦日の旧PRIDE派興行のことまで。締め切りの都合上、『やれんのか！大晦日！2007』開催発表会見前に直撃、話せる範囲で語ってもらいました！

聞き手&撮影／阿佐ヶ谷チョロ

さえき・しげる●カメラマンから編集&制作、広告代理店から飲食業まで幅広く手がけ、青年実業家として一時はかなりの資産家に。その後、趣味が高じてプロレス&格闘技に関わるようになり、01年1月にDEEPを旗揚げ。05年3月からPRIDE広報に就任。06年にはDEEPジムをオープン。現在は格闘技一筋の生活。

佐伯　ちょっといい？（といってテーブルの下でインシュリン注射をお腹にブスリ）。

——大変ですね、糖尿病は（笑）。『kami pro Hand』の青木真也選手のブログによると、ついに本格的なダイエットに着手したみたいですね。

佐伯　（無視して、お店の店員に向かって）ナポリタンの大盛り、つね！　あと、アイスコーヒー。

——あららら、全然ダイエットとはほど遠い注文ですね（笑）。

佐伯　いやいや、今日は何も食ってなかったから、で、何をしゃべればいいんだっけ？

——ついにというか、やっとというか、大晦日の旧PRIDE派の興行が決まったみたいなので、そのへんの話を話せる範囲で聞かせてもらえればと思っております。

佐伯　この本、いつ出るの？

——11月30日の予定です。

佐伯　じゃあ、大丈夫だな。

——大晦日の興行に関わるとなると、佐伯さん的には12月は全部で5大会あるんですよね。身体は大丈夫ですか？

佐伯　う～ん、大丈夫というか、やっぱり一番心配なのは、12月12日の後楽園大会はひさしぶりにDEEPワールドだから。（"ハリウッド"）ストーカー市川が出たりして。

——滑川（康仁）選手との対戦で話は進んでるみたいですね。

佐伯　そう。あとは、地上波のテレビマッチが大阪（12・22）であるんで、その数字次第でけっこう、今後の流れが変わっちゃうんで、それが心配なんだよね。

——視聴率次第で今後も放映される可能性があるわけですね？

佐伯　もちろんそういうこともあるんで。でも、大阪もほとんどマッチメイクが決まってるし、あとはチケットを売って、いい大会にするだけなんでね。あと、（11月）25日に『格闘王国』のイベントがあるんで、ラウンドガールのリング上げをやろうと思ってるんですよ。ウシシシシ。

——それは勝手にやっていただくとして（笑）、ここ最近の佐伯さんは、大晦日興行関連の話が出ると「俺のところに話が来るのは一番最後なんで、よくわからん」って言ってましたけど、それはネタなんですか？　それとも本当の話なんでしょうか（笑）。

佐伯　さっきも某関係者とその話をしてたんだけど、「何も知らないんですか？　普通、最初に佐伯さんのところに話が来るでしょ」って言われたばかりで（笑）。「いつも一番最後かよ、俺は」って思うもん。

——そうなんですか（笑）。大晦日の旧PRIDE派の大会は加藤（浩之・元DSE専務）さんと佐伯さんのイベントだと思っているファンも多いみたいですけどね（笑）。

佐伯　そんなわけないだろ（苦笑）。まあでも、加藤さんとは『武士道』もそうだし、ずっと一緒にやってきてるんで、そう思う人も当然いるだろうし。そういう意味では、僕はある部分、彼に身を捧げたつもりだしね、実際には。彼についていこうっていう気持ちはずっとあるし、そこは一心同体と思っていいんじゃないんですか。

——それなのに話が来るのが一番最後っていうのは切ないですね（笑）。

佐伯　そうなんだよなぁ（苦笑）。

——あとは、大晦日興行はDEEPのビッグマッチなんじゃないかという説も流れていました（笑）。

佐伯　そんなもん、やるわけないだろ！　どうやってやるんだよ、さいたまで！

——どうなんでしょうね（笑）。

佐伯　もし本当にやるんならDEEPの名前は使わないよ。

——といいますと？

佐伯　じゃないとお金が集まらないもん。

“PRIDE消滅”後の日本総合格闘技界

『HERO'S』と敵対するつもりはないけど、PRIDE系の大きな大会がなきゃダメ

ぶっちゃけた話、「新しくこういうことをやります」っていうなら、お金は集められるかもしれないけど、「DEEPが大きな大会やります」って言ってもダメ。

——だから、『DEEP X』とか『DEEP GLOVE』とか、違う大会名のイベントがちょくちょくある、と？（笑）。

佐伯　まあまあ（笑）、でも、ウチも大きな大会を来年の春ぐらいにやるかもしれないけどね。

——あ、そうなんですか？

佐伯　『DEEP35』でビッグマッチをやる可能性はあるんで。それか、7周年大会で。そのためには、お金を用意しないといけないんだけども（苦笑）。

——頑張ってください（笑）。で、話は大晦日興行に戻りますが、佐伯さんはPRIDEでは広報をやったりしてたわけですけど、今度の大会でも広報的な役割をするわけですか？

佐伯　まあ、そうなるんじゃないの。とにかく自分の役割どうこうって言う前に、俺は誰よりも格闘技を愛してると思うし、愛情もあると思うから、なんかしらのかたちでバックアップはしていきたいと思ってますよ。

——格闘技を愛する気持ちは、ほかの人には負けない、と？

佐伯　そうだね。悪いけど、本業のある人が片手間にやれるような仕事じゃないっていう話よ。失礼な言い方かもしれないけど、本気で身を捨ててないと無理だよ、この業界は。中途半端な気持ちで関わってやめていった人はいくらでもいるし、これしか生きる道がないっていう気持ちで俺はやってるから、ほかの仕事がある人と比べたら違うと思うよ。それは断言できる！（キッパリ）。

——今日はいつになく熱いですねぇ（笑）。で、大晦日の大会ではPRIDEファンも期待している佐藤大輔さんの煽り映像も観られるということなんですが。

佐伯　そうだね。大輔さんも自分たちと同じ気持ちでPRIDEという大会にもの凄く思い入れを持ってくれてるからね。そこは期待していいんじゃない？

——いろんな問題もあって、“PRIDE”という名前は使えないみたいですけど、やはり、その流れを汲むイベントだと思っていいんですよね？

佐伯　まあ、はっきり言っちゃうと名前なんかどうだっていいんだわ。熱い思いで舞台を作って、選手が同じ熱い気持ちで闘えば、同じ熱い空間はできるでしょ。もちろん、言うほど簡単じゃないよ。あとはそれを見てファンの人がどう感じてくれるかでしょう。

——佐伯さんの立場からいうと、ファンのためっていうのはもちろんあるんでしょうけど、契約の縛りによって、PRIDE買収後、試合ができなかった選手のためにっていう部分は大きいんじゃないですか？

佐伯　それはあるよね。それに、収入もそうだし、対戦相手にしてもそうだけど、やっぱり目標になる大会がないとかわいそうだもん。そういう選手にとって、ウチは目標にはならないからね。

——もちろん、DEEPを目標にしている選手もたくさんいるでしょうけど。

佐伯　そうなんだけど、DEEPでトップ張ったって、PRIDEのトップに行けるわけじゃないからね。だから、そういう意味ではウチのチャンピオンクラスの選手が目標にするような大会がないと困るの。

——“PRIDE消滅”後は、それこそ『HERO'S』かUFCがそれにあたる大会になってるわけですけど。

佐伯　それだけじゃ困るし、やっぱり海外よりも日本でほしいからね。『HERO'S』も『HERO'S』で貢献してると思うけど、それだけだと出られる人数も限られてくるわけだし。

——確かにそれは言えますよね。

佐伯　ウチもいま困ってるのよ、人ばっかり増えて。だから、『HERO'S』と敵対するつもりはないけど、やっぱりPRIDE系の大きな大会がなきゃダメだと思うんだよね。

——いま、アメリカではUFCを中心に総合格闘技が盛り上がっていますが、谷川さんもインタビューで「過去にいがみ合った人もいるかもしれないけど、団結して日本の格闘技界を盛り上げていきたい」と言ってますしね。佐伯さんは最近、谷川さんとは会ったりしてます？

佐伯　今年の夏前だったかな？　魔裟斗選手の事務所の社長の結婚式で会っただけ。

——それ以来、会ってないんですか？

佐伯　そう。そのときは、先に谷川さんにビール注がれて、「負けた！」と思った（笑）。

——そうなんですか（笑）。

佐伯　でもね、感覚的に谷川さんは自分に近いと思うんですよ。発想的には。どっちかっていうと柔らかいでしょ。

——柔軟ですよね。いざとなったら、佐伯さんと同じように怖い一面もあるとは思いますけど（笑）。

佐伯　そうそう（笑）。発想がおもしろいと思うし、マスコミへの対応とかもうまいと思うし。

——大晦日の興行は『Dynamite!!』と日程的にはぶつかるわけですけど、ケンカを売るつもりはない、と？

佐伯　そうだね。日本の格闘技界のことを考えて、どっちも成功できるように協力してやれれば一番いいと思うよ。

——PRIDEファンに対して、ケジメをつけるというか、さよなら興行のような大会になると思っていいんでしょうか？

佐伯　そうだと俺は思ってたんだけど、M−1が大晦日にさいたまスーパーアリーナで大会をやるとかって話もあったし、よくわからなくなってきた（苦笑）。

——その日のウチに、その情報は削除されちゃいましたけどね（笑）。ここ最近、会見のたびに「大晦日はけやき広場に行くつも

旗揚げ当時はドスJr.やカネック、ソラールといったルチャ勢の試合を頻繁にマッチメイクし、独自の世界観を作っていたDEEP。ここ最近はまじめな（?）マッチメイクが多かったが、12.12後楽園大会ではDRAGON GATEのストーカー市川を参戦させる佐伯代表。対戦相手として滑川康仁の名前が挙がっているが、締め切り時点では正式決定はしていない。はたして、どうなる？

待ってるファンはツライだろうから、多少のリップサービスは必要でしょ！

り」って言ってましたけど、あれは佐伯さんなりのリップサービスだったんですか？

佐伯　もちろんそうだよ。待ってるファンはツライだろうから、多少は期待を持たせるようなリップサービスも必要でしょ。

――確かに。

佐伯　でも、実際は自分でもどうなるかわからなかったからね。一日、日状況は変わるし、どこまで言っていいのかも判断できない部分もあるし。

　さっきも言っていたように、具体的な話が来るのは、番最後ってことですからね（笑）。

佐伯　そうそう（笑）。

――ちなみに、佐伯さんは新しいイベントで何か肩書きはついたりするんですか？

佐伯　それも、なんにも聞いてないんだよ（笑）。でもね、自分でも思うんだけど、俺は周りの空気から読んだり、情報を集めるのは凄いと思う。

――具体的な話が入ってこないぶん、いろんなところから情報は集めている、と（笑）。

佐伯　そう。それで、わかったフリをするのが自分でも凄いと思う。

――佐伯さんは（佐藤）大輔さんとは、よく話をしたりするんですか？

佐伯　いや、大輔さんは大輔さんで、俺と同じように聞かれたらポロッと言っちゃうタイプだから（笑）。

　そうなんですか（笑）。

佐伯　だから、俺と大輔さんが揃ったときには何を言い出すかわかんないから、お互いに意識して「よけいな話はしないでおこうね」っていう感じで（笑）。

――大輔さんは会見とかの場がないんで大丈夫ですけど、佐伯さんはDEEPの会見がちょくちょくあるんで、ポロッと……。

佐伯　（さえぎって）でもね、ポロッっていうのも必要なんだって。っていうのは、俺はマスコミに対して、ちょっと含んだところまで匂わせてもいいと思ってるから。それがサービスだと思うし、そういうのがマスコミのネタになるわけでしょ。

“PRIDE消滅”後の日本総合格闘技界

――そういう意味では佐伯さんには、よくネタを提供してもらってます。恐縮です。

佐伯　でしょ。だから逆に言ったら、マスコミも含めて、もっと戦略を考えなきゃいけないと俺は思うの。出せる情報は全部教えて、これは出しちゃダメ、これは出してくれっていうのをもっとしていかないと。

――それはマスコミにとっては、素晴らしい心がけだと思います。

佐伯　多少のリップサービスは必要だと思うよ、俺は。

　そういう意味では、旧PRIDE派の進展具合は、佐伯さんの会見後のコメントや、ウチの携帯サイトでの青木さんのブログでのサプライズ予告とかが、よく話題になってましたからね（笑）。

佐伯　あんまり言いすぎても怒られちゃうけど（笑）、そういうのも必要だと思うよ。

――そういうマスコミ対応も含めて、大晦日興行に向けて佐伯さんの役割は重要になってくるでしょうね。正直、もう時間もあまりないですから。

佐伯　まあでも、俺もよけいなことはあんまり言えないけど、マスコミの皆さんのお役に立てるように頑張りますよ！（笑）。

――では最後に、今後のDEEPに関しての意気込みをお願いします！

佐伯　ウチは大会もそうだけど、選手も増えてるし、大変だよ、ホントに。来年も20大会以上は余裕であるからな（苦笑）。

――ほとんどプロレス団体状態ですね（笑）。

佐伯　そうだよな（笑）。でも、一つ一つこなしてリスク背負ってやってるっていうのがどんだけ大変か。俺はどっかの誰かみたいに机に座ってしゃべってるだけじゃないからね。選手も迎えに行くし、リリースも書くし、会見の司会もやるし、ホント、全部やってるんだから！

――そのへんはよく存じ上げております（笑）。このあいだも会見中に電話がかかってきて、そのまま携帯を持ってどっかに行っちゃったりしてましたし（笑）。

佐伯　そんだけ人がいない中で身を削って一生懸命やってるわけよ。まあでも、大晦日はもちろん、ウチの大会も、まだ年内4大会あるんで、“やれんのか～ッ!?”って感じだけど、まあ頑張るしかないよな（笑）。

――五体満足で年を越せるよう願っておりますので、頑張ってください！

【07年11月17日／DEEPジム近くの喫茶店にて収録】

大晦日興行前、最後のDEEP興行となる12.22大阪大会は、テレビ大阪での地上波放送が決定しており（日時は各自調査）、視聴率いかんでは今後も継続して放送される可能性があるため、佐伯さんの鼻息も5割増し。この大会では日韓対抗戦として、前田吉朗、村田龍一、池本誠知らが韓国人選手と激突。DEEP女子王者のMIKUも参戦します'

《年内はまだ4興行も!》

DEEP関連大会情報!!

BULL TERRIER presents
「DEEP X 02」
東京・新宿FACE　12月2日（日）
第1部開始13:30／第2部開始17:00

[主要対戦カード]
【メインイベント 78kg契約 3ラウンド】
ルーカス・レブリ（アリアンシ柔術／ブラジリアン柔術統一世界王者）vs 長谷川秀彦（SKアブソリュート／DEEPウェルター級王者）
ブルーノ・フラザト（ゴドイ柔術／ADCCブラジル王者）vs バレット・ヨシダ（SDアンディスピューテッドジム/ADCC世界3位）
マウリシオ・ソウザ（ボンサイ柔術）vs 山崎剛（GRABAKA）
マルコス“マルキーニョス”ソウザ（ボンサイ柔術/柔術ブラジル王者）vs IRO関（フリー）
闘牛・空（フリー／女子プロレスラー）vs 松本洋平（サムライTVディレクター）
長谷川匡紀（株式会社 公武堂代表取締役）vs 千島広明（BCG&マッハ道場）

ファーストグループpresents
「clubDEEP 金沢
～野武士あばれ祭り1～」
石川・石川県産業展示館2号館
12月9日（日）
第1部開始14:00／第2部開始16:00

[主要対戦カード]
MIKU（クラブバーバリアン）vs 関有紀子（巴組）
松井大二郎（フリー）vs カルロス・トヨタ（HARD COMBAT）
藤田雅幸（L.A.GYM JAPAN）vs レオナルド・イトウ（ムエタイ・ドリームチーム）

ファイティングロードpresents
「DEEP 33 IMPACT
後楽園大会」
12月12日（水）18:30開始（17:30開場）

[主要対戦カード]
【DEEP非公認ヘビー級タイオルマッチ 5分3R】
入江秀忠（キングダム・エルガイツ／非公認王者）vs 桜木裕司（掣圏会館／非公認挑戦者）
渡辺久江（フリー）vs ゲンカーム・ルークチャオポーカム（タイ／ムエタイ・タイ北部王者）
大類宗次朗（SKアブソリュート）vs 地主正孝（正道会館）
中尾受太郎（フリー）vs ハン・スーファン（CMA KOREA）

[出場予定選手]
滑川康仁（Team M・A・D）、“ハリウッド”ストーカー市川（DRAGON GATE）、ほか

「DEEP PROTECT
IMPACT in OSAKA」
大阪・梅田ステラホール
12月22日（土）
第1部開始16:00／第2部開始18:00

[主要対戦カード]
【日本対韓国対抗戦】
前田吉朗（パンクラス稲垣組）vs キム・ジョンマン（CMA KOREA）
池本誠知（総合格闘技スタジオSTYLE）vs ソ・ドゥウォン（CMA KOREA）
村田龍一（吉田道場）vs キム・ホジン（gumi jung sim guan）
MIKU（クラブバーバリアン）vs ウェントーン サックルンルアン（サックルンルアン）

[すべての問い合わせ]
DEEP事務局 TEL.052-339-0303

観客ドン引きもなんのその!
DJ GOZMA
全米デビュー
11.17 UFC78 VALIDATION
米国ニュージャージー州ニューアーク・プルデンシャルアリーナ

【11.17 UFC78 VAL[illegible]】
米国ニュージャージー州ニュー[illegible]
[illegible]タムダン・マックローリー
（2R 3分19秒 腕ひしぎ十字固め）

郷野のUFCデビュー戦の[illegible]手は、ウェルター級（77キロ以下）ながら194cmの長身を誇るタムダン。1R、長い手足を武器に、いきなり打撃でラッシュをかけてくるタンデムを郷野は持ち前のディフェンス力で凌ぎ、2Rにローキックでダメージを与え、寝技に持ち込むと腕十字をズバリ。見事、「ベストサブミッション賞」に輝いた。

Welcome to UFC

おまえらよく来たな

――郷野、長南が記した確かな一歩――

文／橋本宗洋　構成／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

現地時間11月17日、アメリカ・ニュージャージー州で開催された『UFC78』に出場した二人の日本人選手の試合結果は、はっきりと明暗を分けることになった。

郷野聡寛はタムダン・マックローリーに一本勝ちを収めた。1ラウンドは打撃で追い込まれながら、2ラウンドに逆転。マウントから腕十字を極めるという劇的な逆転勝利である。入場時にはいつものように〝DJ GOZMA〟としてダンスを披露。まだ客席が〝あったまっていない〟状態だったため反応はイマイチだったが、そこがまた郷野らしい感じもする。試合順はPPV中継のない〝前座〟第1試合だったのだが、放送の最後の最後、〝サブミッション・オブ・ザ・ナイト〟としてフィニッシュシーンが流された。このあたりも見事な逆転ぶり。入場の微妙な空気、試合で見せる実力、ギリギリ放送枠に顔を出してみせるしぶとさ。全部含めて〝ザ・郷野〟だ。

現在UFCウェルター級で7連勝中の有望株ジョン・フィッチも、郷野の勝利を「アンビリーバブル！」と興奮ぎみに語った。

「ゴーノの試合はインパクトがあったね。初めてのケージ（金網）とは思えないよ。彼と闘ったら、きっといい試合になる。でも、打撃を当てるのは難しそうだね……」

フィッチはタイトル挑戦圏内にいる強豪である。そんな選手が、いずれ闘うであろう相手として郷野の存在を視野に入れたのだ。それだけの試合を、郷野がしてみせたということだろう。

一方、同じウェルター級マッチで、この階級のトップグループの一人であるカロ・パリジャンと対戦した長南亮は、3－0の判定負けを喫した。試合展開はいたって

【11.17 UFC78 VALIDATION】
米国ニュージャージー州ニューアーク・プルデンシャルアリーナ
○カロ・パリジャン vs 長南亮×
（3R終了 判定3-0）
UFCデビュー戦ながら、いきなりPPVマッチで強豪カロ・パリジャンと対戦した長南。スタンドの打撃で勝負したい長南だが、たびたび蹴り足をつかまれテイクダウンを許し、最後までなかなか自分のペースがつかめずにフルラウンド終了。長南にとって課題が残ると同時に、手応えもつかんだUFCデビュー戦となった。

単調だった。蹴り足をつかまれてテイクダウンを許す。立ち上がると今度はタックル、さらに足払い。〝叩きのめされた〟という強烈な印象はなかったが、ジワジワと追い込まれ、ポイントを失なっていく展開はよけいにストレスを感じさせた。

郷野が見せたファンタジックな勝利とは、あまりにも対照的である。長南が味わったのは現実、それもPRIDEのような〝圧倒的現実〟ではなく、少しずつ積み上げられた〝あたりまえの現実〟でしかなかった。

「作戦どおりできたと思うよ」

試合後のパリジャンはそう語った。

「チョーナンは簡単にテイクダウンを許しすぎたね。テイクダウンしやすいってすぐにわかったから、ボクはひたすらそれを狙っていったんだ」

もともと下になってからの攻防を苦手にしていた長南だが、このUFCデビュー戦でその弱点を痛いほど突かれてしまった。ましてUFCのオクタゴンはリングよりも面積が広く、金網に押しつけて相手を固定することができ、ヒジ打ちも認められている。グラウンドで上になることが、リングでの闘い以上に重要な意味を持つのである。UFCでは強さの基準が変わる。UFCではUFC用の闘い方が求められる。そんな（本人もきっとわかっていたはずの）あたりまえの現実を、長南はこれから打ち破っていかなければならない。

ただ、長南に対するUFCファイターたちからの評価が決して低くはないのも事実だ。ジョン・フィッチは「この試合で、彼がウェルター級の上位にランクされる選手だと証明されたと思うよ」と長南の闘いぶりをたたえる。「正直な話、カロの実力からいったら、もっと簡単に勝つだろうって思ってたからね。しっかりとUFC用の練習をチョーナンが積んだら、カロに勝てるぐらいの実力を身につけると思うよ」。

現ウェルター級王者マット・セラは「チョーナンはタフだしデンジャラスだった」と言い、B・J・ペンも「次の試合では、チョーナンはいい結果を出すだろうね」と語っている。B・Jいわく「カロはイージーな相手じゃないからね。カロと闘うのは、（UFC初参戦の選手にとって）テストみたいなものなんだよ」。

日本のファンにはなじみが薄いが、パリジャンはUFCですでに10戦を行ない、7勝している選手。2005年には現ウエルター級王者セラにも勝利している。その実力はUFCファイター1なら誰もが認めるところであり、そんなパリジャンを相手に決定的な場面を作らせなかったことが、長南の評価につながっているのだ。そもそも、初参戦でPPV枠登場、しかも〝セミ前〟でパリジャンと対戦すること自体が、長南に対する高い評価と期待値の表われといっていい。

郷野は見事な勝利を挙げた。長南は苦い敗北を味わった。より高い評価を得たのは、もちろん郷野だ。ただ両者に共通しているのは、どちらもUFCでの第一歩を確かに記したということ、これから先、さらに厳しい闘いが待っているということである。

〝ようこそオクタゴンへ。おまえらの実力は見せてもらったよ。ここから先は俺たちが相手になるぜ〟

ここで紹介したUFCファイターたちの好意的なコメントは、郷野と長南に対する歓迎の証である。だが同時に〝蹴落とすべきライバル〟として照準を定められたことも意味するのだ。

日本進出はまだあきらめていない。でも俺が日本に行ったら殺されるかな（笑）

―今回もまたダナ・ホワイト代表の話が聞きたくて、ニュージャージーまで来てしまいました！

ダナ　おいおい、またPRIDEの話じゃないだろうな？　その質問は聞き飽きた。もうウンザリだ！

―いや、今日はPRIDEの話ではなく、まずは12月に発売されるUFCの超豪華アートブック『オクタゴン』についてうかがおうと思うんですよ。ダナ代表へのご機嫌とりのために（笑）。

ダナ　よくわかってるじゃないか（笑）。では、話してやろう。このアートブックの写真を撮ったのはケビン・リンチというロサンゼルスのハリウッド映画界で活躍するカメラマン。彼に『UFC39』か『UFC40』で仕事を頼んだんだが、そのとき、UFCに惚れ込んでくれて、それ以来、彼はタダでUFCに通い続けてくれるようになったんだ。そしてその写真をまとめて、リリースすることになったのさ。

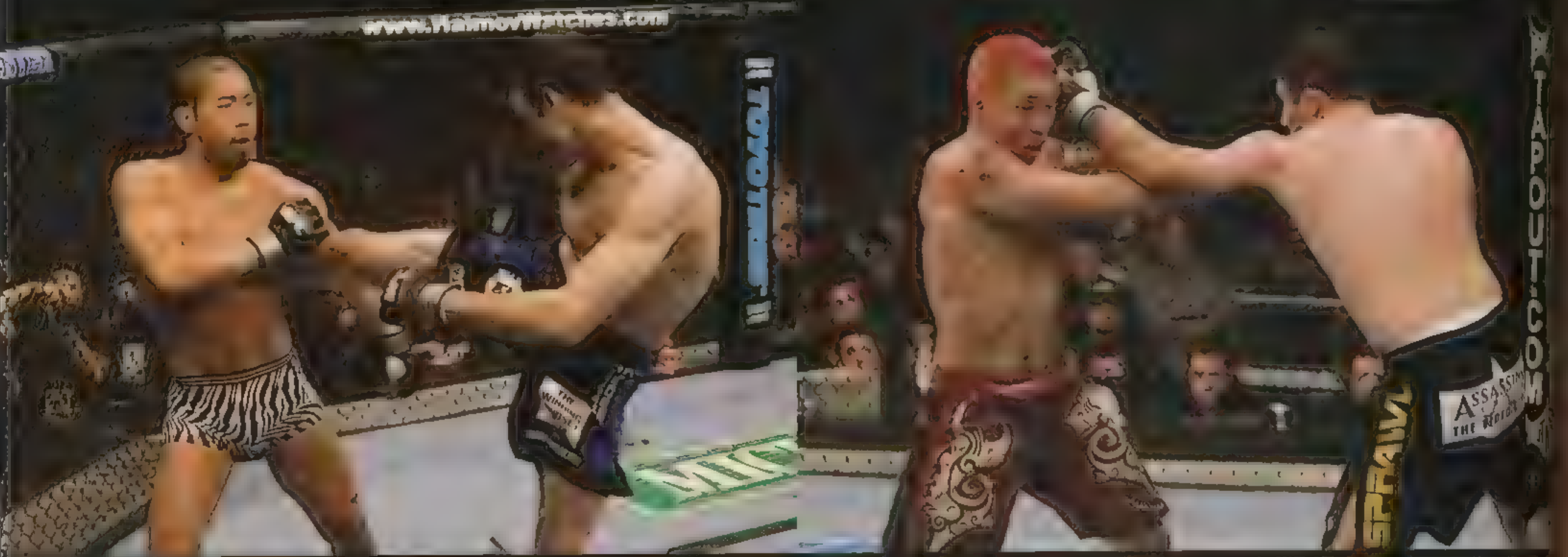
―ほう、ハリウッドの大物カメラマンが撮影した写真集なわけですね。

ダナ　600部限定発売なんだが、2500ドルの写真集で、そのうち150部は3500ドルのデラックス・バージョンだ。

―2500ドルと3500ドル！　日本円にしたら……約30万円と40万円ですか！　ひぇ～～！　その写真集……どんな方が買うんですか？

ダナ　どんな方も何も、みんながほしがるだろう。600部限定だからすぐに売り切れるよ。

―日本でも発売するんですか？

ダナ　オンラインなら購入可能だ。600部しかないから、日本のファンも早めに予約することをおすすめするよ。いま、予約受付中だ。

―そのプロモーションのためにも、日本に行く予定は？

ダナ　俺が日本に行くって？　行ったら殺されそうだよな。ハッハッハッハー

―かもしれませんね（笑）。

ダナ　でも、日本進出への興味はまだあるよ。だから、『オクタゴン』のプロモーションではなく、日本で大会を開くために、日本に行くことはあるかもしれないな。UFC日本大会はマジで実現させたいからね。

―今日、二人の日本人ファイターが試合をしましたが、どう思いましたか？

ダナ　ゴウノ（郷野聡寛）は素晴らしかった。個性もあるしね。彼が倒した奴はタフな男だったし、いい勝ち方だったよ。チョーナン（長南亮）もタフな男だと思うが、みんなが思っている以上に、カロ・パリジャンもいいファイターだ。今日、観客がブーイングしていたが、あの膠着は、強いファイター同士の闘いによる接戦の印だ。決して悪い試合ではなかった。

―個人的な感想としては、パリジャンは長南選手をコントロールできてはいたけれど、それ以上のことはできなかったように思います。

ダナ　そうだな。俺もそう思うよ。パリジャン相手にあれだけできるというのは、チョーナンがトップクラスの実力を持っている証拠だよ。

―郷野選手の入場パフォーマンスはどうでしたか？

ダナ　さっきも言ったが、パーナリティも素晴らしいし、楽しいし、ファイターとしてもショーマンとしても素晴らしい男だ。

―なぜ、多くの強いPRIDEファイターがいる中で、彼ら二人と契約したのですか？

ダナ　なぜって、二人とも素晴らしいファイターだからだ。そしてなんといっても、チョーナンは、UFCミドル級チャンピオンのアンデウソン・シウバに勝っている男だからね。しかも、ファンタスティックなサブミッションで。多くの熱心なMMAファンが彼のUFC参戦を望んでいたんだ。

―三崎和雄についてはどう思いますか？　三崎はPRIDEウェルター級GP優勝の経験もあります。

ダナ　いつも言っているように日本にも素晴らしいファイターはいるが、彼らは日本というホームで試合をしたがっていて、現時点で我々にはそれは実現できない。サクライ（桜井"マッハ"速人）、ゴミ（五味隆典）が、なかなかUFCに来ないのも、それが一つの要因だ。

―岡見勇信はどうですか？　彼はUFCと前の契約は満了になったようですが。

ダナ　彼とは再契約するよ。契約はほかの人間に任せているが、もしかしたら、もう完了してるかもしれないな。日本でのイベントはなかなか実現できないが、これからも優秀な日本人ファイターにはどんどんオクタゴンで闘ってもらうつもりだ。

―元PRIDEファイターでいえば、ヴァンダレイ・シウバとチャック・リデルの試合が12・29『UFC79』でいよいよ実現しますね。

ダナ　ああ。この試合を実現させるのに5年かかった。ワクワクするよ。シウバはいま、ラスベガスの私たちのジムでトレーニ

©Josh Hedges (UFC)

ヒョードルは世界で一番過大評価されているあれが「最強」なんてファ●キン・ジョークだ！

ングしている。ずっと敵だった男が、いまは毎日顔を合わせるわけだから不思議な感じはするな。

――そうでしょうね。でも、本当ならシウバとリデル、王者同士でこのカードを組みたかったんじゃないですか？

ダナ それはそうだ。UFCとPRIDEのスーパースター同士なんだ、お互いがベルトを懸けて闘うに越したことはない。だが、さっきも言ったようにこの闘いは何度も流れ、もしかしたら実現できないんじゃないか、と思うことが何度もあった。それが最終的に実現することになって、私は満足しているよ。

――現在、2連敗中にチャックは、シウバに負けたら引退するという噂もありますが？

ダナ それはチャックが決めることだ。何が起こっても不思議ではないがね。それがプロの世界だ。

――逆にヴァンダレイが勝ったら、クイントン〝ランペイジ〟ジャクソンとのタイトルマッチということになりますか？

ダナ ありえることだな。過去、二度にわたって激闘を展開した、因縁のスーパーカードだ。日本のファンもこの試合が観たいだろう？　そういったファンの気持ちを日本のテレビ局はどう思っているんだか。ヤツらはどうせ「ああ、この試合は放映すべきだった」なんて後悔するんだろう。ファ●ダー

――もう一つのビッグカードとして、来年2月までランディ・クートゥアーをキープできていれば、ランディvsノゲイラのヘビー級タイトルマッチを組もうとしているのは本当ですか？

ダナ ああ。ランディがこれ以上、手を焼かせなければ実現させたいね（笑）。ランディについては以上だ！

――では、どうしてUFC2戦目のノゲイラにチャンスを与えようと思ったのですか？

ダナ どうしてだって？　ノゲイラの素晴らしさは、日本人が一番知っているだろう。彼は前PRIDEヘビー級チャンピオンで、5年以上にわたり、この世界のトップレベルに君臨し続ける本物の実力者だ。UFCのタイトルマッチに出るのは当然だろう。

――でも、あなたは現PRIDEヘビー級チャンピオンである、ヒョードルはあまり評価してないんですよね？

ダナ ヒョードル？　彼は世界で一番過大評価されているファイターだ。ここ2年間の彼のレコードを見ると、私以外にそう言う人間がいないのが不思議でしょうがない。2005年にミルコ・クロコップに勝って以来、彼が倒したのは、誰も知らないデブのズール、キックボクサーのマーク・ハント、半分リタイアしたような42歳のマーク・コールマン、それから二階級下のマット・リンドランドだぞ？　なぜ、そんなヤツがナンバーワン・ヘビーウエートチャンピオンになるんだ⁉　ファ●キン・ジョークだ！

――でも、あなたが認めるノゲイラは、そのヒョードルに二度にわたって敗れているわけですが……。

ダナ おまえはいつの話をしているんだ⁉　ノゲイラが負けたのは、3年も前の話だ。もしかしたら、その時点ではヒョードルがナンバーワンだったかもしれない。でも、それ以降は楽をしているだけだ。それに対してノゲイラは、ファブリシオ・ヴェウドゥム、ジョシュ・バーネット、ヒース・ヒーリングらを倒している。彼は本物だ。

――ノゲイラもじつはズールと闘ったり、二階級下の田村潔司とやったりしてるんですけど……。

ダナ （間かずに）ヒョードルもヘビー級でトップ10には入るだろうが、このレコードでトップ5というのはありえない。でもまあ、このビジネスで不可解なことってのはよくある話だがな。ファ●ク！　ヒョードルなんて誰も知らないヤツより、12月に開催されるシウバvsリデルに期待してくれ！

――昨年12月のチャック・リデルvsティト・オーティズ戦では、PPV契約数のレコードを更新しましたけど、今年の12月もかなりの契約件数になりそうですか？

ダナ 去年の12月は凄い大会だったが、今年はもっと凄まじいものになるよ。チャックとヴァンダレイの試合だけでなく、マット・セラvsマット・ヒューズも現実のものとなる。一年の最後に最高の試合を用意したんだ。

――その「UFC79」とほぼ同時期、大晦日に日本で、元PRIDEのスタッフがビッグイベントを開催するという噂がありますが、ご存知ですか？

ダナ 噂には聞いていたが、本当にやるんだ。そりゃあいいことだ。「頑張ってくれ」って伝えておいてくれ。彼らはPRIDEで素晴らしいイベントを作ってきたんだから、きっといいイベントになるだろう。本当にかつてのPRIDEはファンタスティックだった。

長南の対戦相手、カロ・パリジャンのセコンドとして、渦中のランディ・クートゥアーが11.17「UFC78」に来場。コメントを求めると、「いまは何もしゃべれないが、近いうちにダナと会談を持つことは事実だ」と発言。UFC残留か？

03年3月、04年大晦日と二度にわたり対戦しているヒョードルとノゲイラ。結果はどちらもヒョードルの判定勝ち。PRIDEでは「ナンバー2」だったノゲイラが、UFCで頂点に立つことはできるか？

ホジェリオ・ノゲイラ、ヒカルド・アローナと、PRIDEが誇るミドル級（UFCではライトヘビー級）の超実力派を立て続けに秒殺KOで下したソクジュが、ついにUFC参戦決定！ LYOTOとの一戦は、アフリカのジャングルで育った男vsアマゾンのジャングルで育った男の闘いだ！！

『M−1グローバル』って何者なんだって話だ なんの実績もないし、金があるのかも怪しい

——元PRIDEの青木真也選手や川尻達也選手らが出場するともわれていますが、これはPRIDE FC WORLDWIDEとの契約には抵触しないのでしょうか？

ダナ 個人の細かい契約のことは知らないが、その可能性はありえるよな。まぁ、でも「頑張ってくれ」と言っといてくれ。

——同じく日本の大晦日に出場が噂されていたソクジュは、12・29「UFC79」でLYOTOとの対戦が発表されましたね。これはソクジュが他団体と契約を協議していたときの話ですが、あなたは彼の実績をあまり評価していませんでしたよね？

ダナ 当時は金の話で我々とは折り合いがつかなかったから、ソクジュはほかの団体と契約した。でも結局、その団体にソクジュと契約しただけの金を支払う能力がなかった。

——契約金が支払われなかったんですか！

ダナ そんなクソ団体ばっかりだ。いまで言えば、いろんなメディアが「M−1グローバル」が旗揚げしたが脅威か？」なんて聞いてきやがる。そもそも「M−1グローバル」ってのは何者なんだ？って感じだろ。一度もショーを開催したこともなければ、マッチメイクの実績もない。ハッキリ言えば、金があるのかだってわからない。

——ダハハハハ！ そこまで言いますか。

ダナ ファイターというのは、契約する機会がそれほどあるわけではない。にも関わらず、金を持ってるのかどうかもわからない見知らぬ団体のところに行って、契約しようってのは正気の沙汰ではないな。でも、君たちが知っている以上に、現実にはよく起こっている。

——では、ソクジュについては、評価はしていたということですね。

ダナ そういうわけじゃない。当時は、ソクジュについて、まだその強さの証明が不充分だったということだ。だがいま、彼はその強さを証明しようとしている。彼が素晴らしいファイターかどうかは、これからわかるさ。

——LYOTOは強い選手ですからね。

ダナ ああ、LYOTOはいい選手だ。もしソクジュがLYOTOに勝つようなら、彼を大々的に売り出すよ。

——二人の試合はどういったものになると思いますか？

ダナ 激しい試合になるだろうし、勝ったほうは注目を浴びることになるな。よく聞けよ、みんなPRIDEのほうがいいとか、誰がいい、彼がいいとか、よくもまぁ好き放題に言っているが、試合はやってみるまでわからないものだ。だが、一つ言えることは、UFCで勝った人間こそがベストファイターであるっていうことは、誰にも否定できないはずだ。そこでファイターの真価がわかるんだ。

——もしLYOTOが試合に勝ったとしたら、タイトルマッチへの道が開けるわけですか？

ダナ ああ、彼はそのタイトル戦線の真っただ中にいると言っていいだろう。

——最後に、日本のファンへ一言お願いします。

ダナ いつも言ってることだが、私たちが日本にいないということ自体がクレイジーなことなんだ。UFC、そしてPRIDEはそこにいるべきなんだ。だが、テレビ契約を巡って、わけのわからない汚職だとか腐敗だとかが繰り広げられているせいで、日本に行けない。いいか、これは決してUFCのせいではないんだ。それを信じてほしい。

——今後もそういった件について解決するために日本に行きますか？

ダナ もちろん。

——そのためには、ほかの日本の団体と手を組む可能性もありますか？

ダナ そうだな。テレビ契約がほしいからな。今日はここまでだ！

【07年11月17日／米国ニュージャージー州ニューアーク、プルデンシャルセンターにて収録】

—郷野選手のUFCでの勝利、おめでとうございます。菊田選手はセコンドについかれたわけですが、劣勢からの逆転劇で、じつに郷野選手らしい勝利でしたね。

菊田　あ〜、映像とか結果から見るとそうなんですけど、ちょっと今回はヒヤッとしましたね。耐えて耐えて最後に勝つってのは同じなんですけど、打撃がちょっと、いままでとは違うっていうか、少し当たってましたよね。これはやりづらいなっていうのはあったんで。

—確かに、郷野選手らしくかわすシーンもありましたが、金網際ではもらう場面もありましたね。

菊田　金網っていうのは、顔もロープから後ろに出せないし、リバウンドもしないんで、本当に壁に追い詰められちゃう感じで。それが大きく違ったかな、と。

—でももちろん、金網を想定した練習というのはしてたわけですよね。

菊田　打撃に関しては、壁を使ってボクシングをやるとか、そこまではやってなかったんで。寝技はやってましたけど。

—やっぱりリングとはちょっと違う？

菊田　グラップラーにとっては金網は有利なんですけど、そう考えるとミルコの試合とかもあったし、打撃系にとってはリングと金網はだいぶ違うのかなというのはわかりましたね。

—郷野選手は「ジャパニーズ・センセーション」と紹介されたり、期待されてましたよね。

菊田　それは凄く感じましたね。ただ、今回は第1試合で、向こうで第1試合というのはどういう意味があるのかなとか考えてたんですけど、すべてをいいふうにはさせてくれないというか。日本だと第1試合ってちょっといい試合をもってくる

「大晦日は大阪かさいたまか、どっちかには出てる気がするんですけどねぇ」

グラバカのボスが語る、郷野UFCデビュー戦、練習仲間・船木誠勝、そして自身の大晦日！

菊田早苗

UFCデビュー戦を勝利で飾った郷野のセコンドには、いつものように菊田早苗の姿があった。昨年11月の『武士道』以来、グラバカのボスとして、指導やセコンド、ジム経営などに専念し、試合から遠ざかっていた菊田。そんな菊田に、郷野のUFCデビュー戦から、最近グラバカで一緒に練習をしているという船木&柴田について、さらには菊田自身の大晦日の予定まで、ぼやき気味に語ってもらいました。

来年はコンスタントに試合をしていくつもりもあるし、一からやっていきます

みたいなのがあると思うんですけど、お客さんとかもまだ半分ぐらいしかいないんですよ。そのへんは、アウェーから来た厳しさを味わった感じですかね。踊りもね、みんな呆然と見てるというか……ワーッていう感じじゃなかったんで。

——満員ならダンスの反応も違った？

菊田 う～ん……、それはちょっと、わかりにくいというか。

——急に発言が曖昧になりましたね（笑）。

菊田 日本みたいに真っすぐ花道があるんじゃなくて、会場のはじっこからぐるっと回るような感じでしたからね。まあ、頑張ったんじゃないですか（笑）。

——なんですか、その強引なまとめ（笑）。

菊田 まあ次は、第1試合じゃないだろうし、今回は身長も規格外の相手だったし、泊まるホテルの質の悪さとか……すべてにおいて次はやりやすいと思います。

——ホテルはダメでしたか（笑）。

菊田 郷野本人は、「部屋も広いし、これならいいね」って言ってましたけど、僕が最近、遠征についていった中では「ええっ!?」って感じだったんで（笑）。

——そうでしたか（笑）。郷野選手の闘い方は、アメリカのファンにとってはどうだったんですかね。

菊田 最後は、一発で決めたんで、メリハリのある試合だったからよかったですよ。拍手も出てたし。ただ、1ラウンド目で、相手から離れて動き回るスタイルだったんで、やっぱりちょっと理解がなかったですよね。ブーイングも出てましたし。

——でもそのへんは、勝って帳消しと。

菊田 まあそれは、そうでないと一本賞も出ないでしょう。

——「サブミッション・オブ・ザ・ナイト」ですよね。でも5万ドル（日本円で約600万円）って凄いですよね。

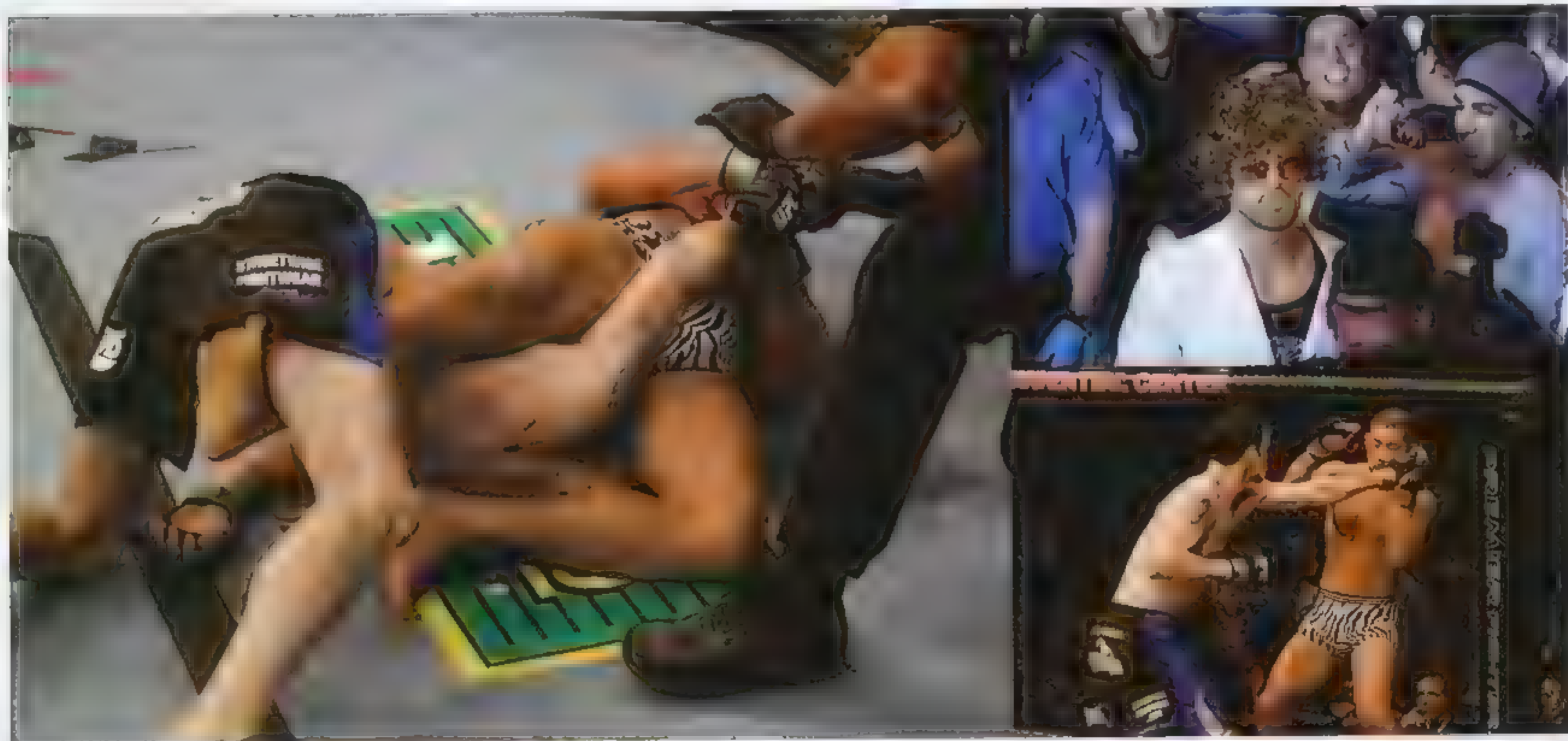
菊田 ええ。僕も本人も知らなかったんですけど、朝方帰るときにエド・ハーマンっていう選手がホテルのレストランで酔っぱらってて、「おお～い、どうすんだ、あの5万ドル！」とか言ってくるんですけど、テキトーなこと言ってると思ったんですよ（笑）。酔っぱらってるから怪しいなとかって話してたら、帰る直前にホントだってわかって。ウィンボーナスもあるし、大きいですよね。郷野は試合終了直後はちょっといらついてたんですよ。

——勝ったのにですか？

菊田 やっぱり打撃が思うようにはいかなかったですからね。そこが彼の身上ですから。だけど、結果・本勝ちだし、だんだんそういう特典がつくこととかもわかって、最後は「いいとこだな」となってみんなで帰りましたけども（笑）。

——めでたしめでたし、と（笑）。でも目の前で、一本勝ち賞で5万ドル獲得するのを見ると、菊田さん的には、ちょっとアレなんじゃないですか。

菊田 ナハハハハ。いやいや、そんなことないですよ。あれは、みんなが打撃系の選手だと思ってたところで一本取ったから。やっぱり彼は総合格闘家なんですよね。僕みたいに寝技だけでやってると

日本と変わらずDJ GOZMAとして入場し、ダンスも披露したた郷野。ニックネームは〝ザ・ジャパニーズ・センセーション〟。1ラウンドは、194センチと約18センチの身長差から繰り出されるタムダンのパンチやヒザに苦しむも、2ラウンドに左フックで倒すと、マウントから腕十字を極め、UFCデビュー戦を見事な勝利で飾った。このフィニッシュが評価され、郷野は一本勝ち賞として5万5000ドルをゲット！

逆に取りづらい部分もあるだろうし。

——まあいずれにしても、「試合したい感」がかなり増したのでは？

菊田 う～ん……まあ……ナハハハ。

——あ、また急に歯切れが悪くなりましたね（笑）。ズバリ、大晦日出場の話はないんですか？

菊田 いや、まったく決まってないんですよね、いまのところ。まあ、出ることになるんじゃないかなというぐらいで。何しろ格闘技界も1日1日で状況が本当に変わってるんで。想定してたことが、「あれ、違っちゃうの？」ってことがすぐに起こってるし。もうすぐいろいろ決まってくるとは思うんですけど……、まあ、100パーセント出るのかっていうと、言いきれない部分はありますね。

——でも、もう1年以上ブランクが空いてますよ。

菊田 そうなんですよねぇ（苦笑）。まあでも、来年はコンスタントに試合をしていくつもりもあるし……、また一からやっていきますよ。

——一からの必要はないと思うんですけど（笑）。理想の対戦相手っていうのは？

菊田 理想がねえ、難しいんですよ。僕がやりたい人は僕とやりたくなかったり、誰かが僕とやりたいって言っても僕があんまりやりたくなかったり。ぐるぐる回ってるんで。まあ、なんとかやりますよ。

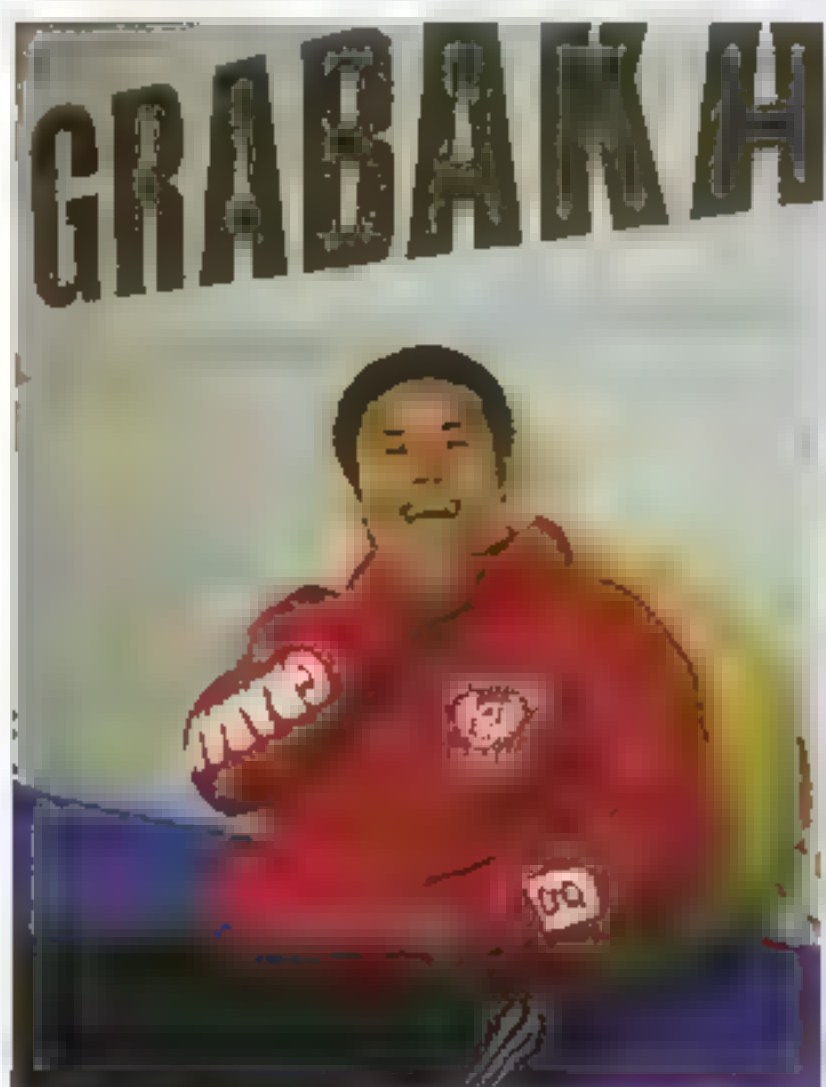
——可能性として、さいたまと大阪、どっちにいそうだというのは？

菊田 いや、どっちもなくはない状態で。どっちかには出てる気もするんですけどね。まあ、グラバカとしても国内だけじゃなく海外にも選手を出していきたいんで。はぁ～～～、ホント難しいですねぇ。性格的にダメですよ（苦笑）。

—性格的に（笑）。でも、交渉事とか苦手じゃなさそうですけど。
菊田　嫌いじゃないですね（キッパリ）。
—交渉事は嫌いじゃない（笑）。結局、大晦日はどう過ごすのが理想ですか。
菊田　まあ僕としては、おもしろおかしいカードよりも、どうせやるんなら意味のある相手とやりたいですけどね。いきなりボブ・サップって言われてもピンと来ないのもあるし、ユン・ドンシクってのが来ても大晦日向きじゃないとか。
—何かと話題の秋山成勲選手は？
菊田　やりたいッスね。秋山選手とやりたい選手は多いんじゃないですかね？　憎たらしいからやりたい人もいるだろうし、選手として評価してるからやりたいって人もいるだろうし、いろいろだと思いますけど、僕の場合は強さを評価してますよ。ただ、勝つイメージができるというか、まだ穴があると思うんで、それでやりたいというのはありますね。
—おっ、秋山選手には穴がある？
菊田　わりとうまく勝ってきてると思うんですよね。デニス・カーンのときもそうですけど、穴が見えづらいというか。コンプリートファイターみたいなイメージで見えると思いますけど、穴はありますね。ただ、もちろん根性もあるでしょうし、総合数戦でカーンにKOというのはそうそうできるもんじゃないですよね。
—ただ、オレには穴が見える、と？
菊田　見える……ということで（笑）。
—PRIDE王者で、カーンつながりの三崎和雄選手と闘ってほしいという声もけっこうあるようですが。でも、三崎選手は秋山選手のことを「人として許せない」って気持ちがあるみたいですね。
菊田　まあ、あの一件があれだけ世に出て、もう本人もわかったと思うんですよね。休憩期間が10ヵ月でしたっけ？　僕も1年以上試合してないですけど（笑）、その中であぁして選手として上がってきたんで、あとは個人の問題で。
—「休憩期間」じゃないですよ！（笑）。
菊田　そうか（笑）。まあ、三崎は僕よりグローバルというか、物事を大きく考えてる人間なんで。一般常識的なところを大きくとらえてるんで、許せないとなったらとことん許せないんじゃないですかね。三崎の言うこともわかりますけど。
—まあ三崎選手もブランク空いてるから、試合したいでしょうしね。
菊田　それは僕よりあるでしょうね。
—〝僕より〟って（笑）。
菊田　彼はほら、PRIDE王者として、いい試合が組まれるじゃないですか。
—菊田さんのアブダビ王者っていう肩書きも……。
菊田　（さえぎって）もう時間が経っちゃったからね（笑）。……これ、なんページですかね？　え、3ページ。そんなに取れないでしょう。何かほかの話しません？
—なんでしょう、いったい（笑）。そういえば、最近、船木誠勝さんがグラバカで練習されてるそうで。
菊田　あ、そうだ、その話しましょう。
—……。もともと船木さんとはメル友なんですよね。
菊田　一言ずつ何往復も、って感じですけどね。あれ、もう終わりかなと思ったらまた来たり。けっこうマメなんですよね。でも、何かあっても、電話はかかってこないですからねぇ（寂しそうに）。

言わないほうがいいのかもしれないけど、船木さんを見たらビックリしますよ

—そうですか（笑）。でもその交流があったからこそ、練習に来るようになったわけですよね。いつ頃から？
菊田　9月中旬ぐらいですかね。柴田勝頼選手も一緒で。最初は週1回ぐらいだったのが、それが2回、3回と増えて、いまは寝技練習の日は必ず来てますよ。
—みんなの練習に混じって？
菊田　最初は、誰とでもやるって感じじゃないと思ってたんですよ。ここに来ること自体が意外だったし。だから最初は僕としかやってなかったんですけど、だんだん若い子とかともやるようになって、パンクラスのときにはあんまり見られなかった練習をやってる感じですね。凄く貪欲で。
—ブランクもあるし、桜庭選手有利じゃないかという声が高いようですが。
菊田　う〜ん……、一つ言えるのは、7年前と比べるとすべてが上がってるんですよね。言わないほうがいいのかもしれないですけど、ビックリしますよ。
—ホントですか！
菊田　力も強いし、反応もいいし、柔術の動きを自分のイメージの中で作り上げちゃってるんですよね。足を利かせたりとか、けっこうやるんですよ。もともと運動神経が凄くあるんでしょうね。で、桜庭選手より上回ってる部分が一つあると思うんで、そこを活かせれば勝利にも結びついてくるだろうなと思いますね。
—上回ってる部分が一つある、と？
菊田　ありますね。ただ、7年間ブランクがあってリングの感覚の問題があるんで桜庭選手の有利は否めないですけど、一つあれば100対0で桜庭さんとは言えないんですよね。
—まあそうですよね。でも、船木さんに柴田選手、ボビーもいまも来てるみたいですし、グラバカの勢いが……。
菊田　（さえぎって）凄いですねぇ。
—自分で言った（笑）。
菊田　同じ階級で、この層は凄いですよ。福田力君も加わりましたし。彼なんかは若手じゃなくて何試合もやってるし、これからもっと活躍しますっていう寸前の選手ですから。「いいの？」って感じですよね、もらっちゃって（笑）。
—ホント、あとはボスだけですね（笑）。
菊田　そうなんですけども、最近は取材とかでも、他人の試合の分析で呼ばれるばっかりだし（笑）。まあでも、いくときはいきますから。期待してください。
—とりあえず、大晦日は期待してます。
菊田　どうなんですかねぇ。でも、これホント、3ページもあるんですか？　写真大きくしてごまかしましょうよ（笑）。

【07年11月20日／都内・GRABAKAジムにて収録】

きくた・さなえ■1971年9月10日、東京都練馬区出身。96年＆97年には組み技日本一決定戦とも言える「トーナメント・オブ・J」を連覇し一躍脚光を浴びる。その後、修斗、リングス、PRIDE等に参戦、99年からはパンクラスを中心に活躍。01年4月にはアブダビコンバットの88kg未満級で日本人初の優勝をはたす。同年9月には美濃輪育久を破りパンクラスライトヘビー級王者に。06年11月の『武士道』でのジョン・フランソワ・レノグ戦以降、試合からは遠ざかっている。176cm、89kg。

アナハイムの悲劇は
なぜ起きたのか？

ショーグン 惨敗の真相

ブラジル現地証言集

05年の「PRIDEミドル級GP」を制して以来、世界中のMMAランキングで[illegible]下級ナンバーワンのファイターとして位置づけられていたマウリシオ・ショーグン。しかし9月22日、華々しく飾ると思われたUFCデビュー戦で、フォレスト・グリフィン相手にまさかの一本負け。誰も予想できなかったそのアメリカでのスタートはブラジルのファンのあいだのみならずファイターやトレーナーらの議論のテーマとなった。ショーグンはなぜ負けたのか？ ブラジルMMAシーンのトップファイターたちが、その衝撃の敗戦を徹底分析。そして、傷ついた"PRIDEの寵児"は、いま何を考えているのか？

文／Fernando Ramos　構成／上杉マダムキラー　写真／[illegible]

MMA戦績18戦16勝という輝かしい経歴を誇るショーグンは、9月22日にカリフォルニア州アナハイムで行なわれた『UFC76』の目玉カードとしてフォレスト・グリフィンとの対戦がマッチメイクされた。当時のランキングが示していたように、ショーグンがUFC初戦を順当に勝ち、さらにPRIDEでの試合同様、王者クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンを再びKOして、世界最強を証明するものだと、誰もが考えていた。

しかしMMAは数学ではない。わずかに生じた〝ズレ〟が方程式そのものを変えてしまう。たとえばヒザのケガ、トレーニングの最中に行なわれた盛大な結婚式の準備、そして、もっとも大きな要素――フォレスト・グリフィンの豊富なオクタゴンでの試合経験。

過去最低の試合

ほとんどすべての関係者たちがショーグンの勝利を疑わなかったとき、グリフィンを指導していた〝オクタゴンのスペシャリスト〟ランディ・クートゥアーは、大会前々日の記者会見でグリフィンの3ラウンド判定勝ちを予想していた。しかし、グリフィンは師クートゥアーの予想以上のパフォーマンスを見せ、試合終了15秒前にショーグンをマウントからのチョークで絞殺。世界を驚かせた。

ブラジルの期待を背負ったショーグンは、1ラウンドこそ試合を優勢に進めたものの、2ラウンドで疲れを見せ動きにキレを失なうと、最終ラウンドでは、大きく肩で息をして、疲労困憊の様相を見せていた。PRIDEで無尽蔵のスタミナを誇っていたのとは別人のように。

「これまで、試合でこんなに疲れたことはなかった。自分のキャリアの中で最低の試合だった」

試合後のショーグンはこうコメントを残している。その〝最低の試合〟になった原因はなんだったのか？　ブラジルの格闘技メディアで、ショーグンは「敗因はすべて自分にある」と前置きした上で、試合前にヒザの靱帯を損傷したことについて触れている。兄ムリーロ・ニンジャとの練習中に起きたアクシデントにより、走ることやいつものトレーニング・メニューがこなせなかったらしい。しかし、それが敗因のすべてなのか？　ブラジルのファンは落胆した日々を過ごすことになった。やるせないファンの中には、「日本のPRIDEを潰して世界を支配したアメリカ人どもが、今度はブラジル人をハメやがった」「オクタゴンは、アメリカ人が仕掛けたワナだ」といった感情的な声までもが挙がるようになった。

[9.22 UFC76 KNOCK OUT]
米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンター

○フォレスト・グリフィン vs マウリシオ・ショーグン×

（3R 4分45秒 裸絞め）

激しい打撃戦となった序盤、互角にわたり合った両者だが、2ラウンドにはショーグンがヒジでグリフィンの額を切り裂き優勢に。しかしショーグンは急激にスタミナをロス。グリフィンは動きの鈍ったショーグンにパンチを落とし続けて形勢逆転、最終ラウンドには裸絞めに捕らえる。"PRIDEのエース"はタップを余儀なくされた。

〝金網の申し子〟グリフィン

ブラジリアン・トップチームの首領として、かつてシュートボクセとしのぎを削ったマリオ・スペーヒーは、新しいジムを作るために訪れたランディ・クートゥアーのジムで、ショーグン戦に向けてトレーニングを積むグリフィンを見ていた。

「フォレストはシェイプされたにも関わらず、105キロもあった。そしてUFC

で3度も戴冠しているランディが指導しているんだ。多くの人がショーグンの楽勝を予想していたけど、タフな試合になるだろうと思ったね。ただそれでも、ほかの人と同じく、ショーグンが勝つだろうと予想したよ。グリフィンがどうのこうのというわけじゃなくて、ショーグンが本当に強いファイターだということを知っていたからね」

グリフィンのフィジカルの強さ、そしてその激しいトレーニングを見ても、スペーヒーはショーグンの勝利だと考えていたようだ。ショーグン敗戦の理由について、こう続ける。

「これまでとは別の新しいイベントで闘ったことは大きい。しかも相手の国で、相手の慣れたルールで。それにオクタゴンは柔術ファイターにとって不利だ。動きを制限されるという点でね。PRIDEのリングなら、ロープの外に頭を出せば、センターから試合を再開できるけど、オクタゴンではそうはいかない。でもそれ以上に、敗因として挙げられるのは、誰が観ても明らかなようにスタミナ不足。どうしてスタミナが切れたかについてはわからないがね」

©Andrey Klagenberg

シュートボクセにオクタゴンを導入し、UFCデビュー戦に向けてトレーニングを積んでいたショーグン。試合前のインタビューでは「金網対策はできている」と自信を見せていた。

オクタゴンの呪縛

ミルコ・クロコップの連敗、ダン・ヘンダーソンのタイトル戦での敗北、そしてショーグンのバッド・デビュー。UFCには"オクタゴンの呪縛"というものがあるのだろうか。UFCでPRIDEファイターが立て続けに敗れたことから、そんなことさえささやかれるようになった。

オクタゴンで、そのほとんどのキャリアを闘ってきたビクトー・ベウフォートはこう分析する。

「リングとオクタゴンはまるで違う。サッカーとフットサルぐらいね。オクタゴンの闘いはプレッシャーも強くて、激しい。この差が影響を与えたのかも。実際、リングでこんなに疲れたショーグンを見たことはないし、ミノタウロ（アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ）もUFCデビュー戦でのパフォーマンスは悪かった」

しかしショーグンが闘ってきた中で、最もタフな対戦相手の一人だったホジェリオ・ノゲイラはオクタゴンが問題だとは考えていないようだ。

「みんなショーグンがUFCのチャンピオンになると思っていた。ランペイジに勝っていたからね。でも今日、このスポーツのレベルは上がったし、トップファイターも増えてきている。グリフィンはショーグンのゲームプランを研究して、準備を整えていた。一方のショーグンはヒザをケガして、100パーセントじゃなかった。こういったコンディションの差は、トップファイターのあいだでは結果に大きな影響を与える。ただ、私や兄のホドリゴも負けたように、誰にだって負ける日がある。ショーグンは復活して、チャンピオンベルトを巻くことができると思うよ」

©Andrey Klagenberg

ショーグンはUFCデビュー戦の3週間前、関係者や地元のマスコミを招いて盛大な結婚式を挙げていた。生涯の伴侶を得て、米メジャーデビュー、と絵に描いたようなバラ色の人生を歩むはずだったのだが……。

ショーグンがUFCの王者になると思っていた。ただ、誰にだって負ける日はある（ホジェリオ）

リングとの差

エールを送ったホジェリオとは対照的に、もう一人のショーグンのライバルであるヒカルド・アローナは、そうよくは言わない。

「なぜショーグンがあんなにひどい試合をしたのか、俺にはわからないね。黒帯の選手が白帯の試合を見せたようなものだった。もし彼自身に問題がなかったのならば、彼はシュートボクセから移るべきだし、これ以上、負け続けるのなら、引退するべきだ。ミルコもそうだが、同じPRIDEで闘ってきた俺には屈辱だよ」

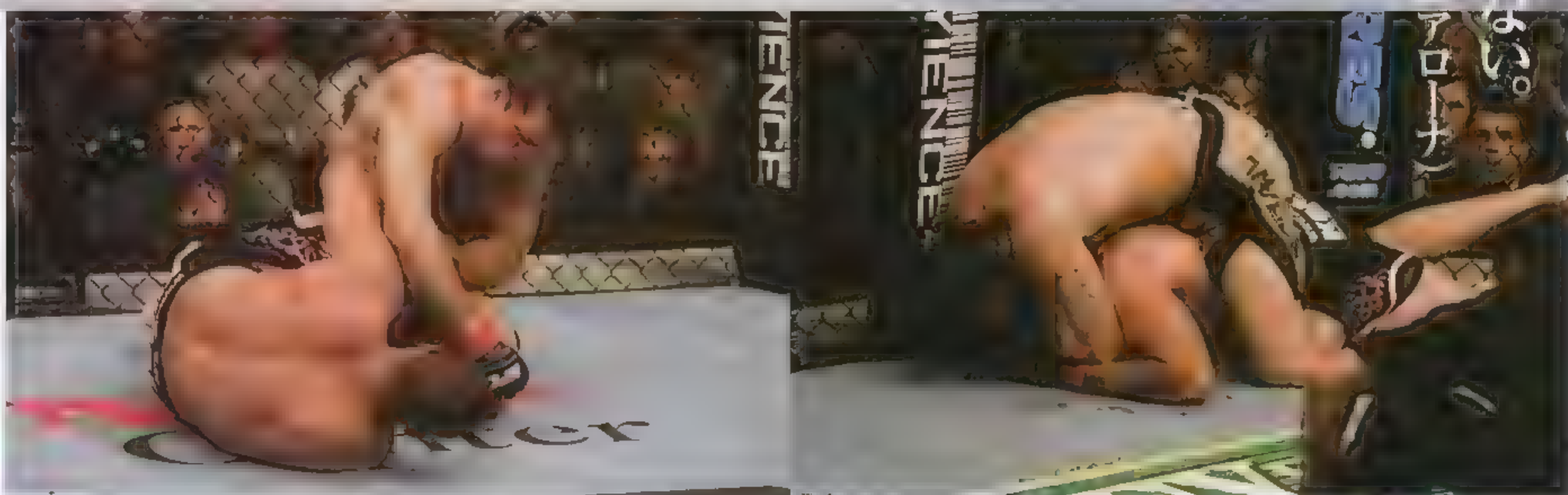
一方、ノバ・ウニオンを代表するファイター、ターレス・レイチはアローナと意見を異にする。

「UFCにはジンクスのようなものがある。最初の何試合かはいいパフォーマンスができない。ショーグンもミルコもね。私もだけど」

そういった声がある一方で、現UFCミドル級王者アンデウソン・シウバはトレーニング方法の違いを指摘する。

「8つのコーナーを持つオクタゴンでの闘いは、リングとまるで闘い方が違う。UFCに上がるためには、専用のトレーニングを積まないといけないんだ」

それは、逆も然りだ。ホアン・"ジュカオン"・カルネイロは「オクタゴンで闘っていたファイターがリングでコロっと負ける。（03年の『PRIDEミドル級GP』

なぜあんなにひどい試合をしたのかわからない。これ以上、負け続けるなら引退するべきだ（アローナ）

「PRIDE」で無尽蔵のスタミナを誇っていたショーグンだが、この日はまるで別人のよう。試合が進むにつれて、動きにキレが見られなくなってしまった。ショーグンのタックルをたびたび切ったグリフィンは執拗なまでにパンチ&鉄槌を固め打ちし、マウントを奪ってからのチョークで完勝。これが"UFCのリアル"なのか?

でランペイジに負けた）チャック・リデルがいいサンプルだろう。ランディ・クートゥアーもリングスでエンセン（井上）とヴァレンタイン・オーフレームに負けている。日本とアメリカでは、観客の態度も違うし、場所が変わると、ファイターは最初は闘いにくいものだ。ショーグンは次の試合でこそ実力を発揮するよ」

シュートボクセの危機

すでにシュートボクセを離れたとはいえ、ヴァンダレイ・シウバはショーグンの敗戦についてショックを隠さない。

「この敗戦は、ここ数年のMMAシーンで、もっとも予測できなかった結果だ。ショーグンを知る人間として言わせてもらえれば、グリフィンと100回闘えば、ショーグンは99回勝つ。彼のリベンジのために、UFCデビュー戦の相手としてグリフィンと闘いたいね」とすぐさま仇討ちの姿勢を見せる。

「ただグリフィンと闘うことになれば、ランディのジムを使うことをやめないといけないけどね。もっともそれは問題じゃないよ。俺は別のジムでのトレーニングも始めているからね」（※この取材後、シウバの対戦相手はチャック・リデルに決定）

偶然かどうかは別として、ヴァンダレイがシュートボクセを離れることを発表して以来、ブラジル・ナンバーワンのチームは所属選手の4連敗という事態を招いている（ショーグン、ムリーロ・ニンジャ＝9・15エリートXCハワイ大会でロビー・ローラーにKO負け、アンドレ・ジダ＝9・17『HERO'S』横浜大会でJZカルバンに一本負け、ファビオ・シウバ＝10・28『HERO'S』ソウル大会

でユン・ドンシクに一本負け）。そして、この連敗はブラジルでは〝シュートボクセ・クライシス〟とさえ呼ばれるようになった。

しかし筆者としては、この事態をシュートボクセの危機とは捉えていない。

すべてのスポーツにおいて、ポジティブとネガティブの両面の結果があり、ファイターたちも常に勝つわけじゃない。実際、シュートボクセの戦績を確認すれば、シュートボクセのファイターたちが88パーセントの確率で勝っていることがわかる。ヴァンダレイにしても、85パーセントの確率で勝っていた。フジマール会長の指導方法にはブラジル格闘技界から絶大な信頼が寄せられている。

ヴァンダレイが離脱して以降、求心力の低下が心配されたシュートボクセだが、ジム生やファイターたちは、〝前エース〟の不在を埋めようというモチベーションで、むしろ逆にまとまっていると伝え聞く。

エリートXCミドル級王座から陥落したニンジャも、すでに次の契約を結んだようだ。試合では敗れたものの、そのパフォーマンスが認められたということだろう。そして、そうした敗戦の経験からシュートボクセは学んでいくにちがいない。

その後のショーグン

試合から1週間後、ヒザの靭帯の手術をしたショーグンは故郷・クリチバで入院していた。

ブラジルの格闘技サイトに掲載されたインタビューによると、ヒザの状態はかなりよくなっているらしい。

「まだまだ朝と晩にリハビリをしないといけないけど。11月にはボクシングのトレーニングを始めるつもりさ。2月のUFCには出られると思うよ」と答えている。

すでに次の試合のスケジュールすらショーグンの頭の中で組まれていることから、もう落ち込んではいないのだろう。

また、その記事によると、ヒザのダメージは予想以上に大きく、ショーグンはスタンドではパンチと右の蹴りしかできなかったらしい。筆者が思うに、たぶん、本来の60パーセントぐらいの実力しか出せなかったのだろう。だが、周りのファンやマスコミ、トレーナーたちと違い、ショーグンは敗戦に対して、言い訳をしない。UFC公式サイトではこう語っている。

“世界ランキング1位”のショーグンを破り、喜びを爆発させたグリフィン。次戦は、ヴァンダレイvsリデル戦の勝者とタイトル挑戦権を懸けて激突か!?

「今回のケガをエクスキューズにするつもりはないよ。試合で自分が犯したミスをわかっているからね」

ショーグンは敗戦というものがファイターの人生の一部だとわかっているのだ。シュートボクセのファイターやトレーナーたちは「次のショーグンこそが、本当のショーグンだ」と口を揃える。

ショーグン 惨敗の真相

予期せぬケガ、周囲の期待を裏切ることになった敗戦。自らとそしてサポートしてくれた仲間やファンたちを傷つけることになったショーグンだが、その悪夢を乗り越えて、すでに新たな目標を定めている。

「いまはもう、未来しか見ていないんだ。まずはちゃんと回復すること。そして、もうとトレーニングを積んで、次の試合でベストを尽くすよ」（UFC公式サイト）

[illegible]ヴァンダレイらの離脱によるブラ[illegible]トップチームやシュートボクセという名門チームの分裂。そして、ジムとの契約問題に揺れるブラックハウスのお家騒動。いまのブラジル格闘技界にはネガティブな話題が多い。そんな状況を象徴するかのように、シュートボクセのエースを襲った悪夢。このショーグンの敗戦は、将来どのように語られるのだろうか。そしてまた、ブラジル格闘技シーンの復活は、この男が栄光を取り戻すことと無関係ではないだろう。

存亡を懸けた闘いが始まる!?

とは何か?

かつて世界のあらゆるところで興行を行ない、プロレスの夢と可能性を開拓してきた〝プロレス屯田兵〟アントニオ猪木が、次なる目的地として定めたのはなんと南極大陸であった！

古今東西ジャンルのいかんを問わず、住民のいない土地で興行が打たれたためしはない。これはまさかの平成巌流島、南極ノーピープルマッチ開催なのか？

そんなワケもなく、どうやら猪木はIGF南極大会を〝観客を伴なうイベント〟として成功させる腹づもりのようなのである。

「やれんのか？」「本気かい？」という現実的な話はさておき、ここでは猪木という特別な存在が、同じように特別な土地である南極に目をつけたという因果そのものに注目してみたい。なぜ南極なのか？　そしてなぜ猪木なのか？　しかし両者の歴史をひもといてみれば、そこからは数奇としか思えない運命の輪が浮かび上がってくるのだ。

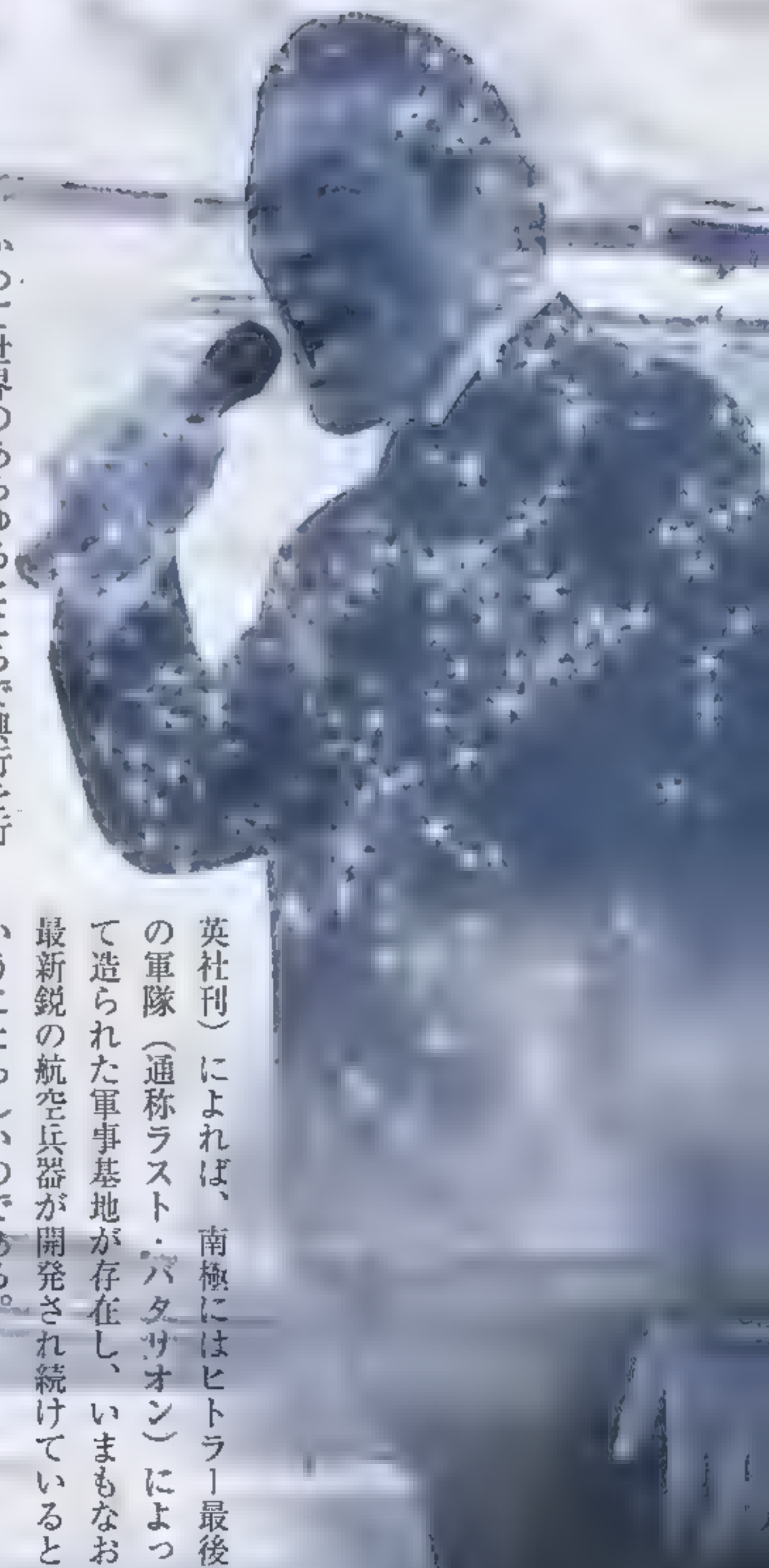
南極と猪木を結びつける最重要タームについては、意外な人物が解説してくれている。80年代から90年代において世界を股にかけ、おもにアサヒビールを飲むなどして活躍した国際ジャーナリスト、落合信彦である。彼の著書『20世紀最後の真実』（集英社刊）によれば、南極にはヒトラー最後の軍隊（通称ラスト・バタリオン）によって造られた軍事基地が存在し、いまもなお最新鋭の航空兵器が開発され続けているということらしいのである。

その最新兵器とは、すなわちUFO。

我々がときおり目にする未確認飛行物体の正体とは、南極でラスト・バタリオンによって行なわれている軍事実験の産物であると落合はいう。ここまでくればもうおわかりだろうが、猪木がかつて率いた格闘技軍団の名もまた『UFO』。つまりラスト・バタリオンとは猪木軍のことだったのであり、猪木の南極上陸は歴史的必然だったのだ！

なお、この事実を世界に公表してしまった勇気あるジャーナリスト落合信彦はその後、盗作や経歴詐称を指摘されるなどしてかつてのカリスマ的地位を追われるという、国家の陰謀としか思えない憂き目に遭っている。この原稿が世に出てしまえば、筆者にとっても明日は我が身である。身辺には充分に気をつけたい。

歴史が暗示した『UFO』はすでにないが、猪木はいま新たなラスト・バタリオンであるIGF軍団を引き連れ、南極という〝約束の地〟に降り立たんとしている。ではその必然性は何か？

答えはアントン・ハイセルと永久電機といった、猪木がライフワークとするエネルギー事業が示しているといっても過言では

どうなるIGF南極興行！ 人類の

ない。

南極大陸には豊富な資源が眠っている可能性が高く、その行き場はいまや世界各国が注目するところとなっている。が、南極地域の平和利用、領土権の主張の凍結などを定めた「南極条約」により、多くの国は南極に手出しできないというのが現状である。しかし新資源へのあくなき探究心と人間離れした行動力を持つ、我らがアントニオ猪木にとってはどうなのか？

まさか興行そっちのけで資源採掘というわけでもないだろうが、それでも猪木と南極のあいだに道ができたというのはそういうことである。いずれ世界が直面するであろう「南極資源の採掘権問題」において、この男がいつの間にかキーパーソンになっている可能性も、ないとは思うがなくはない。こうなると期待されるのは〝スポーツ平和党〟魂であり、猪木の実兄にして熱海市市長選出馬騒動で本誌読者にはおなじみのパブロ猪木をも巻き込んだ、ポリティカルかつワールドワイドな話へと発展しかねないのだが、そろそろ視点を〝プロレス・格闘技〟的なところまで戻さないと収集がつかないのでそうしたい。非常に残念だが、そのようにしたい。

南極に『IGF』がやってくるということは、あたりまえだが南極でバトルが繰り広げられるということだ。むろん現実にそのようなことが行なわれた前例はないため、意味合いはフィクションの中に求めてゆくしかないのだが、そこで意外な事実が判明した。〝南極での闘い〟には、なぜか必ず〝人類の存亡〟が懸かっていたのだ！

具体例としては、人気コミックである『GS美神極楽大作戦!!』と『スプリガン』が挙げられるだろう。どちらの作品にも人類の存亡を懸け、南極で巨大な組織と闘うクライマックスが用意されている（そういえば両作品とも『プロレススーパースター列伝』と同じ小学館から発行されている）。

またアニメーションでは『トランスフォーマー ザ・ヘッドマスターズ』や『ムーの白鯨』といった、やはり人類規模での闘いをテーマとした作品に〝南極での闘い〟が見受けられる。そしてあの有名作品『新世紀エヴァンゲリオン』もまた、南極で起きた大災害〝セカンドインパクト〟からすべての闘いが始まっているのである！

〝南極での闘い〟がいかに重要であるかは、おわかりいただけたと思う。では〝南極での興行〟に懸けられるべきものはいったい何か？

猪木が背負っているものとは何か？ いうまでもなく〝プロレスの存亡〟である。いまも昔もプロレスの顔であるアントニオ猪木が、南極に導かれたのはこのような必然からであったのかもしれない。

これらの事実が示すとおり、南極と猪木を結びつける要素は、驚くほどたくさん出てくる。ならば両者の関係は運命的なものであり、「南極で興行を」という猪木の発想も生まれるべくして生まれたものだといえよう。

南極ではいま、観光客の増加による環境破壊が問題視されているという。そんな時分に「興行を打つ」などと言い出せば自然保護団体から猛反発を食らいそうなものだが、もはや環境問題などでは猪木を止められないのである。これは宿命だ！ 地球温暖化もなんのその、氷など〝プロレス熱〟ですべて溶かしてしまえ！ しかし猪木本人の構想によると、南極興行は「環境イベント的な位置づけで」ということらしいのであった。……あれ？ それは難しくない？

（田中太陽）

なぜ南極かって？　そんな簡単なこともわからねえのかよ！
ANTONIO INOKI
放談
いつ何時でも
をつねりたく
にまっしぐら
永久電機に
チあげたか
ら話を聞き
聞き手／ジャン斉

——猪木さん！　今回もいろいろ聞かせていただきたいんですが、最近世間を騒がせた話題といえば、なんといっても安田（忠夫）さんの自殺未遂事件ですよね。

猪木　やりやがったね、あのバカ！

——やりきってはないですけどね（笑）。猪木さんは入院中の安田さんにお会いになったんですか？

猪木　うん。会いに行きましたね、こないだ。でもまあ、俺が「大変だったね！」なんて言葉をかけるわけねえじゃん？

——いったいどんな言葉をかけたんですか？

猪木　（即座に）「迷わず行けよ！　行けばわかるさ！」。

——ダハハハハ！　さすがに行っちゃダメですよ！（笑）。

猪木　ンムフフフ。三途の川を渡ってジャイアント馬場からの挑戦状でも持ってきやがれ‼　ってんだ。

——あ、馬場さんとの勝負はまだ終わっていませんか（笑）。で、安田さんの反応はどうでしたか？

猪木　バカだから大笑いしてたよ。元気でよかったし、後遺症が残らなくてよかったけど。普通はみんな後遺症が残るじゃない。

——ホントそうですね。

猪木　まあ、事件の反応は人それぞれだと思いますよ。それでもほとんどの人は、死は悲しいものだっていう発想だろうけど、ズバリ死は悲しいに決まってんだよ！　それに人の人生はある程度、決められてるんじゃないかってね。俺の娘は8歳で死んだけど、死が訪れるということは早いか、遅いかくらいなんでしょう。でも、死ぬなら、人に迷惑をかけんなよ！　って。

——今回もけっこうな騒ぎになりましたね。

猪木　安田は「迷惑ばっかかけてるから死にます」なんて言ったけど、バカ言ってんじゃねえよ。もっと迷惑だよ！　あんなに借金を抱えてさ、かわいい娘さん（AYAMI）もいるわけだろ？　どうすんだよ。だからそういう行為に走ること自体が冷静じゃないんだから、しょうがないんだけどもね。

——安田さんは今後のことは何かおっしゃってましたか？

猪木　うん。「これを機に博打をやめようと思ってます」だって。思ってますじゃねえんだよ。「やめました！」にしろよって話じゃん。だからまだブチのめさないとダメだな。

——そうですか（笑）。安田さんの自殺未遂の原因は借金問題だったんですが、猪木さんもかつては安田さんをはるかに超える借金があったわけじゃないですか。

猪木　でしょ⁉　「死にたい！」って思うことなんて人間いろいろあるじゃん。でも、一瞬思うだけで、やりゃあしねえよっていう。俺には一歩踏み出す勇気がなかったのかな？　つまり、安田は勇気があったんですよ。ダーッハッハッハッ！

——猪木さんには何があっても踏みとどまる勇気を感じますけど（笑）。やっぱり借金くらいで死ぬなんて⁉　という気持ちはありますか？

猪木　それは人それぞれでさ、人によっちゃあ何億、何十億の借金したって死なねえ人もいるし、100万円の借金で死んじゃうヤツもいる。まあ、俺は前者なんですよ！　ンムフフフ‼

——さすがですねぇ。安田さんの更正のために猪木さんのそんな力が……。

猪木　（勢いよくさえぎって）アイツなんか、もう見捨ててるよ‼　でも、俺は〝人間回収業〟みたいなことをやってるわけですよ。

——アントン再生工場ならぬ人間回収業ですか‼

猪木　うん。アイツだって見捨てられてゴミ箱の中にいたんだから。前にもそう言ったじゃん。「新日本のリングのゴミ箱がなんかゴゾゴゾするから何かと思ったら安田がいた」って。アイツはもう2、3度、見捨てられてるんだけど、しょうがない。世の中に〝公害〟を起こさないように俺が回収しないとね。

——しかし、最近は自殺願望を持つ人間が非常に多いですよね。

猪木　そうだね。だから、安田は自殺未遂の体験者としていろいろ語れるものもある

10月5日に練炭による自殺未遂を図った安田忠夫。本誌No.116では、退院直後にインタビュー。焼き肉を笑顔でほおばる姿は本当に憎めない‼　スキャンダルをビジネスにつなげるアントン手腕で、安田忠夫人生劇場は再び幕が上がるか⁉

猪木大

わけじゃない。今回の事件も見方を変えるといろんなものが見えてきて、安田にも役割があると思うんだよね。ほら、みんなは口を揃えて「自殺はいけない」とか言うけどさ、人の成功談ばっかりじゃなくて人間の弱さの部分も語らないと。

——陰に光を当ててこそ、という。

猪木 生きる勇気や希望を持ち続けることがいかに大事かってことだね。だから夢っていうのは凄く大事なんですよ。夢を追っかけてて、そのために借金してる場合もあるんだけど。

——安田さんの借金の仕方は猪木さんから見てどうなんですかね？

猪木 聞くまでもないよ！

——あ、すいません（笑）。

猪木 まあ、もしかしたら、安田の体験談を本にしたら爆発的に売れるかもしれない。そうしたら安田の借金なんか小さいもんだよ！

——要するに、これからやっていくことは安田さんの体験を世の中にいい意味でプロモーションするということですね。

猪木 そうだね。その一つとしてIGFで凄い試合をすることが求められる。

——猪木さんはそのIGFでは「南極プロレス」の開催をブチあげましたが、いったいどんなイベントになるんですか？ まるで想像もつかないんですけど。

猪木 べつに簡単じゃん!!

——え？ 簡単でしたか（笑）。

猪木 こんな簡単なこともわかんないのかよ（あきれ気味に）。

——すいません（笑）。簡単に説明していただけますでしょうか？

猪木 それは俺のこれまでの行動を振り返れば見えてきますよ。環境問題や温暖化問題、アマゾンの自然保護であるとか、イラクやピョンヤンでの平和の祭典。そういうテーマがいつもついているから、南極でやることに何もビックリすることはないと思うし。

——いや、それでもビックリしますよ（笑）。

猪木 ただ、これはホントにお金もかかるんですよ。あと南極には条約とかいろんな制約があって、俺たちがやりたいからってできる問題じゃないんだけど。でも、それ

南極で価値が出るのはブラジル巨人軍!!

にあえていま挑戦している。南極での興行なんて誰でもできないよ？

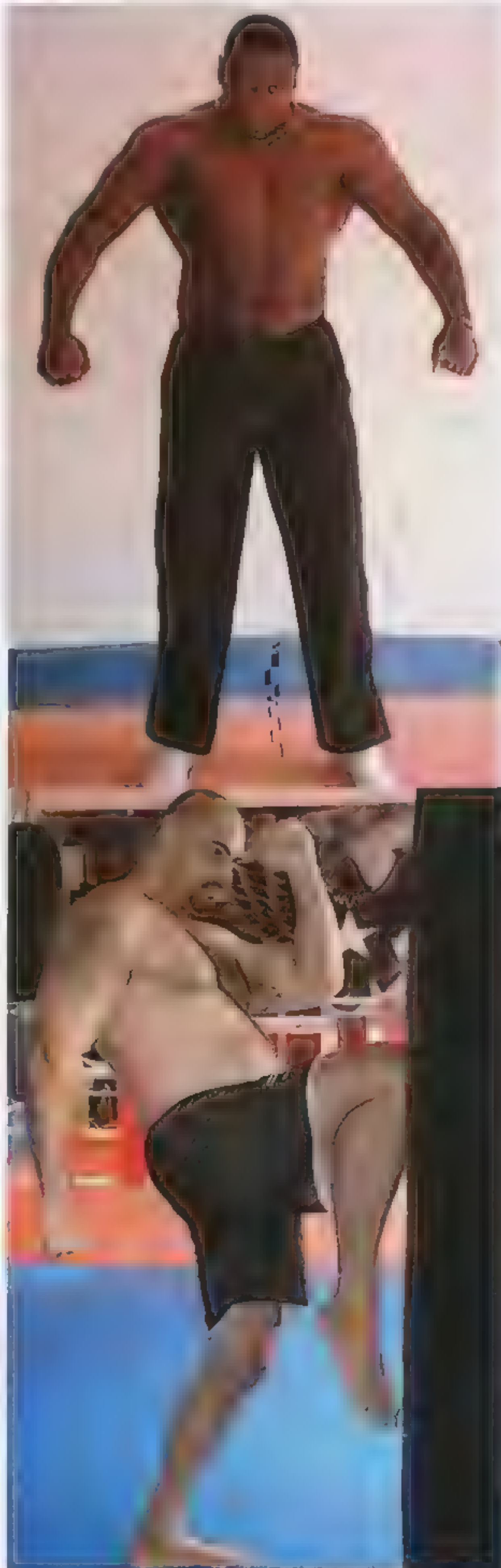
——ですね（笑）。

猪木 上陸するのでさえ大変なんだから！ ものを持って入っちゃいけないとか、いろんなルールがあったりするし。

——そもそも猪木さんは南極に行かれたことがあるんですか？

猪木 ないですよ。前から行きたいなとは思ってましたけど。どっかの俺の本に書いてあるけど、「南極で興行をやりたい」って言っていたことがあんだよ。できるかどうかなんて考える前にとにかくブチあげて動き出す。それが俺の信条ですからね。そうやっていろいろ実現してきたし、プラス思考でやれば物事は自然といいほうに動くもんですよ。

——でも、まったくイメージできないですよね。南極イベント。

猪木 いいんだよ、それで！ ウチも花火をブチあげてから考えて始めたんだから。最初から計算してないから、いろいろイメージができることもあるし。

——現時点で確実に言えることは、環境問題がテーマの一つではあるんですよね。

猪木 うん。やっぱり世界に目を向けてもらうためにはそうでしょう。南極条約にも加盟してる国がたくさんあるし、注目はもの凄く集めると思うんですよね。

——国際的に重要な場所で実現した暁には、大反響があるでしょうね。

猪木 まあ、そういう意味では、真っ先に価値が出るのは、ブラジル巨人軍でしょうね！（キッパリ）。

——まずはブラジル巨人軍!! それはイメージできてませんでした（笑）。南極には天然資源が豊富ですけど、エネルギー問題にもうるさい猪木さんも当然興味はあるんですよね。

猪木 石油とかいろんな資源が眠ってる可能性があるから、各国が領土を主張してるんだろうけど。まあ、そういう問題は俺は気にしてないんですけど。それより環境問題のほうが気になりますね。

——環境問題でいうと、ちょっと前に元アメリカ副大統領のアル・ゴアがプロデュースをした『不都合な真実』という映画が話題になってましたね。

猪木 その映画は観てないんですよ。でも、だいたいインチキだからね！

——インチキですか！ 観てないけど。

猪木 インチキ！ アル・ゴアなんて何もしてないんだから。それに一番、自分が電力を使ってるっていう噂があるじゃない。

——ああ、そんな報道もされてますね。

猪木 そんなもんなんだよ、世の中は。本当に質素な生活をしてエネルギーを使わないわけじゃなくて、贅沢な生活をしている。だから俺は最近、世の中のホントとウソということに凄く矛盾を感じていてね。実際、

これがブラジル巨人軍ことIBM（イノキ・ブラジル・モンスター軍）の新メンバーだ！ 上のアマゾン・ブレードは205cm、ダニー・イグアスはなんと215cm!! まさに「でかくて千円！」（by谷津嘉章）の世界だ。ちなみにIBMのリーダーはI編集長のオキニだったモンターニャ・シウバですよ、アンタ!!

亀田家に文句を垂れてるヤツは叩き斬ってやる！

エネルギーが枯渇しているのは確かなんですけどね。

――最近は原油の値上がりも凄いですもんね。猪木さんが永久電機の発明に力を注いできたことの意味が……。

猪木（さえぎって）今頃、気がついたのかよ！　いずれ大変なことになるなんて、何十年も前から俺が言ってることよ。もう、ホントに！

――申し訳ないです（笑）。

猪木　俺はプロレスラーだから、エネルギー問題ではあんまり評価されたくないんだよ！　でも、わかってもらうことは大事だから。それよりもっと世界に波紋を広げさせないといけない。そのためにはとりあえず金を稼がないとね。そうしたらもっとバカなイベントもできるし、それこそ砂漠の中でもできる。南極以外でいえば、南アフリカでもやりたいね。サッカー（ワールドカップ）があるんでね。

――そういえば、猪木さんはアフリカ大陸ではイベントをやられてないですね。

猪木　うん。こないだもインタビューで言ったけど、アンゴラでアミン大統領と闘うはずだったけどね。ダッハッハッ！

――人食い大統領と（笑）。ちょっとお話は変わりますけど、猪木さんはこないだ亀田大毅の試合をご覧になっていますが、ワイドショーの亀田家バッシングはどのように思われますか？

猪木　バッカじゃないの!!

――ダハハハハ！

猪木　そりゃあ確かにボクシングのルールを守ることは大事ですよ。でも、その前にこの試合が成立したこと自体、誰も何も言わないのはおかしいじゃない。あんなランキング（WBCフライ級14位）で世界戦に挑戦できんの？

――たいした競技ですよね、まったく（笑）。

猪木　そういうデタラメを許しときながら、いまさら文句を言うなっつうんだよ！　終わったあとで偉そうにいろいろ文句を言ってるヤツがいるけど、てめえらがやらしたんじゃないかって。まあまあ、それはしょうがねえや。一番ダメなのは「パフォーマンスがいけない」とか言ってるヤツ。バ～カ言ってんじゃねえよ。政治家だって誰だって、みんなパフォーマンスやってんだよ！

――人前に出るということはそういうことですよね。

あんとにお・いのき■1943年2月20日、神奈川県出身。新日本プロレスの創始者。現在はIGF社長。愛称はアントン。本誌読者には、アントン・ハイセルや永久電機など、エネルギー事業にとにかくうるさいことですっかりおなじみ。ちなみに「やれんのか!?」はそもそもアントン語録なのである。

猪木　それで視聴率を獲ってるんだから、み～んな気になって観てるわけだよ。それでいい加減な文句を垂れてるんじゃねえよって。バッカじゃねえの!?　俺がこの国の王様だったら、（亀田家に）文句を垂れてるヤツは全員、叩き斬ってやるよ!!

――ダハハ！　全員打ち首ですか（笑）。

猪木　そう思っている人もいっぱいいると思うんだよ。まあ、俺が怒ったってしょうがないんだけど、俺は違うコンセプトでエネルギー問題とか、みんなに違うかたちの気づかせ方、今回のIGFも「気づき」っていうことで、一つやっていきたいですね。

――ところで、新日本とIGFのあいだでTNAを巡った駆け引きが行なわれてますけど。

猪木　いいよ、いいよ！　持っていきゃあいいよ、全部あげるよ！　俺たちにはブラジル巨人軍団がいるからね、悪いけど。

――そうですか（笑）。参戦を呼びかけられた『ハッスル』もそうなんですが、リング上で決着をつけるというお話はないんですか？

猪木　ないですよ。でも、声は聞いてます。やりたいんだったらブラジル巨人軍を並べてやるから、いつ何時でもかかってきなさいよ。ンムフフ！

――以上、ブラジル巨人軍幻想が高まるインタビューでした（笑）。

【07年10月31日／都内・某所にて収録】

IGFプロレスリング GENOME2

東京・有明コロシアム
12月20日（木）19:00開始

［出場選手］
カート・アングル／ジョシュ・バーネット／AJスタイルズ／センシ／モンターニャ・シウバ／ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ／人喰い義生／ブッカーT／アマゾン・ブレード／ダニー・イグアス／安田忠夫、ほか

［チケット料金］
SRS席￥20,000/S席￥10,000/A席￥5,000

［お問い合わせ］
IGF TEL.03-5159-3380

Special PRESENTS

大晦日へカウントダウン！ 谷川黒魔術炸裂5秒前!?

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は2008年1月6日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦大晦日にいちばん観たい試合は？（その理由）⑧速報してほしい団体&イベント

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6ハレ・ショノ2F
(株)タフルクロス「kamipro」編集部「みんなで一揆！」係まで

※締切は2008年1月5日（土）当日消印有効

K-1 & Dynamite!!

1名様

桜庭和志 "Laughter39" Tシャツ

［レモンイエロー／¥4,095（税込）］

『Dynamite!!』で船木誠勝との"みちのくNo.1決定戦"(?)が決定している桜庭和志のTシャツが到着！　昨年の大晦日は"ヌルヌル"に泣いたが今年こそ笑う門に福は来るか？

1名様

ベルナール "GEININ" Tシャツ

［オレンジ／¥4,200（税込）］

『HERO'S』韓国大会ではボアイ菅沼に敗戦も「オイラは負けてない！」と『Dynamite!!』出陣をあきらめない最強の"芸人ファイター"ベルナール・アッカのTシャツが新発売！

K-1 "ONE OR OTHER" Tシャツ

［ホワイト／¥4,410（税込）］

大晦日格闘大戦に熱視線が注がれる中、12月8日の『K-1 WORLD GP 2007 FINAL』が目前に接近中！　定番のK-1ロゴ入りTシャツをプレゼント！

1名様

2名様

ニンテンドーDS用ゲームソフト『K-1 WORLD GP 絶対王者育成計画』

［¥5,040（税込）］

君の手で王者を育てろ！　自らジムの会長として選手を育成するだけでなく、本格格闘アクション機能も搭載したK-1ゲームの決定版！　谷川プロデューサーも「んあ～！」と登場。

D3 PUBLISHER■http://www.d3p.co.jp

1名様

桜庭和志 "Laughter39" フェイスタオル

［レモンイエロー／¥1,890（税込）］

「入浴、入浴♪」に続くプロモーションビデオも思案中!?　"チーム桜畑"も好調な桜庭モデルのフェイスタオル。肩にかけても振り回してもOKの便利なタオルを1名様に。

K-1ミニグローブストラップ

［レッド&ブルー／¥945（税込）］

いつ何時でもK-1魂をあなたの手に！　K-1のミニグローブストラップが新登場。"王者"のレッドと"挑戦者"のブルー2色。君の好きな色をズバリと選ぼう！

1名様

IGF

IGF■http://www.igf.jp/

イノキゲノム 6.29 両国国技館 ～闘今BOM-BA-YE～

［発売元＝ポニーキャニオン／VPN
発売日＝12月19日　価格＝¥7,140（税込）
©2007 IGF］

まさに一寸先はハプニング！　"全カード当日発表"という前代未聞のIGF旗揚げ戦を収録したDVDが到着！　ジョシュ、アングル、レスナーら豪華なメンバーが勢揃いダーッ！

PONY CANYON■http://www.ponycanyon.co.jp/

各2名様

イノキゲノム 9.8 名古屋大会 ～GENOME～

［発売元＝ポニーキャニオン／VPN
発売日＝12月19日　価格＝¥7,140（税込）
©2007 IGF］

アントン総帥がノリノリダンスとナップまで披露した、驚異のIGF第2戦のDVD。安田&組長劇場や"身長差46センチ"の田村潔司vsモンターニャ・シウバ戦など見どころ充分の一本だ。

PONY CANYON■http://www.ponycanyon.co.jp/

IGF ロゴTシャツ

Back

［ホワイト／¥3,000（税込）］

IGFのブランドである「ENZUI」からはオリジナルTシャツが続々と到着ダーッ！　白地に赤と青でプリントされたIGFのロゴがくっきり映える正統派な一枚をどうぞ。

ゲリラTシャツ

Back

［ブラック／¥3,000（税込）］

深い闇の中から迷彩色を身にまといアントンが笑顔で忍び寄る！　過酷なジャングル戦を生き抜くゲリラをイメージした異色のデザインのTシャツを1名様にプレゼント！

各1名様

FIGHTING ポーズTシャツ

Back

［ホワイト／¥3,000（税込）］

ンムフフフ！　どんな選手が出ようとも、やっぱりIGFの主役はアントンしかいねえんです！　いまや"歩く神様"となったアントンの闘魂ポーズTシャツを1名様にご提供！

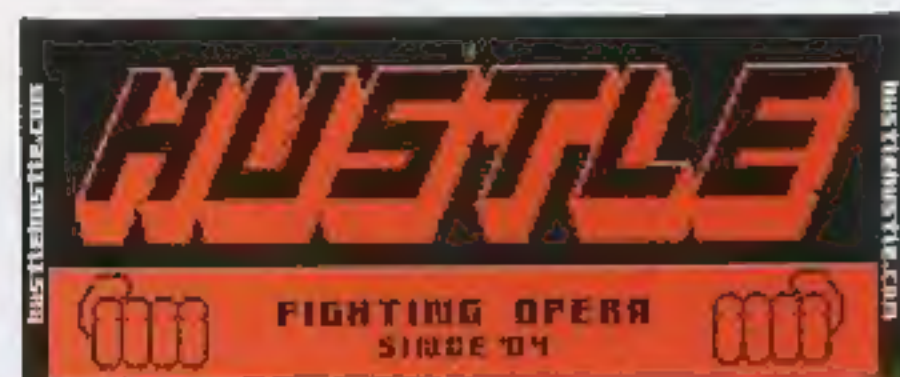
HUSTLE

各1名様

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

髙田総統MONSTER Tシャツ

［ホワイト／¥4,200（税込）］

この威風堂々たるデザインはいかがかな!?　年末には「大みそかハッスル祭り」も決定するなどイケイケ状態の「ハッスル」からは、髙田総統の新作Tシャツが新登場!

HUSTLE ジャガードフェイスタオル

［レッド／¥2,100（税込）］

ハッスルタオルの新作は、赤と黒のコントラストにHUSTLEロゴが浮き上がるド迫力のデザイン。ダイナミックな柄で高級感あふれる"ジャガード織り"の逸品を1名様に!

STRIKE FORCE

STRIKE FORCE■http://strikeforceusa.net/

ストライク・フォース バッグ

2名様

［ブラック］

アメリカMMA界では異例のトーナメントシリーズも開幕!　あのギルバート・メレンデスら強豪も続々参戦するストライク・フォースから、黒地にロゴ入りの公式バッグが到着!

ストライク・フォース Tシャツ

各1名様

［ブラック／ホワイト］

プレイボーイマンション大会も成功させるなど、UFCに肉迫する勢いのアメリカの新興金網団体・ストライク・フォース。シンプル・イズ・ベストな公式Tシャツを白と黒の2色で各1名様に。

REVERSAL

reversal■http://www.rvddw.com/

MIKU 2 Tシャツ

［ブラック／¥4,200（税込）］

おなじみreversalからは、現在「DEEP」の女子ライト級王者に君臨する注目ファイターMIKUのTシャツが登場。ライオン、王冠、ピアス、ティアラが合体したアーティスティックな一枚だ。

1名様

ART JUNKIE

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

マスク剥ぎラグランロングスリーブ

［ホワイト×レッド／¥5,040（税込）］

人気の格闘ブランド、ART JUNKIEから生まれたマスクマン、それが"AJマスク"!流血をものともせずに相手のマスクを剥ぐ見事な暴れっぷりのTシャツを1名様にプレゼント。

各1名様

アルティメットチームTシャツ

［ブラック／¥4,200（税込）］

ART JUNKIEがサポートする全ファイター&パフォーマーに向けて送り出した究極のTシャツがコレだ!　フロントには銀箔をドーン!　と使用したハードかつ贅沢なデザインだ。

PANCRASE

パンクラス■http://www.pancrase.co.jp/

パンクラスISM Tシャツ

［ブラック／¥3,150（税込）］

年末恒例のパンクラスism興行に、今年はなんとジョシュ・バーネットが参戦!　迎え撃つはism期待の"変態ファイター"佐藤光留。この大一番を前にISMTシャツを放出!

各1名様

11.28大会記念Tシャツ

［クリーム／¥3,675（税込）］

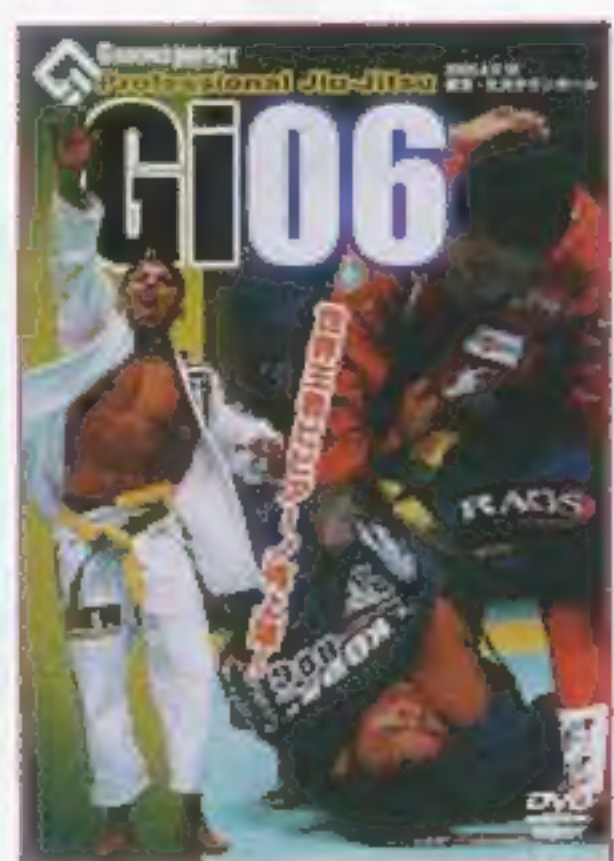
メインではパンクラスミドル級タイトルマッチも実現、NEW JAPAN FACTORY の河野真幸も出場した 11.28 パンクラス後楽園大会の全カードがプリントされた大会記念Tシャツが到着!

QUEST

QUEST■http://www.queststation.com/

プロフェッショナル柔術 Gi06

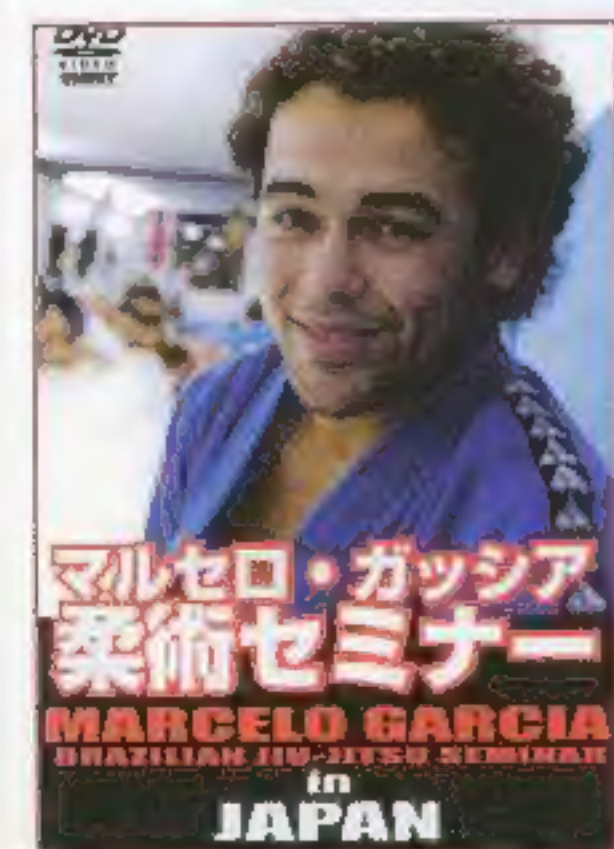
［240分／¥5,880（税込）］

9.17「HERO'S」で山本KIDを追い詰めたビビアーノ・フェルナンデスがその実力を披露した 05 年の「Giワールドカップトーナメント」DVD。"ブラジリアン柔術世界王者"の真髄を完全収録。

マルセロ・ガッシア柔術セミナー in japan

［140分／¥5,880（税込）］

「HERO'S」韓国大会では無念のTKO負けを喫したが、アブダビコンバット3連覇の実績は揺るがない"神童"が柔術の奥義を披露。日本で行なわれたセミナーの模様を収録!

跳関十段 青木真也

［106分／¥5,880（税込）］

チェストー!　大晦日格闘大戦を控えて、その動向に注目が集まる"跳び関十段"青木真也。その切れ味抜群の関節技を、青木自ら実演&解説した06年発売のDVDをいまこそ再確認せよ!

各1名様

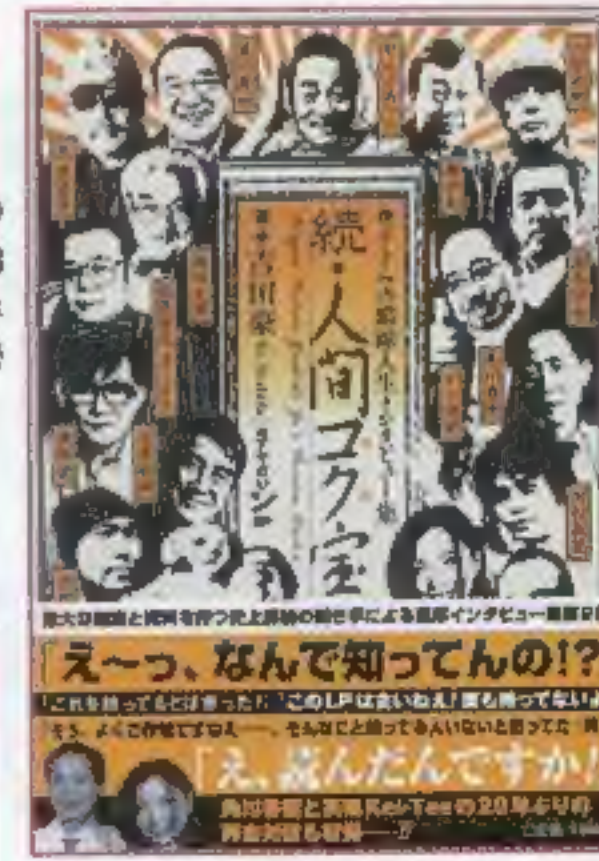
BOOK

各1名様

続・人間コク宝

［吉田豪（著）（コアマガジン刊）／¥1,600（税込）］

"本誌終身名誉バイザー"吉田豪氏の新刊到着。名著「人間コク宝」から約3年ぶりとなる今回の続編も、せんだみつおから角川春樹まで濃いメンツが勢揃いした奇跡の一冊だ!

薀蓄（うんちく）好きのための格闘噺

［夢枕獏（著）（毎日新聞社刊）／¥1,365（税込）］

「よかったねぇ〜（しみじみと）」でおなじみの作家・夢枕獏さんがこよなく愛する格闘技話を元祖"セメントマッチ"力道山vs木村政彦戦からK-1、PRIDEに至るまで存分に書きつづった一冊。

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2008 WINTER
2007年12月14日 発行

「やれんのか！大晦日！2007」夜8時だヨ！全員集合!!

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎（"恐れを知らぬ"ため非番）

祝・第一子誕生
マダムキラー上杉

見習い続行
菅澤です

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長（あらゆる尻拭い）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

じつは最強
入江ヒョードル（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樺本"小康状態"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555（受付時間／土日祝祭日を除く12:00〜17:00）　メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

kamipro Special 2008 WINTER
やれんのか!? おいっ! 大晦日やりますよ!!

2007年12月14日
発行人/浜村弘一　編集人/斉藤慎一　発行・発売所/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/大日本印刷株式会社

enterbrain

9784757739475
1929476007438

定価:本体743円+税
雑誌 61955-62 Ⓗ2008.12
Printed in Japan 大日本印刷

ISBN978-4-7577-3947-5
C9476 ¥743E